家下遺跡・中小路遺跡

－経営体育成基盤整備事業（横田・安富地区）に伴う発掘調査報告書－

2008年3月

益田市教育委員会

序　　文

益田市では、豊かな地域社会をつくるため、それぞれの地域にあった経済活性化の基盤づくりを進めています。その施策の一つである農業基盤整備事業も近年各地で進められています。

益田市教育委員会では、これら開発工事から埋蔵文化財を保護し調和のとれたまちづくりを進めるため、関係機関と協議を行い、遺跡の保護やその発掘調査を実施しています。

平成15年度から平成17年度にかけては益田市横田町・安富町にある家下遺跡・中小路遺跡の発掘調査を実施しました。この調査では、弥生時代の大規模な集落遺跡を発見することができ、奈良時代においては官衙と想定される建物跡が発見されるなど、当時の人々の暮らしやこの地域での文化の過程を知る上で貴重な資料を得ることができました。

調査にあたり御協力をいただいた関係機関ならびに関係者の各位に対し厚く御礼申し上げるとともに、本書が文化財に対する認識や理解のため、また、研究の資料として活用されることを願うものです。

2008（平成20）年３月

益田市教育委員会
教育長　陶　山　　勝

例　　言

1．本書は、島根県益田県土整備事務所(当時は、島根県益田農林振興センター)の委託を受けて、益田市教育委員会が平成15～17年度に実施した経営体育成基盤整備事業 横田・安富地区に伴う埋蔵文化財発掘調査(家下遺跡・中小路遺跡)の報告書である。

2．調査は、島根県教育委員会文化財課の指導を得て、次のような体制で実施した。

調査主体　　益田市教育委員会(教育長　陶山　勝)

○平成15年度　現地調査

［事　務　局］　益田市教育委員会文化振興課
安達正美(課長)、斎藤史和(課長補佐)、木原光(文化財係長)

［調　査　員］　長澤和幸(主任主事)

○平成16年度　現地調査

［事　務　局］　益田市教育委員会文化振興課
安達正美(課長)、斎藤史和(課長補佐)、木原光(文化財係長)

［調　査　員］　長澤和幸(主任主事)

［調査補助員］　中村　智(臨時職員)

○平成17年度　現地調査

［事　務　局］　益田市教育委員会文化振興課
安達正美(課長)、橋本浩一(課長補佐)、木原光(課長補佐兼文化財係長)

［調　査　員］　長澤和幸(主任主事)、宇津栄一(副主任主事)、松本美樹(副主任主事)

［調査補助員］　寺戸淳二(臨時職員)、樋口英行(臨時職員)

○平成18年度　報告書作成

［事　務　局］　益田市教育委員会文化振興課
安達正美(課長)、橋本浩一(課長補佐)、河野敏弘(課長補佐)、
木原光(課長補佐兼文化財係長)

［調　査　員］　長澤和幸(主任主事)

［調査補助員］　寺戸淳二(嘱託職員)

○平成19年度　報告書作成

［事　務　局］　益田市教育委員会文化振興課
安達正美(課長)、野村正樹(課長補佐)、河野敏弘(課長補佐)、
木原光(課長補佐兼文化財係長)

［調　査　員］　長澤和幸(主任)

3．発掘調査・報告書作成に際しては、下記の方々から有益な御指導・助言をいただいた。記して謝意を表する(所属は当時)。

会下和宏(島根大学埋蔵文化財調査研究センター助手)、田中義昭(島根県文化財保護審議会委員)、中村唯史(島根県立三瓶自然館学芸員)、西尾克己(島根県教育庁埋蔵文化財調査センター企画幹)、丹羽野　裕(島根県教育庁埋蔵文化財調査センターグループ課長)、村上勇(広島県立美術館次長)、柳浦俊一(島根県教育庁埋蔵文化財調査センター主幹)、山本一朗、渡邊友千代(匹見町教育委員会)

4．発掘調査作業及び整理作業には、平成15～19年度の間、以下の方々に参加していただいた。

［発掘作業員］	石川信義	巖本　知	大賀賢市	大賀信夫	大畑元義	大畑和子
	岡﨑陽子	岡本敬子	角田　進	梶田伸伍	金井邦博	河井悦子
	川橋武芳	桐山省三	桐山博光	桐山良子	窪田美穂	栗山晴光
	品川　茂	品川治郎	篠原典子	水津信孝	武田爲久	田中千代子
	田中　登	長島幸恵	中島幸人	中村　了	西坂哲郎	西坂松子
	西島健太郎	深井一雄	藤井俊勝	堀田美穂	牧原正明	三浦健太郎
	三浦利雄	三浦フサ子	三浦庸美	三分一晃良	宮野信和	椋　教正
	椋　悟	椋　庄蔵	椋　務	椋　麗子	椋木秀奈代	村上　裕
	村上嘉信	山根定雄	吉山恭子	和﨑一夫		
［整理作業員］	大久保眞紀	大谷浪江	岡﨑敦子	中村康恵	横山秀美	

5．発掘調査では、以下の方々からご協力をいただいた。

島根県益田農林振興センター、横田安富地区農業基盤整備事業安富工区委員会

山陰ブルドーザー工事㈱、桐田組㈱、ナカシマ㈱

6．土壌内花粉分析は文化財調査コンサルタント㈱に、土器棺墓壙の剥ぎ取り等保存処理については千晃株式会社にそれぞれ委託した（平成16年度）。また、遺物の実測の一部をいなか舎（代表田中義昭）に委託した（平成19年度）。

7．本書で使用した遺構の略号は次のとおりである。

SI－竪穴住居、SD－溝、SK－土坑、P－ピット、SX－その他遺構

なお、本書で扱う遺構名及び番号は、遺構検出時に付したものをそのまま使用したため、欠番が生じている。また、調査区間での遺構番号の重複を避けるため、遺構検出時に付した番号の最後に調査区名を付して表記している。

8．挿図方位は測量法の第Ⅲ座標系の軸方向を示すが、部分的に磁北を用いた。

9．文化振興課一同の協力を得て、本書の編集および執筆、また掲載した遺物の写真撮影は長澤が行った。

10．本書掲載の遺跡出土資料及び実測図、写真などの資料は益田市教育委員会で保管している。

本　文　目　次

第１章　調査に至る経緯と経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 1
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　家下遺跡の調査結果 …… 3
　第１節　調査の概要 …… 3
　第２節　Ａ区 …… 4
　第３節　Ｂ区 …… 4
　第４節　Ｃ区 …… 4
　第５節　Ｄ区 …… 5
　第６節　まとめ …… 6
第４章　中小路遺跡の調査結果 …… 6
　第１節　調査の概要 …… 6
　第２節　Ａ区 …… 7
　第３節　Ｂ区 …… 9
　第４節　Ｃ区 …… 12
　第５節　Ｄ区 …… 12
　第６節　Ｅ区 …… 12
　第７節　Ｆ区 …… 15
　第８節　Ｇ区 …… 21
　第９節　Ｈ区 …… 21
　第10節　Ｉ区 …… 22
　第11節　まとめ …… 22
第５章　総括 …… 23

挿　図　目　次

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図……25～26
第２図　平野内における遺跡の位置と周辺の遺跡
……27～28
第３図　家下遺跡調査区配置図……29
第４図　Ａ区遺構配置図……30
第５図　Ａ区土層断面図……31～32
第６図　Ｂ区遺構配置図……33
第７図　土坑平面図及び断面図……33
第８図　Ｂ１区土層断面図……34
第９図　Ｂ２区土層断面図……35
第10図　Ｃ区調査区配置図……36
第11図　Ｃ３区護岸遺構平面図……36
第12図　Ｃ１区土層断面図……37
第13図　Ｃ２区土層断面図……37
第14図　Ｃ３区土層断面図……38
第15図　Ｄ区遺構配置図……39
第16図　Ｄ区土層断面図……40
第17図　土器棺墓平面図及び断面図……41
第18図　中小路遺跡調査区配置図……42
第19図　Ａ区遺構配置図及び土層断面図……43～44
第20図　Ａ区土器棺墓平面図及び側面図①
（１～５号墓）……45
第21図　Ａ区土器棺墓平面図及び側面図②
（６～８号墓）……46
第22図　Ｂ区遺構配置図及び土層断面図……47～48
第23図　１号住居平面図及び断面図……49
第24図　２号住居平面図及び断面図……49
第25図　３号住居及び８号住居平面図
及び断面図……50
第26図　４号住居平面図及び断面図……50
第27図　５号住居平面図及び断面図……51
第28図　６号住居平面図及び断面図……51
第29図　Ｃ区遺構配置図……52
第30図　Ｃ区土層断面図……53～54
第31図　Ｅ区遺構配置図……55
第32図　SDE１平面図及び土層断面図 ……56
第33図　SDE２平面図及び土層断面図 ……56
第34図　SDE３平面図及び土層断面図 ……56
第35図　SDE４平面図及び土層断面図 ……57
第36図　SDE５平面図及び土層断面図 ……57
第37図　SDE６平面図及び土層断面図 ……57
第38図　SDE７平面図及び土層断面図 ……58
第39図　SDE８平面図及び土層断面図 ……58
第40図　SKE平面図及び土層断面図①
（SKE１～SKE８）……59
第41図　SKE平面図及び土層断面図②
（SKE９～SKE15）……60
第42図　SKE平面図及び土層断面図③
（SKE16～SKE23）……61
第43図　Ｆ区遺構配置図……62
第44図　Ｆ区土層断面図……63～64
第45図　SDF平面図及び土層断面図
（SDF１～SDF３）……65
第46図　SKF平面図及び土層断面図①
（SKF１～SKF６）……66
第47図　SKF平面図及び土層断面図②
（SKF７～SKF22）……67
第48図　SKF平面図及び土層断面図③
（SKF23～SKF37）……68
第49図　SKF平面図及び土層断面図④
（SKF39～SKF52）……69
第50図　SKF平面図及び土層断面図⑤
（SKF65～SKF89）……70
第51図　SKF平面図及び土層断面図⑥
（SKF90～SKF95）……71
第52図　Ｇ区遺構配置図……72
第53図　Ｉ区遺構配置図……72
第54図　Ｈ区遺構配置図……73
第55図　家下遺跡Ａ区出土遺物実測図①……74
第56図　家下遺跡Ａ区出土遺物実測図②……75
第57図　家下遺跡Ａ区出土遺物実測図③……76
第58図　家下遺跡Ｂ区出土遺物実測図①……77
第59図　家下遺跡Ｂ区出土遺物実測図②……78
第60図　家下遺跡Ｃ区出土遺物実測図①……79
第61図　家下遺跡Ｃ区出土遺物実測図②……80
第62図　家下遺跡Ｄ区遺構出土遺物実測図
－土器棺1、2－ ……81
第63図　家下遺跡Ｄ区遺構外出土遺物実測図……82
第64図　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図①
－溝状遺構、SX02－ ……83
第65図　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図②
－SX04、土器溜り－ ……84
第66図　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図③
－土器溜り－……85
第67図　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図④
－土器溜り－……86
第68図　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図⑤
－土器溜り－……87
第69図　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図⑥
－土器溜り－……88

第70図　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図⑦
－土器溜り－……89
第71図　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図①…90
第72図　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図②…91
第73図　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図③…92
第74図　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図④…93
第75図　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図⑤…94
第76図　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図①
－SI01－……95
第77図　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図②
－SI02①－……96
第78図　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図③
－SI02②－……97
第79図　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図④
－SI02③、SI03－……98
第80図　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図⑤
－SI04①－……99
第81図　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図⑥
－SI04②－……100
第82図　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図⑦
－SI04③、SI06、SI07－……101
第83図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図①…101
第84図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図②…102
第85図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図③…103
第86図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図④…104
第87図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図⑤…105
第88図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図⑥…106
第89図　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図①
－溝状遺構－……106
第90図　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図②
－溝状遺構－……107
第91図　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図③
－溝状遺構－……108
第92図　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図④
－溝状遺構－……109
第93図　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図⑤
－溝状遺構－……110
第94図　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図⑥
－溝状遺構－……111
第95図　中小路遺跡Ｃ区遺構外出土遺物実測図①…111
第96図　中小路遺跡Ｃ区遺構外出土遺物実測図②…112
第97図　中小路遺跡Ｄ区遺構外出土遺物実測図…112
第98図　中小路遺跡Ｅ区遺構出土遺物実測図
－SKE２、SKE６－……113
第99図　中小路遺跡Ｅ区遺構外出土遺物実測図…114
第100図　中小路遺跡Ｆ区遺構出土遺物実測図①
－SKF３－……114
第101図　中小路遺跡F区遺構出土遺物実測図②
－SKF３、SKF39－……115
第102図　中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物実測図①…116
第103図　中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物実測図②…117
第104図　中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物実測図③…118
第105図　中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物実測図④…119
第106図　中小路遺跡G、H、Ｉ区遺構外出土遺物実測図
……119

挿　表　目　次

第１表　家下遺跡Ａ区出土遺物観察表……120～121
第２表　家下遺跡Ｂ区出土遺物観察表……121
第３表　家下遺跡Ｃ区出土遺物観察表……121～122
第４表　家下遺跡Ｄ区出土遺物観察表……122
第５表　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物観察表
……122～124
第６表　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物観察表
……124～126
第７表　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物観察表
……126～128
第８表　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物観察表
……128～130
第９表　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物観察表
……130～131
第10表　中小路遺跡Ｃ区遺構外出土遺物観察表…131
第11表　中小路遺跡Ｄ区遺構外出土遺物観察表…132
第12表　中小路遺跡Ｅ区遺構出土遺物観察表……132
第13表　中小路遺跡Ｅ区遺構外出土遺物観察表…132
第14表　中小路遺跡Ｆ区遺構出土遺物観察表
……132～133
第15表　中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物観察表
……133～135
第16表　中小路遺跡Ｇ区遺構外出土遺物観察表…135
第17表　中小路遺跡Ｈ区遺構外出土遺物観察表…135
第18表　中小路遺跡Ｉ区遺構外出土遺物観察表…135

第１章　調査に至る経緯と経過

第１節　調査に至る経緯

益田市安富町及び横田町において計画された経営体育成基盤整備事業（横田・安富工区）について、益田農林振興センター（当時、現益田県土整備事務所。以下事業者。）から益田市教育委員会に協議があったのは平成８年12月のことである。計画地内には周知遺跡である「安富王子台遺跡（２所のうちの１所、縄文晩期の遺跡として知られる安富王子台遺跡とは場所が異なる）」が存在していることからその取り扱いについて協議がなされたものであったが、この他にも遺跡が存在している可能性があることから、事前に埋蔵文化財の有無について確認する必要がある旨回答した。

これをうけ平成８年12月19日付で事業者から当該区域内の埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会を受けた。これに対し、予定地内全域を対象として踏査を実施した結果、横田町地内において「家下遺跡」の存在が確認され、安富町地内においては周知の「安富王子台遺跡」を含めた広範囲に遺跡が広がっている可能性が確認されたことから一帯の地名をとって「中小路遺跡（なかしょうじいせき）」と命名した。

平成９年５月15日付で事業者に対して、２遺跡の存在が確認されたものの、なお遺跡の範囲が未確定であることから、事前に遺跡の範囲を確定させる必要がある旨回答し、文化庁の国庫補助事業をうけて、平成10・12・13・15年度の４ヵ年にわたり、遺跡分布調査と試掘調査を実施した。

平成13年度までは基盤整備事業内で先行する横田工区において、平成15年度は安富工区においてそれぞれ試掘調査を実施した。その結果、遺跡の範囲がほぼ確定するとともに、基盤整備事業において掘削が行われる箇所及び道・水路が設置される箇所については事前に全面発掘調査を実施する必要があると判断された。

本調査実施に関する具体的な協議は、安富工区の試掘調査が残されてはいたものの、横田工区の試掘調査が終了した段階の平成14年５月24日に行い、調査費用負担等の基盤整備事業地内全体における埋蔵文化財の取り扱いに関して平成15年１月14日付で協定書を締結した。この協定書に基づき、家下遺跡を平成15年度事業として、中小路遺跡の北側を平成16年度事業、南側を平成17年度事業として発掘調査を実施し、平成18～19年度の２カ年度で全ての遺跡の調査報告書を刊行することで同意を得た。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

益田市の概要

益田市は石見地方と呼ばれる島根県西部地域の最西端に位置する。北は日本海に面し、残る三方は中国山地に至る。東は浜田市、南は鹿足郡津和野町・広島県に接し、西は山口県と県境を接する。市街地は、高津川と益田川の二大河川によって形成された複合三角州で石見地方最大の沖積平野上に位置する。面積は733.16㎢で島根県の総面積の約１割を占める県内最大の規模を有し、人口約52,000人を擁する県西部の中核都市である。また、平成５年に開港した石見空港を中心として、市内では山陰を東西に結ぶ国道９号と山陰・山陽を結ぶ国道191号が交差し、また鉄道は山陰本線と山口線が分岐するなど交通の要衝地でもある。

気候は対馬暖流の影響を受けて山陰地方にあって積雪も少なく温暖で、日照時間も日本海側では有数の長さを誇り、メロンやブドウなどの生産が盛んで、農業関連産業が地域経済に果たす役割は大きい。

遺跡の地理的概観

家下遺跡・中小路遺跡は、高津川の下流に発達する沖積平野に立地し、平野は高津川河口から上流へ10km前後に位置する。この平野は市内で石見地方最大の益田平野に次ぐ規模を持つもので、平野の周囲は、標高100～200ｍのごくなだらかな丘陵地が広がっている。

高津川は、源を鹿足郡吉賀町(旧六日市町)田野原に発し、総延長81.1kmを測る河川である。途中大規模ダムが一つも無い全国唯一の一級河川として知られる清流で、急峻な西中国山地から流れ出るために勾配が大きい急流である。幾度も蛇行を繰り返しながら益田市を貫流し、日本海に注ぐ。平野の南で高津川は支流の匹見川と合流し、合流点の下流側で逆「コ」の字状に大きく曲流しているが、平野はこの曲流の内側に形成された堆積面である。

支流の匹見川は、源を益田市匹見町道川に発し、総延長52.0kmと本流に次ぐ規模を持つ河川である。本流以上に急流であり、平野の形成に匹見川による堆積作用が与えた影響は本流に劣らず大きいと思われる。

平野は上流(南)側(横田地区)では旧河道とそれに伴う微高地列が明瞭に認められるのに対し、下流(北)側(安富地区)ではそれらの微地形が不明瞭となる。その境界は比高２～３ｍの小崖として明瞭に認められ、地名も「大境(おおざかい)」と呼ぶ。家下遺跡は上流側南端部の微高地列の一つに立地している。また、中小路遺跡は下流側中央部に立地しており、中小路遺跡から安富王子台遺跡の一帯が周囲に比べて若干高い微高地面を形成しているが、この微高地北端部に位置している。上流側では高津川と匹見川の氾濫時に河道変遷が繰り返されたことが、地形図や空中写真から読み取れる（写真図版１）。

第２節　歴史的環境

縄文時代

縄文前期頃、現在の市街地の大半に海が湾入していたとされる。現在の高津川と益田川の河口に挟まれた中須から大塚にかけて砂州が形成されており、砂州背後の中島から吉田一帯は潟湖の状態を呈していた。この潟湖を「古益田湖」と呼び、益田川以東の遠田丘陵、益田川と高津川に挟まれた七尾丘陵、そして高津川以西の蟠竜丘陵がこれを囲む。なお、遠田丘陵は遠田川によって遠田台地と久城台地に、七尾丘陵は本俣賀川によって七尾丘陵と安富丘陵に、蟠竜丘陵は白上川によって蟠竜台地と白上台地とにそれぞれ細分される。現在のところ、益田市内においてこの時期の遺跡は確認されていない。

その後、国道９号と国道191号の線より南側が陸地化したと考えられている。しかし、古益田湖は規模が縮小したものの依然として広がっており、この時期の遺跡は市街地の周辺部に分布する。縄文時代の後期から晩期にかけての代表的な遺跡として安富王子台遺跡があり、同時期の遺物は三宅御土居跡やその北側の土井後遺跡でも出土している。

弥生時代

弥生時代では前述の安富王子台遺跡から前期の土器が出土している。この他、羽場遺跡、安福寺跡で前期の土器が発見されている。また、高津川左岸の砂丘に立地する松ケ丘遺跡は弥生時代から古墳時代前期にかけての埋葬遺跡と考えられ、羽場遺跡からは中期の土器が多数出土した環濠跡や土坑墓が発見されている。高津川左岸の丘陵上に立地するサガリ遺跡では後期の竪穴住居跡が発見され、その立地から高地性集落の可能性が指摘されている。

古墳時代

古墳時代になると、遠田や久城地域など益田川以東の久城台地、遠田台地に有力な古墳が集中する。４世紀後半の築造と推定され、墳丘長が89ｍと石見地方最大で県内でも３番目の規模をもつ

前方後円墳の大元1号墳、５世紀の築造と推定されるスクモ塚古墳は全長約100ｍを測る大型の前方後円墳と考えられてきたが、最近では大型の造出し付き円墳と方墳が隣接してあるとの見方が強い。６世紀前半に築造された小丸山古墳は全長52ｍの前方後円墳で、周溝と外堤を設けている古墳としては県内唯一の例であり、山陰地方では初めての出土例となった鈴杏葉が採取されている。小丸山古墳周辺には工事中に三角縁神獣鏡が出土した四塚山古墳も存在し、三宅御土居跡東の秋葉山山頂には横穴石室を持つ秋葉山古墳がある。古墳時代後期の古墳としては、海岸部の台地上に横穴式石室をもつ小円墳を主体として築造された群集墳の鵜ノ鼻古墳群が存在し、益田平野南東部の丘陵斜面には片山、多田、南長迫、北長迫などの横穴群が築造されるようになる。また、横田町の上野横穴から出土した須恵器、刀剣類は現在、東京国立博物館に寄託されている。

この時期の生産遺跡としては須恵器窯の存在が知られており、市の北東部に芝、本片子窯跡が存在している。

古　代

律令制の時代に益田市は美濃郡に属し、この頃から益田平野の開発が次第に進められたと考えられている。三宅御土居跡一帯の「三宅」の地名の由来と考えられている屯倉がこの地に推定され、戦後この一帯の区画整理が行われるまで条里制の遺構が明瞭に残されていた。また、歌聖柿本人麿の生誕及び終焉の地として戸田と高津にそれぞれ柿本神社があり、『延喜式』神名帳に記載のある染羽天石勝神社や櫛代賀姫命神社など美濃郡内の式内社5社のうち全てが益田市内に現存している。

奈良・平安時代の遺跡としては、灰釉陶器が出土した根ノ木田遺跡や掘立柱建物跡に伴い製塩土器が出土した大溢遺跡などがあり、三宅御土居跡や浜寄遺跡でも同時期の須恵器や土師器が出土している。

中　世

平安時代末期に益田荘、長野荘の荘園が成立し、益田氏が本拠を益田に移してから以後、益田氏が長門国須佐に転封されるまでのおよそ400年間の中世には、その領域支配勢力を示すように益田氏に関連する遺跡が数多く残る。居館三宅御土居跡及び拠城七尾城跡を始めとして、益田氏家臣の居館跡と考えられる上久々茂土居跡や三宅御土居以前の益田氏の居館跡とされる大谷土居跡など、益田市内で52箇所の城館跡が確認されている。この他、中世前期の遺跡には羽場遺跡や大畑遺跡があり、羽場遺跡からは掘立柱建物跡や中国製の白磁、青磁など多数が出土した。沖手遺跡は益田川右岸の低地に立地し、中世前期以降の陶磁器類や、集落跡が確認されている。また石塔寺権現跡から発見され、豊田神社に伝わる陶製経筒は、平安時代末から鎌倉時代初期のものと考えられている。これらの経筒は中国で製作され日本にもたらされたもので、北部九州からの発見例が多く、益田に招来された経緯など注目されている。

第３章　家下遺跡の調査結果

第１節　調査の概要

本調査は平成15年６月25日に着手し、同年12月２日に終了した。

遺跡の推定中心部には家屋があり、基盤整備事業の計画区域外となっている。調査対象地としたのは、その周辺部に計画される道路及び水路となる箇所で、その調査面積は1,225㎡である。その他当該埋蔵文化財については、盛土により保護層が十分に確保できると判断されたため、現地に残されている。

Ａ～Ｃ区の３つの調査区を設定し、Ａ区から調査に着手したが、途中発掘調査と並行して実施した周辺での踏査中に新たに遺物の散布が認められ、Ｄ区を設定した。結果として４調査区で調査を

実施した（第３図）。

第２節　Ａ区

（１）調査区の状況

Ａ区は道路・水路予定地で、南端は現水路に接する。遺跡の西側縁辺部に位置し、調査面積は568㎡を測る（第４図）。

基本層序は、第１層：黒褐色土(耕作土)、第２層：灰黒色土(水田床土)、第３層：赤褐色土、第４層：灰黄褐色土、第５層：橙色土、第６層：暗褐色土(奈良～平安時代遺物包含層)、第７層：礫・砂礫である。第３層は、大正年間に一帯で行われた圃場整備時の客土と考えられる。第7層以下は、礫、砂礫が互層状に堆積しており、河川の氾濫などの水害の様子が窺える（第５図）。

調査区西側で南北方向に延びる自然堤防の頂部が検出された。これを境に西側で遺構は検出さず、遺跡が自然堤防の内側に形成されたものであることがわかる。また、かつて遺跡近くに河川流路が存在していたことが想定される。

（２）遺構

遺構は、第６層直下で検出された。ピットが90基検出されたが、何れも深さは浅いものであることから、後世の水田化の際に削平を受けたものと考えられる。遺跡の縁辺部であり、遺構密度は疎であるが、比較的南側に集中している。柱穴からの建物跡の復元等はできなかった。

第３節　Ｂ区

（１）調査区の状況

Ｂ区は道路・水路予定地で、遺跡の北側縁辺部に設定した。東西に長い調査区で、調査面積は157㎡を測る。調査前の水田境を基準に西側をＢ１区、東側をＢ２区と細分し、Ｂ１区から調査を実施した（第６図）。

基本層序は、第１層：褐灰色土(耕作土)、第２層：黄灰色土(水田床土)、第３層：赤黄色土、第４層：黒褐色土(奈良～平安時代遺物包含層)、第５層：明黄褐色土、以下砂質土・砂が１ｍほど堆積し、礫層に至る。第３層は、Ａ区同様大正年間の圃場整備時の客土と考えられる。第５層以下は、砂質土がほぼ水平で、安定した土層堆積状況を呈しており、後背湿地の様子を示している。この下層の礫層から、遺跡の東側から北側に回り込む河川流路が推測される（第８～９図）。

（２）遺構

遺構は、第４層上面で土坑が１基検出されたのみである。ただし、石を４層上面で検出したが、土坑の掘形は不明瞭で、結果的には４層下面で掘形と考えられる変色を確認した。

土坑の平面形は不整楕円形で、長径1.2ｍ・短径0.95ｍ・深さ0.35ｍを測る。深さについては、上述のとおりであり、深さは少なくとも＋20～30ｃｍあったものと思われる。土坑内には拳～人頭大の石のほか五輪塔の火輪が投棄された状態で検出された。

第４節　Ｃ区

（１）調査区の状況

Ｃ区は道路予定地で、遺跡の南側縁辺部に設定した。調査面積は265㎡を測る。工事工程上調査区を細分する必要が生じ、調整のうえ西側をＣ１区、東側をＣ２区、中央をＣ３区とし、この順に調査を実施した（第10図）。

基本的な層序は、各調査区で異なるが、Ｃ１区では第１層：黄灰色土(水田床土)、第２層：黄橙色土、第３層：黄灰色土、第４層：灰オリーブ色砂質土、第５層：人頭大以下の礫層である。全体的に不安定な土層堆積であるが、とくに中央部は後世の撹乱により乱れる。対してＣ２区は、Ｂ

区と同様に安定した後背湿地様を呈する。第１層：暗褐色土(水田耕作土)、第２層：灰色土(水田床土)、第３層：橙色土(圃場整備時の客土)、第４層：黄灰色土、第５層：黄色粘質土、第６層：褐灰色砂質土、第７層：黄灰色粘質土、第８層：灰色粘質土、第９層：人頭大以下の礫層である。第９層は北から南に向かって緩やかに下がる。Ｃ３区はＣ１区とＣ２区の中間的な様相を呈する。調査区内では北側と南側で堆積状況が異なるが、基本的な層序は、第１層：黄褐色土(水田床土)、第２層：橙色土(圃場整備時の客土)、第３層：灰褐色砂質土、第４層：灰褐色土(遺物包含層)、第５層：褐灰色土(遺物包含層)である。これに対し南側は灰色粘質土が南西に向かって下がりながら堆積しており、流れの緩い河川あるいは沼地状の水溜りが存在していたことが推定される堆積状況を呈している（第12～14図)。

Ｃ３区では後述する護岸状の遺構が検出されており、以上のことから、Ｃ２区の南側からＣ３区の南東隅をかすめ、Ｃ１区を迂回してＡ区西側に至る河川流路が推定される。

（２）遺構

Ｃ区において検出された遺構は、Ｃ３区の護岸遺構のみである（第11図)。

調査区の南東隅で検出された。検出できた長さは4.6m、幅0.35mを測る。人頭大以下の石が並び、その中の南側に50cm間隔で径４cm以下の杭が打たれており、北東端では横木も確認できる。

第５節　Ｄ区

（１）調査区の状況

Ｄ区が当初予定になかったことは前述のとおりであるが、この場所は事前の分布調査、試掘調査結果から遺跡は存在しないと判断し、表層の剥ぎ取り工事が進められていた箇所である。Ａ・Ｃ区の発掘調査と並行して実施した踏査中に弥生土器片がまとまって採取され、合口土器棺と考えられる土器の一部が表出しているのが発見されたことから、その周辺での工事を中断し、事業者、工事業者とその取り扱いについて協議を行った。その結果、極力短期間かつ最小面積で調査を実施することとなり、面積は235㎡、10月23日から11月11日の間で調査を実施した（第15図)。

基本的な層序は、表層が除去されていることから残存部分で判断せざるを得ないが、第１層：灰色土(水田床土)、第２層：赤黄色土(圃場整備時の客土)、第３層：黒茶色土、第４層：暗茶色土(弥生時代遺物包含層)、第５層：黄褐色砂、第６層：礫層(拳～人頭大)である。調査区北半で包含層は認められないが、今回の工事の中で除去されたものか、それ以前の水田化の際に掘削されたものかは不明である。なお、発掘調査は現況面から５cmも掘削しない段階で第５層に至ったことから、第４層下位まで掘削されていたことになる（第16図)。

（２）遺構

Ｄ区において検出された遺構には、土坑４基、ピット11基、土器棺墓２基がある（第15図)。ここでは、土器棺墓について述べる。

土器棺墓１（第17図、第62図100・101)

調査区の南側で検出された。土器棺は長径85cm、短径41cm、深さは検出段階から８cmの楕円形の土坑に、甕形土器を合わせ口の状態にし、北側の甕をやや高くする横位に近い斜位に埋葬されていた。合わせ口部は北側の甕の口縁部を打ち欠いた状態で取り付けられていたが、その打ち欠いた口縁部も同じ土坑内で見つかっている。この土器棺の上部は北甕は潰れた状態で、南甕は工事掘削で破壊された状態で検出された。

これに伴う副葬品などの遺物はない。弥生終末期。

土器棺墓２（第17図、第62図103・104)

調査区の北側で検出された。土器棺は長径1.1m、短径１m、深さ10cmの隅丸方形状の土坑に、

甕形土器を合わせ口の状態にし、南側の甕をやや高くする横位に近い斜位に埋葬されていた。土坑内からは、土師器も検出されたが、後世の流れ込みによるものと考えられる。

これに伴う副葬品などの遺物はない。弥生終末期。

第６節　まとめ

家下遺跡は、高津川あるいは匹見川によって形成された微高地上に立地する。今回はその縁辺部で調査が実施された。遺跡の中心部には現在も家屋が建ち、その周りの水田部分も保護層が確保されることから、今回調査対象外として今も地下に眠っている。そのため遺跡の様相については、今なお不明な点が多いが、一方で遺跡の規模を大方ではあるが想定することができた。それは、Ａ、Ｂ、Ｃ区を覆う南北140ｍ、東西100ｍの範囲と考えられる。出土遺物については、石見空港編年のⅢ期に属す須恵器が大量に見つかっており、遺跡が概ね奈良時代後半から平安時代初頭に盛期があったことがわかる。特筆すべきは、いわゆる生焼けの須恵器が比較的多く含まれていたことである。市内で須恵器の窯跡は、本片子窯跡や芝窯跡など東部地域において確認されているが、その他の地域では確認されていない。短絡的であるかもしれないが、家下遺跡近隣に窯跡が存在しているのではないかと考えている。それは、近代に遺跡近隣の羽原地区において瓦の窯跡が存在し、焼かれていたことに繋がっていく可能性もあると考えられる。

家下遺跡の盛期が奈良時代後半から平安時代初頭にあるとした場合、課題となるのが、Ｄ区の存在である。踏査及び試掘調査結果から、国道９号線から高津川に向かい（東から西に向かい）遺跡の存在する可能性は低くなると判断されており、Ｄ区周辺に遺跡は存在しないと考えられていた。その中で、弥生時代の土器棺墓が発見されたわけであるが、そこに埋葬された人々はどこに生活していたのだろうか。Ａ～Ｃ区において、弥生土器が数点検出されてはいるものの、これに伴う遺構はなく、弥生時代の集落が存在していたとは考えにくい。Ｄ区における遺跡名について、その正否は別として、遺物が出土しているのは事実であり、おそらくは、家下遺跡周辺に幾つか存在する微高地のいずれかに弥生時代の集落が存在しているのではないだろうか。

以上、根拠に欠ける想定もいくつか行ってみたが、それらは今後の課題として一帯の調査を精力的に進めるという誓いに代え、家下遺跡のまとめとする。

第４章　中小路遺跡の調査結果

第１節　調査の概要

遺跡面積は40,000㎡を超え、広範囲に広がる遺跡であることが試掘調査で確認されている。事業者とその取り扱いについて協議を重ねた結果、遺跡保護の立場から盛土工を実施して保護層を確保し、遺跡に直接的に影響がでないような位置まで田面を上げて施工することとなったが、その保護層の確保が困難な箇所及び道水路部分について、平成16・17年度の２ヵ年で発掘調査を実施することとなった。調査対象面積は11,815㎡である。この中を現況地形を勘案して、Ａ～Ｉの調査区に細分して調査を実施した（第18図）。表土は基盤整備の一環として重機で取り除かれ、遺構の検出作業は人力にて実施した。

平成16年度は、上記の対象地のうち基盤整備事業の中で前半に工事が予定される遺跡の北側で実施した。Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ区が該当し、一部Ｇ、Ｅ区については次年度予定であったが先行して部分掘削を行った。調査面積2,200㎡である。平成16年４月26日に着手し、同17年２月４日に終了した。

平成17年度は、遺跡の南側を中心とした9,615㎡で調査を実施した。Ｅ～Ｉ区である。平成17年

６月１日から平成18年１月31日にかけて実施した。

第２節　Ａ区

（１）区の状況（第19図）

Ａ区は水路予定地で、東西に細長い調査区である。南接地は基盤整備計画当初から遺跡があるとする地区の声に答えて整備区域外となっており、昭和20年代頃まで存在していた中小路集落の名残の蔵が残されている。東端はコンクリート製の水路に接する。調査区周辺の遺跡が存在しないと判断された箇所については工事が調査と同時に進められていたが、その中でこのコンクリート水路を取り壊したため、雨の次の日などは周辺の雨水が全て調査区に流入することとなった。特にこの年は比較的台風が多く発生し、時間とともに水との戦いでもあった。

基本層序は、第１層：黒灰色土（水田耕作土）、第２層：灰褐色土（水田床土）、第３層：赤褐色土（大正圃場時の客土）、第４層：淡黄褐色土、第５層：暗茶色土（弥生時代遺物包含層）、第６層：明黄褐色土である。

（２）遺構

Ａ区では、溝状遺構１条、土器棺墓８基、性格不明遺構２基が検出された。この他、土器溜りが調査区西側で見つかっている。

土器棺墓

１号墓（第20図）

［検出位置・状態］土器棺墓群の最東端。器高30cmほどの同サイズの甕を利用した土器棺。

［埋葬状態］東側の甕口縁部を外とする合わせ口。横位。東側の甕の底側に穿孔か。

［主軸方向］西南西－東北東

［土坑規模］長径0.84ｍ×短径0.58ｍ×深さ0.24ｍの楕円形。

［時期］弥生時代中期末～後期前葉

２号墓（第20図）

［検出位置・状態］１号墓の北西。南側の土器は上半部が欠損。北側が器高40cm、南側が器高30cmでやや北側が大きい。

［埋葬状態］南側の甕口縁部を外とする合わせ口。北側の甕口縁部はうち欠かれる。横位。

［主軸方向］北－南

［土坑規模］長径1.0ｍ×短径0.7ｍ×深さ0.23ｍの不整楕円形。

［時期］弥生時代後期前葉

３号墓（第20図）

［検出位置・状態］２号墓の北西。北側の土器は上半部が欠損。器高30cmほどの同サイズの甕を利用した土器棺。

［埋葬状態］北側の甕口縁部を外とする合わせ口。横位。南側の甕は口縁部をうち欠く。

［主軸方向］北北東－南南西

［土坑規模］長径0.94ｍ×短径0.72ｍ×深さ0.21ｍの不整楕円形。

［時期］弥生時代後期初頭～前葉

４号墓（第20図）

［検出位置・状態］土器棺墓群の中央部。器高62cmを測る大型の複合口縁壺。胴上半部欠損。

［埋葬状態］人頭大のやや扁平な石を蓋とする単式土器棺。横位。

［主軸方向］東北東－西南西

［土坑規模］長径1.02ｍ×短径0.76ｍ×深さ0.19ｍの不整楕円形。

［時期］口縁部に波状文を施し、頸部に突帯を貼り付けた西部瀬戸内系複合口縁壺。弥生時代後期前葉と比定される。

５号墓（第20図）

［検出位置・状態］４号墓の北側で、土器棺墓群の中央部。ほぼ同サイズの個体を利用した土器棺。

［埋葬状態］合わせ口の２固体＋別固体１。西側の甕口縁が外。東の壺口縁部は打ち欠かれている。西側をやや高くした斜位気味の横位。合わせ口部には打ち欠いた東側壺の口縁部片、別個体の甕の口縁部・底部等が張り付けられる。また、同じく打ち欠いた東側壺の口縁部が西側甕の底部に枕状に貼り付けられており、埋葬者の頭位を示している可能性がある。胴部下側に穿孔あり。

［主軸方向］西北西－東南東

［土坑規模］長径1.07ｍ×短径0.65ｍ×深さ0.3ｍの楕円形。

［時期］東側の壺は弥生時代後期中～後半に比定される西部瀬戸内系の複合口縁壺と考えられるが、西側の甕がⅤ－２期、また、土器棺に貼り付けられている甕の口縁部は山陰では弥生時代中期末から後期前半に比定され、これら時期差について検討を要する。

６号墓（第21図）

［検出位置・状態］５号墓の西側。北側は器高60㎝を測る大型の壺、南側は器高30㎝の甕でサイズを異にする土器棺。

［埋葬状態］北側の壺口縁を外側にする合わせ口。横位。

［主軸方向］北－南

［土坑規模］長径1.08ｍ×短径0.82ｍ×深さ0.15ｍの楕円形。

［時期］北側の壺は弥生時代後期前葉に比定される西部瀬戸内系の複合口縁壺と考えられる。南側の甕は在地のものと考えられるが、安芸系甕に類似するか。弥生後期前葉。

７号墓（第21図）

［検出位置・状態］６号墓の北側で、土坑は調査区域外に続く。６号墓と同じくサイズを異にする土器棺。東側は器高75㎝を測る大型の西部瀬戸内系の複合口縁壺であるが、西側は器高32㎝ほどの甕である。

［埋葬状態］東側の壺口縁を外側にする合わせ口。横位。

［主軸方向］北西－南東

［土坑規模］長径1.27ｍ×短径0.9ｍ×深さ0.29ｍの不整円形か？

［時期］東側の壺は弥生時代後期前葉から中葉に比定され、西側の甕は弥生時代中期末から後期前半期のものと考えられることから、土器棺墓の時期は後期前葉期と考えてよいだろう。

８号墓（第21図）

［検出位置・状態］土器棺墓群の最西端。個体はほとんど残っておらず、南西側の甕の体部から底部にかけての下半部が残されているのみである。

［埋葬状態］横位。合わせ口と考えられる。

［主軸方向］北東－南西

［土坑規模］長径0.94ｍ×短径0.67ｍ×深さ0.14ｍの楕円形。

［時期］弥生後期初頭か。

その他遺構

溝状遺構

調査区東側で検出されたもので、北東－南西方向に伸びる。検出された延長はおよそ６ｍであるが、北端、南端何れも調査区域外へ続く。幅は最大で0.8ｍを測るが、深さは浅く数㎝というところである。人頭大以下の石が堆積しているが、自然のものと考えられる。遺物は、奈良時代の須恵

器片が数点出土している。

土器溜り

調査区西側の調査区域外の南側から北西方向に向かう自然河川跡部で検出。流路というよりは、やや澱んでいた様相を呈している。遺物は弥生時代中期から後期の土器が出土。

ＳＸ02

土器溜りの南側で検出。その南側は調査区域外に続くため、全様は不明であるが、検出できたところで長径1.1ｍ×短径1.0ｍ、深さ0.1～0.2ｍを測る。出土遺物は弥生時代後期中頃の土器が主体である。

ＳＸ04

調査区最西端で検出。北側は溝状に調査区域外に続くと考えられる。また、南側は地山が砂質ということもあり、掘形はやや不明瞭である。中央部は円形状を呈するものの全体としては細長い不整形。長径５ｍ×短径1.8ｍ、深さ0.1～0.2ｍを測る。出土遺物は弥生時代後期前半頃の土器が数点出土している。

第３節　Ｂ区

（１）区の状況（第22図）

Ｂ区もまた水路予定地で、南北65ｍ×東西５ｍの細長い調査区である。平成15年度にこの調査区の東側で試掘調査が行われているが、その試掘区との土層堆積の関連を確認するため東へ長さ５ｍ×幅３ｍほど拡張して調査を行っている。

基本層序は、第１層：暗黒色土（耕作土）、第２層：褐灰色土、第３層：赤黄色土（大正圃場時の客土）、第４層：淡茶色土（奈良時代遺物包含層）、第５層：暗茶色土（弥生時代遺物包含層）、第６層：淡黄色土（地山）である。表土は重機により除去したが、その一部は残されている。調査以前にはビニールハウスが建てられていたようで、廃材を埋めたと思われる大きなごみ穴が調査区の中で見つかっている。この他にも、暗渠排水溝のための掘削が所々行われている。

調査区南西隅では表土除去後５㎝以下で地山に達したが、北端では１ｍ近く掘削して地山に至っており、南から北に向かって緩やかに下がっていることがわかる。調査区南端と北端で比高差0.95ｍを測る。調査前の地表標高で見ても、Ｂ区が位置する畑と北接する水田では比高差0.6ｍを測り、この水田下層は砂礫が厚く堆積する氾濫のあった土層堆積を呈している。これらのことからも、Ｂ区が集落を営む北東限と見られ、微高地北東端部に位置していることがわかる。

（２）遺構

遺構は、第２層直下で近世に属する集石土坑１基のほか、北端で石積の水路跡、ピット数基を検出した。次いで第５層直下で弥生時代に属する竪穴住居跡を９棟検出した。

竪穴住居跡

１号住居（ＳＩ01、第23図、第76図）

［検出状況］調査区北端の東側壁周辺で１／２程度が検出され、調査区域外へと続く。北端は石積みの水路により失われている。床面上には炭化物や焼土が厚く堆積し、火災によって廃絶した可能性がある。

［平面形・規模］円形と推測される。規模は直径6.2ｍ前後。壁の残存高は30～40㎝。

［施設］柱穴と思われるピット２基。壁溝は幅10～15㎝、深さ４～８㎝。壁面上部に垂木の痕跡と思われる直径７㎝の炭化物が50㎝間隔で４箇所にある。

［出土遺物］覆土と床面から十数点の弥生土器が出土しているが、床面からの出土は243の１点のみである。243は口縁部が直立する複合口縁の甕で、口縁部に４条の平行沈線文を巡らす。Ｖ－２

期と思われる。
［時期］弥生時代後期前葉
２号住居（ＳＩ02、第24図、第77～79図）
［検出状況］ほぼ完全な形で検出。東端、西端わずかに調査区域外へ続く。床面上には炭化物や焼土が多く認められることから、火災によって廃絶した可能性がある。
［平面形・規模］円形。規模は直径５ｍ。壁の残存高は21～40㎝。
［施設］主柱穴としては４基のピットが確認できる。中央土坑は長径１ｍ×短径0.8ｍの隅丸方形で、断面形は擂鉢状(深さ30㎝)を呈す。壁溝は幅６～20㎝、深さ３～７㎝。
［出土遺物］覆土や床面から多くの弥生土器が出土している。覆土から、朝顔状に大きく開き口端部をやや上方につまみ上げる中期の壺なども見つかっているが、床面出土のものは概ねⅣ－２～Ⅴ－１期の範疇に納まるものと思われる。
［時期］弥生時代後期初頭
３号住居（ＳＩ03、第25図、第79図284）
［検出状況］北東部で直径１ｍほどの焼土塊を検出。これにより住居跡が存在する可能性があると判断し周辺の精査を行ったが、平面プランの検出は難しく、壁際にトレンチを設定して土層断面も参考にしながら精査を行い、２号住居の南側の東側壁周辺で１／３程度を検出。なお、断面では床面に相当する箇所に薄く炭の堆積が見られるが、壁面の立ち上がりは不明瞭である。北東部は８号住居と重複するが、これに先行する住居跡である。削平されたためか壁高は数㎝しかない。北側の大型ピットは上層からの掘り込み。
［平面形・規模］楕円形か？長径5.8ｍ。
［施設］柱穴と思われるピット１基。
［出土遺物］出土遺物は弥生土器１点のみである。覆土からの出土である。Ⅴ－１期と思われる。
［時期］弥生時代後期前葉か？
４号住居（ＳＩ04、第24図、第80～82図）
［検出状況］調査区中央部で検出された。西側１／３ほどは調査区域外へ続く。また、北側は径1.8ｍの円形土坑(ＳＸ06)に切り取られる。北東部壁面の外側で焼土塊を検出。床面でも焼土２箇所にあり。
［平面形・規模］楕円形または胴張りの隅丸方形。長径6.1ｍ×短径4.6ｍ(検出部分のみ)。壁の残存高は13～28㎝。
［施設］床面では３基のピットを検出したが、主柱穴としては２基が確認できる。中央土坑は長径1.8ｍ×短径1.4ｍの楕円形で、断面形は擂鉢状(深さ34㎝)を呈す。壁溝は幅16～42㎝、深さ４～12㎝。
［出土遺物］覆土と床面から多くの弥生土器が出土している。床面から出土したものに285～290の甕があるが、概ねⅤ－２～Ⅴ－３期に属すと思われる。注意すべき遺物としては292の坩堝があるが、内面底部にガラス化した黒色物(炭？)が残されている。他には中央土坑から293の石包丁が見つかっている。
［時期］弥生時代後期中葉。
５号住居（ＳＩ05、第27図）
［検出状況］全体の東１／２程度は調査区域外へ続く。削平のためかプランは不明瞭で、北半ではっきりと捉えることができず、床面のみとなる。南側の壁高は25㎝を測るものの、他の住居址の壁面形態とは異なり、なだらかである。このため、当初スロープ状の自然地形の傾斜と考えていたが、周辺で住居址が検出されていく中で、焼土が存在するなど同様の様相を呈することから精査

を繰り返し、北東部のプラン及び中央土坑を検出した。
［平面形・規模］不整円形か？直径6.0m前後か？
［施設］中央土坑のみ検出。中央土坑は長径1.6m×短径1.3mの不整円形で、断面形は深さ17cmの擂鉢状を呈す。
［出土遺物］この住居址に伴う遺物は残されていない。
［時期］遺物が存在しないため、明確な時期判定はできない。

6号住居（SI06、第28図）

［検出状況］検出した住居址の中で最南端。南側でSX02と重複するが、これに先行する住居跡。4層直下で半円形のプランを検出。西側は調査区域外へ続く。上面は削平されたためか、壁高は数cmしかない。
［平面形・規模］円形または胴張りの隅丸方形。円形として直径5m前後。隅丸方形の場合、1辺4m。
［施設］床面からは5基のピットが検出されたが、主柱穴と考えられるのはP1、P5の2基である。P2はその位置や深さから柱穴とは考えにくい。P3は中央土坑か。壁溝は南東部のみ検出。幅20cm、深さ4～6cm。
［出土遺物］覆土から十数点の弥生土器が出土しているが、図化できたのは312の1点のみである。風化の為調整は不明瞭であるが、V－4期と思われる。
［時期］弥生時代後期後葉か

7号住居（SI07、第22図、第82図313）

［検出状況］東への拡張部で検出。部分的なものであり、住居址と断定するには不確かであるが、壁面と考えられるなだらかな落ち込みの様子は5号住居に類似する。壁高10～20cm。
［平面形・規模］不明。
［施設］不明。
［出土遺物］床面から弥生土器が1点出土している。313はV－1期に比定される甕で、口縁部に3条の平行沈線文、頸部に連続列状文を施す。外面ハケ、内面ケズリ後ハケ仕上げである。
［時期］弥生時代後期初頭か。

8号住居（SI08、第25図）

［検出状況］3号住居に重複する。3号住居を切るが、調査区ぎりぎりでわずかに見つかったものであり、住居址と断定するには不確。
［平面形・規模］方形か。
［施設］不明。
［出土遺物］なし。
［時期］平面形から古墳時代に属する住居址か。

9号住居（SI09、第22図）

［検出状況］3号住居の西側で検出。8号住居と同様、調査区壁際で検出されたものであり、形状等は不確。
［平面形・規模］隅丸方形か。
［施設］不明。
［出土遺物］なし。
［時期］弥生時代後期か？

第４節　Ｃ区

（１）調査区の状況（第29図）

Ａ区の西側に続く水路予定地で、調査区の幅は２ｍである。基盤整備事業区域外となっている旧中小路集落の屋敷跡地を迂回するように、鍵曲がり状に屈曲する。

基本層序は、第１層：暗青灰色土（耕作土）、第２層：灰褐色土、第３層：褐灰色土、第４層：暗茶色土、第５層：褐色土＋浅黄色土の混合層、第６層：暗褐色土である。第６層は下層に向かって砂質となり、色調も黄褐色へと変化するが、その境界は植物の根の貫入などで乱れており、判然としない（第30図）。

（２）遺構

Ｃ区では第３層直下でピットを数基、第６層直下で溝状遺構１条を検出した。ピットは柱穴と考えられるものが無いためここでは省略し、以下溝状遺構について述べる。

溝状遺構（第29図）

溝状遺構は、調査区中央よりやや西寄で検出された。幅2～2.2m、深さ0.67ｍで断面形はＶ字状を呈す。南北方向に伸びるもので、検出された長さは1.7ｍであるが、南北それぞれ調査区区域外へ続くと推定される。ただし、この北側の延長上に位置する水田に設定した試掘区では、この溝は検出されない。環濠の可能性もある溝跡と考えられるが、前述したように調査区の幅が狭いため、あるいは大型の土坑などの可能性がないでもない。

遺構内からは、Ⅳ－２～Ⅴ－３期に属する大量の弥生土器が出土している（第89～94図）。最初に堆積した層の土器はⅣ－２～Ⅴ－１におさまり、この溝状遺構の掘削時期は中期末から後期の初頭と考えられる。また、搬入品と考えられる防長系の甕の出土も当時の交流を知るうえで注意すべき遺物である。

第５節　Ｄ区

（１）調査区の状況

Ｄ区は、遺跡の中央部から西部にかけて設定した幅0.4ｍ×長さ100ｍほどの非常に細長い調査区である。既存道路の側溝付け替えに伴う。調査区設定箇所は既存の水田５区画が該当し、それぞれがコンクリート畦で区画されていたことから、便宜上最東区画をＤ１区、最西区画をＤ５区とした。ピットが45基検出されている。全てが柱穴とは言えず、また、調査区が狭小であるため、建物プランは確認できなかった。Ｄ１区周辺は、かつての中小路集落の最西端に位置しており、これに伴う瓦や茶碗を廃棄した堀込が見つかっている。

層序は、複数の水田区画にまたがるため土色や厚みに差異はあるものの、基本的に第１層：水田耕作土、第２層：橙色土、第３層：にぶい赤褐色土（奈良～平安時代遺物包含層）、第４層：地山である。第１層が10～15㎝厚、第２層は２～５㎝厚、第３層は25～30㎝厚である。

第６節　Ｅ区

（１）調査区の状況

Ｅ区の北側は幅２ｍほどの道路を挟んで比高１ｍの一段低い水田である。この水田での試掘から、礫、砂礫が厚く堆積する河川氾濫の痕跡が確認されており、Ｅ区が遺跡が立地する微高地の北西端に位置していることが確認されている。調査区西側は、平成15年度に発掘調査が実施されたふるさと農道に接する。調査区設定箇所は水田４区画が存在していた場所である。表土は重機で除去し、以下人力による掘削、遺構精査を行った。

調査区内を１辺10ｍの方眼で細分し、調査区北西隅を基準として、東西軸をアルファベット、南北軸をアラビア数字で表し、交点名をグリッド名とした（第31図）。

基本層序は、Ｄ区と同じで第１層：水田耕作土、第２層：橙色土、第３層：にぶい赤褐色土(奈良～平安時代遺物包含層)、第４層：地山である。第３層の堆積は、北側に向かって厚くなるが、これは自然地形の傾斜に起因するものである。また、地山は北に向かって固く締まったものから砂質へと変化する傾向にある。

調査区南半(ＳＤＥ８以南)では表土除去後すぐに地山が検出された。この範囲内で検出された遺構は、削平されたためと考えられるが、検出数も少なく、大半は深さの浅いものであった。また、Ａ１～Ｂ４グリッドの北西地区は、調査前の水田表面の標高でその南側のそれと比べて40cmほど低く、結果遺構が検出された地山面でも同様の傾向であり、遺構上部は大きく削平を受けて、南半と同じく検出数は少なく、かつ検出できたものも浅いものであった。

（２）遺構

遺構は地山面で検出したが、前述のように削平を受けていると考えられるため、同一面で複数の時代の遺構が検出された。Ｅ区で検出した遺構には、溝状遺構８条、土坑17基、ピット1013基がある。ただし、調査区北東部については、地山が砂質ということもあり、検出したピットが雨天後に崩壊、消失したものも多数ある。調査終盤に至っては雨水が枯れず、図化をあきらめたピットも幾つかある。幾つかの掘立柱建物跡、柵列の可能性が考えられ、第31図中に示しているが、上述のように図化できていないピットや削平による浅すぎるピットなどもあることから、現時点では可能性を示す、ということで紹介のみとさせていただく。以下、各遺構について述べる。

溝状遺構

ＳＤＥ１(第32図)

調査区中央の東側で検出。北西－南東方向に伸び、途中「Ｌ」字状に屈曲して向きを北東－南西方向に変える。検出長21.5ｍで北東端は調査区域外へ続く。幅0.5～1.2ｍ、深さ0.1～0.2ｍを測る。断面形状は南側が深く、北側を浅くする。須恵器、土師器の小片出土。

ＳＤＥ２(第33図)

調査区北西隅で検出。北東－南西方向に伸びる。北端は調査区域外へ続く。遺構名は1つを付しているが、形状は3条が並びあう様である。間を暗渠排水で削られる。検出長7.2ｍ、幅1.2～1.5ｍ、深さ0.1～0.15ｍ。断面形状は逆台形である。弥生土器片出土。

ＳＤＥ３(第34図)

調査区南西の－Ａ６グリッドで検出。東西方向に伸びる。西側は調査区域外へ。検出長3.7ｍ、幅0.3～0.4ｍ、深さ0.1ｍ。断面形状は逆蒲鉾形。出土遺物なし。

ＳＤＥ４(第35図)

調査区南東で検出。東西方向に伸びる。東側は調査区域外へ。東端に人頭大以下の集石あり。検出長15ｍ、幅0.4～0.8ｍ、深さ0.1～0.15ｍ。断面形状は逆蒲鉾形。須恵器、土師器の小片出土。

ＳＤＥ５(第36図)

ＳＤＥ４の南側に隣接。東西方向から南北方向へ「Ｌ」字状に屈曲。検出長14ｍ、幅0.3～0.6ｍ、深さ0.2ｍ。断面形状は逆蒲鉾形だが、溝の南西側(内側)が比較的深く掘り下がる。南西側(内側)には掘立柱建物跡の可能性があるピットが検出されており、区画溝の可能性がある。須恵器、土師器の小片出土している。

ＳＤＥ６(第37図)

調査区の中央部で検出。ＳＤＥ４の西側延長線上に位置しており、同一の溝の可能性あり。検出長13.8ｍを測るが、中央部で一部掘り方が不明瞭。幅0.1～0.8ｍ、深さ0.05～0.1ｍ。断面形状は、西側では逆台形、中央部以東で逆蒲鉾形を呈す。須恵器、土師器の小片出土。

ＳＤＥ７（第38図）

調査区の東側で、ＳＤＥ１とＳＤＥ４の間に位置する。南南西－北北東に伸びる。東側は調査区域外へ。検出長10.7m、幅0.3～0.4m、深さ0.1～0.2mを測る。断面逆台形。遺物なし。

ＳＤＥ８（第39図）

調査区の中央部で東西に伸びる溝跡。西側は調査区域外へ続く。検出長27m、幅0.4～0.9m、深さ0.1mを測る。西側でＳＫＥ13を切り、中央部でＳＫＥ14を切る。土師器片、白磁片が出土。

土坑

ＳＫＥ１（第40図）

Ａ５グリッドに位置する不整円形の土坑である。長径1.1m、短径0.85m、深さ0.12mを測る。埋土は褐灰色土である。土師器の小片が出土。

ＳＫＥ２（第40図、第98図435）

Ａ５グリッドの西端に位置する不整形の土坑である。長径２m、短径1.6m、深さ0.08mを測る。埋土は黒褐色土である。拳大の石が点在する。縄文土器のほか、石皿が出土している。

ＳＫＥ３（第40図）

調査区の北側、Ｂ２グリッド南東隅で検出。平面形は不整長方形。長径1.4m、短径0.45m、深さ0.1mを測る。埋土は暗褐色土。土師器小片が出土している。

ＳＫＥ４（第40図）

調査区の中央部に位置し、Ｂ３グリッドで検出。平面形は隅丸長方形。長径2.8m、短径1.2～1.7m、深さ0.13mを測る、比較的大型の土坑である。埋土は１層：極暗赤褐色土、２層：にぶい赤褐色土である。遺物は１層から出土するが、北東部に集中している。土師器片のほか、縄文晩期の夜臼系土器が出土している。

ＳＫＥ６（第40図、第98図436～444）

調査区南西部の－Ｂ６グリッドで検出。平面形は円形。直径1.35m、深さ1.3mを測る。人頭大以下の円礫、割石が大量に出土し、火にあたった石も数点確認される。出土遺物には、土師質土器、白磁皿、青磁碗、東播系の須恵器などがある。井戸跡か。

ＳＫＥ８（第40図）

調査区南東に位置する楕円形の土坑。長径1.65m、短径１m、深さ0.06mを測る。埋土はオリーブ褐色土である。土師器小片が出土している。

ＳＫＥ９（第41図）

Ｂ７グリッドで検出した不整楕円形の土坑。長径2.3m、短径0.7m、深さ0.3mを測る。埋土は灰褐色土。土師器片が出土している。

ＳＫＥ11（第41図）

Ｄ７グリッド中、ＳＫＥ８の南側に位置する楕円形の土坑。断面形は擂鉢状。長径1.25m、短径0.75m、深さは中央部で0.1mを測る。埋土は灰褐色土。遺物なし。

ＳＫＥ12（第41図）

ＳＫＥ11の南西方向２mの位置で検出した不整長方形の土坑。長径0.85m、短径0.5m、深さ0.15mを測る。土師器片、土錘が出土。

ＳＫＥ13（第41図）

調査区中央部西側の－Ａ４グリッドに位置する不整円形の土坑。直径１m、深さ１mを測る。ＳＤＥ８と重複関係にあるが、これに先行する土坑である。土坑内には人頭大以下の石が堆積する。須恵器、土錘が出土。井戸跡か。

ＳＫＥ14(第41図)

ＳＫＥ13から東へ９ｍの位置で検出した楕円形の土坑。長径1.2ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.16ｍを測る。ＳＤＥ８と重複関係にあるが、これに先行する土坑である。弥生土器がまとまって見つかっているが、風化、磨耗が著しく復元、図化はできていない。その形態から弥生中期末から後期初頭に属すと考えられ、合わせ口の土器棺と推測される。

ＳＫＥ15(第41図)

調査区中央東側のＤ４グリッドで検出された不整形の土坑である。長径1.85ｍ、短径1.15ｍ、深さ0.1ｍを測る。埋土は褐灰色土である。割石が数点出土する。

ＳＫＥ16(第42図)

ＳＤＥ１の南1.5ｍに位置する楕円形の土坑である。長径0.7ｍ、短径0.45ｍ、深さ0.2ｍを測る。

ＳＫＥ17(第42図)

調査区北東部Ｄ３グリッドで検出した楕円形の土坑である。この周辺は地山が砂質で、調査終盤には度々水没し、遺構の掘り方は削り取られている。このため、やや大型のものとなっているが、現存する長径0.95ｍ、短径0.5ｍ、深さ0.3ｍである。断面形はやや擂鉢状を呈す。

ＳＫＥ18(第42図)

調査区中央部のＣ５グリッドで検出した楕円形の土坑である。北西部はピットにより切り取られる。長径1.1ｍ、短径0.7ｍ、深さ0.15ｍを測る。

ＳＫＥ19(第42図)

調査区南西部のＡ７グリッドで検出した不整楕円形の土坑である。上部は削平されており、深さはわずかしかない。長径0.7ｍ、短径0.5ｍを測る。

ＳＫＥ21(第42図)

調査区北部のＣ１グリッドで検出した土器棺墓である。土坑規模は長径0.7ｍ、短径0.4ｍ、深さ0.1ｍの不整長方形。埋葬状態は横位で、西－東を主軸とする。上方向から見た場合、西側の甕を外側とする合わせ口に見えるが、この甕の下半部は欠損しており、合わせ口状覆い口土器棺とでも呼べばよいだろうか。東側の甕が棺身である。弥生中期末から後期初頭。

ＳＫＥ22(第42図)

Ａ５グリッドで検出した大型土坑で、ＳＫＥ１の南東に位置する。平面形は楕円形を呈し、長径3.2ｍ、短径2.2ｍ、深さ0.1ｍを測る。埋土は暗褐色土である。人頭大以下の円礫、割石が多く出土するが、北側に比較的集中する。須恵器、鉄滓が出土している。

ＳＫＥ23(第42図)

調査区の南端で検出した円形の土坑。直径２ｍ、深さ0.5ｍを測る。人頭大の石が西側のみにまとまって出土する。遺物は土師質土器片、須恵器片が出土している。

第７節　Ｆ区

（１）調査区の状況

Ｅ区の東側隣接地に設定した調査区である。表土は重機で除去し、以下人力による掘削、遺構精査を行った。

調査区内を１辺10ｍの方眼で細分し、調査区北西隅を基準として、東西軸をアルファベット、南北軸をアラビア数字で表し、交点名をグリッド名とした(第43図)。

基本層序は、第１層：灰オリーブ色土(水田耕作土)、第２層：灰色土(水田床土)、第３層：橙色土、第４層：黒褐色土(奈良～平安時代遺物包含層)、第５層：地山である。遺構は地山面で検出した。遺構検出面の標高は、調査区南西が最も高く、北東に向かい低くなっていく。この自然地

形に合わせるように、Ｅ区と同様、地山は南西側の固く締まったものから、東側から北東に向かい砂質へと変化する傾向にある。

調査区四隅周辺では表土除去後すぐに地山が検出された。この範囲内で検出された遺構は、削平されたためと考えられるが、検出数も少なく、大半は深さの浅いものであった。

（２）遺構

遺構は地山面で検出したが、前述のように削平を受けていると考えられるため、同一面で複数の時代の遺構が検出された。Ｆ区で検出した遺構には、溝状遺構３条、土坑41基、掘立柱建物跡12棟、柵列３列、ピット1527基がある。土坑については、その規模が概ね40㎝以上のものが検出された段階で土坑番号を付していったため、結果的に土坑番号は95まである。しかし、Ｆ区においては、直径１ｍ規模の柱穴からなる掘立柱建物跡が複数建つと判断されたため、この柱穴に対しても土坑番号を付していたことから半数以上が欠番となっている。

以下、各遺構について述べる。

溝状遺構

ＳＤＦ１（第45図）

調査区南側で検出した東西方向に伸びる溝跡。Ｅ７グリッド部は旧水田面での比高差20㎝を測る段差があり、この削平に伴い溝跡も一旦途切れる。溝東側は調査区域外へ続く。検出長32.5ｍ、幅0.5～１ｍ、深さ0.1～0.4ｍを測る。断面形状は逆蒲鉾状。須恵器が出土。

ＳＤＦ２（第45図）

ＳＤＦ１の南側に並走する溝跡。途切れ途切れであるが、検出長14ｍ、幅0.4ｍ、深さ0.15ｍを測る。ＳＤＦ１と同じく削平によりＥ７グリッドでなくなる。断面形状は逆蒲鉾状。須恵器、土師器片出土。

ＳＤＦ３（第45図）

調査区北西隅で検出した溝跡。南西―北東方向に伸びる。途中、暗渠排水により切られるが、検出長10ｍ、幅0.4～0.7ｍ、深さ0.1～0.15ｍを測る。断面形状は逆台形。須恵器片出土。

土坑

ＳＫＦ１（第46図）

調査区北西のＡ２グリッドで検出した不整楕円形の土坑。長径1.8ｍ、短径1.3ｍ、深さ0.45ｍを測る。埋土は１層：暗赤褐色土、２層：にぶい赤褐色土である。

ＳＫＦ３（第46図、第100図461～466、第101図468）

調査区北西のＢ３グリッドで検出した大型の土坑である。平面形はやや不整な隅丸の長方形。北側は暗渠排水により欠失。残存長4.2ｍ、幅２ｍ、深さ0.1～0.15ｍを測る。南東部がやや深く残るものの、全体的に上部は削平されていると考えられる。遺物は南東部でまとまって見つかっている。奈良時代の須恵器、土師器が出土。廃棄土坑か。

ＳＫＦ４（第46図）

調査区中央の東側Ｄ４グリッドで検出された大型の楕円形土坑。長径2.7ｍ、短径1.1ｍ、深さ0.2ｍを測る。遺物なし。

ＳＫＦ６（第46図）

調査区中央のＣ６グリッドで検出した不整楕円形の土坑。複数のピットと重複関係にある。長径3.4ｍ、短径0.9～1.7ｍ、深さ0.1～0.3ｍを測る。縄文晩期の夜臼系土器、土師質土器が出土。

ＳＫＦ７（第47図）

調査区南東のＥ６グリッドで検出した隅丸長方形の土坑。長径1.2ｍ、短径0.9ｍ、深さ0.45ｍを測る。断面形は東側を深くする擂鉢状を呈す。底部には５㎝厚程度で一面に炭が堆積する。壁面

に奈良時代の須恵器の蓋と坏がセットで張り付いていた。

ＳＫＦ８（第47図）

Ｄ７グリッドで検出した円形土坑。直径1.7m、深さ0.8mを測る。断面形は擂鉢状。北側でピットと重複関係にあるが、これに先行する土坑である。須恵器、土師器出土。

ＳＫＦ10（第47図）

ＳＤＦ３に西接する土坑。北側は暗渠排水により欠失。残存長１m、深さ0.1mを測る。遺物なし。

ＳＫＦ11（第47図）

Ｃ７グリッドで検出した隅丸長方形の土坑。長径1.5m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色土。土師器片出土。

ＳＫＦ12、ＳＫＦ83（第47図）

ＳＫＦ11の東側で検出した重複する２基の土坑。何れも平面形は楕円形。ＳＫＦ12がＳＫＦ83に先行する。ＳＫＦ12の残存長1m、短径0.9m、深さ0.1mを測る。ＳＫＦ83の長径0.9m、短径0.8m、深さ0.4mを測る。ＳＫＦ83は柱穴の可能性あり。ＳＫＦ12より土師器出土。

ＳＫＦ14（第47図）

調査区中央のＣ６グリッドで検出した不整円形の土坑。北東部はピットと重複関係にある。長径0.9m、短径0.8m、深さ0.15mを測る。埋土は暗褐色土。柱穴の可能性あり。土師質土器皿出土。

ＳＫＦ16（第47図）

Ｃ６グリッドで検出した不整楕円形の土坑。長径0.8m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色土。土師器小片出土。柱穴の可能性あり。

ＳＫＦ17（第47図）

ＳＫＦ16の南東に位置する不整円形の土坑。直径0.8m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色土。土師器小片出土。

ＳＫＦ21（第47図）

調査区北東部のＤ２グリッドで検出した隅丸長方形の土坑。東側は暗渠排水により欠失。この周辺の地山が砂質のため、掘り方はやや不明瞭で、雨水により規模もやや拡大した。現存長1.8m、幅0.5～0.9m、深さ0.3mを測る。遺物なし。

ＳＫＦ22（第47図）

調査区北東のＢ２グリッドで検出した不整形の土坑。長径1.2m、短径0.8m、深さ0.07mを測る。埋土は暗赤褐色土。白磁碗片が出土。

ＳＫＦ23（第48図）

調査区北西のＡ３グリッドで検出した楕円形の土坑。長径1.1m、短径0.95m、深さ0.1mを測る。埋土は褐色土。遺物なし。

ＳＫＦ25（第48図）

調査区北東のＤ２グリッドで検出した不整形の土坑。３基のピットが重複しあったものである可能性あり。

ＳＫＦ26（第48図）

Ｄ２グリッドで検出した大型の楕円形土坑。南側はピットと重複関係にある。地山が砂質であるため掘り方はやや不明瞭。長径4.1m、短径0.5～0.95m、深さ0.2mを測る。

ＳＫＦ27（第48図）

Ｄ２グリッドで検出した不整形の土坑。長径1.9m、短径0.95m、深さ0.3mを測る。断面形は擂鉢状。遺物なし。

ＳＫＦ28(第48図)

Ｄ２グリッドで検出した楕円形の土坑。東西それぞれピットと重複関係にある。長径0.85m、短径0.5m、深さ0.2mを測る。埋土は褐色土。

ＳＫＦ33(第48図)

Ｂ３グリッドで検出した楕円形の土坑。長径１m、短径0.8m、深さ0.25mを測る。建物４に重なるが関連は不明。柱穴の可能性あり。

ＳＫＦ37(第48図)

調査区中央のＣ５グリッドで検出した大型の不整楕円形土坑。北東部はピットと重複関係にあり。長径3.2m、短径１m、深さ0.35mを測る。建物８と重なるが関係は不明。土師器小片出土。

ＳＫＦ39(第49図、第101図)

調査区中央部のＢ４グリッドで検出した隅丸長方形の大型土坑。主軸方向等ＳＫＦ３に類似する。北側は暗渠排水で欠失。残存長2.8m、幅1.4m、深さ0.2mを測る。ピットと重複関係にあり。埋土には炭が混じる。遺物は南側で出土。奈良～平安時代の須恵器出土。

ＳＫＦ40(第49図)

ＳＫＦ39の南側に位置する隅丸方形の土坑。長径２m、短径1.7m、深さ0.2mを測る。埋土は灰褐色土で、炭化物、焼土塊が混じる。土師器、須恵器片、土錘が出土。

ＳＫＦ45(第49図)

調査区の中央部のＣ３グリッドで検出した楕円形の土坑である。長径１m、短径0.5m、深さ0.05mを測る。埋土は暗赤褐色土。建物7内に位置し、柱間は対応する位置に存在するが、深さなど他の柱穴とは異なり、関係は不明である。遺物はなし。

ＳＫＦ50(第49図)

Ｃ２グリッド南東隅で検出した楕円形の土坑。長径1.1m、短径0.6m、深さ0.1mを測る。

ＳＫＦ51、ＳＫＦ52、ＳＫＦ61

ＳＫＦ50の南側に位置する。３基の土坑が隣接し、ＳＫＦ52とＳＫＦ61は重複関係にあるが、ＳＫＦ61が先行するようである。ＳＫＦ51は不整形で長径1.6m、短径1.35m、深さ0.15mを測り、須恵器、土師器片が出土。ＳＫＦ52は不整形で長径1.7m、短径1.4m、深さ0.1mを測る。遺物はなし。ＳＫＦ61は不整形で長径0.85m、短径0.65m、深さ0.07mを測る。遺物はない。建物１と重なるが、関係は不明。

ＳＫＦ65(第50図)

調査区北東部のＢ３グリッドで検出した円形の土坑。直径0.47m、深さ0.2mを測る。完形の鉢が埋め込まれる。近世。

ＳＫＦ66(第50図)

調査区北西のＢ３グリッドで検出した楕円形の土坑。建物２に隣接する。長径１m、短径0.6m、深さ0.25mを測る。埋土は褐色土、にぶい褐色土である。柱穴の可能性あり。

ＳＫＦ69(第50図)

調査区東側のＥ３グリッドで検出した円形の土坑。直径１m、深さ0.25mを測る。埋土は褐灰色土、灰色粘質土で、近世の陶磁器片が多数出土する。

ＳＫＦ72(第50図)

調査区南西のＢ７グリッドで検出した不整円形の土坑。長径1.2m、短径1.1m、深さ0.2mを測る。人頭大以下の石が堆積する。須恵器片、土師器鍋が出土。

ＳＫＦ75(第50図)

調査区北東のＢ３グリッドで検出した不整形の土坑。長径2.8m、短径1.3m、深さ0.2mを測る。

埋土は黒褐色土。土師質土器小片出土。建物3の北東隅に重なり、建物に関連する遺構と考えられるが、性格は不明。

ＳＫＦ78(第50図)

Ｃ３グリッドで検出した不整楕円形の土坑。南側は暗渠排水で欠失。長径1.6m、短径は残存長で１m、深さ0.1mを測る。埋土は暗褐色土。須恵器小片が出土。

ＳＫＦ79(第50図)

Ｂ２グリッドで検出した隅丸長方形の土坑。長径1.7m、短径0.5m、深さ0.1mを測る。建物２内に位置するが、関連は不明。遺物なし。

ＳＫＦ81(第50図)

調査区南東部のＥ６グリッドで検出した不整形の土坑。北東部、北西部はそれぞれピットと重複関係にある。長径1.8m、短径1.1m、深さ0.15mを測る。埋土は灰褐色土。須恵器片が出土。

ＳＫＦ89(第50図)

調査区南東のＥ8グリッドで検出した不整円形の土坑。中央は暗渠排水で欠失。長径1.65m、短径1.45m、深さ0.1mを測る。須恵器小片出土。

ＳＫＦ90(第51図)

調査区南西のＢ８グリッドで検出した隅丸方形の土坑。長径1.2m、短径0.95m、深さ0.6mを測る。中心底部に柱根が残っており、柱穴と考えられるが、隣接するＳＫＦ94の他に同形、同規模の柱穴がなく、建物プランが引けないことからここで紹介する。大型の建物跡が推定される。

ＳＫＦ91(第51図)

調査区中央のＣ5グリッドで検出したやや不整の隅丸方形土坑。長径1.35m、短径0.9m、深さ0.2mを測る。東側は建物10の柱穴と重複関係にあるが、これに先行する土坑である。遺物なし。

ＳＫＦ94(第51図)

ＳＫＦ90から西へ２mに位置する隅丸方形の土坑。長径1.3m、短径1.1m、深さ0.5mを測る。ＳＫＦ90と同一の建物跡の柱穴と考えられる。柱根はないものの柱痕あり。底部に焼土塊あり。

ＳＫＦ95(第51図)

調査区北側のＢ１グリッドで検出した不整形の大型土坑。地山が砂質であるため、掘り方は不明瞭で、雨水により規模は検出当初よりやや拡大している。残存長3.4m、短径0.5～1.3m、深さ0.35mを測る。埋土は褐色砂質土。須恵器、土師器片が出土している。

掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は12棟のプランを引くことができた。しかし、前述のＳＫＦ90等のように柱根が検出されたものや柱固めのための石が検出されたにもかかわらず、建物プランを引くことができなかったピットが数基あり、またピットの分布密度からすれば復元できなかった建物が存在する可能性は高いなど、課題は残されている。以下、各遺構について概要を述べる。

建物１

調査区北側に位置する２間×４間の建物である。主軸方向は東北東－西南西。柱穴は20～40cmの円形で、柱間は1.6～1.8m。梁行3.8m×桁行6mで、平面積は22.8㎡。北側は軸を同じくする柵列1と接し、同一建物の可能性があったが、西側で対応する柱穴が存在しないため別遺構とした。

建物２

調査区北西部に位置する２間×２間の建物である。主軸方向は東北東－西南西。柱穴は40cmの円形で、柱間は1.5～1.6m。梁行3.0m×桁行3.2mで、平面積は9.6㎡。南東列は柵列1と同一線上に位置し、柱間もほぼ同じである。柱穴の深さは20～30cmと比較的しっかりしたものであり、北西列が削平のため欠失したとは考えられないことから、別遺構と考えている。

建物３

調査区北西部の建物２の南側に位置する１間×３間の建物である。主軸方向は東－西。柱穴は10～20cmの円形で、柱間は梁方向で3.2mとやや長いが、桁方向で2.1m。梁行3.2m×桁行６mで、平面積は19.2㎡。北東隅にはＳＫＦ75が存在する。

建物４

調査区中央部に位置する１間×３間の建物である。主軸方向は北－南。柱穴は10～20cmの円形で、柱間は梁方向2.2m、桁方向で1.7m。梁行2.2m×桁行5.2mで、平面積は11.5㎡。

建物５

調査区中央よりやや西側に位置する２間×８間の総柱建物である。主軸方向は北北西－南南東。柱穴は20～30cmの円形で、柱間は1.4～1.6m。梁行3m×桁行12.2mで、平面積は36.6㎡。

建物６

調査区中央よりやや北側に位置する２間×４間の建物である。主軸方向は北北西－南南東。柱穴は１mの円形、隅丸方形で、柱間は2.2～2.4m。梁行4.4m×桁行８mで、平面積は35.2㎡。

建物７

調査区中央で建物６と重なる位置にある２間×５間の建物である。主軸方向は北北西－南南東。柱穴は60～80cmの楕円形、隅丸方形で、柱間は1.6～1.8m。梁行４m×桁行9.2mで、平面積は36.8㎡。建物８と軸を同じにし、延長上に位置するが、東側に対応する柱穴が認められないため、別の建物跡としている。

建物８

調査区中央に位置する身舎３間×７間の総柱建物である。この身舎の南西部に半間×２間の庇と考えられる柱穴が付く。また、同じく東側にも半間×７間の庇と考えられる柱穴列が認められる。主軸方向は北北西－南南東。柱穴は60～80cmの円形、隅丸方形で、柱間は1.6～2.2m。身舎は梁行６m×桁行11.6mで平面積69.6㎡あるが、庇を加えれば平面積は84.8㎡となる。

建物９

調査区北東部に位置する２間×３間の建物である。主軸方向は東北東－西南西で建物７の直交方向にあたる。柱穴は30cm～１mの円形、隅丸方形で、柱間は２～2.2m。梁行4.2m×桁行6.5mで、平面積は27.3㎡。

建物10

調査区中央よりやや東側に位置する２間×３間の建物である。主軸方向は東北東－西南西で建物８の直交方向にあたる。柱穴は30～90cmの円形、隅丸方形で、柱間は梁方向1.8m、桁方向で2.8m。梁行3.6m×桁行8.4mで、平面積は30.3㎡。

建物11

調査区南西部に位置する１間×４間の建物で、南側に半間の庇が付く。主軸方向は東－西。柱穴は20cmの円形、柱間は2.4～2.6m。梁行2.8m×桁行11.4mで、平面積は31.9㎡。

建物12

調査区南西部に位置し、建物11と軸を同じにする３間×５間の建物で、南側に半間の庇が付く。主軸方向は東－西。柱穴は20cmの円形、柱間は中央で１mと狭いが、他は2.4～2.6m。梁行7.4m×桁行11.4mで、平面積は84.4㎡。中央部分の柱間が狭いことから、２間×３間規模の建物が２棟隣接するとも考えたが、建物11との関係から３間×５間の建物と想定した。

柵列

周辺で復元した建物の柱穴と同規模、同形状のもので、建物復元に至らなかったピット列を柵列として示した。

柵１

調査区北側に位置する。柱間は1.8ｍで、建物１、建物２と軸を同じにする。

柵２

調査区北東部に位置する。柵列１と直交する。柱間は２ｍ。

柵３

調査区北東部に位置し、柵列２とは直交関係にある。柱間1.2ｍを測る。

第８節　Ｇ区

（１）調査区の状況（第52図）

遺跡の中央部に設定した細長い調査区である。旧中小路集落の南辺部に位置し、水路が予定される箇所である。

調査区の基本層序は、第１層：褐灰色土（水田耕作土）、第２層：灰黄色砂質土（水田床土）、第３層：暗灰黄色土、第４層：黄色粘質土（地山）である。第３層は、東に向かいその厚みがなくなり、調査区中央より東側では堆積そのものが認められない。遺構は、西半区ではこの第３層上面で検出されたが、東半区では第４層地山面で検出された。また、検出された遺構は何れも深さは浅く、

後世の水田化に伴う削平により、多くの部分の遺構が掘削されたものと考えられる。

（２）遺構

Ｇ区では、ピット20基、土坑１基が検出された。遺構分布は、東側で少なく、西側で比較的多いものの、全体として密度は疎である。調査区の幅が１ｍあまりということもあり、建物は想定されない。土坑は平面形が楕円形で、北側は調査区域外に続く。規模は長径0.9ｍ以上、短径0.7ｍ、深さ0.3ｍを測る。

第９節　Ｈ区

（１）調査区の状況（第54図）

調査区は、１辺60ｍ×70ｍ×70ｍの三角形の調査区である。南側は県道白上横田線予定地に接し、これに伴う発掘調査区に接する。表土を重機で掘削後、人力による掘削、精査を行ったが、南西隅では表土除去後１～２㎝で地山が表出した。地山のレベルは南西隅が最も高く、北東方向に放射状に下がっていき、最も低い北東端とのレベル差は1.2ｍを測る。なお、調査区の全体を調査するには期間が確保できないことから、この結果を基に事業者と協議を行い、調査区のおよそ１／３にあたる北側から東側の一部について保護層の確保が可能との判断により、調査対象地から除外し、現地に保存されることとなった。

基本層序は、第１層：黒褐色土（水田耕作土）、第２層：褐色土（遺物包含層）、第３層：黄褐色粘質土、第４層：明黄褐色土（地山）である。

（２）遺構

検出された遺構には、ピット847基があり、このうち２棟の掘立柱建物を復元することができた。この他、土坑10基、溝状遺構２条が検出されている。検出された遺構は全体的に浅く、削平を受けているものと思われる。また、暗渠排水が無数に検出されているが、これによる遺構の欠失も目立つ。ここでは、掘立柱建物跡について述べる。

掘立柱建物跡

復元された掘立柱建物２棟は、いずれも調査区北東端で検出されたが、さらに調査区域外へと続いており、全体規模の検出には至っていない。また、２棟の建物は軸方向をそろえる形で復元でき、重複関係が認められるものの、新旧関係は不明である。

建物１

２間×４間以上の建物。主軸方向は北東－南西。柱穴は20㎝の円形、柱間は1.4～1.8m。梁行４m×桁行5.6m以上で、平面積は22.4㎡以上である。

建物２

２間×４間以上の建物。主軸方向は北東－南西。柱穴は20㎝の円形、柱間は1.2～1.4m。梁行2.1m×桁行5.6m以上で、平面積は11.8㎡以上である。

第10節　Ｉ区

（１）調査区の状況（第53図）

Ｉ区は、遺跡が立地する微高地の南縁に位置する。その南側は谷底地形で比高差50～70㎝を測る水田で、北側は県道白上横田線予定地に接する。

この調査区は、調査対象地として事前に調査を実施する必要があるとして事業者と協議が済んでいた場所であったが、工事業者との行き違いから無断工事が行われ、南側の水田面まで掘削が行われた。これに対し、厳重注意の指導のうえ調査に着手した。

調査は、当初予定の１／３程度、２m×40mの調査区で実施した。表土は重機で除去したが、その後１～２㎝で地山面に達した。遺構はこの地山面で検出された。ピットが42基検出されたが、その大半は深さ10㎝未満の浅いものであり、後世の水田化に伴う削平を受けたものと考えられる。

第11節　まとめ

中小路遺跡において２年間に渡り発掘調査を実施した。遺跡の範囲は４～５万㎡と推定されており、それから見れば１／４～１／５程度の部分的な調査であり、全容解明には未だ時間を要するのかもしれない。しかし、一方で今回の調査でこの遺跡の特徴的な部分が明らかになったのも事実であろう。以下にまとめをしておく。

①弥生時代の集落について

Ａ～Ｃ区の遺跡北東部を中心に弥生時代の遺構がまとまって見つかっている。竪穴住居跡９棟、土器棺墓10基、環濠の可能性のある溝状遺構１条である。

竪穴住居跡については、ほぼ完全な形で検出されたのは１棟であり、不確定部分が多々残されているが、後期初頭の２号・７号住居、後期前葉の１号・３号住居、後期中葉の４号住居、後期後葉の６号住居の変遷が遺物より認められる。この変遷を、地形で見ると、北端の微高地先端部から徐々に高手に移動したと解釈できる。

次に、土器棺墓について述べる。Ａ区で８基、Ｅ区で２基検出された。Ａ区の４号墓を除き、全て合わせ口の土器棺である。ただし、Ｅ区のＳＫＥ21は覆い口である。Ｅ区で見つかった土器棺は、それぞれ単体のものであるが、Ａ区については明らかに土器棺による墓域を形成している。土器棺は、埋葬者の手がかりが見つかっておらず、断定はできないが、通説に頼れば、乳幼児の墓であり、乳幼児のみの墓域である可能性が高い。周辺で他に土壙墓が見つかっておらず、成人の埋葬形態は不確定であるが、この中小路遺跡に関しては、成人と乳幼児とでは埋葬場所のすみ分けがなされていたと考えられる。使用されている土器については、在地の甕と考えられるものも数点存在するが、いわゆる瀬戸内西部の複合口縁壺の多用が特徴であろう。家下遺跡でも土器棺墓が検出されたことは前述したとおりであるが、それらはいずれも、いわゆる山陰系複合口縁の甕を合わせ口としたものであったが、中小路遺跡の土器棺墓には山陰系複合口縁の壺・甕を用いたものはない。Ｅ区の土器棺墓２基は概ね弥生中期末から後期初頭に属し、Ａ区の土器棺墓群は概ね弥生後期の前半に属す。

環濠の可能性のある溝状遺構は、Ｃ区で検出された。弥生時代の集落の西端を示していると考えられる。この溝状遺構の掘削時期は、遺物から弥生中期末から後期初頭と比定され、隣接する羽場遺跡で見つかった中期の環濠との、ひいては集落間の関連が今後の課題ではないだろうか。

次に、出土した遺物について、いくつか注目すべきを述べておく。１つには、防長系、安芸方面の土器などいわゆる瀬戸内西部の土器が多数混在していることである。高津川を利用した交流が想定されるところであるが、一方で調査がごく限られた範囲であった事実はあるものの同じく高津川に沿った家下遺跡で現在のところ皆無であることは、新たな課題となるだろう。次に石器の存在である。少なからず出土している石器には、製品から製作途中の未製品、砥石などがあり、中小路遺跡の性格を考える上で注意すべきことである。

②奈良～平安時代の集落について

Ｆ区において掘立柱建物跡が12棟検出された。出土している遺物が小片であることから、時期の特定は難しいが、周辺で出土している遺物なども併せ考えれば奈良時代後半から平安時代の初頭に属すとして大過ないだろう。

特に注目すべきは、建物１、建物２、建物６、建物７、建物８、建物９、建物10、そして建物復元はできていないがＳＫＦ90、ＳＫＦ94の大型の柱穴をもつ建物群である。柱穴規模が１ｍ近くある円形あるいは隅丸方形の柱穴が規則的に並ぶ大型の建物跡が想定され、官衙関連の建物跡ではないかと考えている。併せて、中小路の地名が古代の荘園の役職の１つである「荘司」の音韻転訛ではないかとも考えているが、これらを積極的に肯定できる遺物などは見つかっていないことから、これまでに大量に出土している遺物をあらためて整理するなど、今後の検討課題としておきたい。

③その他の出土遺物について

これまでに、遺構に伴う遺物について幾つか述べてきたが、遺構外の遺物で注意すべきものについて触れておく。１つはＡ区で出土した緑釉陶器である。１点のみの出土であるが、近隣では羽場遺跡、下都茂原遺跡など限られた遺跡でのみ出土している。その色調から、長門系と考えられる。次に注意すべきものに、Ａ区、Ｂ区で出土した刀剣がある。調査では古墳時代の遺物はほとんど見つかっていないが、周辺に古墳が存在していた可能性も想定される。

第５章　総括

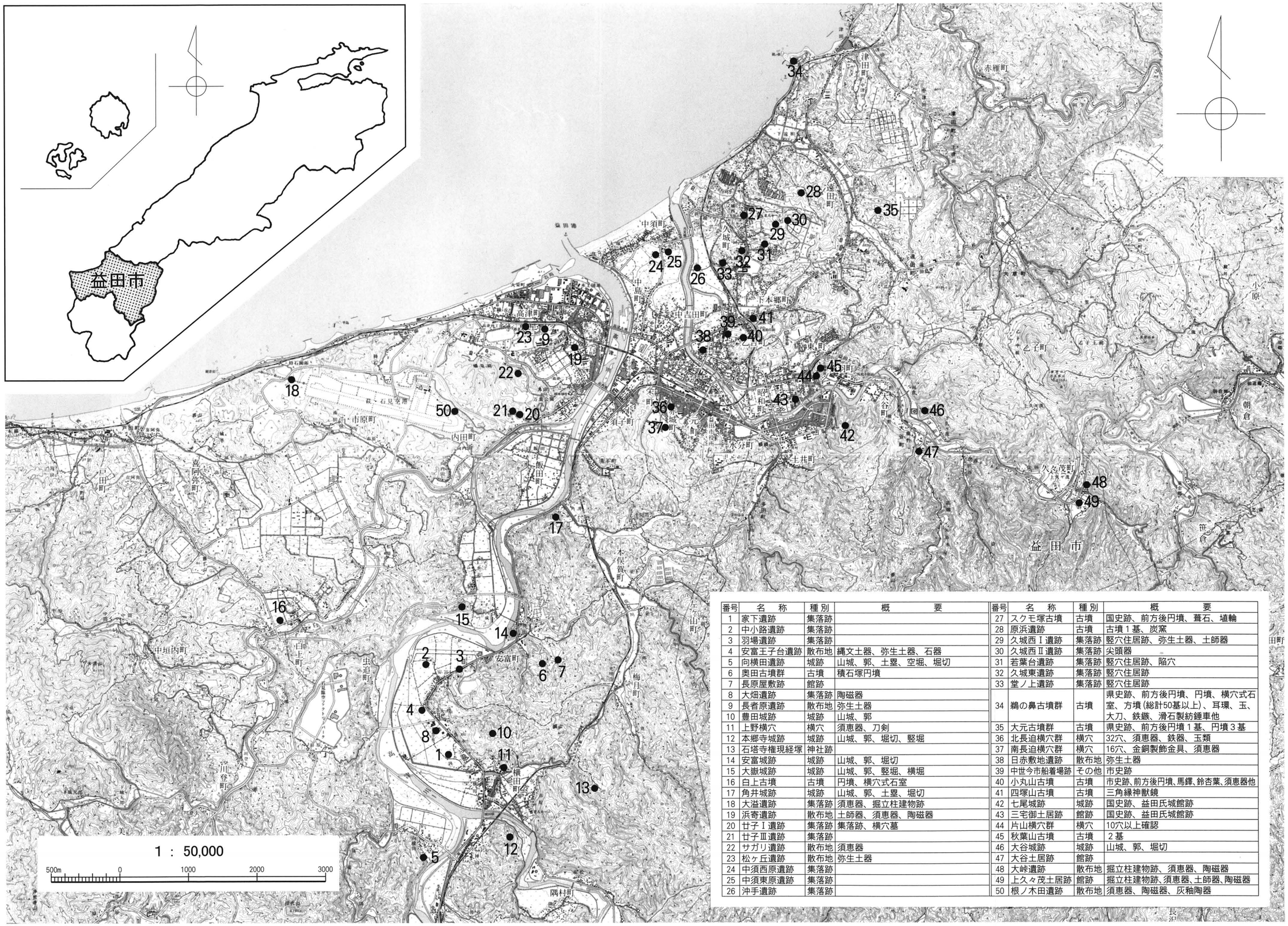
家下遺跡で１年、中小路遺跡で２年に及ぶ発掘調査からは、多くの事実が確認されたと考える。特に中小路遺跡に関しては、これまで益田市においてよくわかっていなかった弥生時代の大規模集落の様相を、大量の遺物とともに提供してくれた。しかし、調査者の経験不足、非力から上述してきたこと以外にも重要なことが看過された恐れは残念ながらあるし、率直に認め、反省するところである。報告書作成を終えるにあたり、あらためて大量の遺物を眺めてみる。弥生土器に関していなか舎代表の田中義昭氏より、石器に関して島根県埋蔵文化財調査センターの丹羽野裕氏より、陶磁器に関して島根県埋蔵文化財調査センターの西尾克己氏よりそれぞれ貴重なご指摘、ご指導をいただいたにもかかわらず、本報告において、紙面や時間的制約から省略した遺物、言及できなかった遺物は数多く存在する。コンテナ(縦36㎝×横52㎝×高さ30㎝)換算にして、家下遺跡で39箱、中小路遺跡で284箱に及ぶ遺物を今一度見直し、あらためて報告する機会を持ちたいと考えている。欠の多い報告書であるが、本書をたたき台としてご活用いただき、諸賢の寛容で深い洞察によって欠が補われ、家下遺跡、中小路遺跡の性格がより詳細に解明されることを期すところである。

現地調査から報告書刊行まで多くの機関と方々にご指導・ご協力をいただいている。報告を終え

るに当たり、あらためて深甚の感謝を申し上げる次第である。

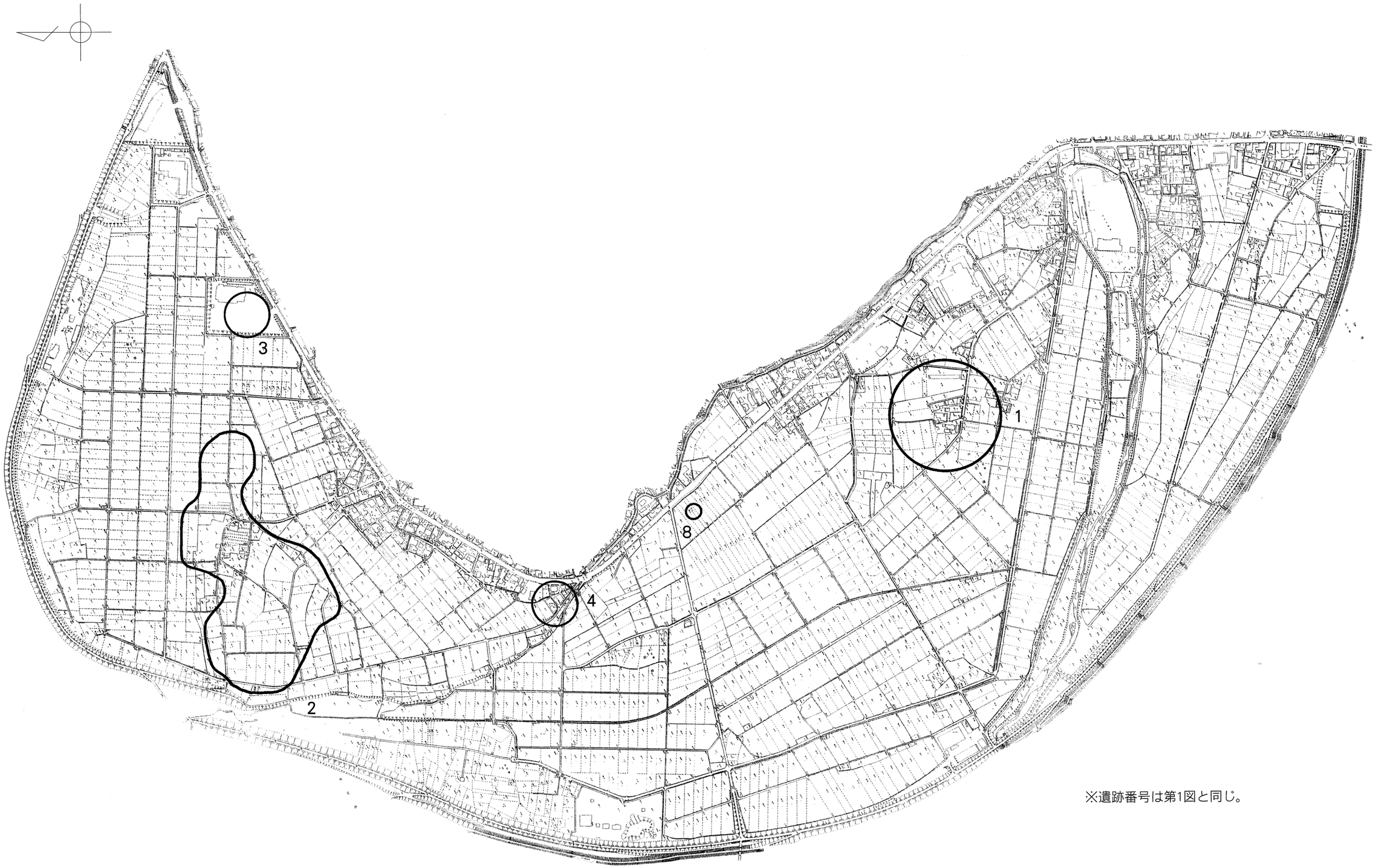
参考文献

・益田市教育委員会『安富王子台遺跡発掘調査概報』1981年３月
・正岡睦夫・松本岩雄 編『弥生土器の様式と編年』－山陽・山陰編－1992年５月　木耳社
・日本貿易陶磁研究会『中世後期における貿易陶磁器の様相』－日本貿易陶磁研究集会中国大会資料集－2002年６月
・日原町教育委員会『萬世溢遺跡』－鹿足地区中山間総合整備事業に伴なう発掘調査報告書－2003年３月
・六日市町教育委員会『沖場遺跡』－注連川地区県営圃場整備(担い手育成型)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－2003年３月
・島根県教育委員会『石見空港建設予定地内遺跡　埋蔵文化財発掘調査報告書』1992年３月
・益田市教育委員会『下都茂原遺跡』－益美２期地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書－2007年３月
・益田市教育委員会『酒屋原遺跡』－益美地区中山間地域総合整備事業に伴う発掘調査報告書－2005年3月
・島根県教育委員会　斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅥ『古志本郷遺跡Ⅴ』出雲国神門郡家関連遺跡の調査 2003年３月
・出雲市教育委員会 市道本郷新宮線道路改良工事に伴う『古志本郷遺跡第６次発掘調査報告書』1998年３月
・山本一郎『周防古王国の研究』－山本一郎還暦記念著作集－1995年12月
・邑智町教育委員会『沖丈遺跡』主要地方道川本波多線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 2001年３月
・石井龍彦「山口県西部の弥生時代後期後半～古墳時代初頭の土器について」『陶塤』第13号　山口県埋蔵文化財センター年報―平成11年度― 2000年９月
・乗安和二三「防長地域における弥生時代の土器棺墓について(1)」『陶塤』第13号　山口県埋蔵文化財センター年報―平成11年度― 2000年９月
・石井龍彦「山口県東部(周防)の弥生時代後期の土器について」『陶塤』第17号　山口県埋蔵文化財センター年報―平成15年度― 2004年９月
・若島一則「広島湾沿岸における弥生時代後期土器等に関する一考察」『研究連絡誌Ⅰ』平成13年度 財団法人広島市文化財団 2002年
・江津市教育委員会『高津遺跡』－都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅱ－2005年３月
・出雲市教育委員会『白枝荒神遺跡』－市道松寄下小山線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－1997年３月
・角南聡一郎「西日本の土器棺墓と埋葬遺体」『奈良大学大学院研究年報４』奈良大学大学院 1999
・角南聡一郎「土器棺の副葬品」―西日本の状況―『文化財学報』17集 奈良大学文学部文化財学科 1999
・島根県教育委員会『中国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1980年３月
・山口県教育委員会『よみがえる弥生のムラ ―突抜・馬場遺跡―』山口県埋蔵文化財発掘調査報告書 第87集 1985年
・周陽考古学研究所『山口県の弥生式土器 ―集成と編年―』周陽考古学研報２ 1979年
・山口県教育委員会『宮ヶ久保遺跡』山口県阿東町埋蔵文化財調査報告 第１集 1998年
・島根県教育委員会　一般国道９号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書2『浜寄・地方遺跡』－１Ａ・１Ｂ・１Ｃ・１Ｄ・１Ｆ・２Ａ・２Ｃ・２Ｆ・２Ｇ区の調査－ 2006年３月
・独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所『古代の官衙遺跡』Ⅰ遺構編 2003年３月



番号	名　称	種別	概　要	番号	名　称	種別	概　要
1	家下遺跡	集落跡		27	スクモ塚古墳	古墳	国史跡、前方後円墳、葺石、埴輪
2	中小路遺跡	集落跡		28	原浜遺跡	古墳	古墳１基、炭窯
3	羽場遺跡	集落跡		29	久城西Ⅰ遺跡	集落跡	竪穴住居跡、弥生土器、土師器
4	安富王子台遺跡	散布地	縄文土器、弥生土器、石器	30	久城西Ⅱ遺跡	集落跡	尖頭器
5	向横田遺跡	城跡	山城、郭、土塁、空堀、堀切	31	若葉台遺跡	集落跡	竪穴住居跡、陥穴
6	奥田古墳群	古墳	積石塚円墳	32	久城東遺跡	集落跡	竪穴住居跡
7	長原屋敷跡	館跡		33	堂ノ上遺跡	集落跡	竪穴住居跡
8	大畑遺跡	集落跡	陶磁器	34	鵜の鼻古墳群	古墳	県史跡、前方後円墳、円墳、横穴式石室、方墳（総計50基以上）、耳環、玉、大刀、鉄鏃、滑石製紡錘車他
9	長者原遺跡	散布地	弥生土器				
10	豊田城跡	城跡	山城、郭				
11	上野横穴	横穴	須恵器、刀剣	35	大元古墳群	古墳	県史跡、前方後円墳１基、円墳３基
12	本郷寺城跡	城跡	山城、郭、堀切、竪堀	36	北長迫横穴群	横穴	32穴、須恵器、鉄器、玉類
13	石塔寺権現経塚	神社跡		37	南長迫横穴群	横穴	16穴、金銅製飾金具、須恵器
14	安富城跡	城跡	山城、郭、堀切	38	日赤敷地遺跡	散布地	弥生土器
15	大嶽城跡	城跡	山城、郭、竪堀、横堀	39	中世今市船着場跡	その他	市史跡
16	白上古墳	古墳	円墳、横穴式石室	40	小丸山古墳	古墳	市史跡、前方後円墳、馬鐸、鈴杏葉、須恵器他
17	角井城跡	城跡	山城、郭、土塁、堀切	41	四塚山古墳	古墳	三角縁神獣鏡
18	大溢遺跡	集落跡	須恵器、掘立柱建物跡	42	七尾城跡	城跡	国史跡、益田氏城館跡
19	浜寄遺跡	散布地	土師器、須恵器、陶磁器	43	三宅御土居跡	館跡	国史跡、益田氏城館跡
20	廿子Ⅰ遺跡	集落跡	集落跡、横穴墓	44	片山横穴群	横穴	10穴以上確認
21	廿子Ⅱ遺跡	集落跡		45	秋葉山古墳	古墳	２基
22	サガリ遺跡	散布地	須恵器	46	大谷城跡	城跡	山城、郭、堀切
23	松ヶ丘遺跡	散布地	弥生土器	47	大谷土居跡	館跡	
24	中須西原遺跡	集落跡		48	大峠遺跡	散布地	掘立柱建物跡、須恵器、陶磁器
25	中須東原遺跡	集落跡		49	上久々茂土居跡	館跡	掘立柱建物跡、須恵器、土師器、陶磁器
26	沖手遺跡	集落跡		50	根ノ木田遺跡	散布地	須恵器、陶磁器、灰釉陶器

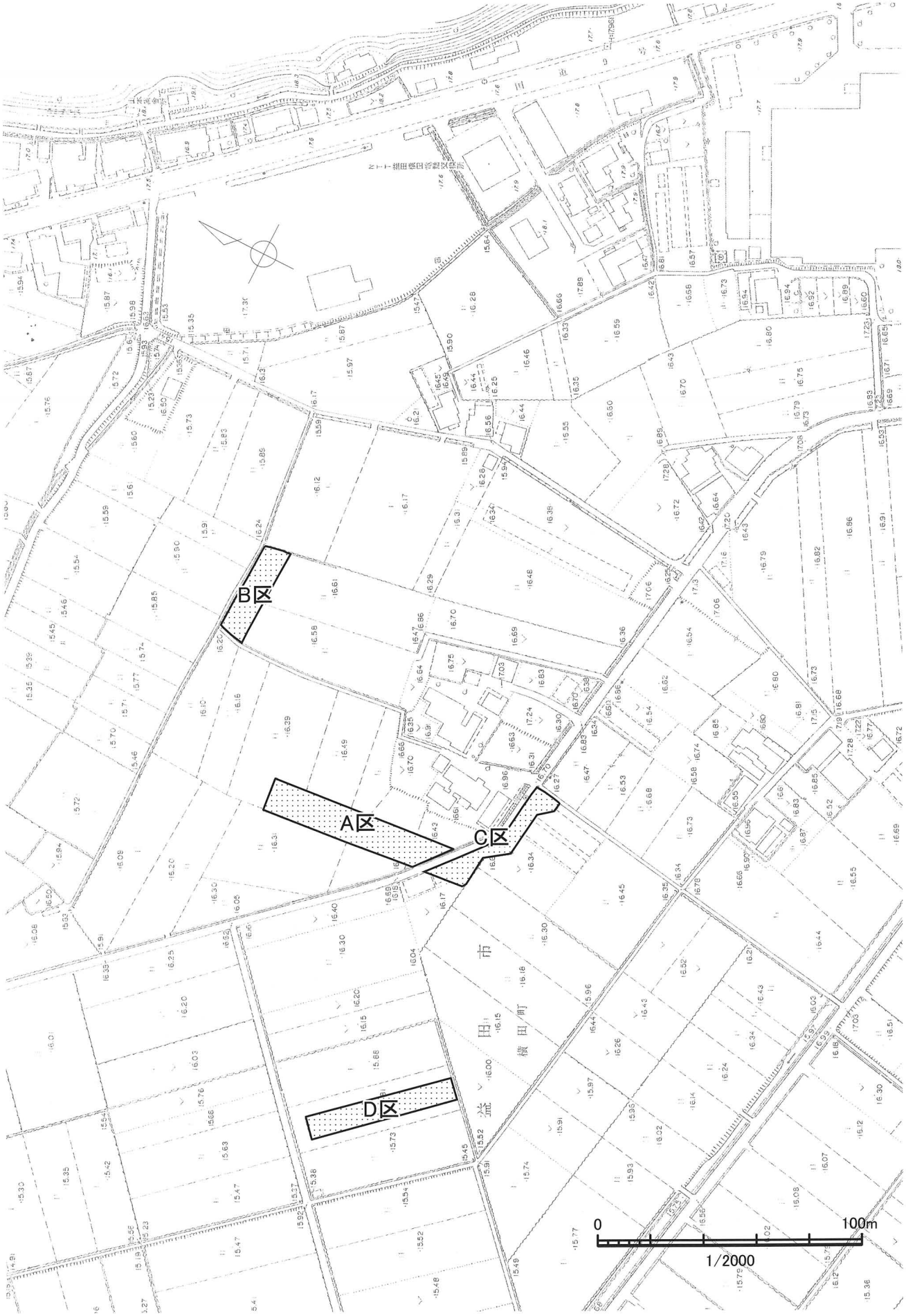
第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図



※遺跡番号は第1図と同じ。

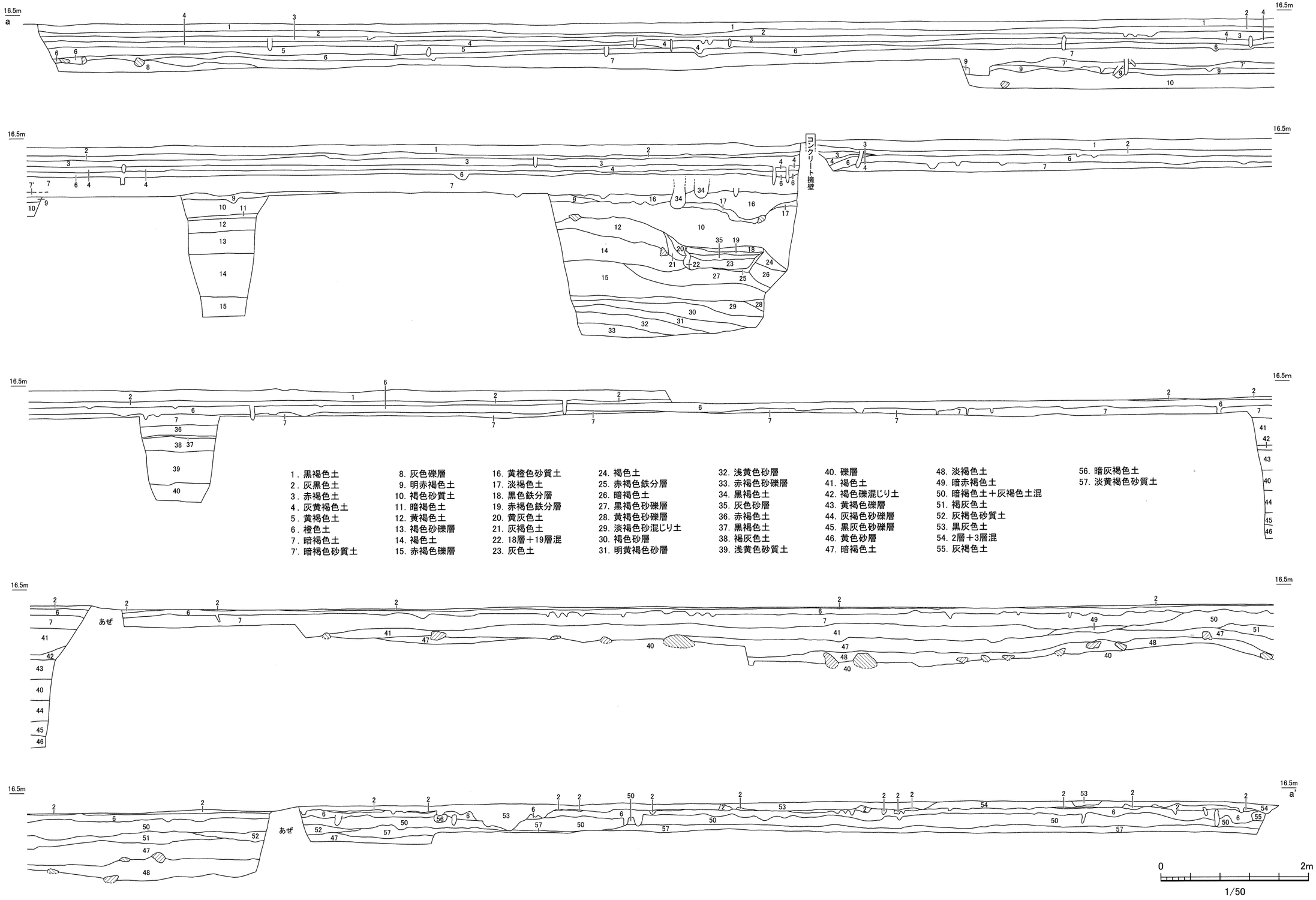
0 100 500m

第2図　平野内における遺跡の位置と周辺の遺跡



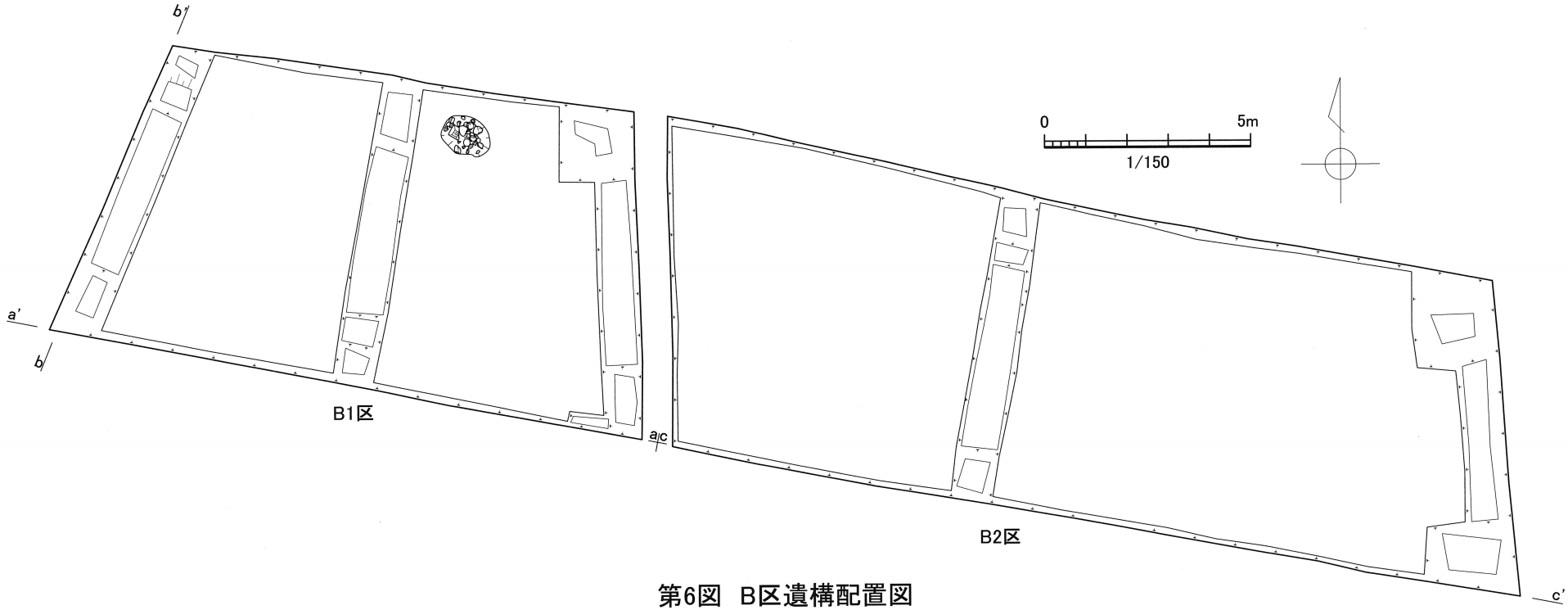
第3図　家下遺跡調査区配置図

第4図　A区遺構配置図

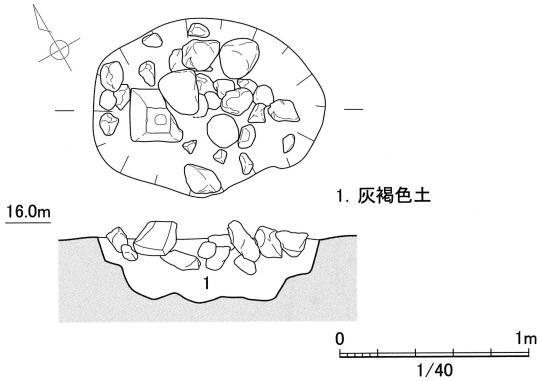


1．黒褐色土
2．灰黒色土
3．赤褐色土
4．灰黄褐色土
5．黄褐色土
6．橙色土
7．暗褐色土
7'．暗褐色砂質土
8．灰色礫層
9．明赤褐色土
10．褐色砂質土
11．暗褐色土
12．黄褐色土
13．褐色砂礫層
14．褐色土
15．赤褐色礫層
16．黄橙色砂質土
17．淡褐色土
18．黒色鉄分層
19．赤褐色鉄分層
20．黄灰色土
21．灰褐色土
22．18層＋19層混
23．灰色土
24．褐色土
25．赤褐色鉄分層
26．暗褐色土
27．黒褐色砂礫層
28．黄褐色砂礫層
29．淡褐色砂混じり土
30．褐色砂層
31．明黄褐色砂層
32．浅黄色砂層
33．赤褐色砂礫層
34．黒褐色土
35．灰色砂層
36．赤褐色土
37．黒褐色土
38．褐灰色土
39．浅黄色砂質土
40．礫層
41．褐色土
42．褐色礫混じり土
43．黄褐色礫層
44．灰褐色砂礫層
45．黒灰色砂礫層
46．黄色砂層
47．暗褐色土
48．淡褐色土
49．暗赤褐色土
50．暗褐色土＋灰褐色土混
51．褐灰色土
52．灰褐色砂質土
53．黒灰色土
54．2層＋3層混
55．灰褐色土
56．暗灰褐色土
57．淡黄褐色砂質土

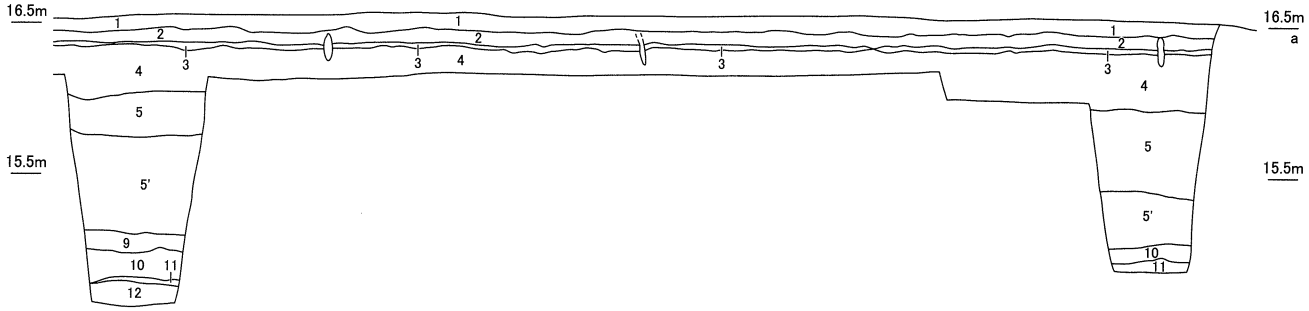
第5図　A区土層断面図

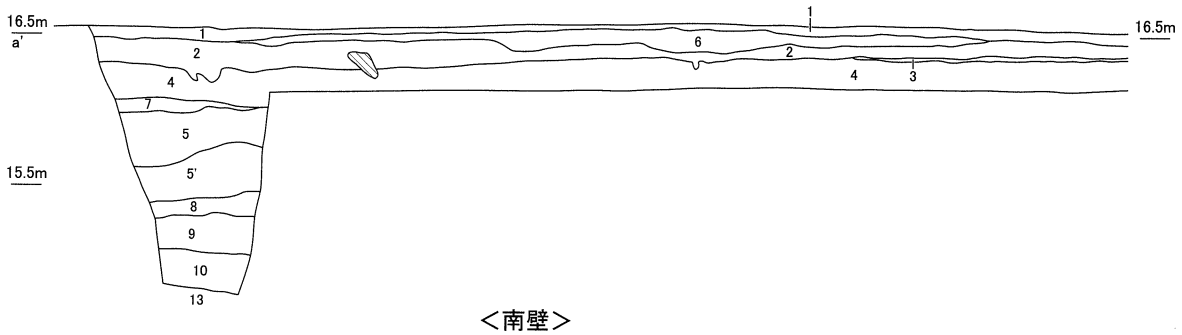


第6図　B区遺構配置図

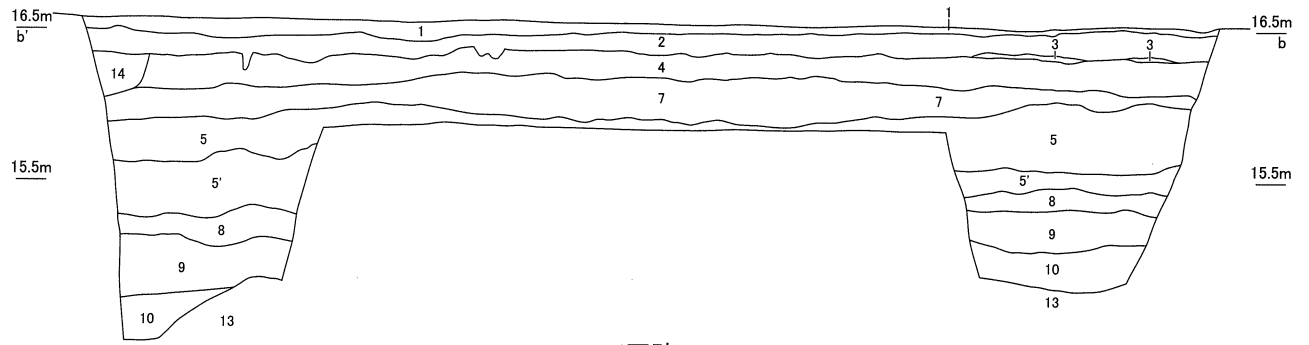


第7図　土坑平面図及び断面図



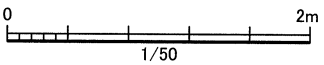


<南壁>

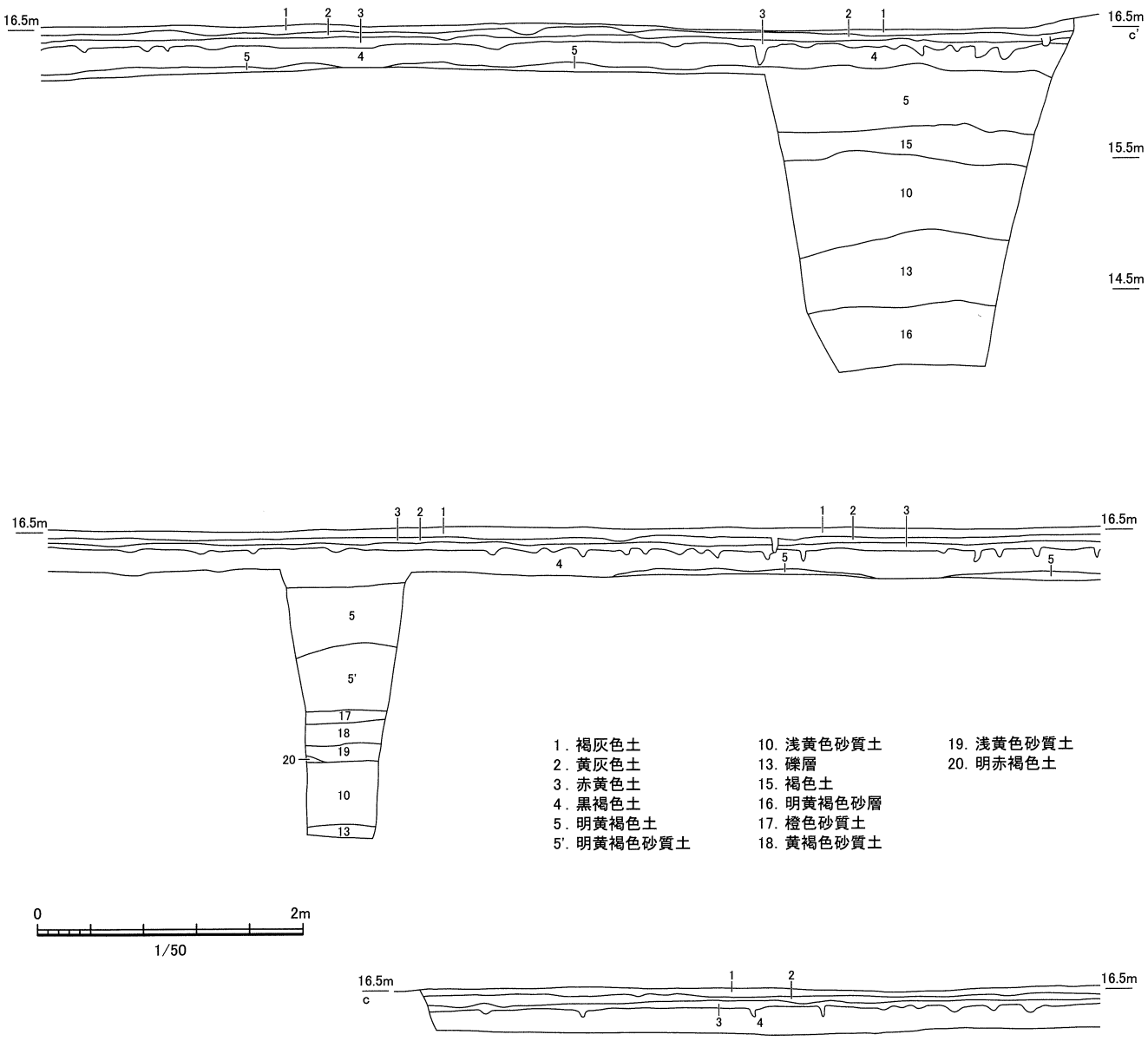


<西壁>

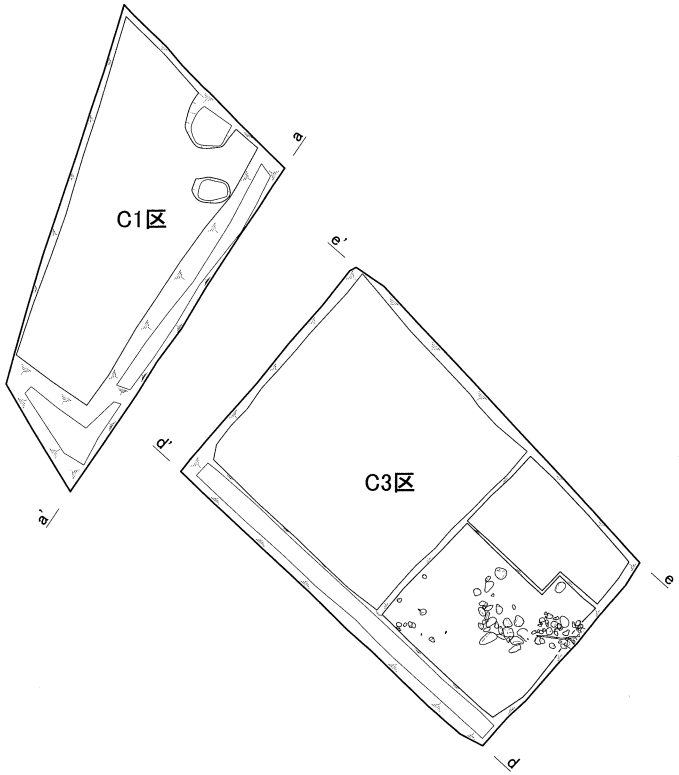
1．褐灰色土　5．明黄褐色土　8．明黄褐色砂混じり土　12．明黄褐色砂層
2．黄灰色土　5'．明黄褐色砂質土　9．黄橙色土　13．礫層
3．赤黄色土　6．灰色土　10．浅黄色砂質土　14．灰黄褐色土
4．黒褐色土　7．褐灰色土　11．橙色砂質土



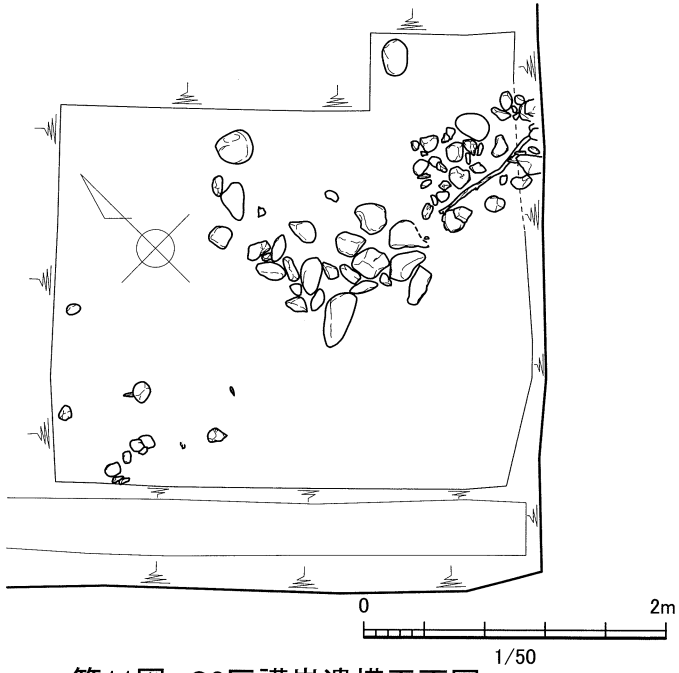
第8図　B1区土層断面図



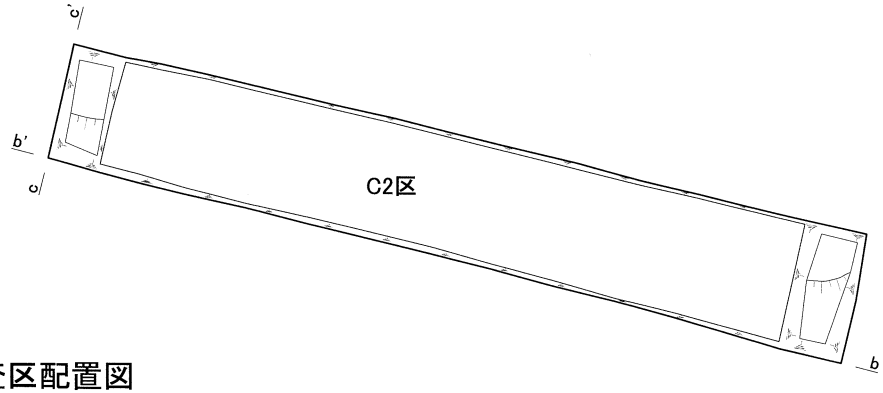
第9図　B2区土層断面図

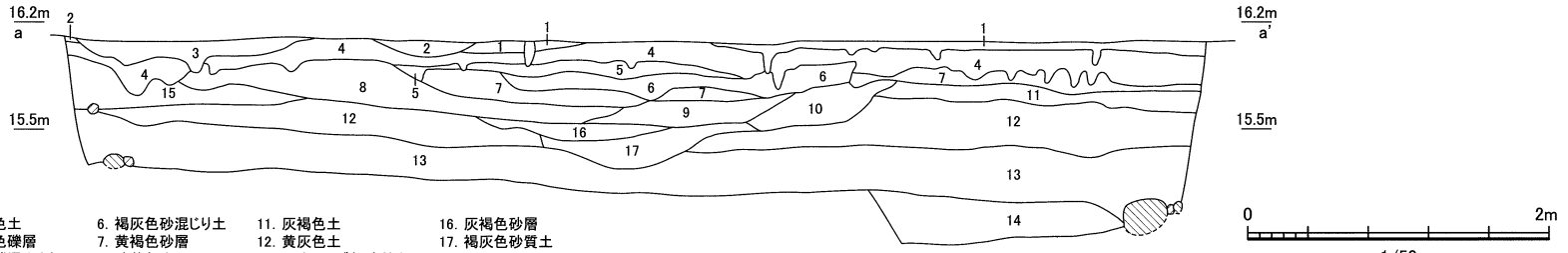


第10図　C区調査区配置図



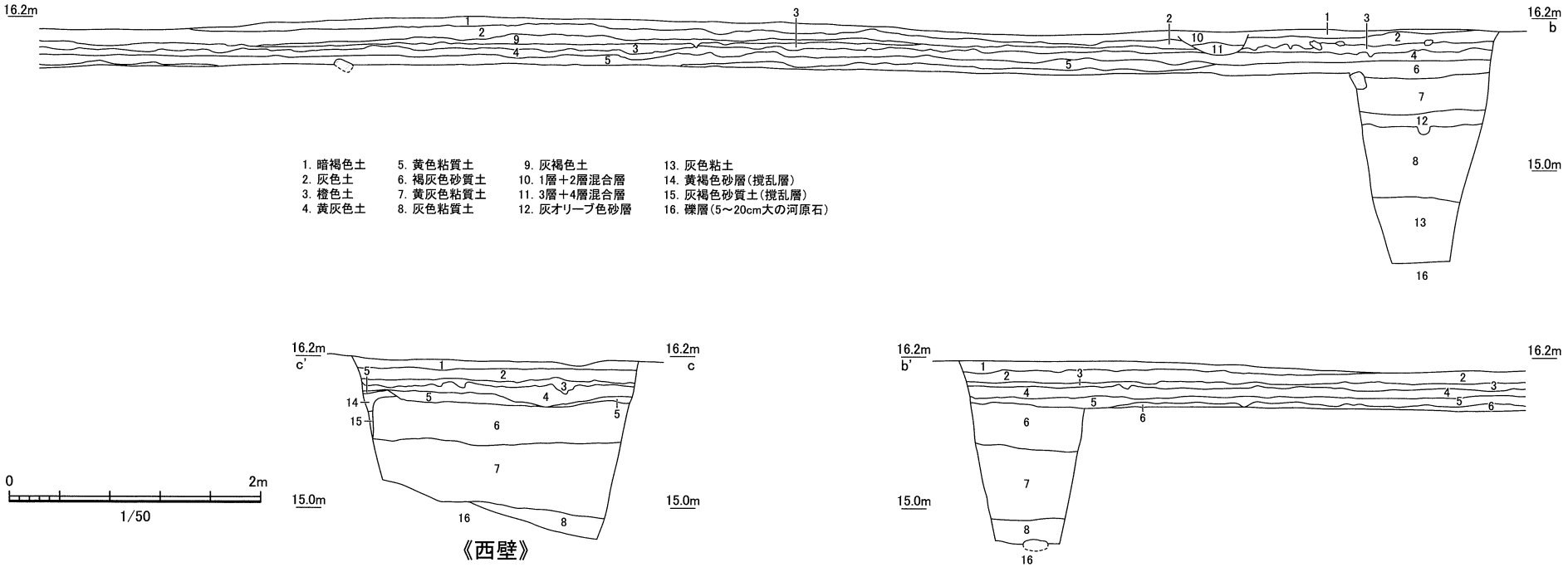
第11図　C3区護岸遺構平面図





1. 黄灰色土
2. 褐灰色礫層
3. 褐色礫混じり土
4. 黄橙色土
5. 黄灰色砂質土
6. 褐灰色砂混じり土
7. 黄褐色砂層
8. 暗茶色土
9. 灰褐色砂質土
10. 橙褐色土
11. 灰褐色土
12. 黄灰色土
13. 灰オリーブ色砂質土
14. 赤褐色礫層
15. 褐色土
16. 灰褐色砂層
17. 褐灰色砂質土

第12図　C1区土層断面図

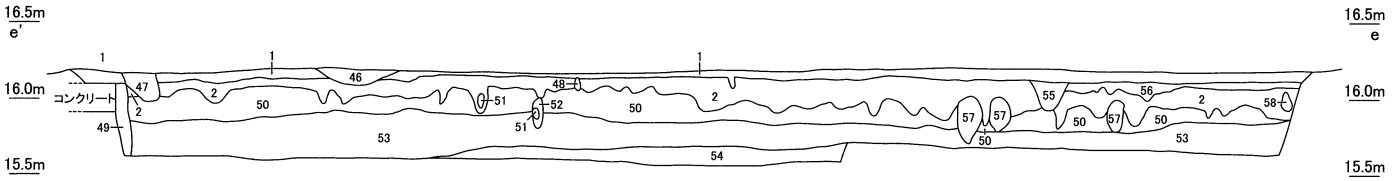


1. 暗褐色土
2. 灰色土
3. 橙色土
4. 黄灰色土
5. 黄色粘質土
6. 褐灰色砂質土
7. 黄灰色粘質土
8. 灰色粘質土
9. 灰褐色土
10. 1層＋2層混合層
11. 3層＋4層混合層
12. 灰オリーブ色砂層
13. 灰色粘土
14. 黄褐色砂層（撹乱層）
15. 灰褐色砂質土（撹乱層）
16. 礫層（5～20cm大の河原石）

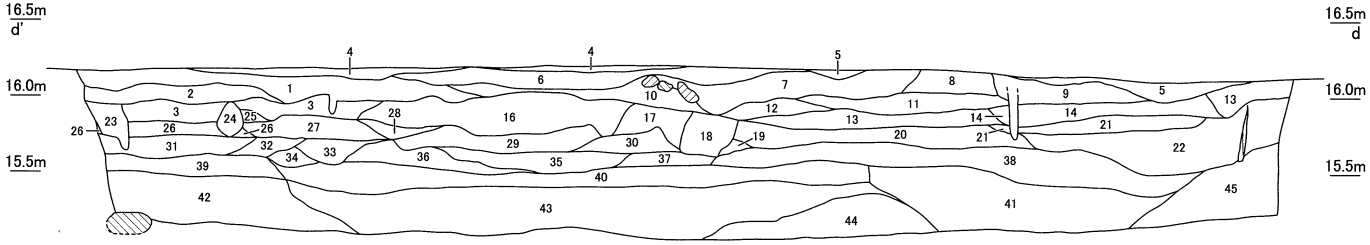
《西壁》

《南壁》

第13図　C2区土層断面図



＜北壁＞

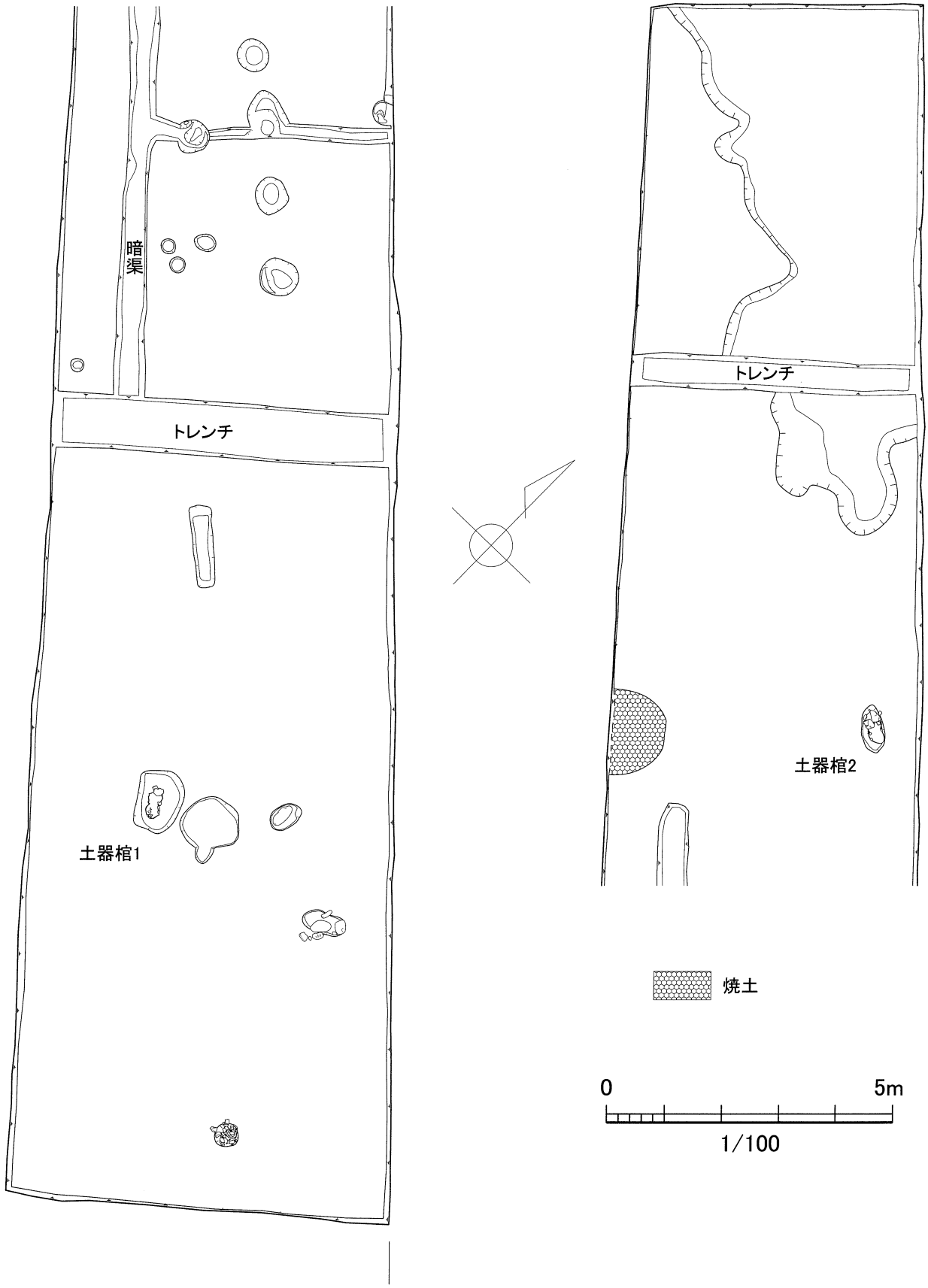


＜南壁＞

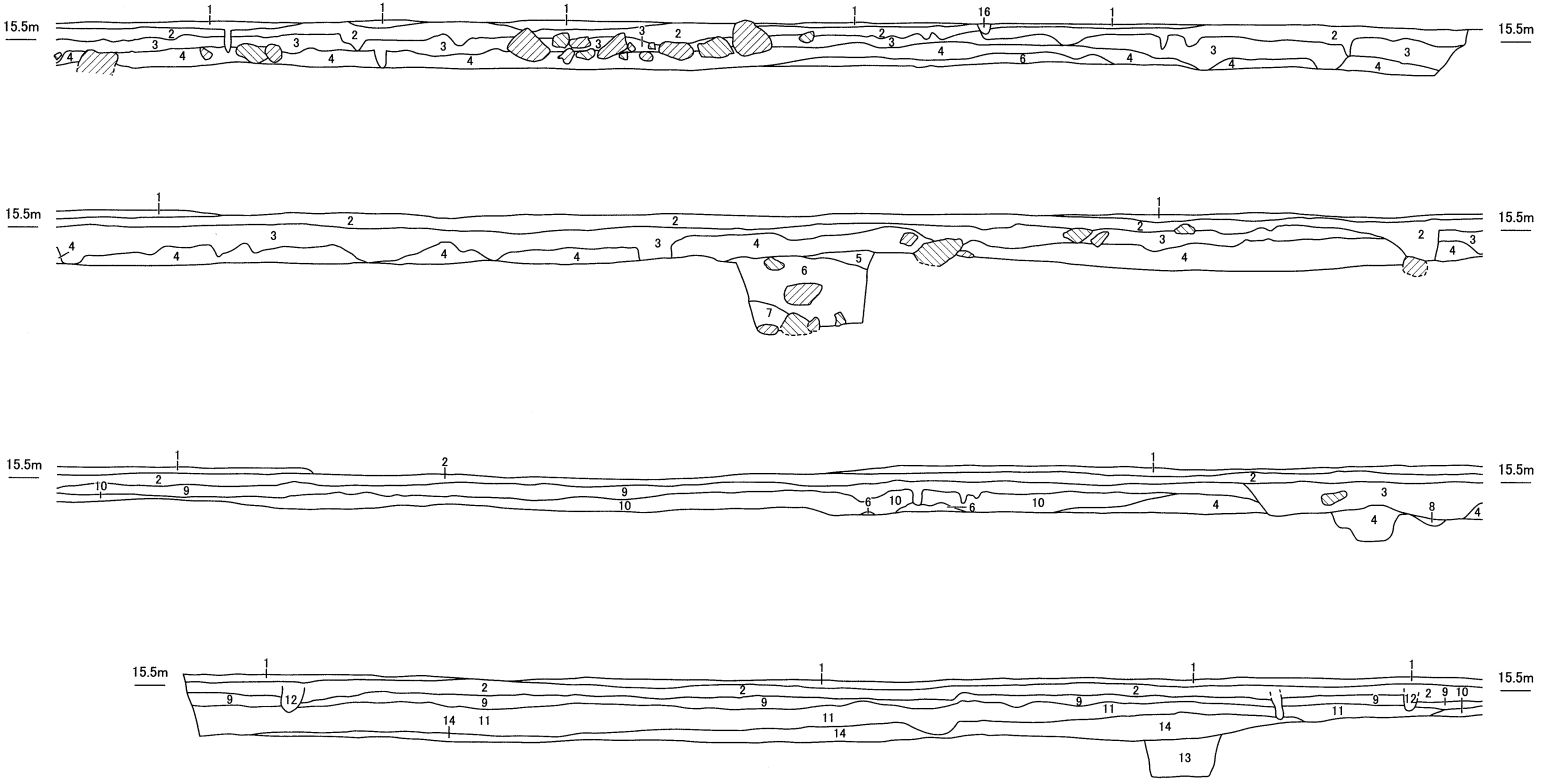
1. 黄褐色土
2. 橙色土
3. 赤褐色土(砂混)
4. 黄褐色土
5. 黄色砕石層
6. 灰褐色土
7. 赤褐色土(2～20cm大礫混)
8. 暗黄褐色土(4～20cm大礫混)
9. 暗黒褐色土
10. 暗灰褐色土
11. 灰色土
12. 灰褐色土
13. 暗黒灰色土(4～10cm大礫混)
14. 黒褐色土
15. 灰黄褐色土
16. 黒褐色土
17. 灰黄褐色土
18. 黄灰褐色土
19. 黒灰色粘質土
20. 暗灰褐色土
21. 褐灰色土
22. 灰色粘質土
23. 2層＋3層混合層
24. 暗褐色土
25. 灰褐色土(砂混)
26. 褐灰色土
27. 黄色砂層
28. 淡黄灰色土
29. 黄灰褐色土
30. 褐灰色土
31. 淡黄褐色土
32. 赤褐色土＋灰色粘質土混合層
33. 黄褐色土
34. オリーブ色土(砂混)
35. 褐灰色砂質土
36. 灰黄色土
37. 灰オリーブ色土
38. 黄灰色土
39. 淡褐色土
40. 灰白色土
41. 灰黄色土
42. 褐灰色砂質土
43. オリーブ灰色土
44. 青灰色粘質土
45. 灰色土
46. 暗灰褐色土
47. 灰色砂質土
48. 褐灰色土(杭跡)
49. 黒褐色土(撹乱層)
50. 灰褐色砂質土
51. 灰色土(杭跡)
52. 浅黄色砂質土
53. 灰褐色土
54. 褐灰色土
55. 2層＋56層混合層
56. 灰黄褐色土
57. 黄褐色土
58. 褐灰色土

0　2m
1/50

第14図　C3区土層断面図



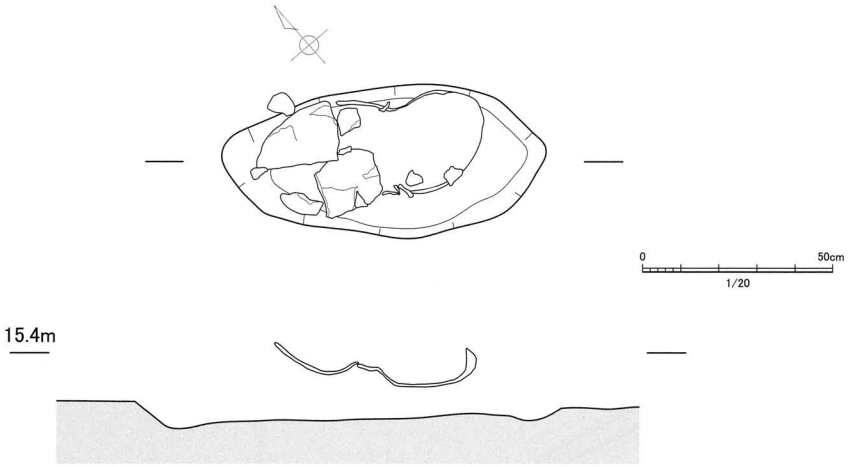
第15図　D区遺構配置図



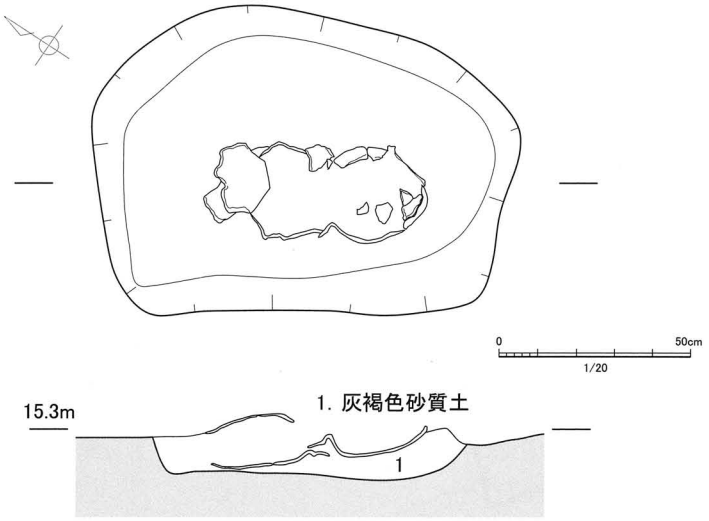
1. 灰色土
2. 赤黄色土
3. 黒茶色土
4. 暗茶色土
5. 茶色砂質土
6. 黄褐色砂層
7. 黄褐色礫層
8. 灰白色土
9. 黄灰色土
10. 褐灰色土
11. 灰褐色砂質土
12. 2層＋9層混合層
13. 灰オリーブ色砂質土
14. 淡褐色土

0 2m
1/50

第16図　D区土層断面図

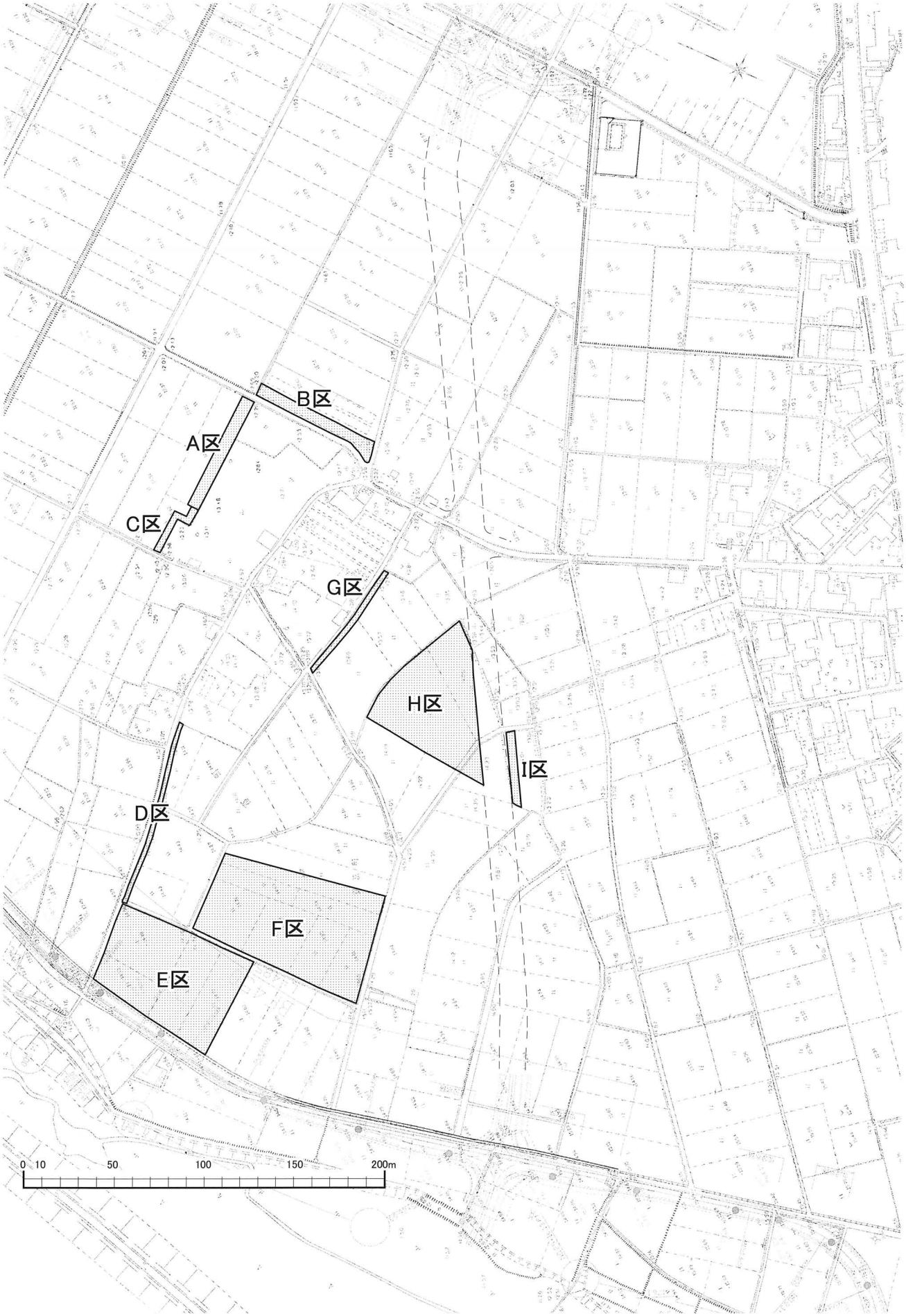


＜1号墓＞

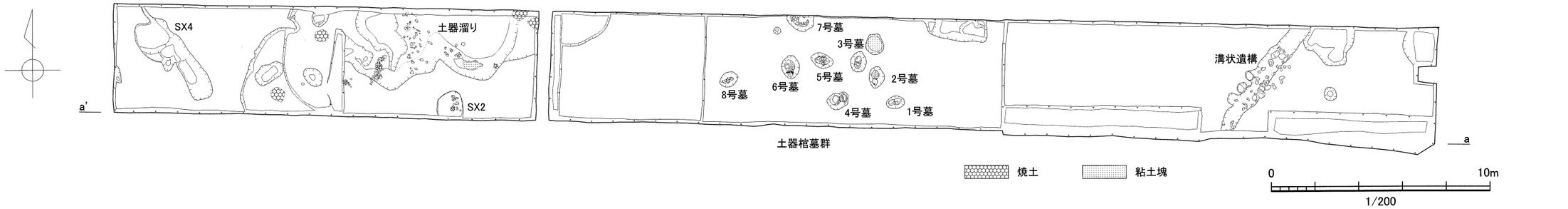


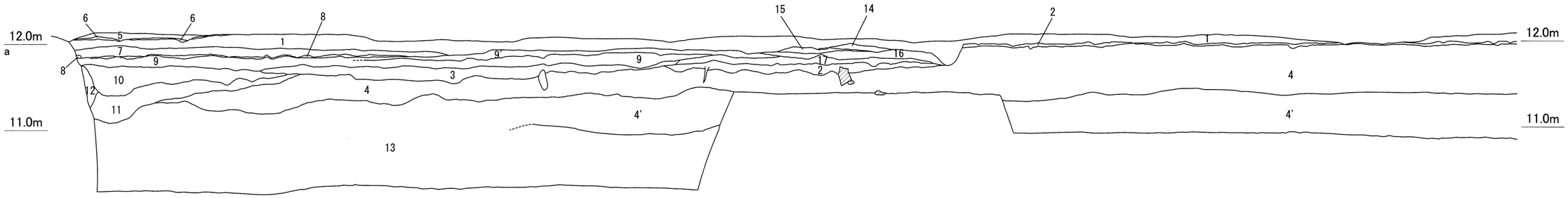
＜2号墓＞

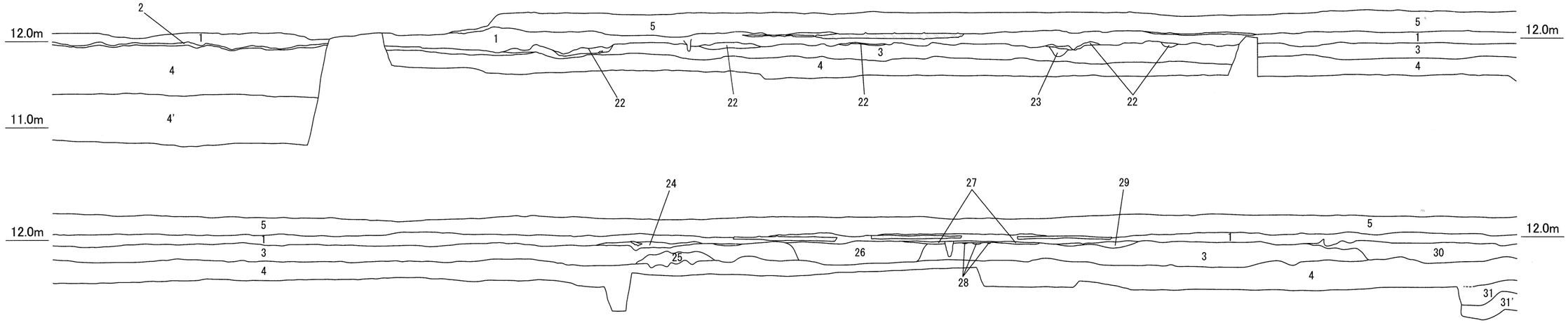
第17図　土器棺墓平面図及び断面図

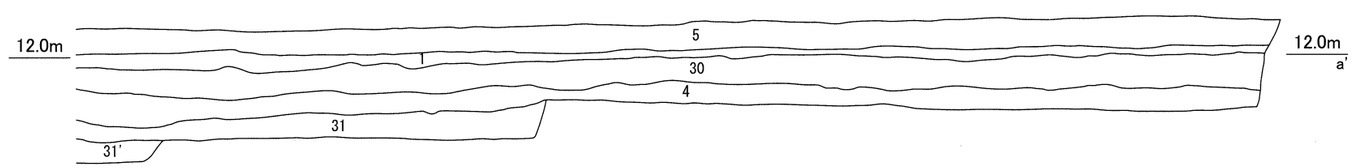


第18図　中小路遺跡調査区配置図





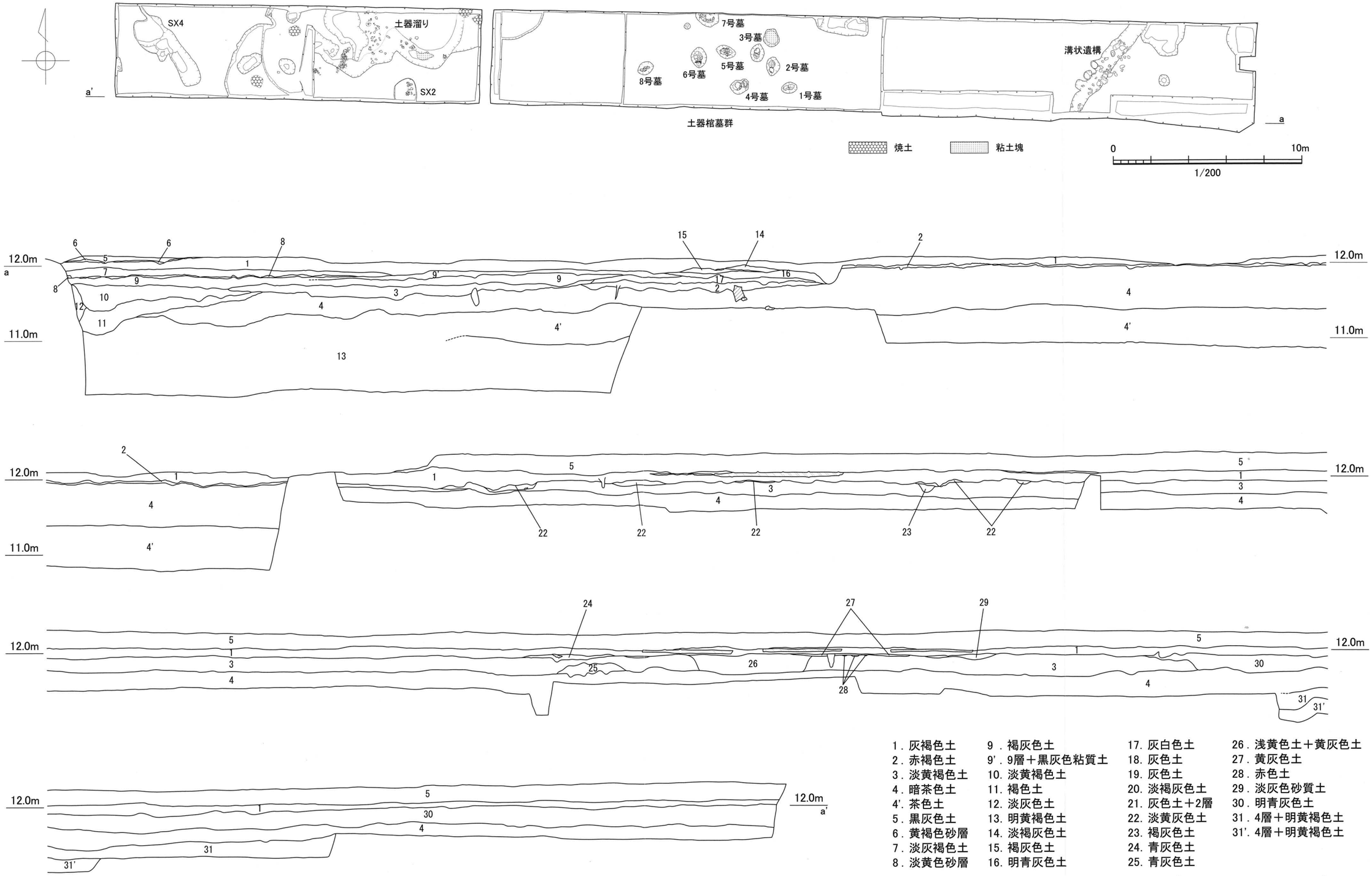




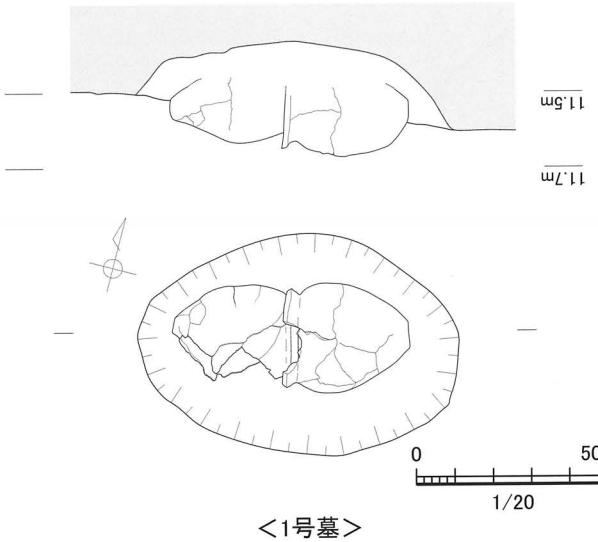
1．灰褐色土
2．赤褐色土
3．淡黄褐色土
4．暗茶色土
4'．茶色土
5．黒灰色土
6．黄褐色砂層
7．淡灰褐色土
8．淡黄色砂層
9．褐灰色土
9'．9層＋黒灰色粘質土
10．淡黄褐色土
11．褐色土
12．淡灰色土
13．明黄褐色土
14．淡褐灰色土
15．褐灰色土
16．明青灰色土
17．灰白色土
18．灰色土
19．灰色土
20．淡褐灰色土
21．灰色土＋2層
22．淡黄灰色土
23．褐灰色土
24．青灰色土
25．青灰色土
26．浅黄色土＋黄灰色土
27．黄灰色土
28．赤色土
29．淡灰色砂質土
30．明青灰色土
31．4層＋明黄褐色土
31'．4層＋明黄褐色土

0
2m
1/50

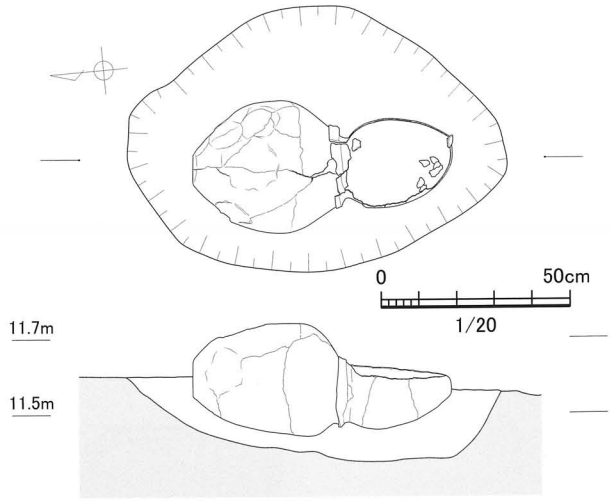
第19図　A区遺構配置図及び土層断面図



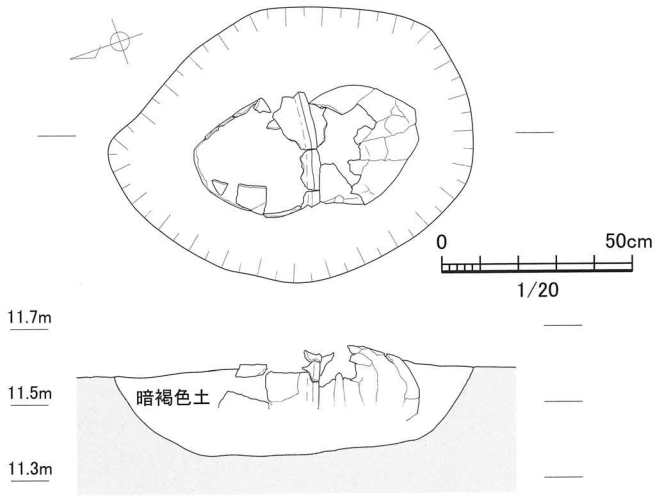
第19図　A区遺構配置図及び土層断面図



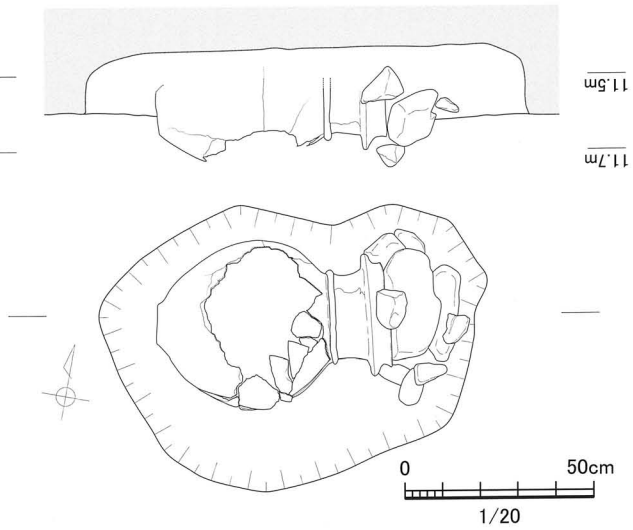
<1号墓>



<2号墓>

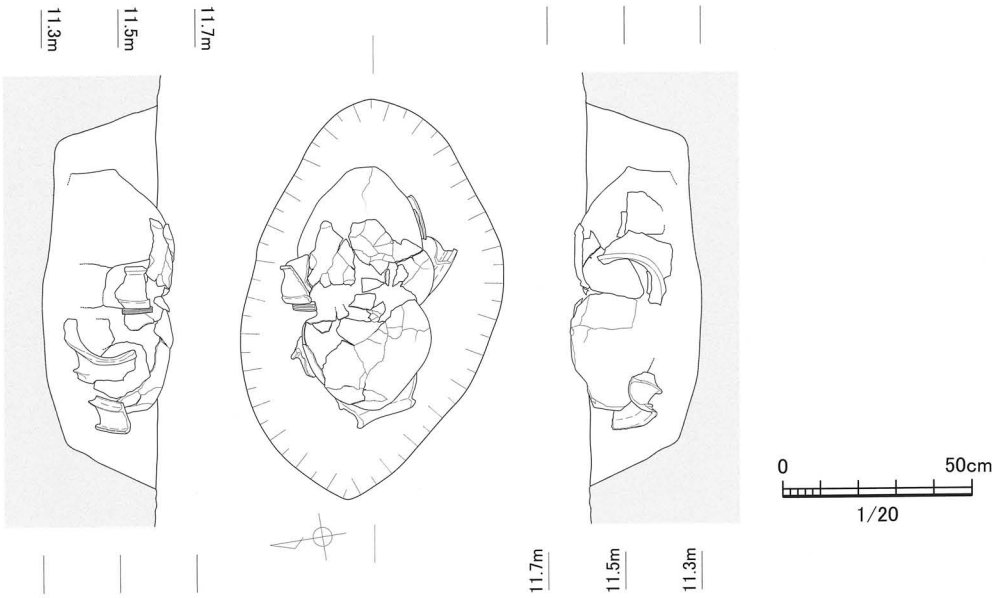


<3号墓>

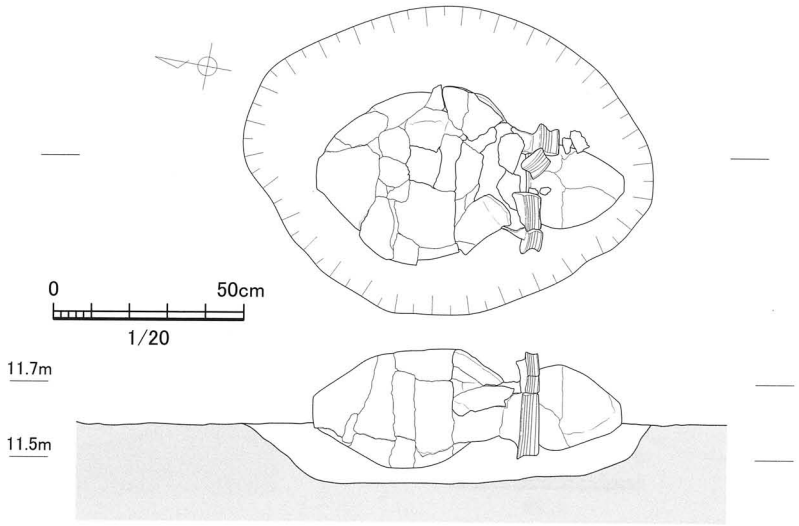


<4号墓>

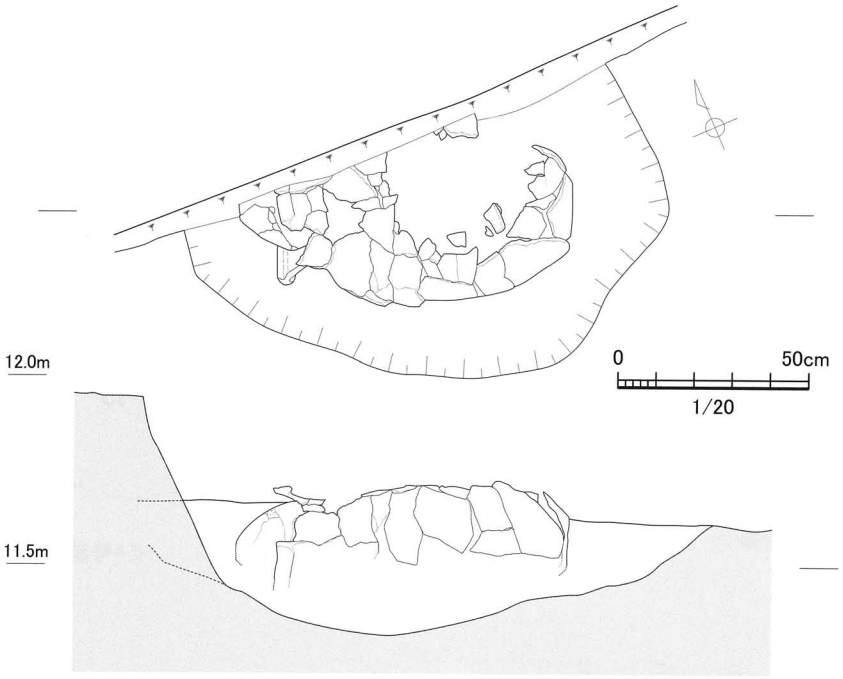
<5号墓>



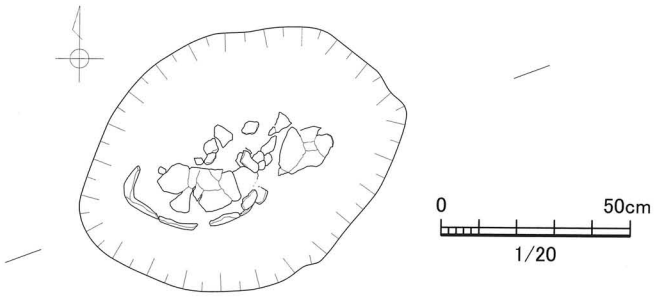
第20図　A区土器棺墓平面図及び側面図①(1～5号墓)



＜6号墓＞

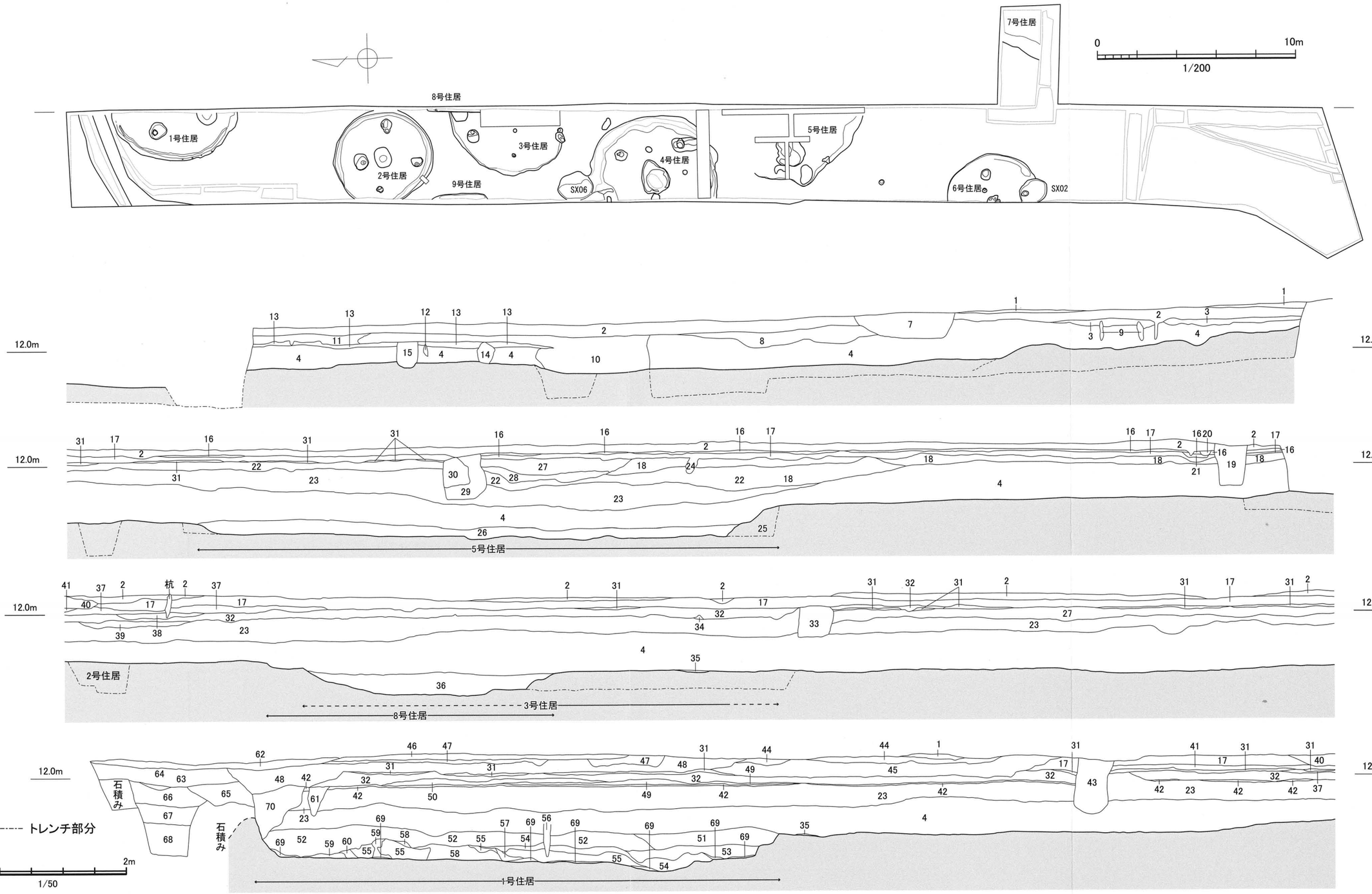


＜7号墓＞



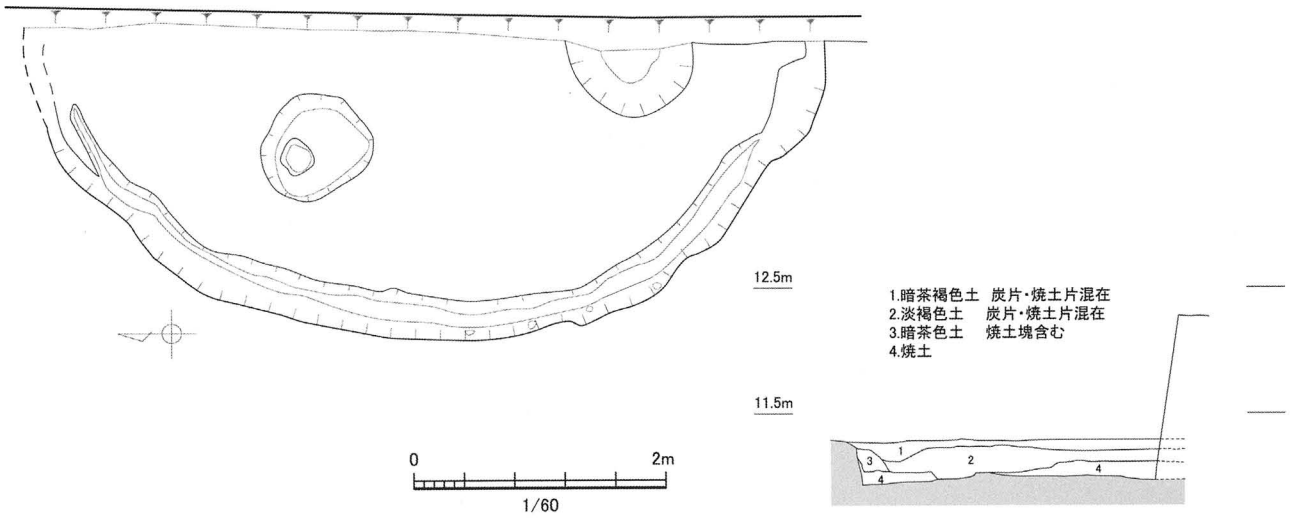
＜8号墓＞

第21図　A区土器棺墓平面図及び側面図②（6～8号墓）

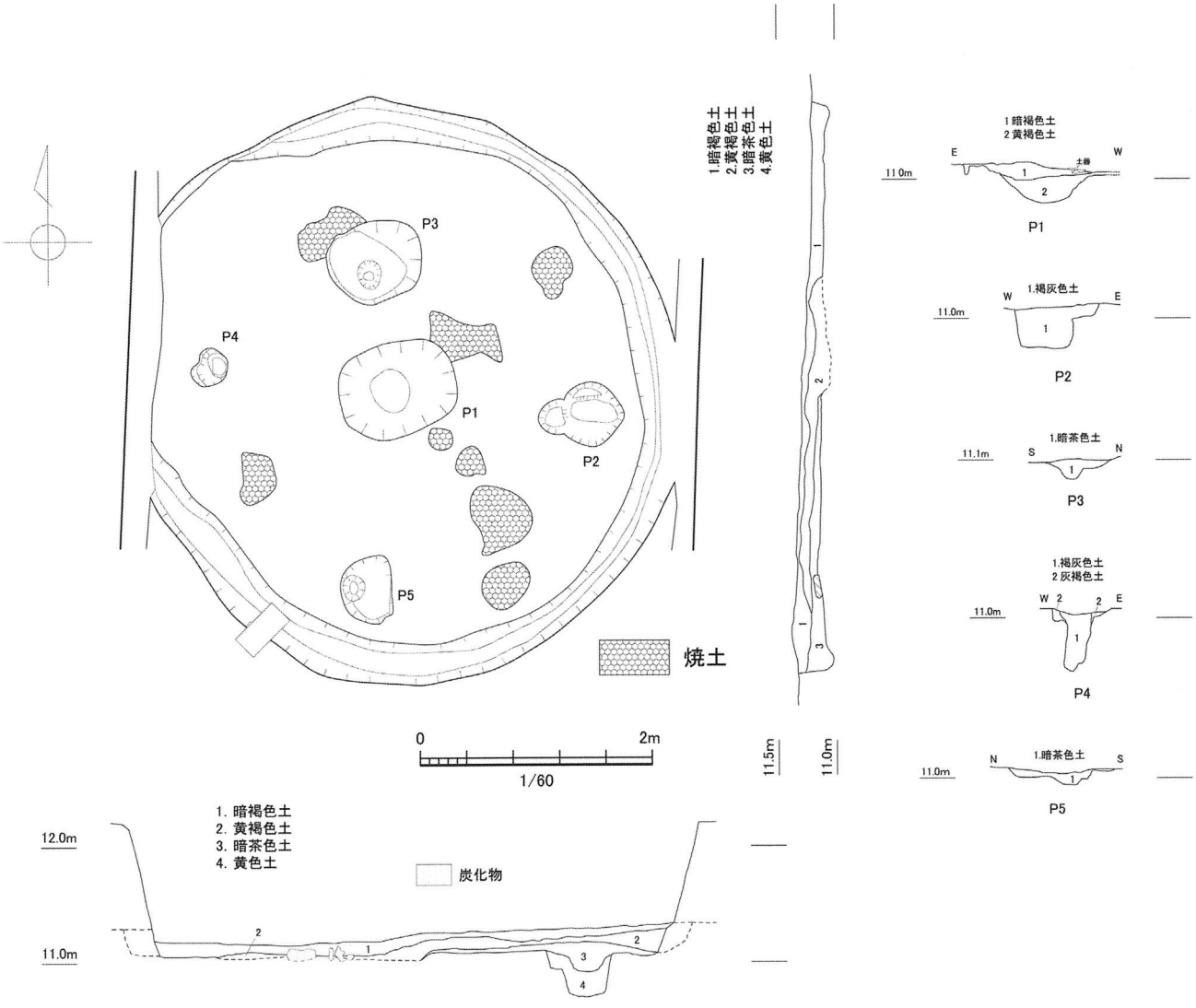


1. 暗黒色土
2. 褐灰色土
3. 黄灰色砂質土
4. 暗茶色土
5. 橙褐色土(地山)
6. 淡黄色土(地山)
7. 黒灰色土(撹乱層)
8. 黒灰色土(撹乱層)
9. 褐灰色土
10. 暗褐灰色土
11. 淡褐灰色土
12. 褐灰色土
13. 灰黄褐色土
14. 暗茶色土＋13層
15. 茶色土
16. 赤黄色土
17. 淡褐灰色土
18. 茶色土
19. 暗黒灰色土(暗渠埋設土)
20. 淡灰黄色土
21. 黄茶色土
22. 暗褐色土
23. 淡茶色土
24. 淡灰色土
25. 明茶色土(地山)
26. にぶい黄褐色土
27. 灰褐色土
28. 極暗褐色土
29. 淡褐色土
30. 暗渠埋設土
31. 赤黄色土
32. 灰黄色土
33. 茶色土
34. 黄色土＋32層
35. 焼土
36. にぶい黄橙色土
37. 淡灰色砂質土
38. 淡黄色砂質土
39. 黒灰色土
41. 灰褐色砂質土
42. 黄色土
43. 暗渠埋設土
44. 暗黒灰色土
45. 黒灰色土
46. 淡灰色土
47. 淡黄灰色土
48. 淡褐灰色土
49. 淡黄色土
50. 灰白色土
51. 茶色土
52. 黄茶色土
53. にぶい黄色土
54. 暗赤褐色土
55. 焼土
56. 淡黄褐色砂質土
57. 暗赤褐色土
58. 極暗赤褐色土
59. 黄褐色土＋55層
60. 黄灰色土
61. 淡灰色土
62. 黒灰色土＋橙色土
63. 淡灰色土＋淡黄灰色土
64. 淡褐灰色土
65. 暗黒灰色土
66. 暗黒灰色土
67. 黄褐色砂礫
68. 青灰色粘質土
69. 炭化物層
70. 撹乱層

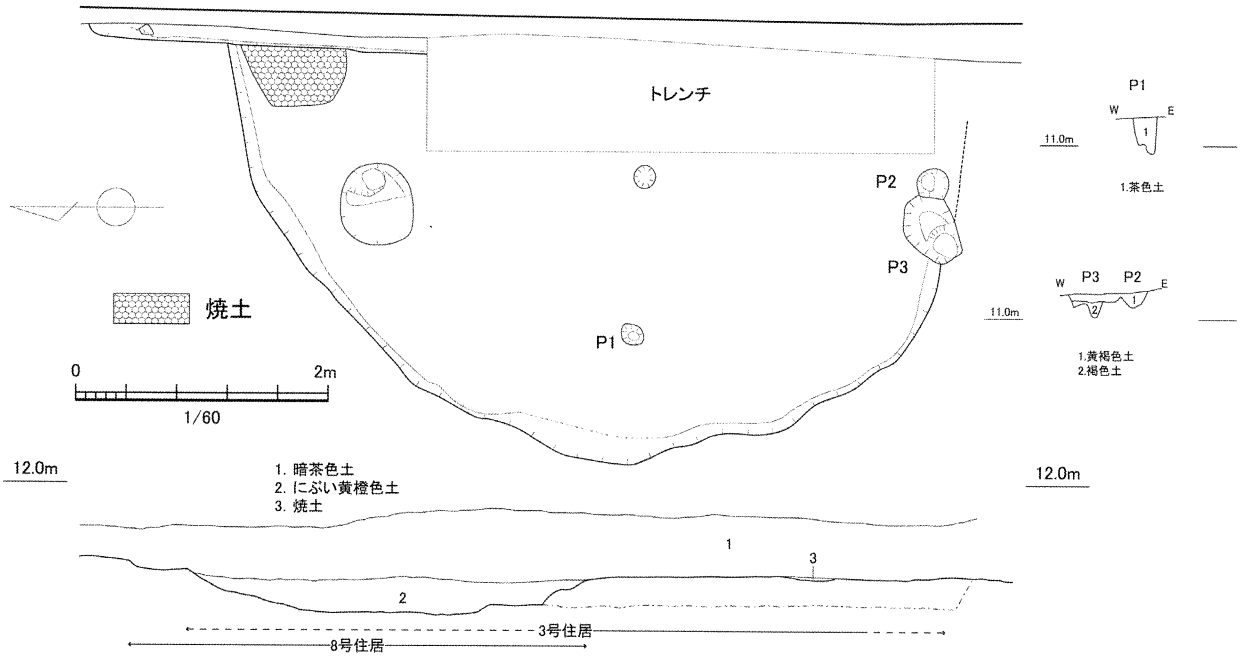
第22図　B区遺構配置図及び土層断面図



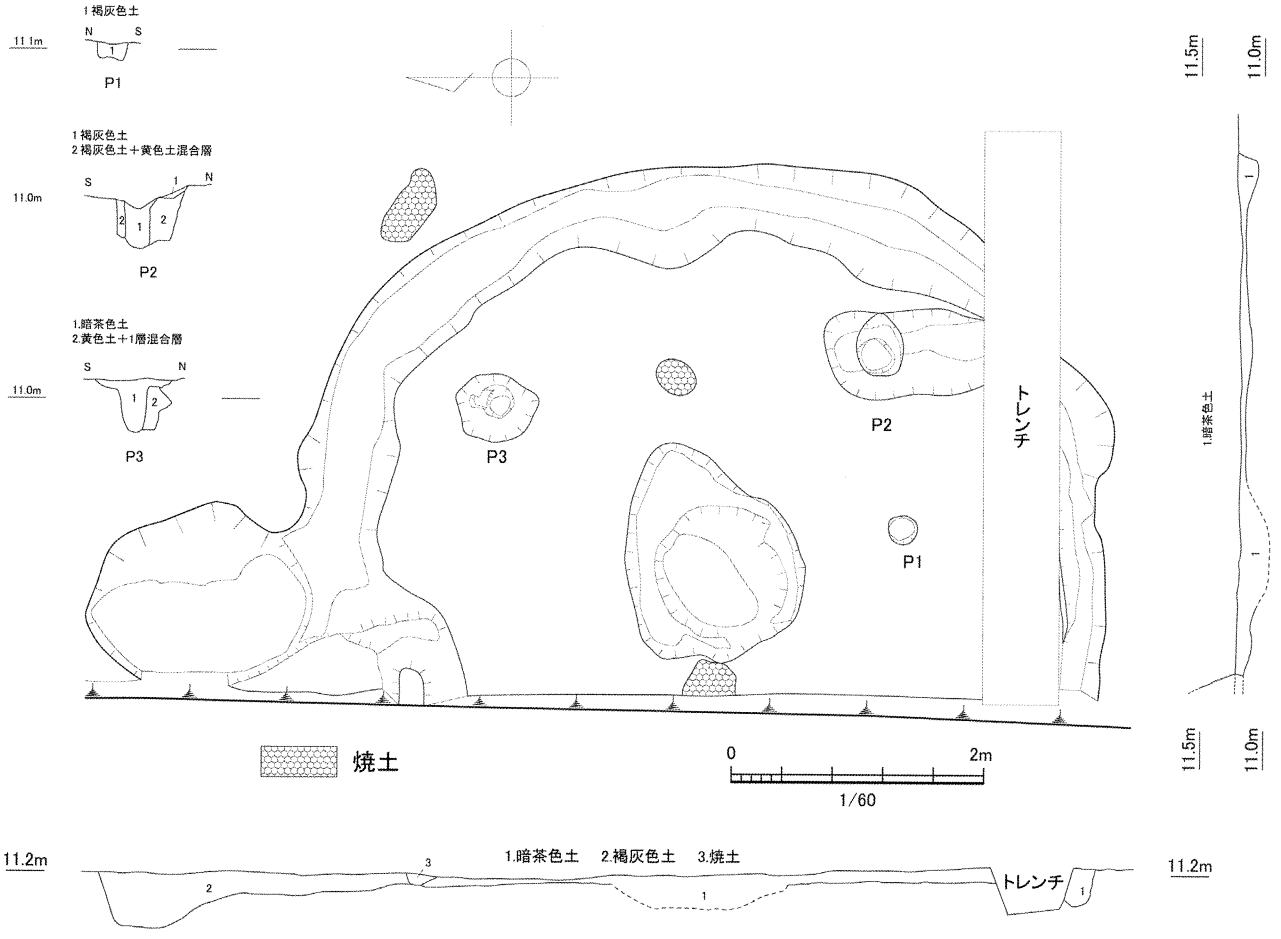
第23図　1号住居平面図及び断面図



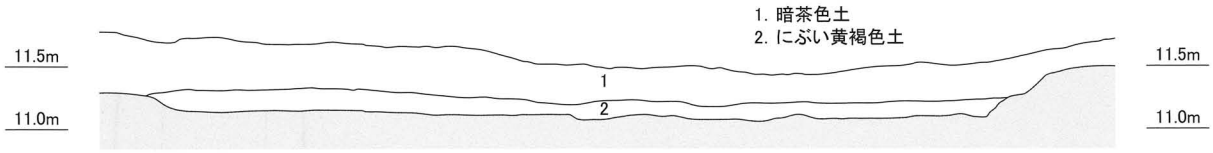
第24図　2号住居平面図及び断面図

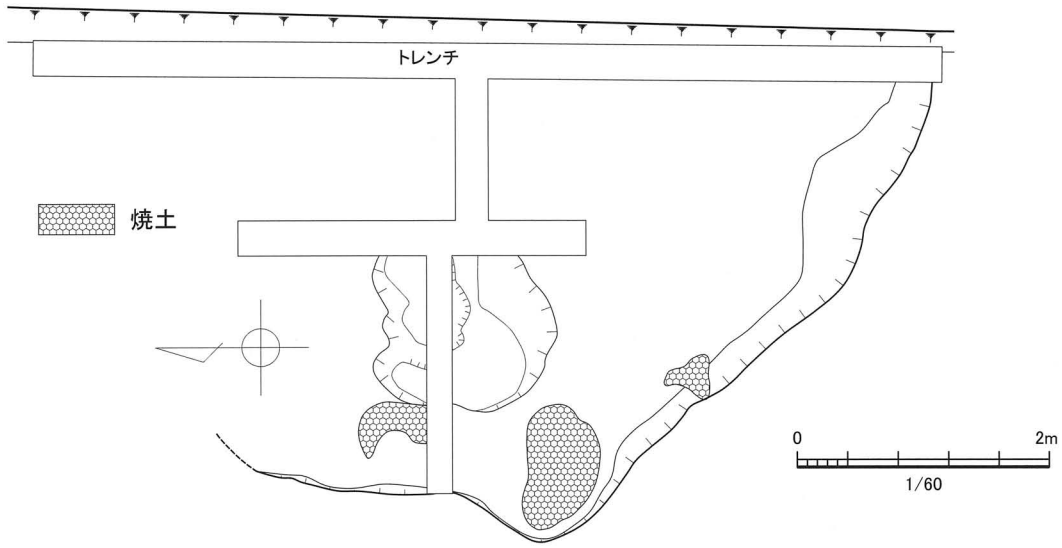


第25図　3号及び8号住居平面図及び断面図

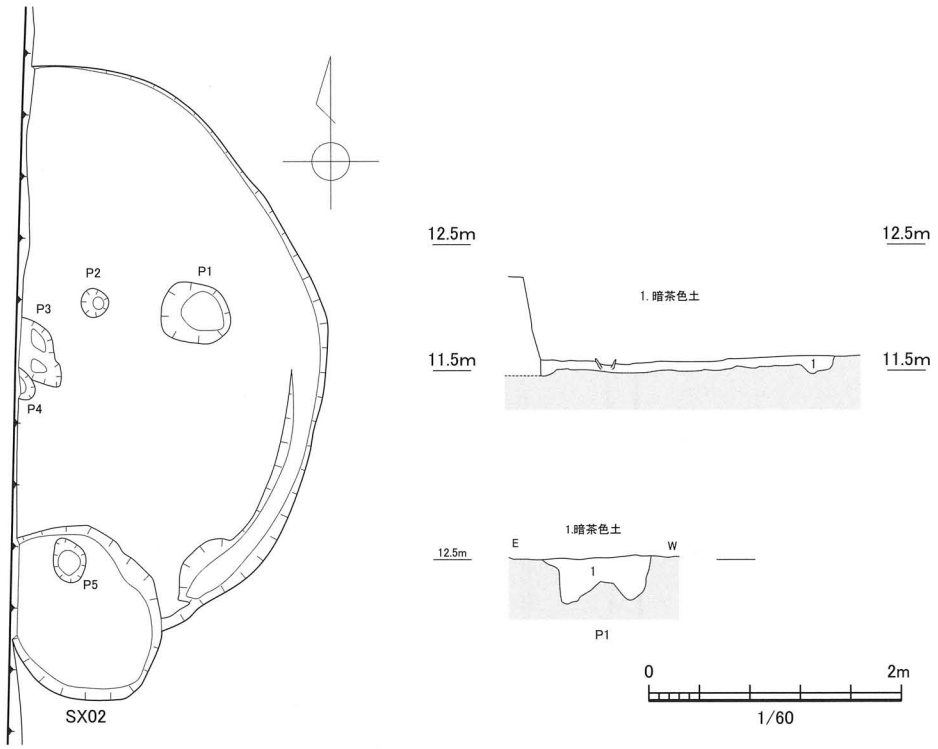


第26図　4号住居平面図及び断面図



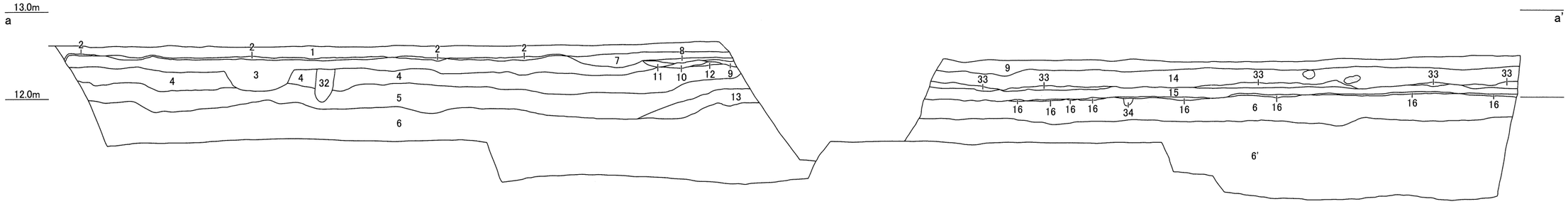


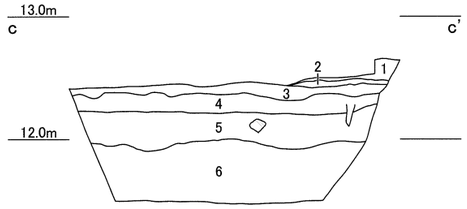
第27図　5号住居平面図及び断面図

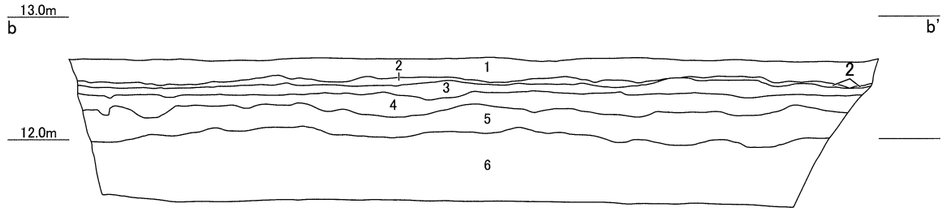


第28図　6号住居平面図及び断面図

第29図　C区遺構配置図

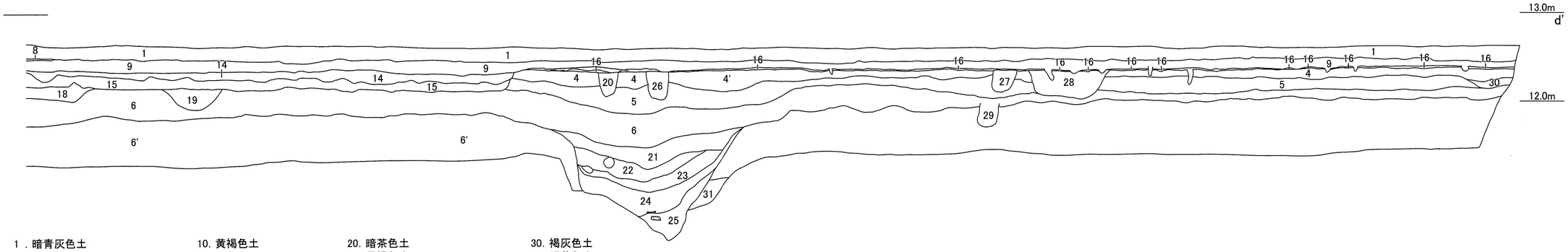




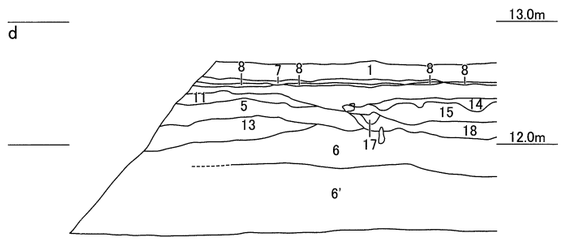


0 2m

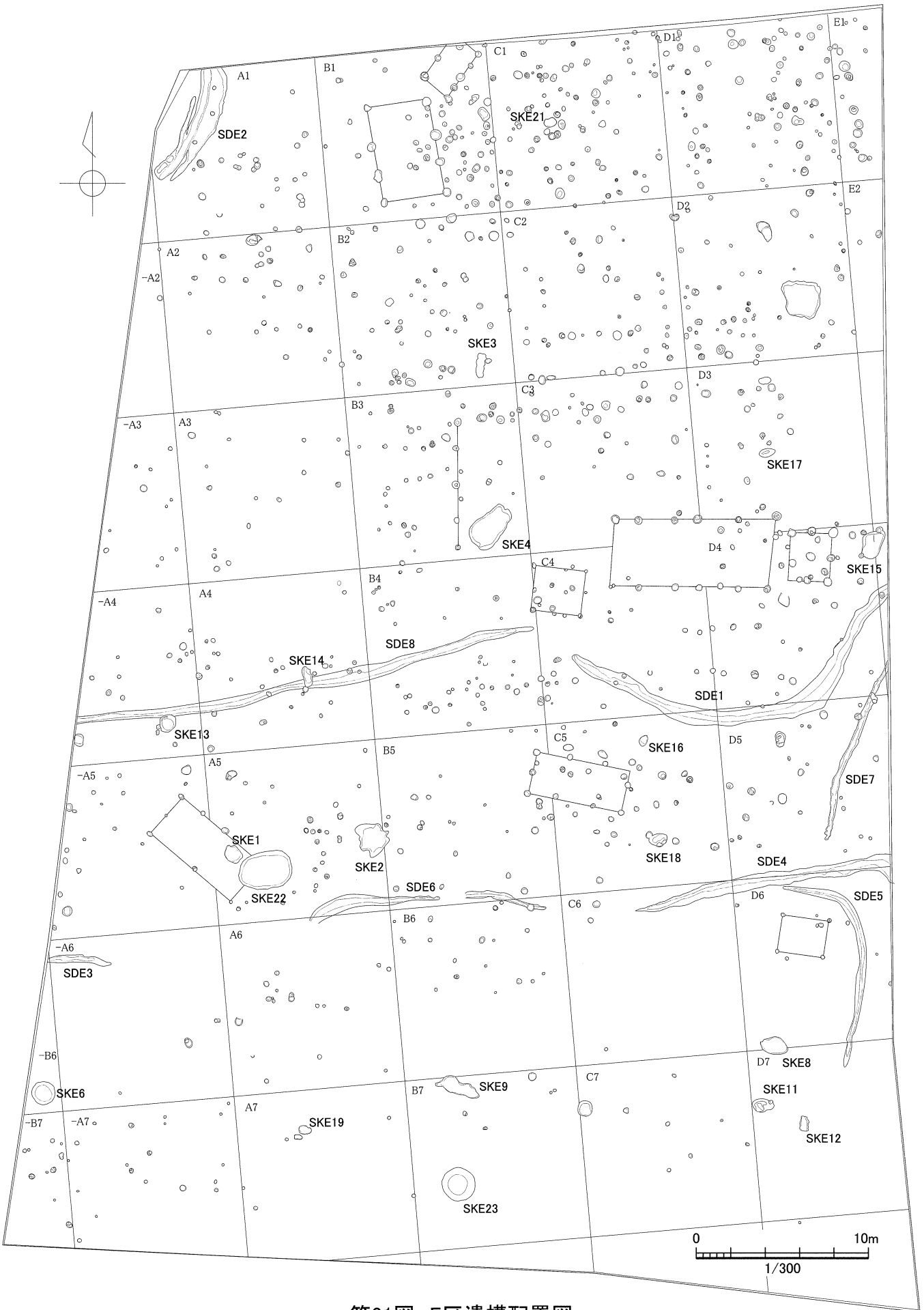
1/50



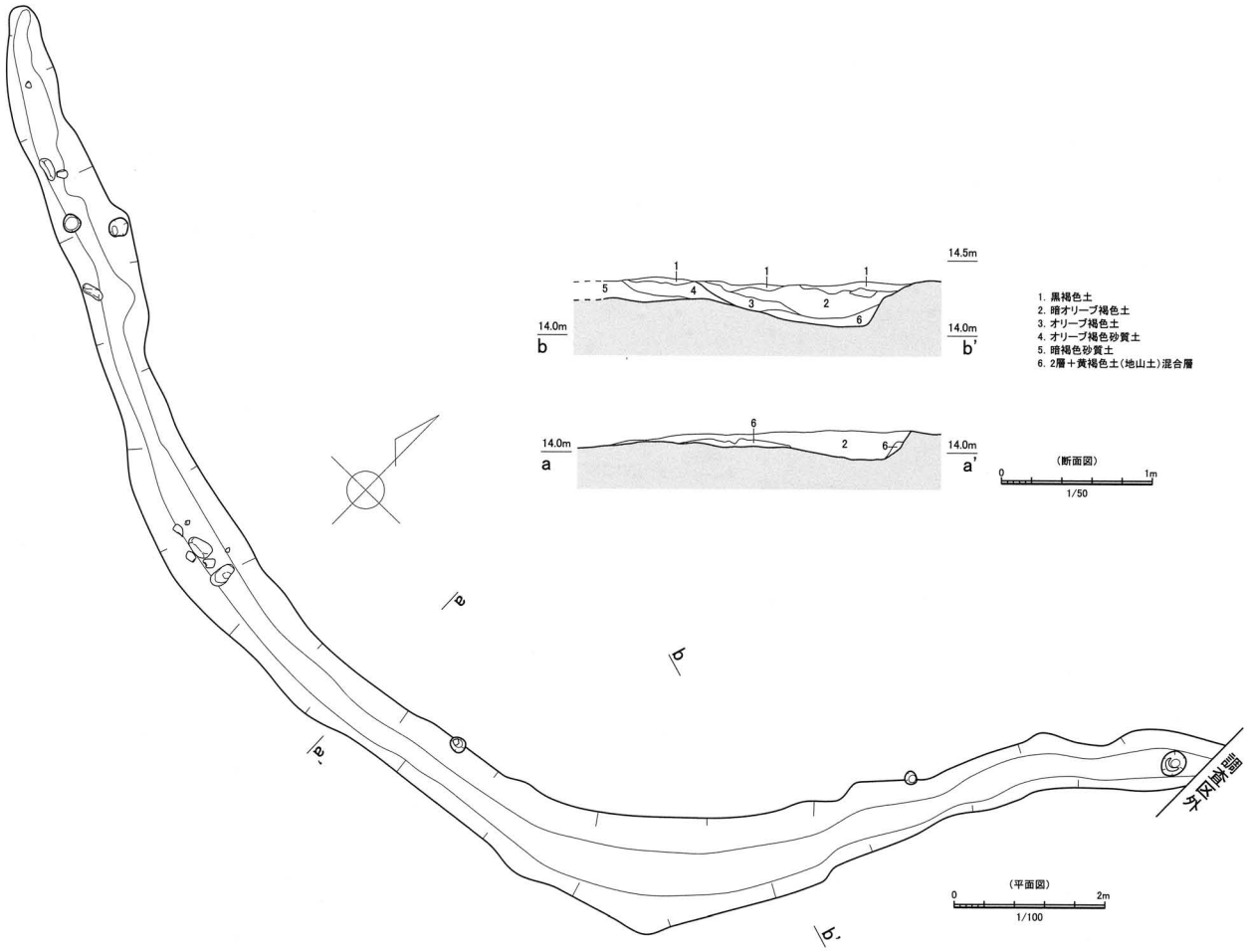
1．暗青灰色土
2．灰褐色土
3．褐灰色土
4．暗茶色土
5．褐色土＋浅黄色土混合層
6．暗褐色土
6'．黄褐色土
7．暗灰色土
8．赤褐色土
9．褐灰色土
10. 黄褐色土
11. 黒色土
12. 明黄色砂層
13. 淡褐色土
14. 褐色土＋赤黄色土
15. 灰色砂質土
16. 赤黄色土
17. 黒茶色土
18. 黒茶色土
19. 暗茶色土
20. 暗茶色土
21. 黒褐色土
22. 明黄褐色土
23. 黒褐色土
24. 灰オリーブ色土
25. 灰オリーブ色土
26. 青灰色＋黄橙色土混合層
27. 黒褐色土
28. 暗茶色土
29. 暗褐色土
30. 褐灰色土
31. 明黄色土
32. 暗茶色土
33. 暗灰色土
34. 暗茶色土



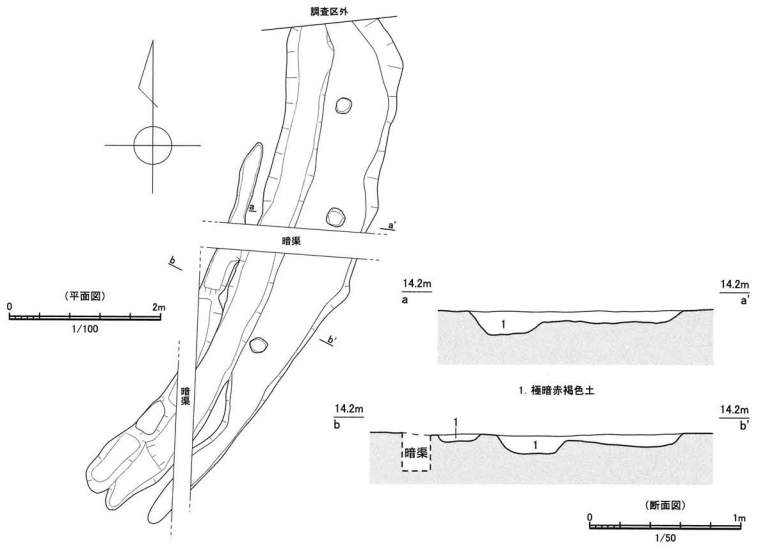
第30図　C区土層断面図



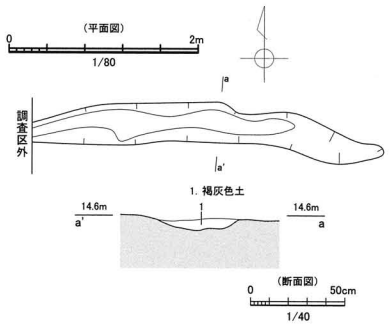
第31図　E区遺構配置図



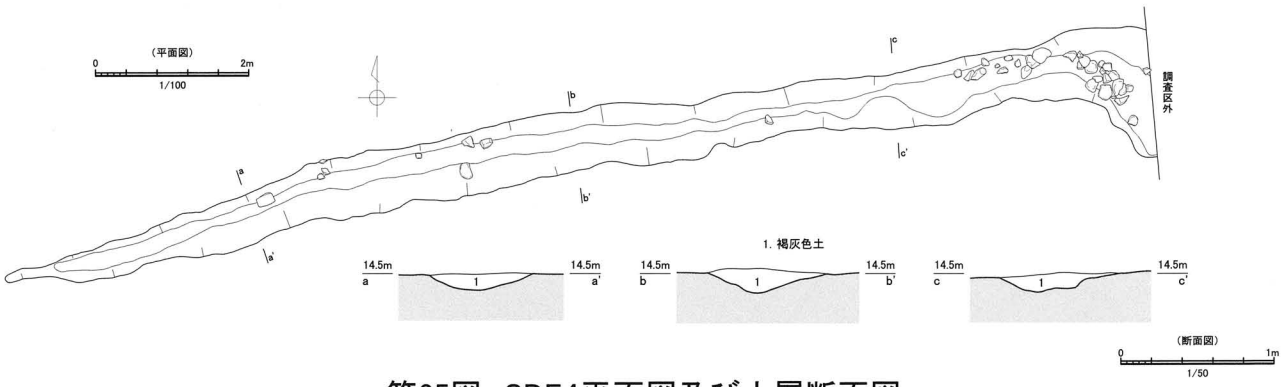
第32図　SDE1平面図及び土層断面図



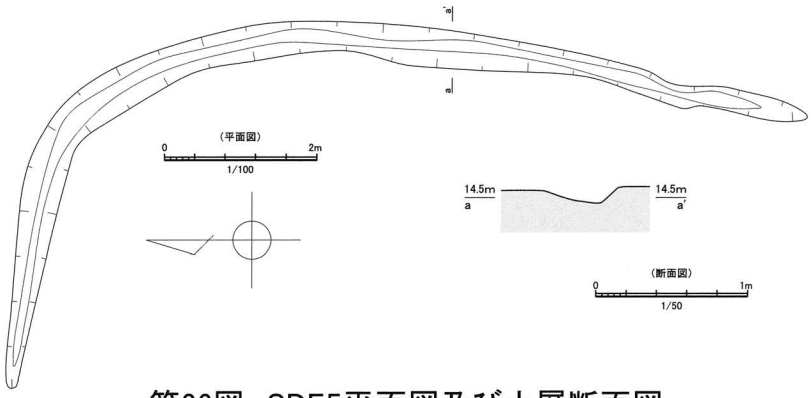
第33図　SDE2平面図及び土層断面図



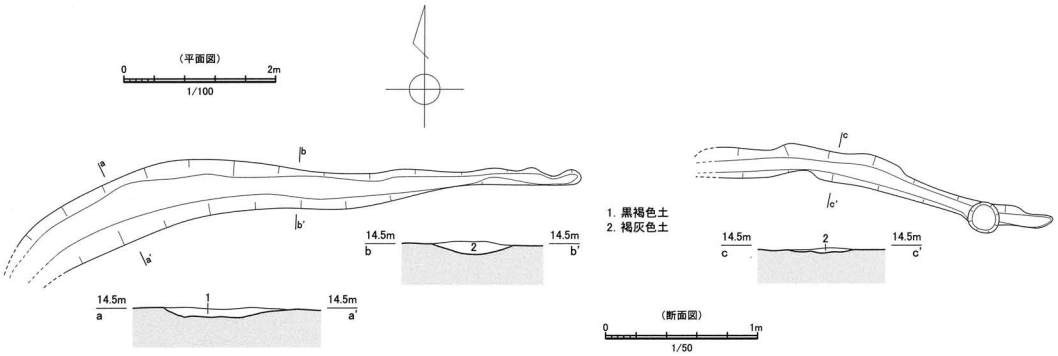
第34図　SDE3平面図
及び土層断面図



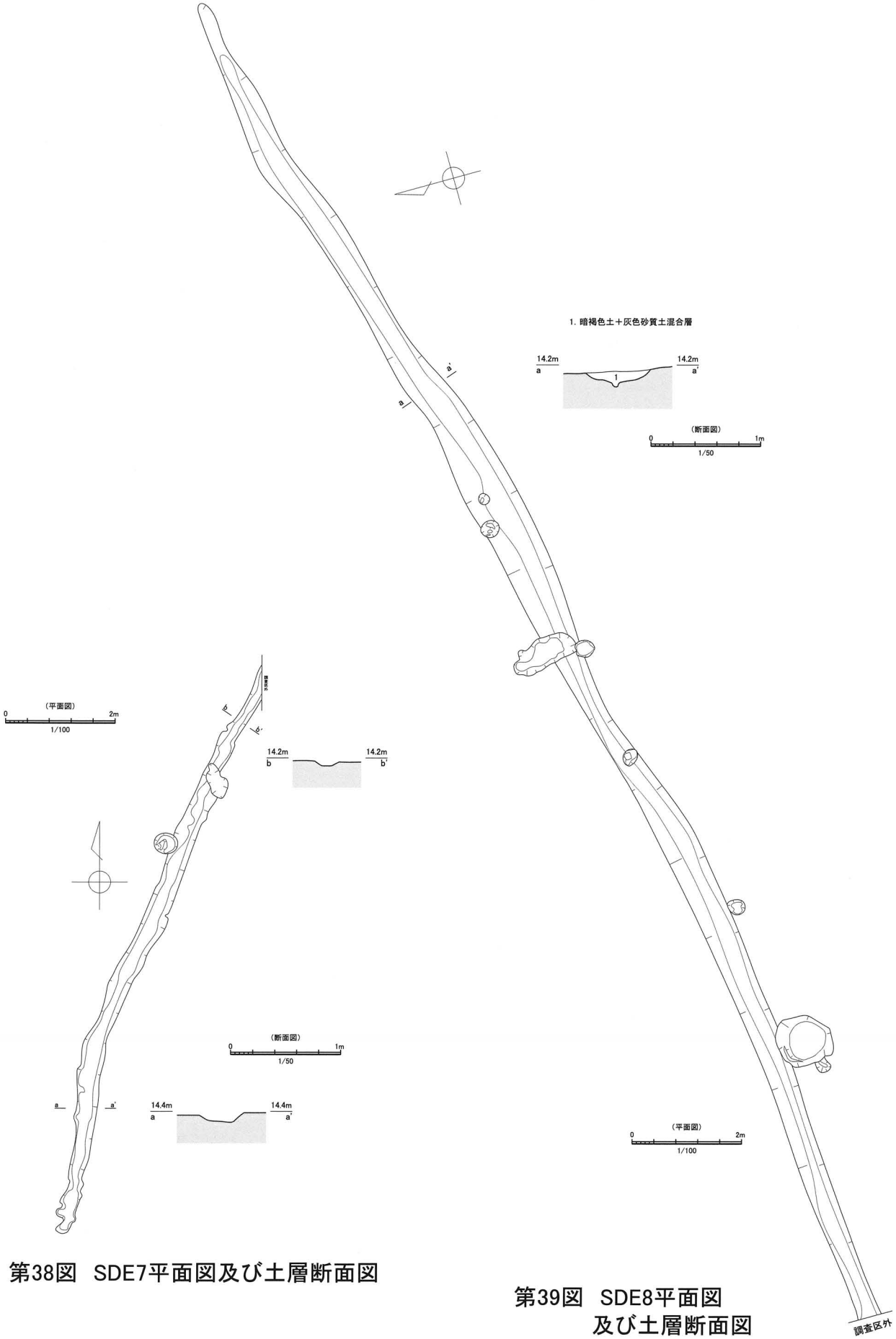
第35図　SDE4平面図及び土層断面図



第36図　SDE5平面図及び土層断面図

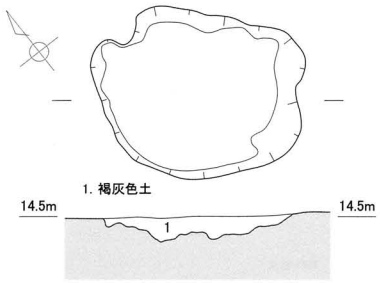


第37図　SDE6平面図及び土層断面図

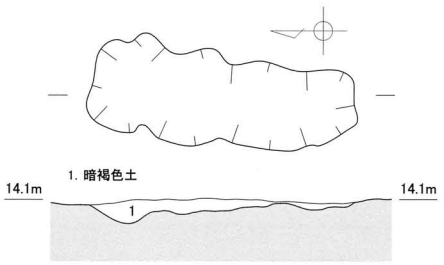


第38図　SDE7平面図及び土層断面図

第39図　SDE8平面図
及び土層断面図



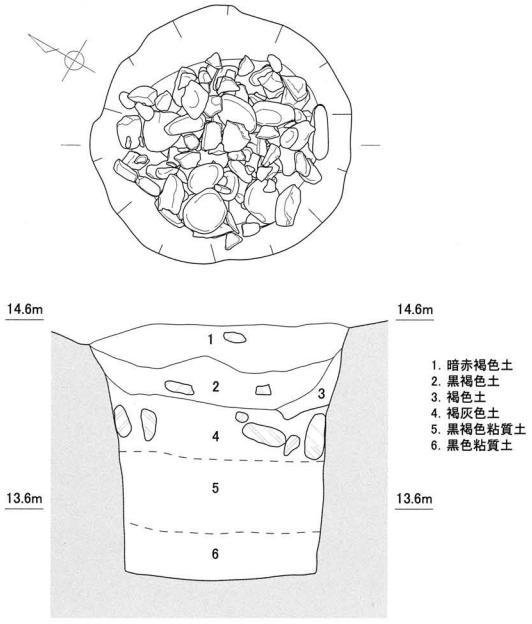
＜SKE1＞



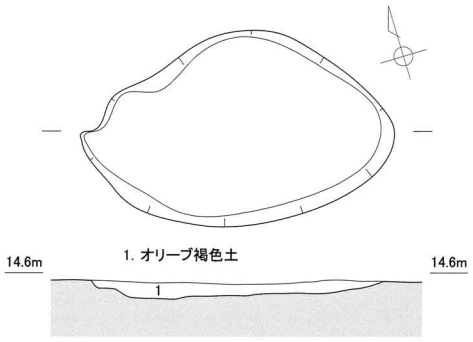
＜SKE3＞

＜SKE2＞

＜SKE4＞

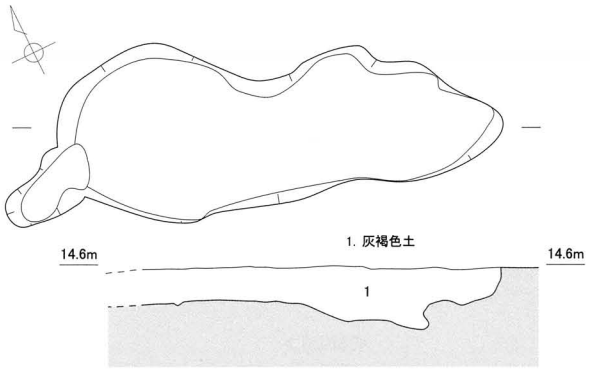


＜SKE6＞



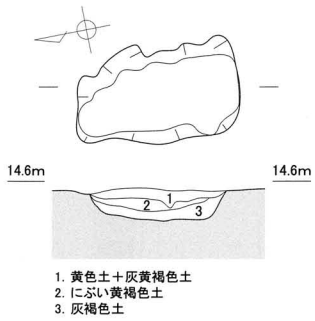
＜SKE8＞

第40図　SKE平面図及び土層断面図①（SKE1～SKE8）

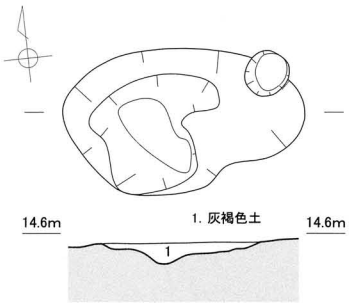


＜SKE9＞

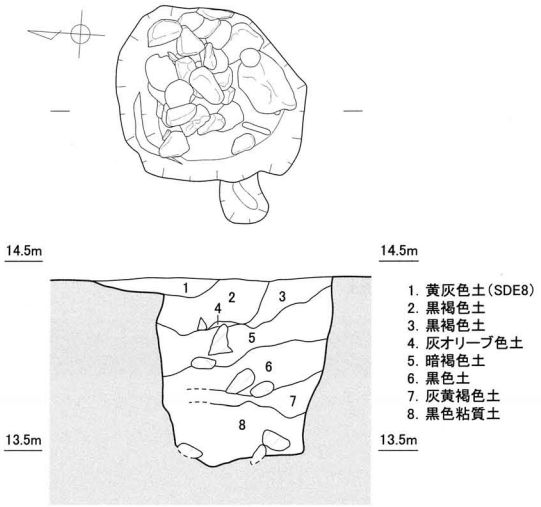
＜SKE15＞



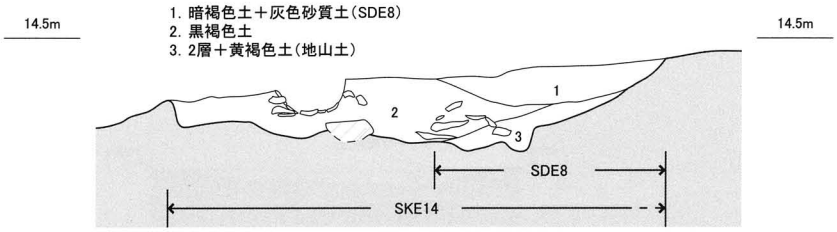
＜SKE12＞



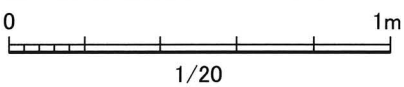
＜SKE11＞



＜SKE13＞

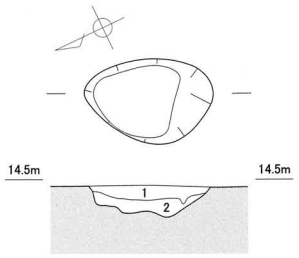


＜SKE14＞

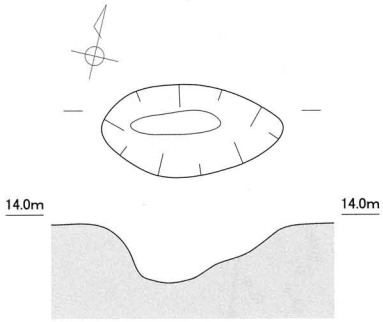


1/20

第41図　SKE平面図及び土層断面図②(SKE9～SKE15)

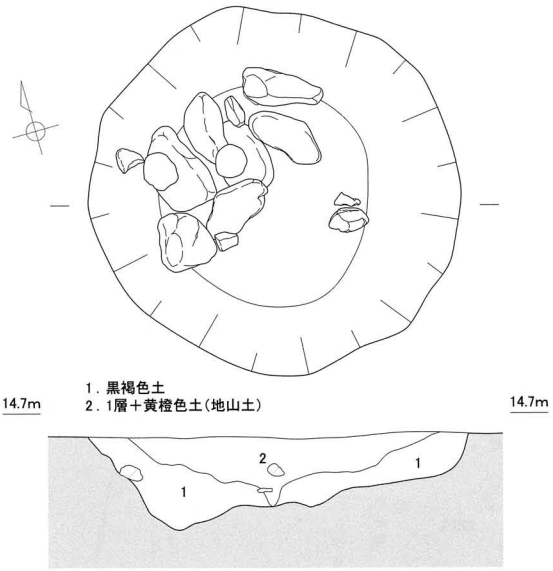


＜SKE16＞

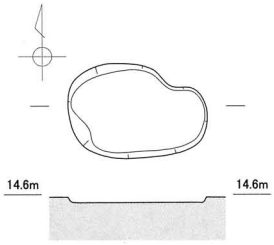


＜SKE17＞

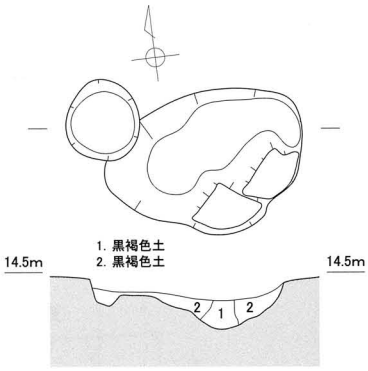
＜SKE22＞



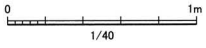
＜SKE23＞

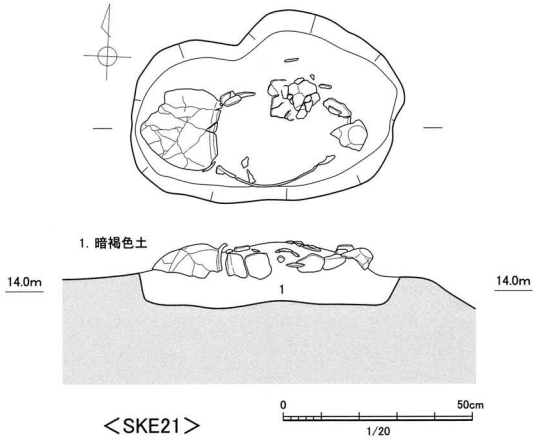


＜SKE19＞



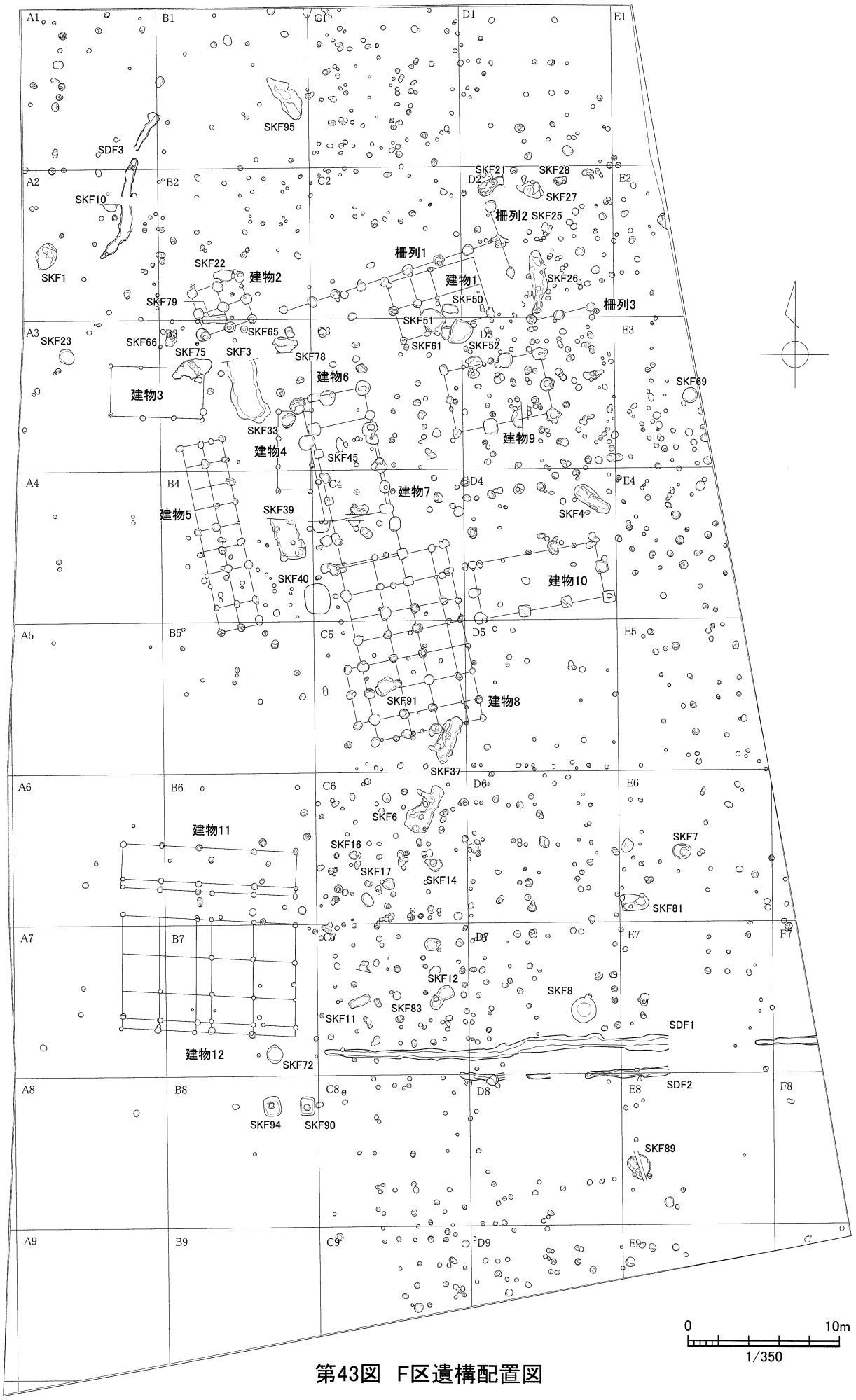
＜SKE18＞



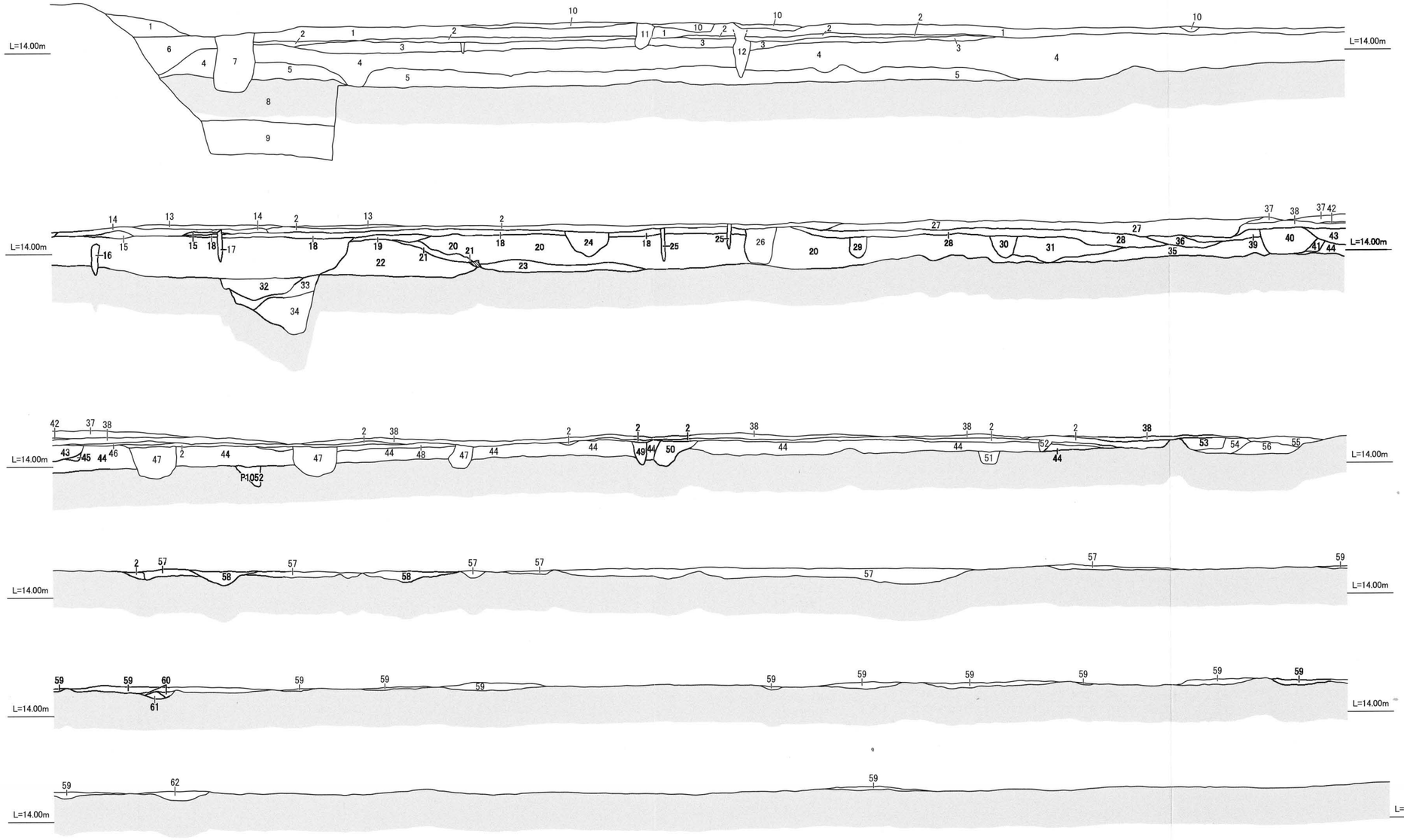


＜SKE21＞

第42図　SKE平面図及び土層断面図③(SKE16～SKE23)



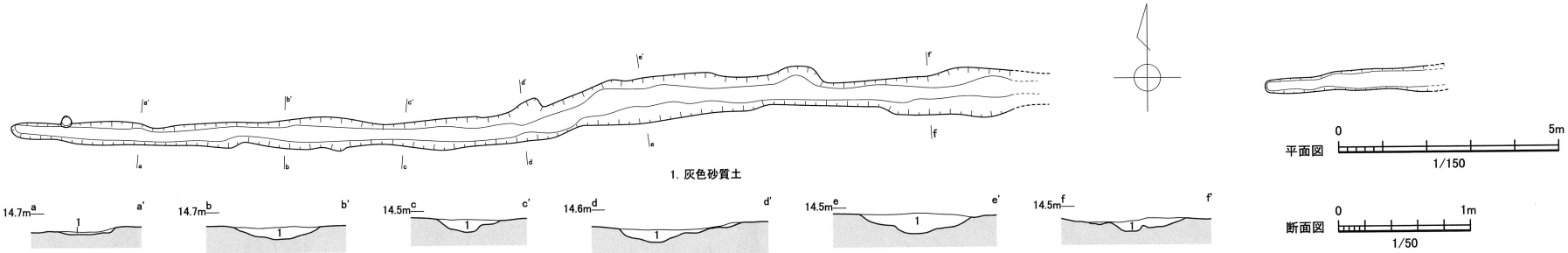
第43図　F区遺構配置図



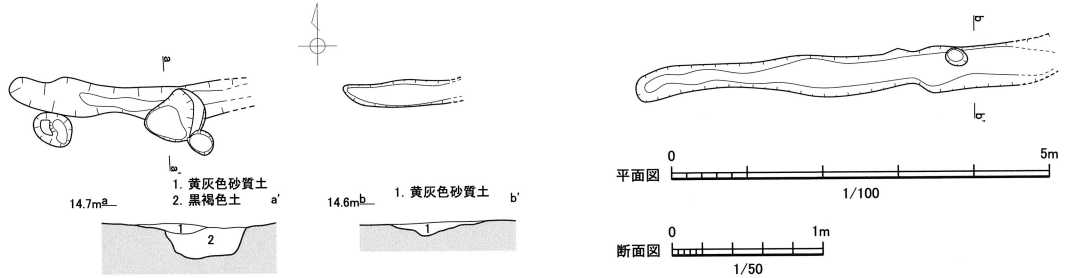
1.灰色土
2.橙色土
3.黄灰色土
4.黒褐色土
5.黒褐色土+黄色土混合層
6.暗渠排水による撹乱層
7.暗渠排水による撹乱層
8.黄色土(地山)
9.明青灰色土(地山)
10.灰オリーブ色土
11.灰色土
12.褐灰色土
13.褐色土
14.橙色土
15.灰黄色砂質土
16.黄灰色土
17.灰褐色土
18.黄灰色土
19.褐色土
20.灰褐色土
21.灰褐色土+明黄褐色粘質土
22.明黄褐色粘質土(地山?)
23.8層+灰褐色土
24.褐灰色土
25.灰オリーブ色土
26.にぶい褐色土
27.黄褐色土
28.灰色土
29.灰黄色土
30.褐灰色土
31.灰褐色土
32.灰黄褐色砂質土
33.灰黄色砂質土
34.黒褐色土
35.褐色土
36.黄褐色土
37.黄褐色土
38.暗灰黄色砂質土
39.黄灰色土
40.褐色土+褐灰色土
41.褐灰色土
42.褐灰色土
43.暗灰黄色土:1～5cm大の円礫混じる。
44.暗褐色土
45.黄橙色土
46.にぶい黄色砂質土
47.黒褐色土:焼土塊多数混じる。
48.黄灰色砂質土
49.暗褐色土
50.褐色土
51.灰褐色土
52.灰オリーブ色土
53.橙色土
54.橙色土+灰黄色砂質土
55.暗灰黄色土
56.灰黄色砂質土
57.灰褐色土
58.にぶい黄色砂質土
59.黄褐色土
60.黄褐色土
61.明黄褐色土
62.灰黄褐色土:SD001

0 2m
1/50

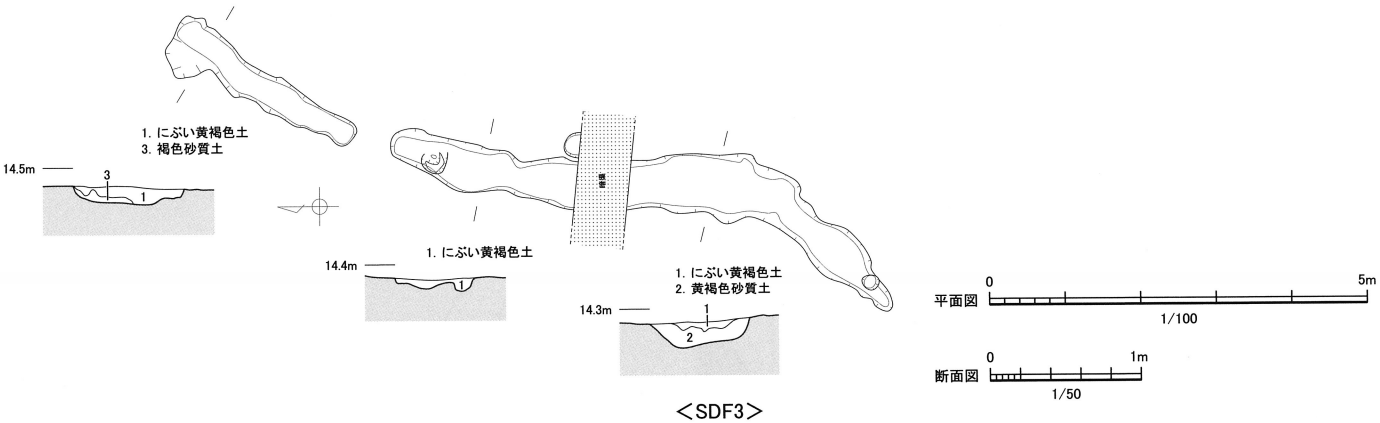
第44図　F区土層断面図



＜SDF1＞

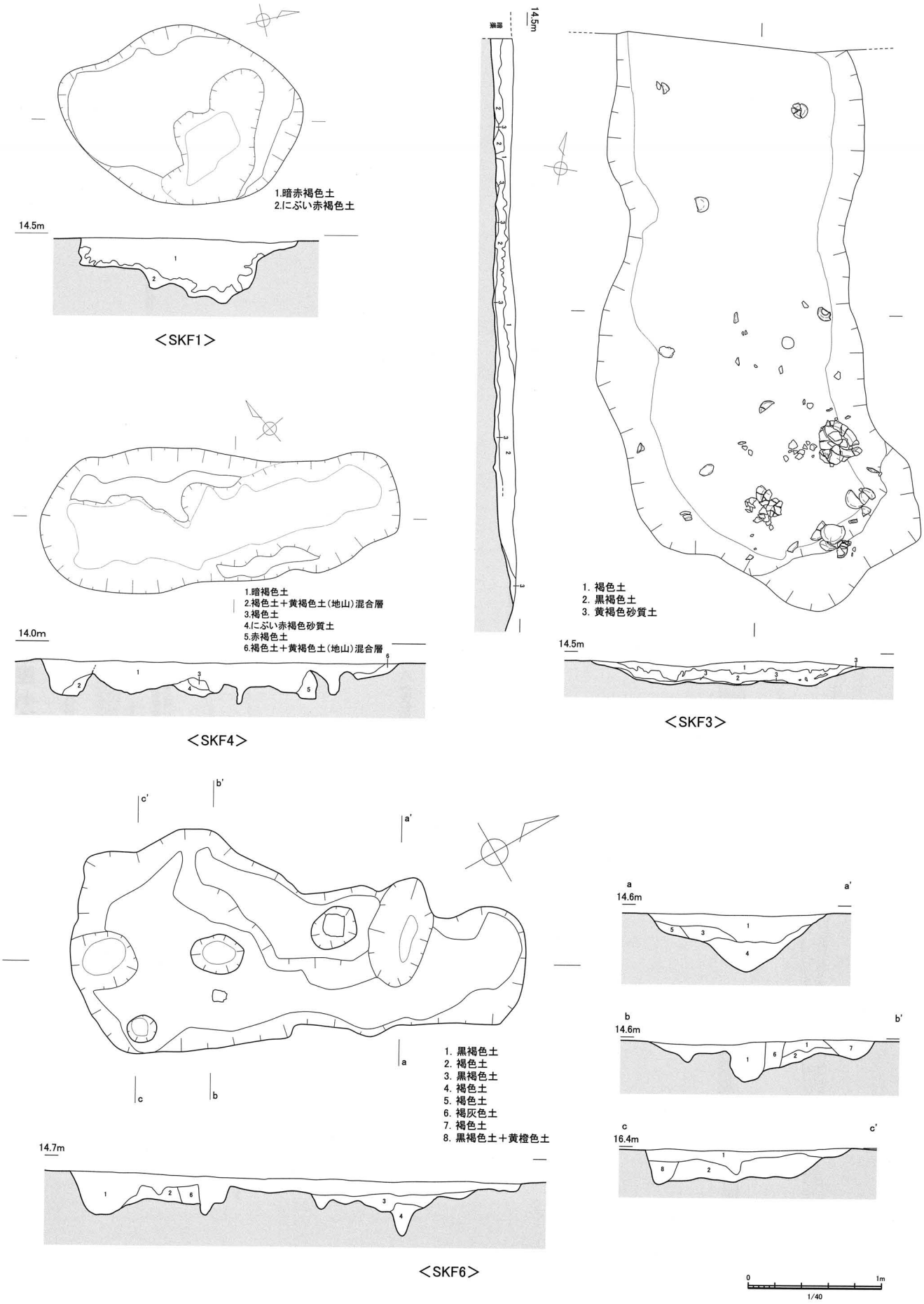


＜SDF2＞

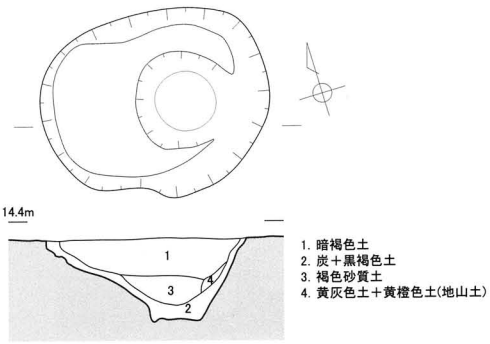


＜SDF3＞

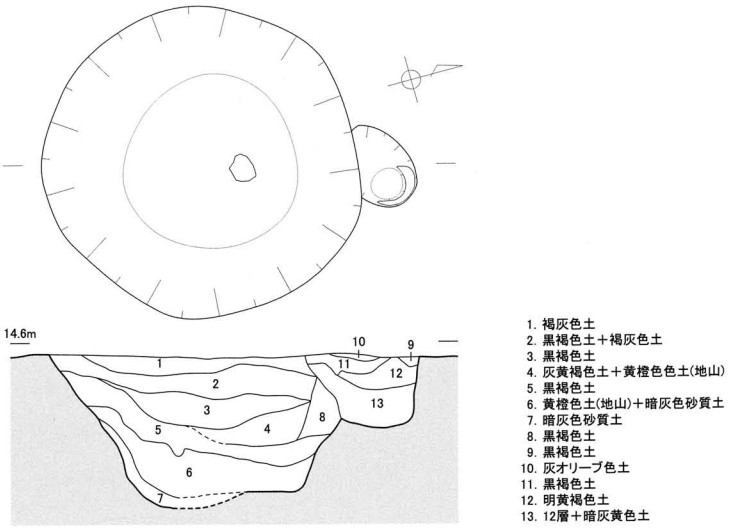
第45図　SDF平面図及び土層断面図(SDF1～SDF3)



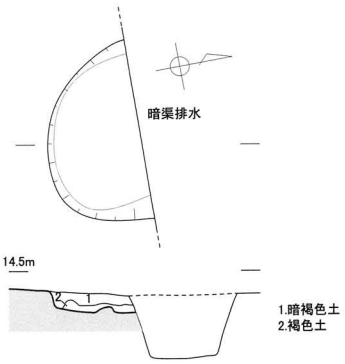
第46図　SKF平面図及び土層断面図①(SKF1～SKF6)



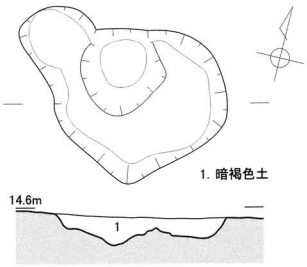
＜SKF7＞



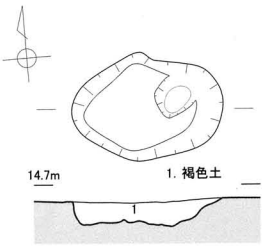
＜SKF8＞



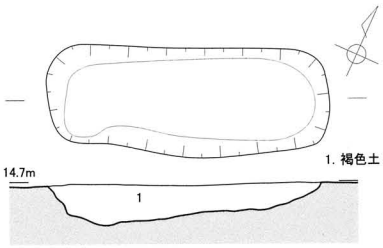
＜SKF10＞



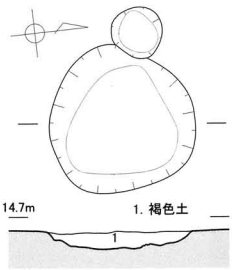
＜SKF14＞



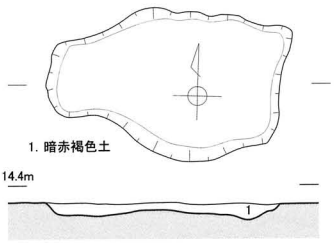
＜SKF16＞



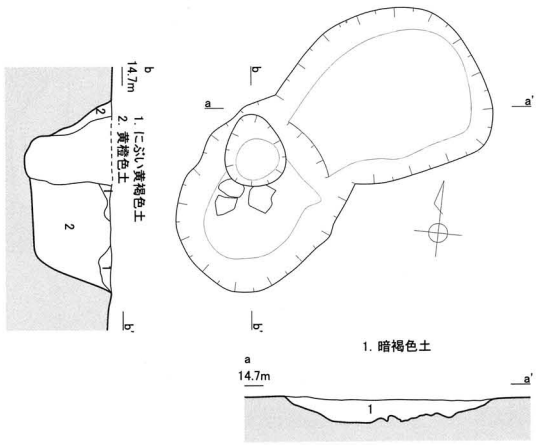
＜SKF11＞



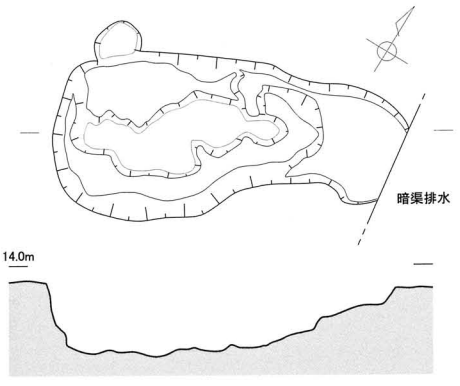
＜SKF17＞



＜SKF22＞



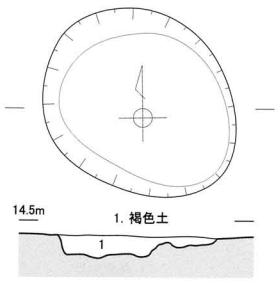
＜SKF12,SKF83＞



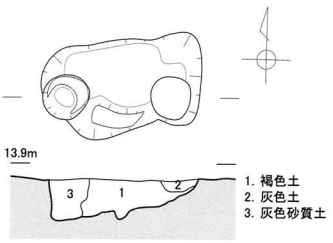
＜SKF21＞

0 1m
1/40

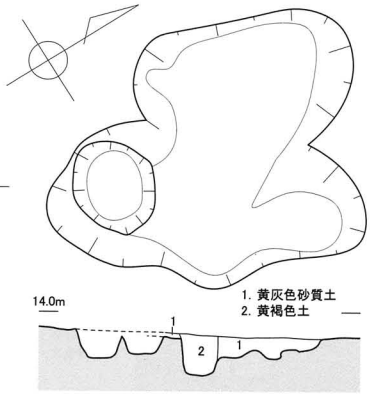
第47図　SKF平面図及び土層断面図②（SKF7～SKF22）



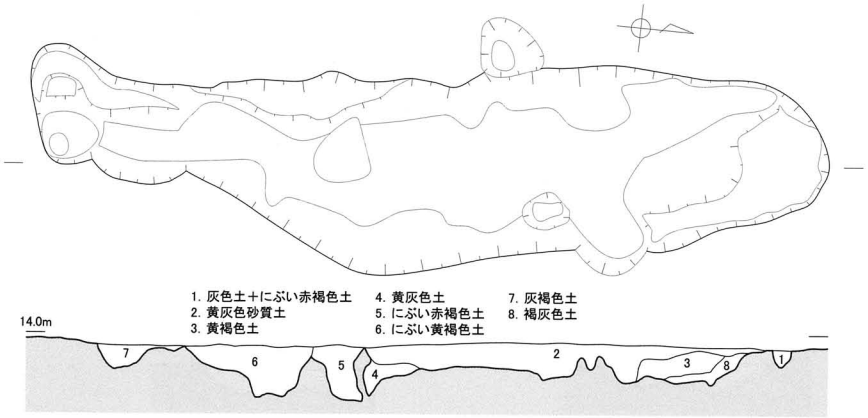
＜SKF23＞



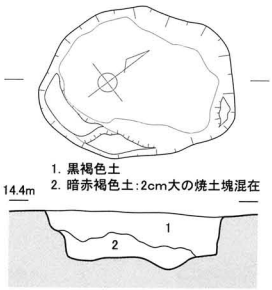
＜SKF28＞



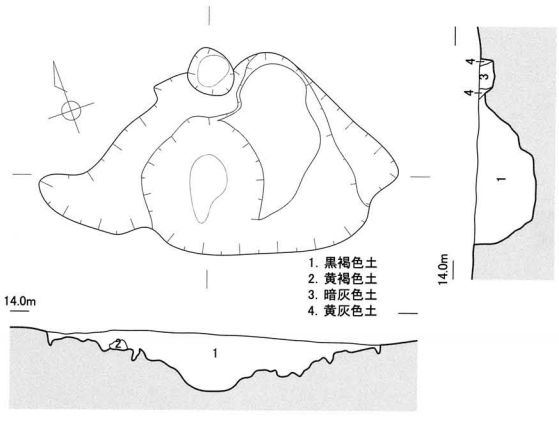
＜SKF25＞



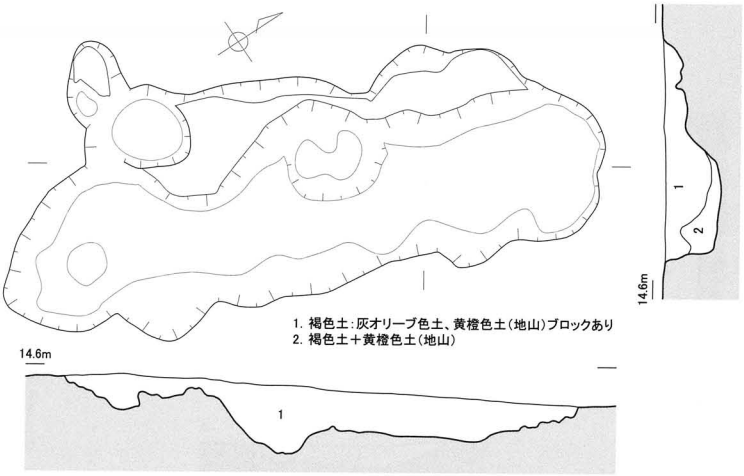
＜SKF26＞



＜SKF33＞



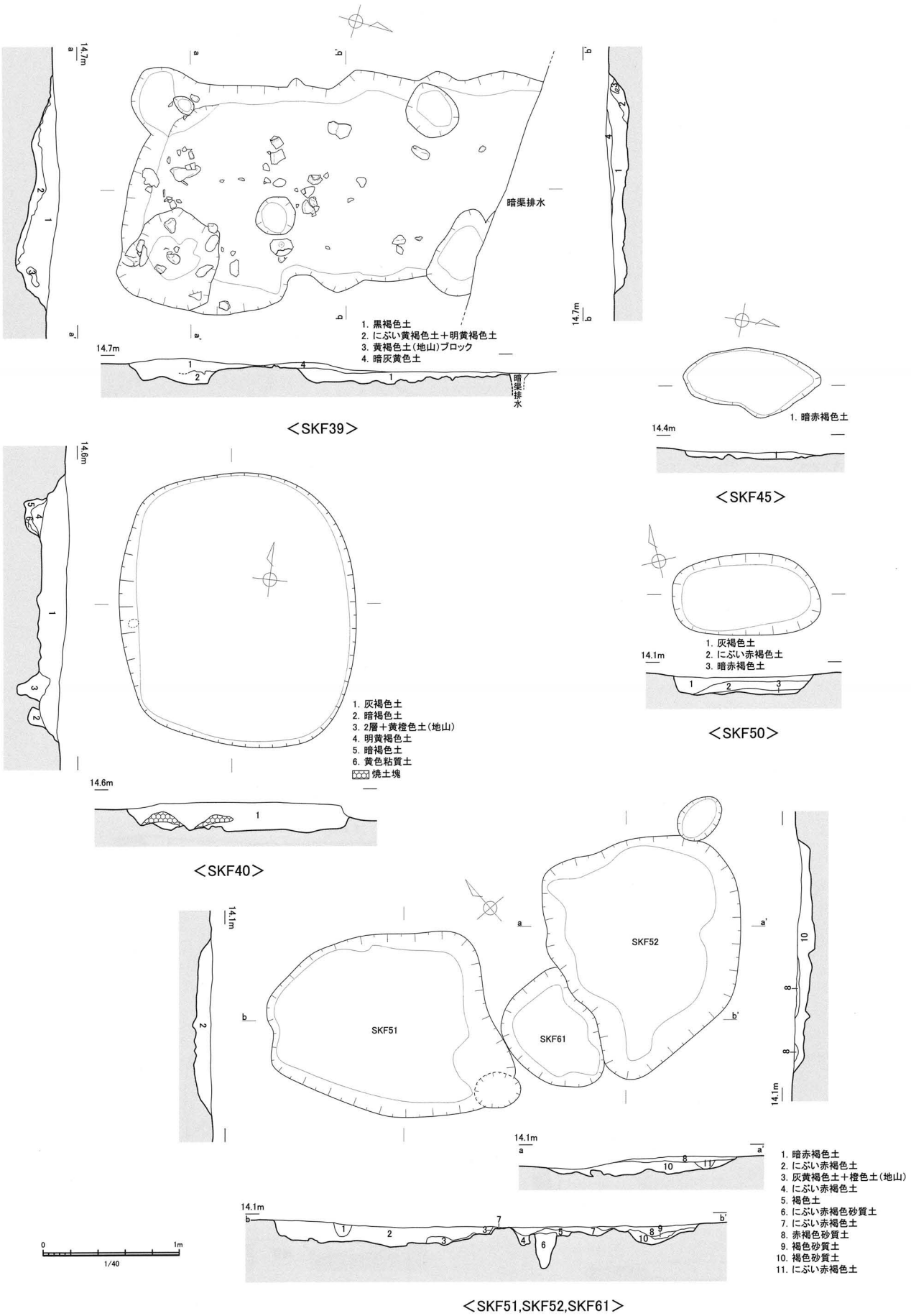
＜SKF27＞



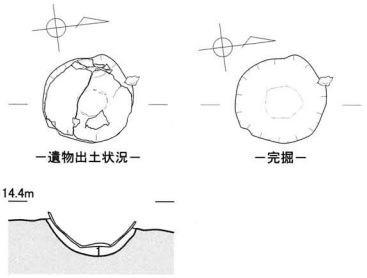
＜SKF37＞

0 1m
1/40

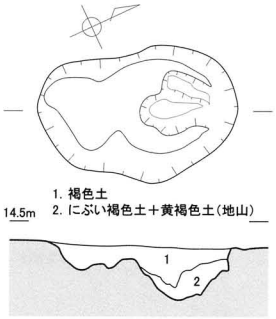
第48図　SKF平面図及び土層断面図③（SKF23～SKF37）



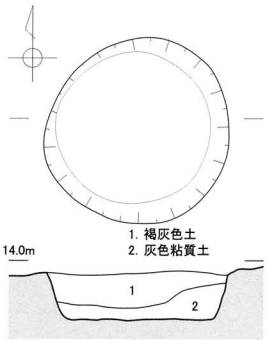
第49図　SKF平面図及び土層断面図④(SKF39～SKF52)



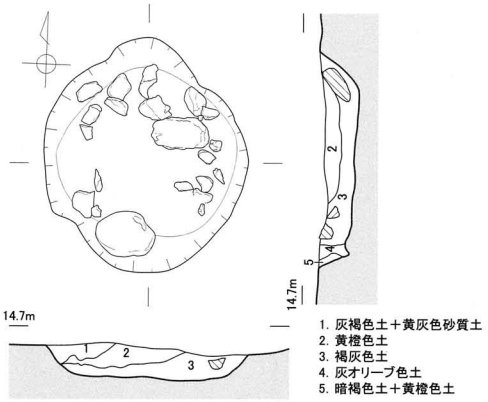
＜SKF65＞



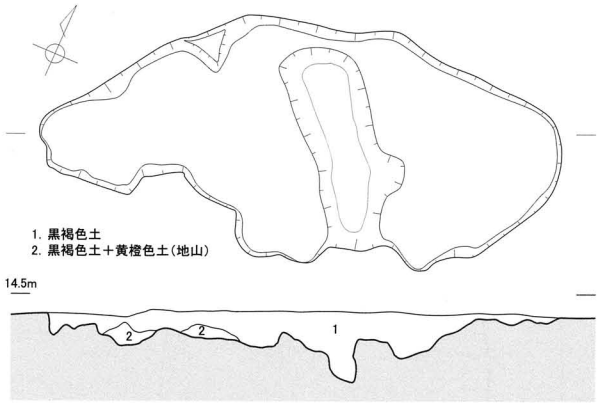
＜SKF66＞



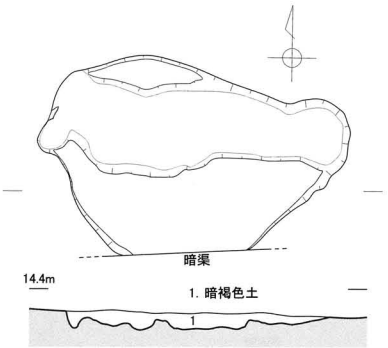
＜SKF69＞



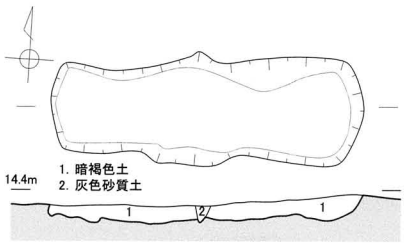
＜SKF72＞



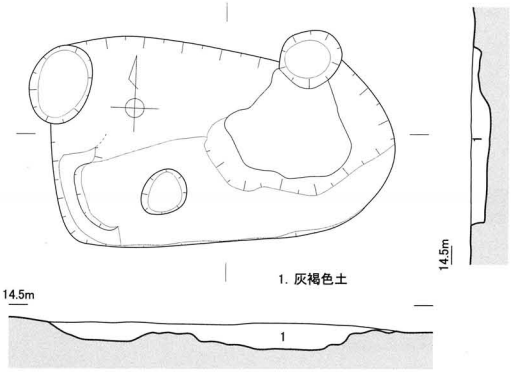
＜SKF75＞



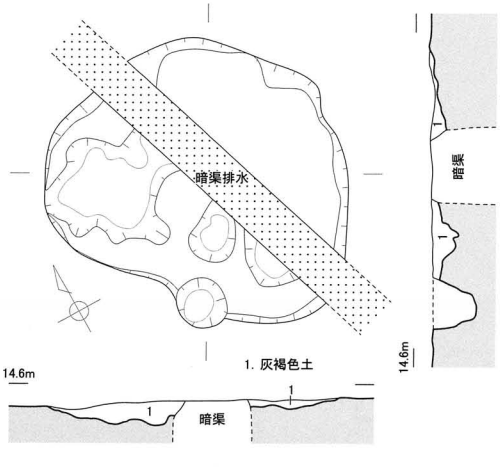
＜SKF78＞



＜SKF79＞



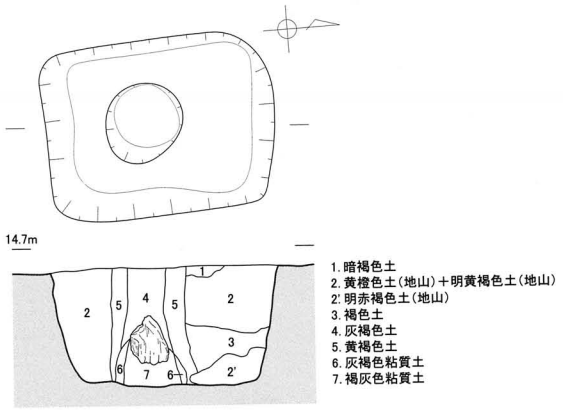
＜SKF81＞



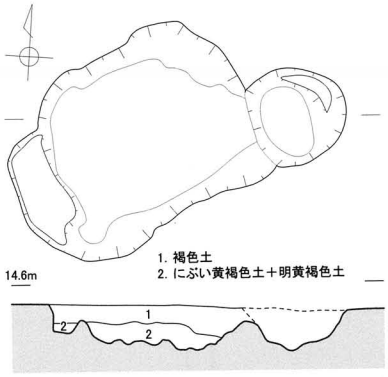
＜SKF89＞

0 1m
1/40

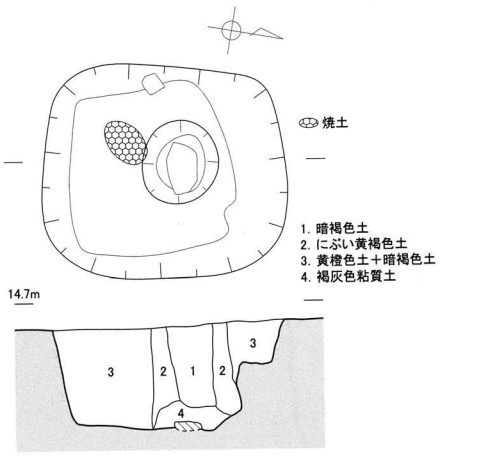
第50図　SKF平面図及び土層断面図⑤(SKF65～SKF89)



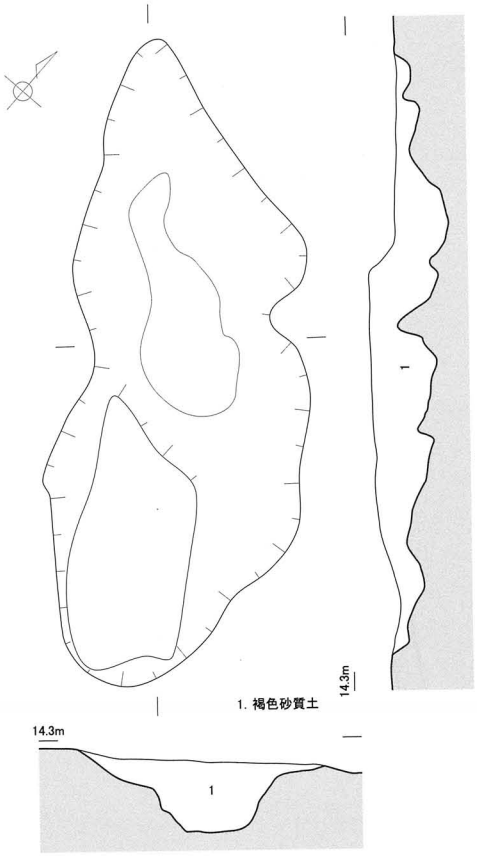
＜SKF90＞



＜SKF91＞



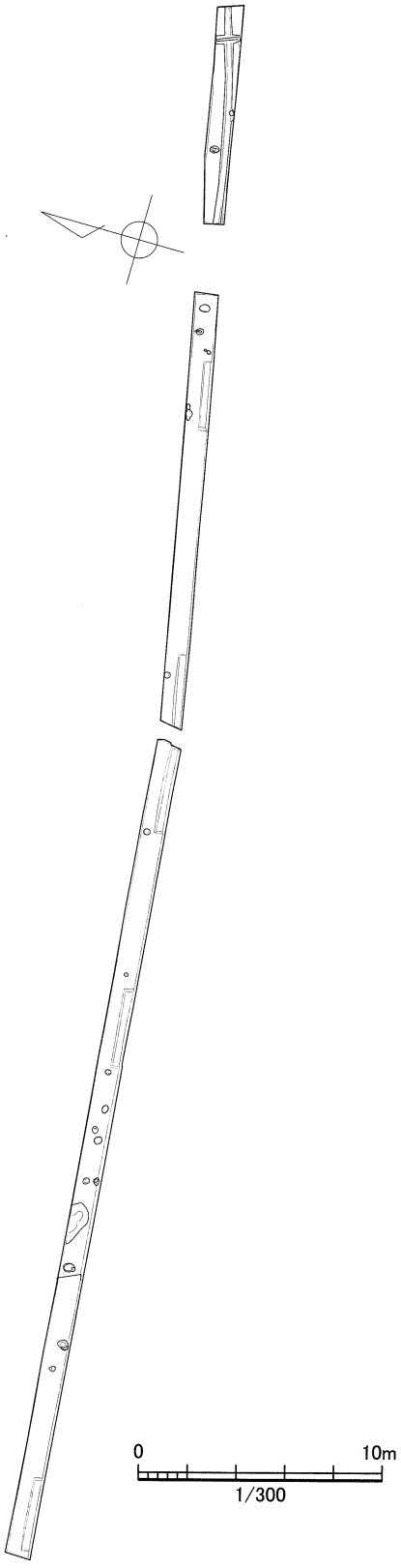
＜SKF94＞



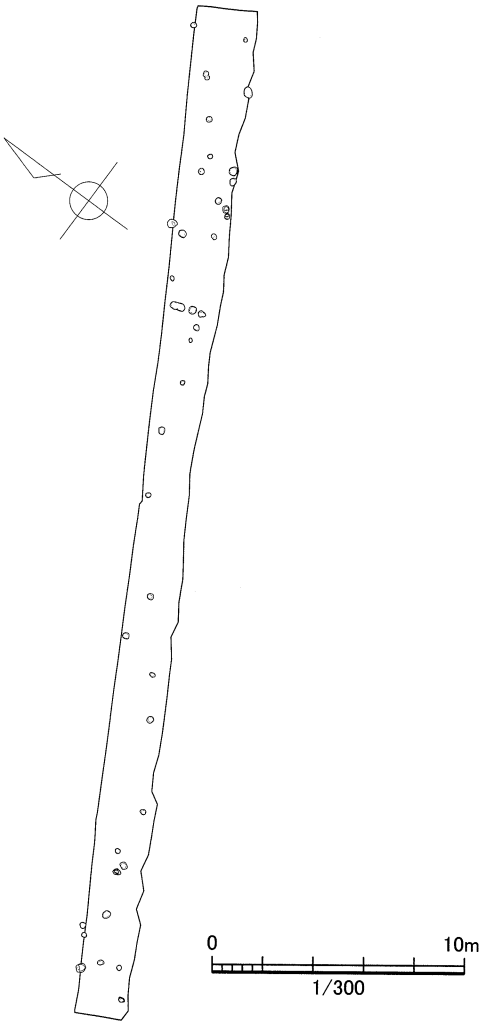
＜SKF95＞

0 1m
1/40

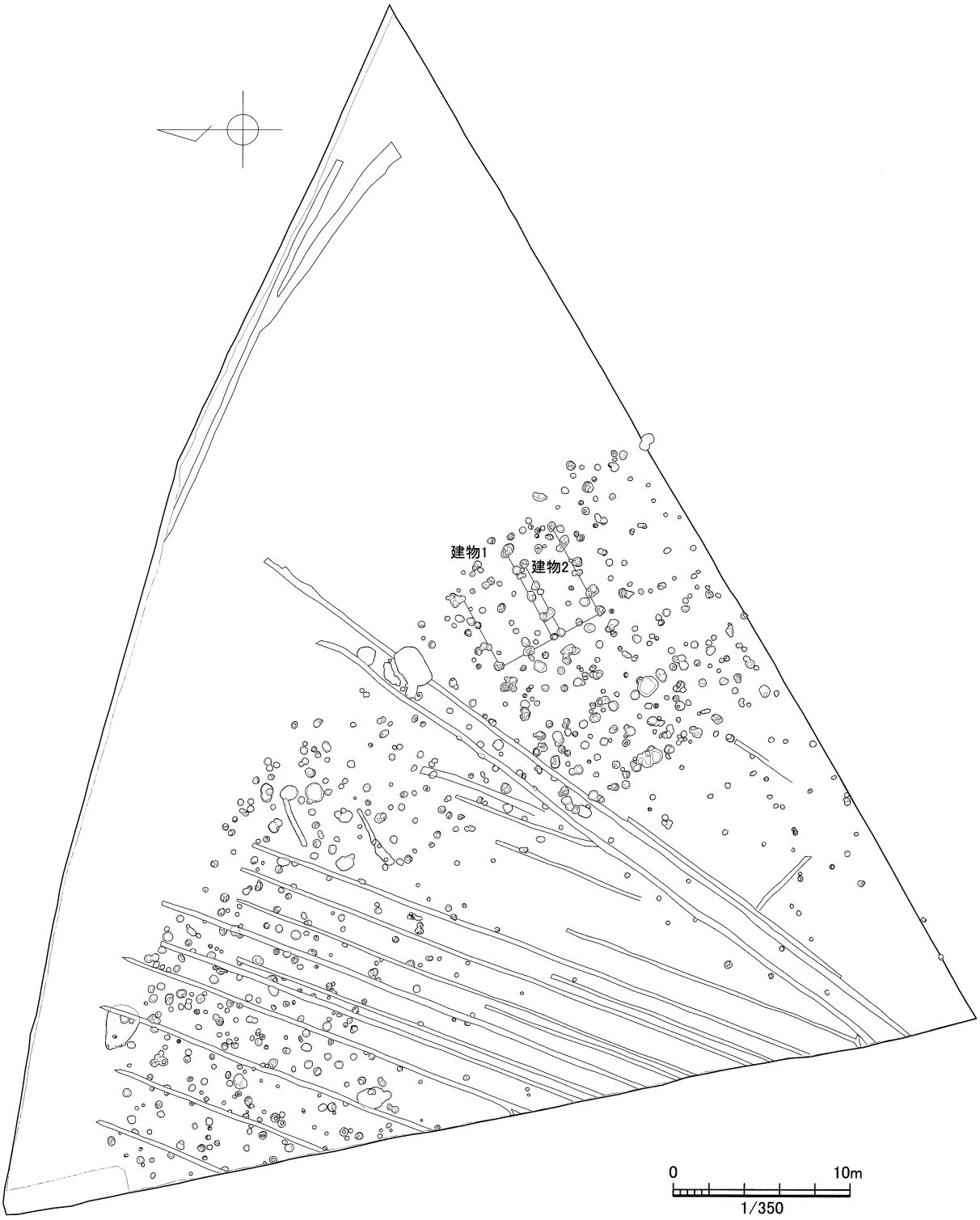
第51図　SKF平面図及び土層断面図⑥(SKF90～SKF95)



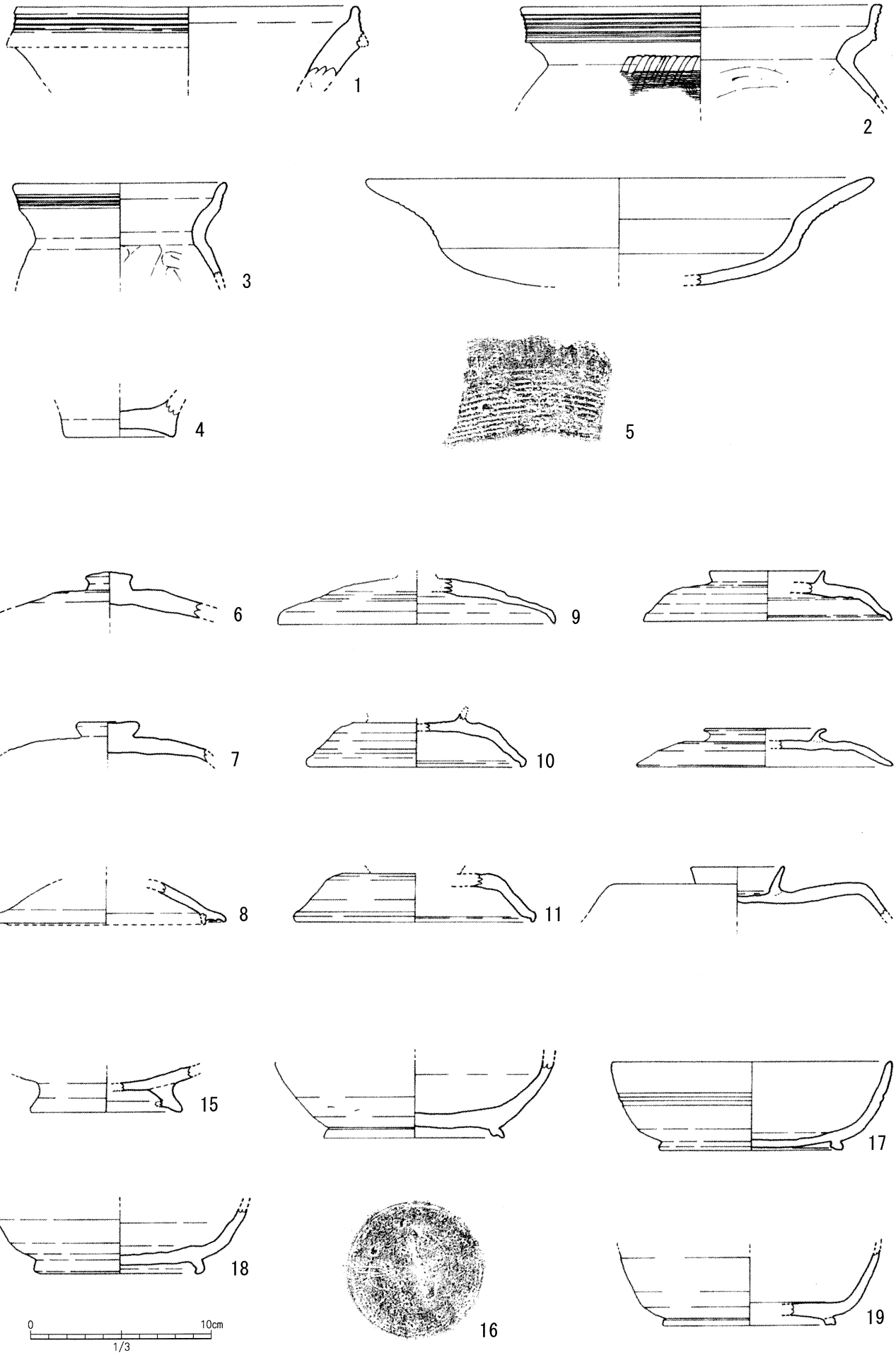
第52図　G区遺構配置図



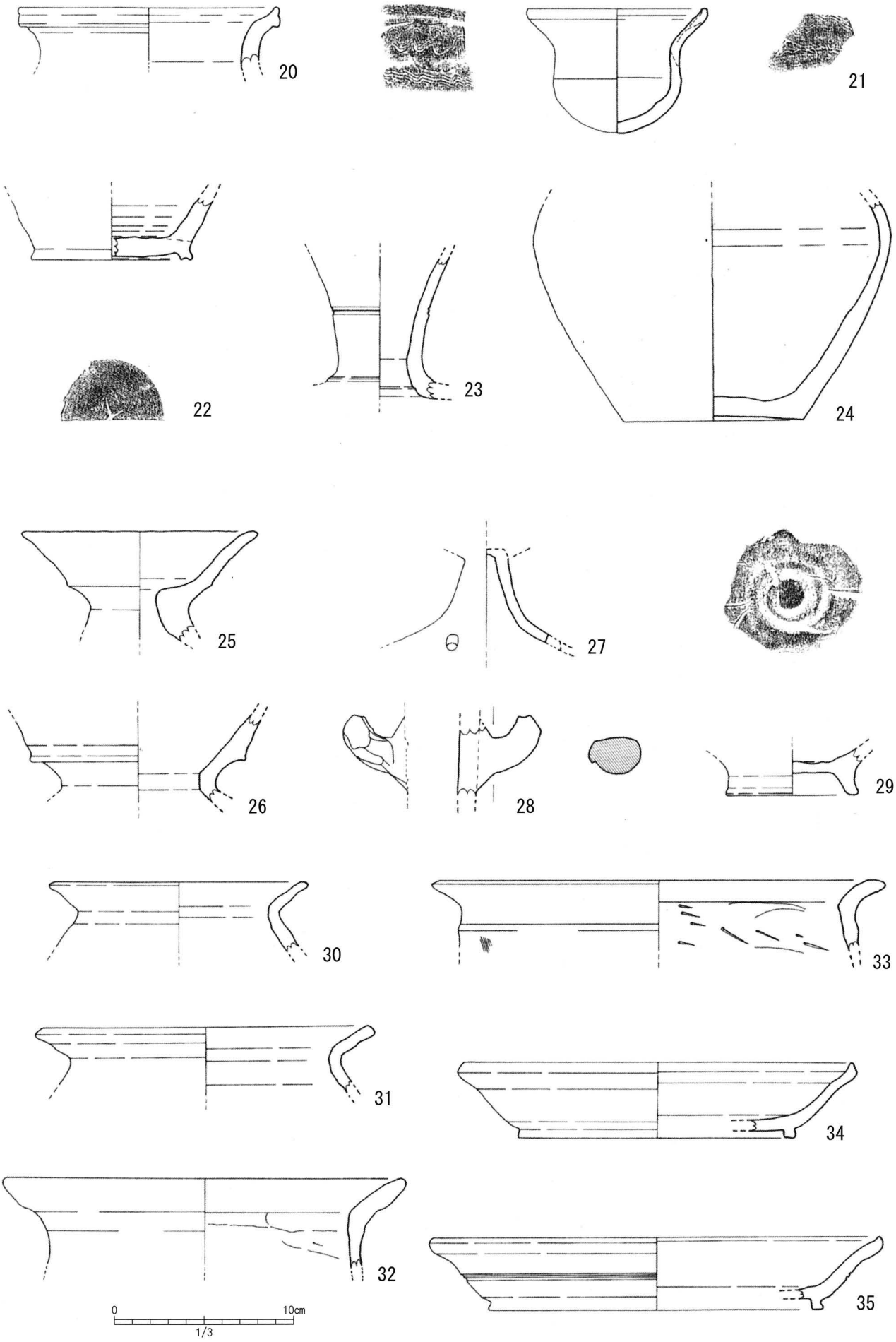
第53図　I区遺構配置図



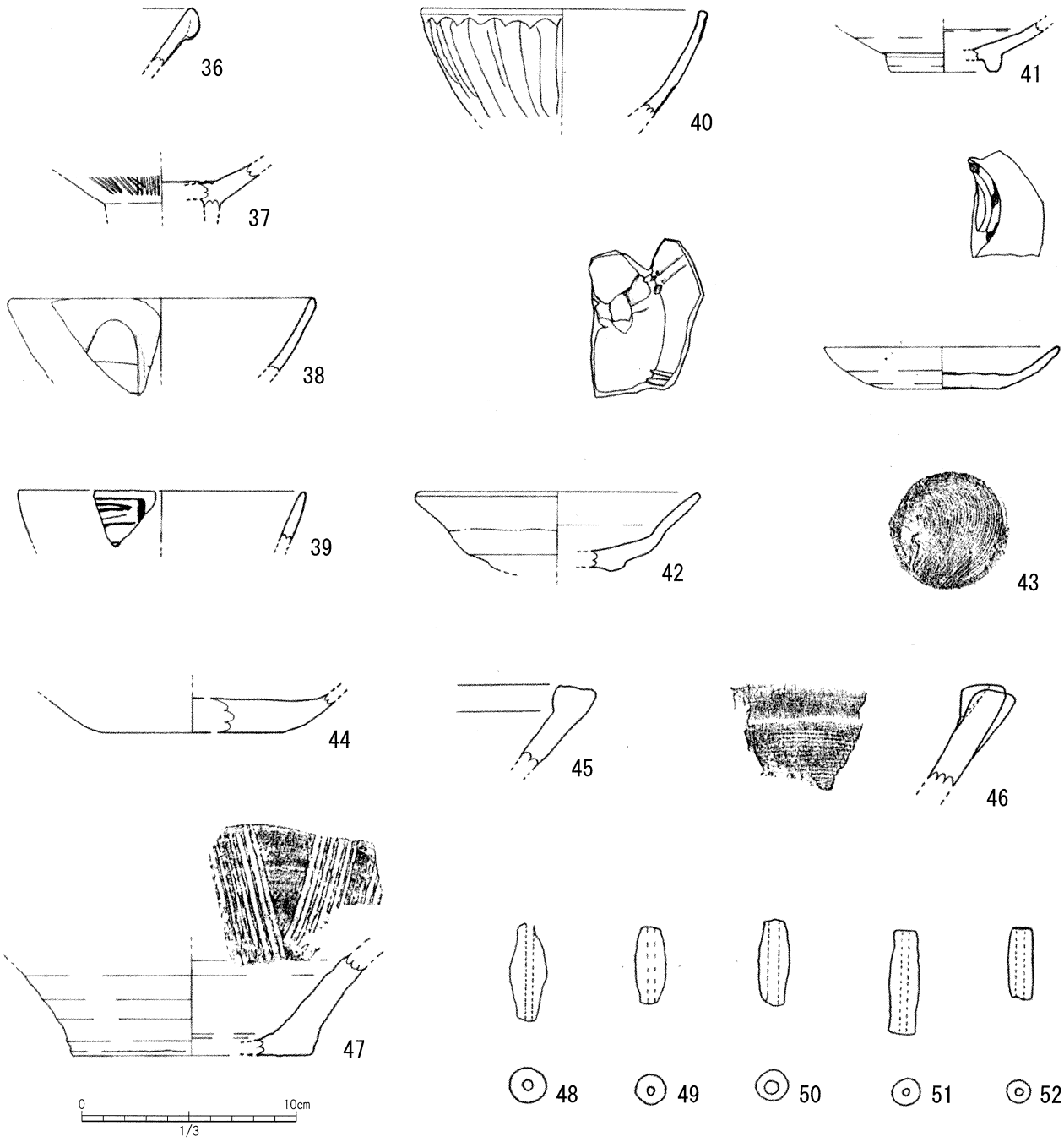
第54図　H区遺構配置図



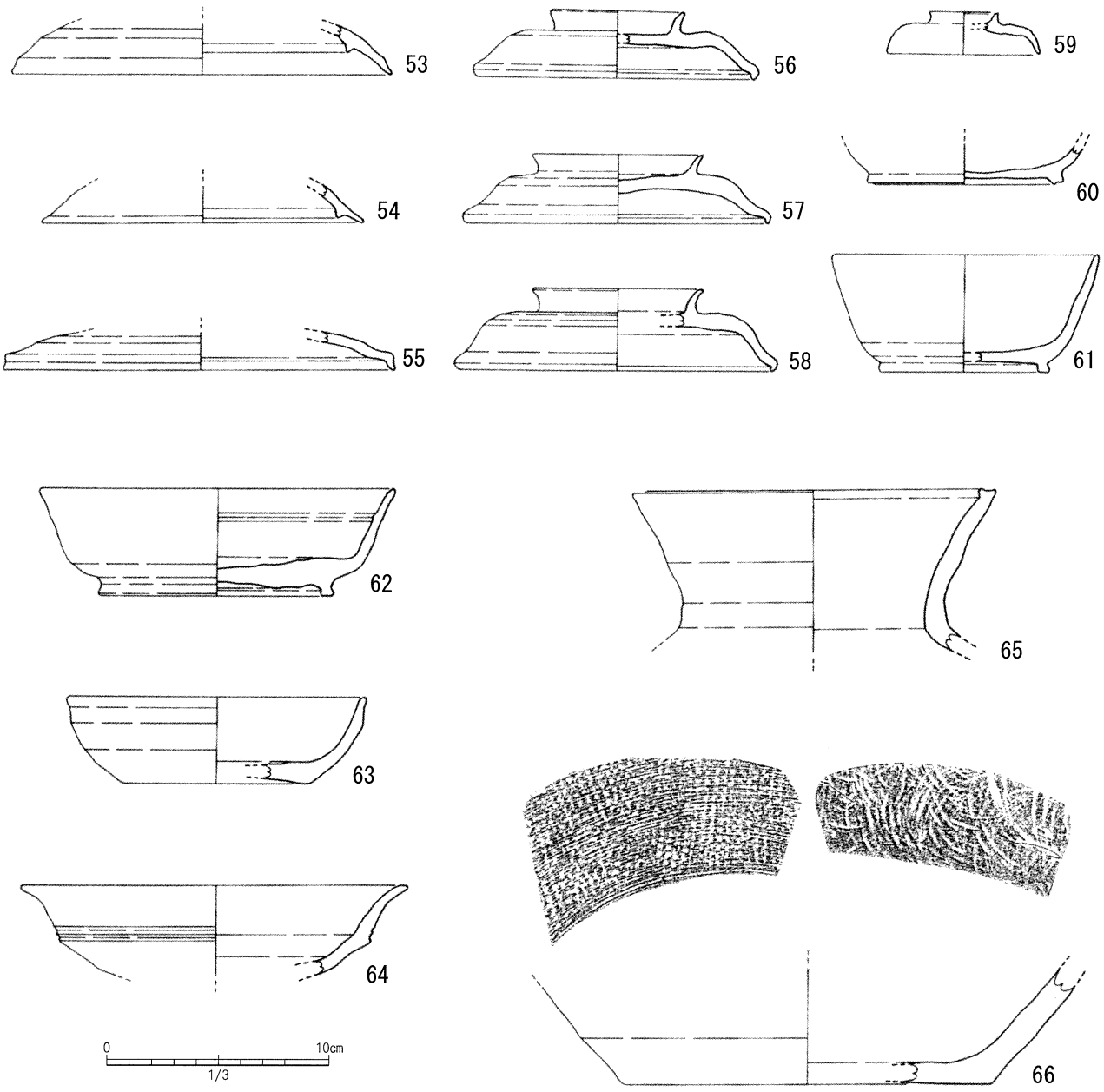
第55図 家下遺跡Ａ区出土遺物実測図 ①



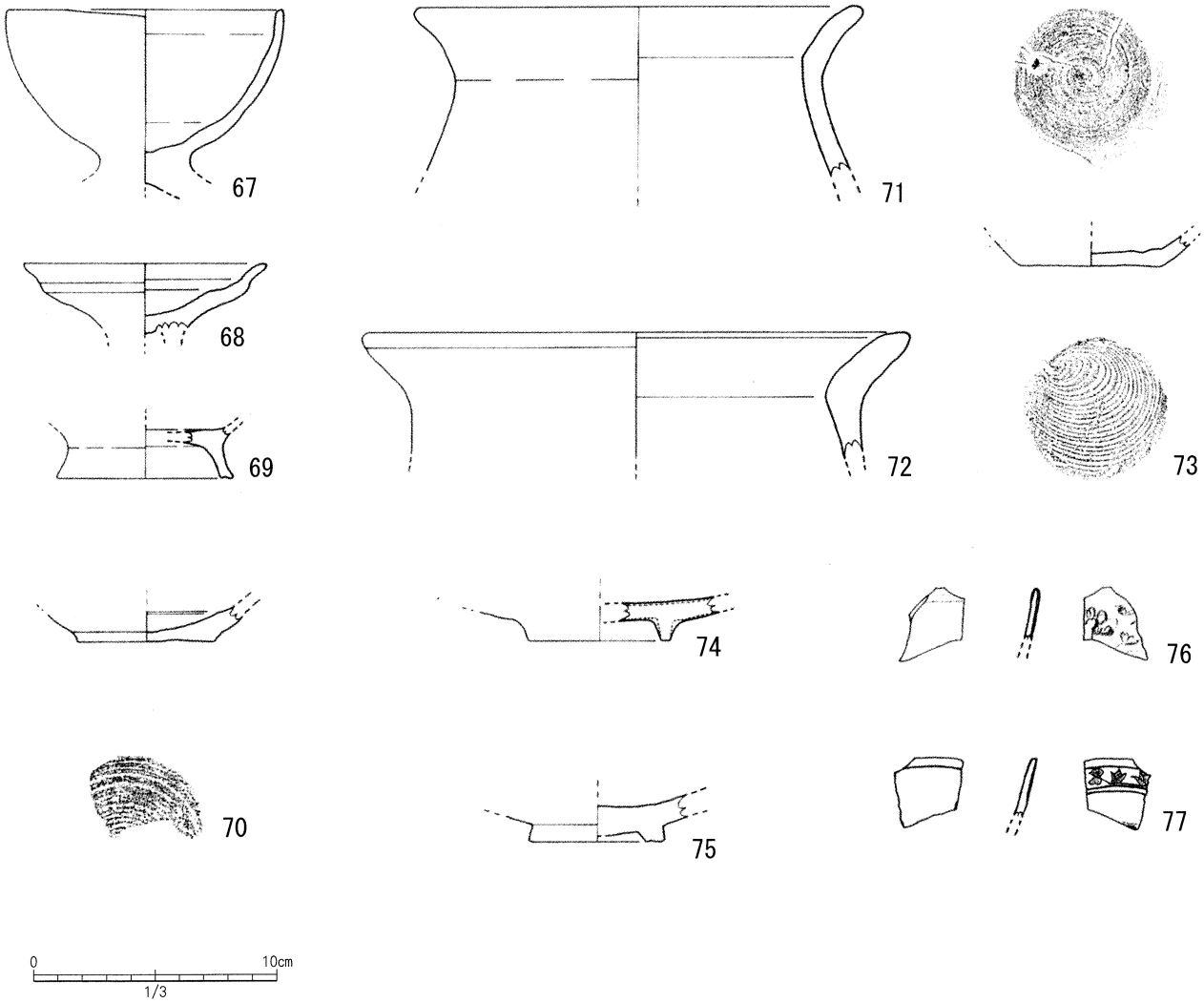
第56図 家下遺跡Ａ区出土遺物実測図 ②



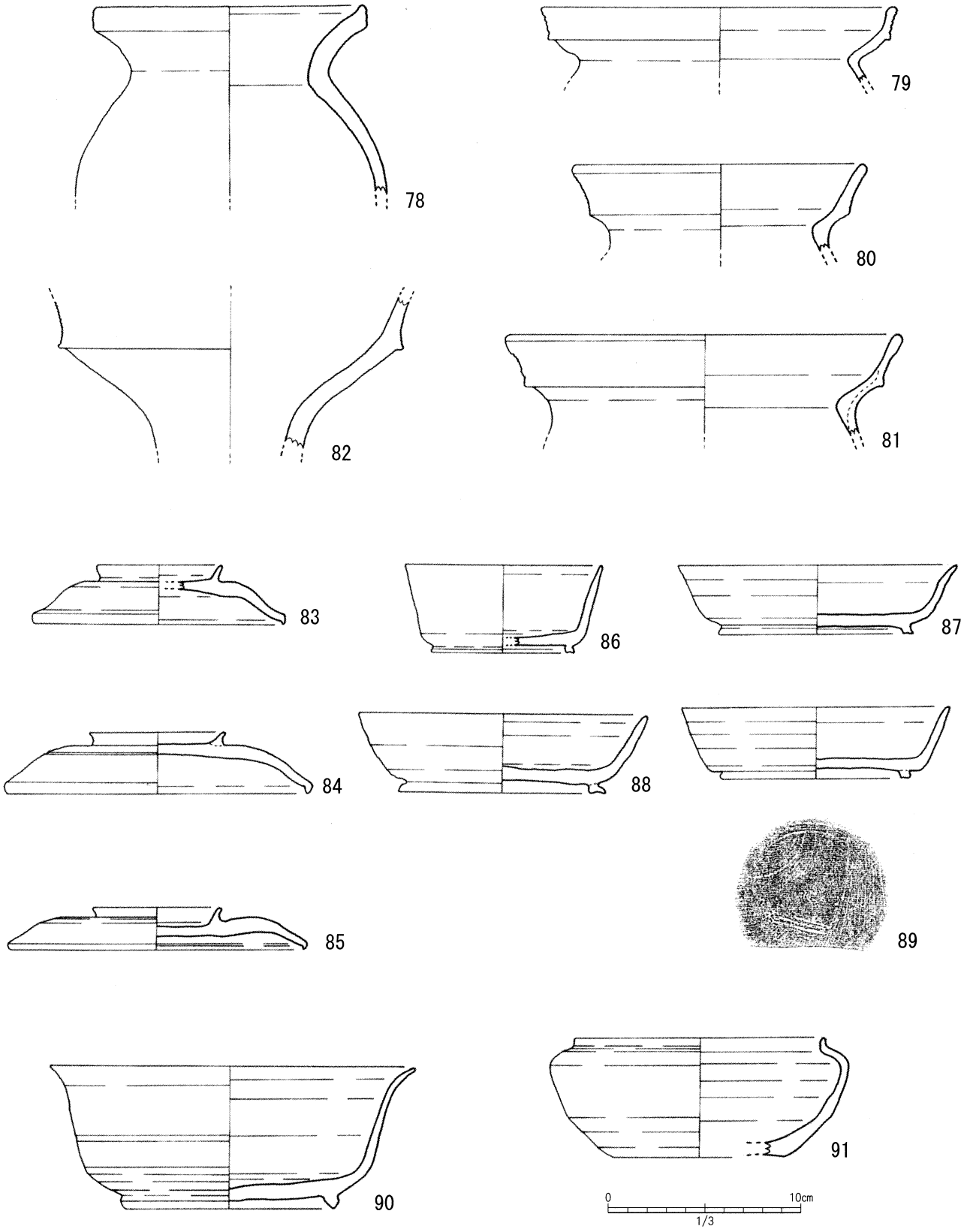
第57図 家下遺跡Ａ区出土遺物実測図 ③



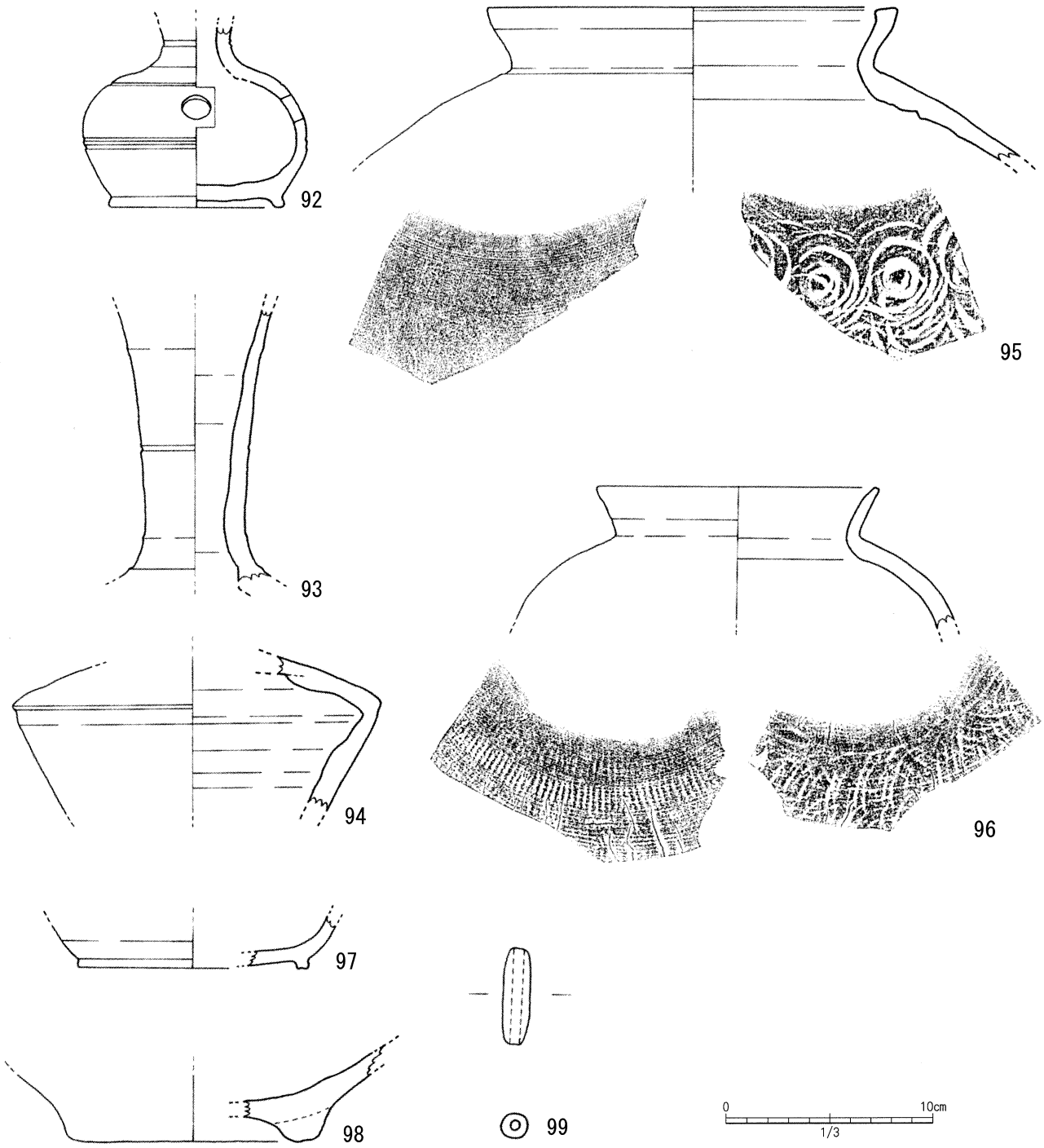
第58図 家下遺跡Ｂ区出土遺物実測図 ①



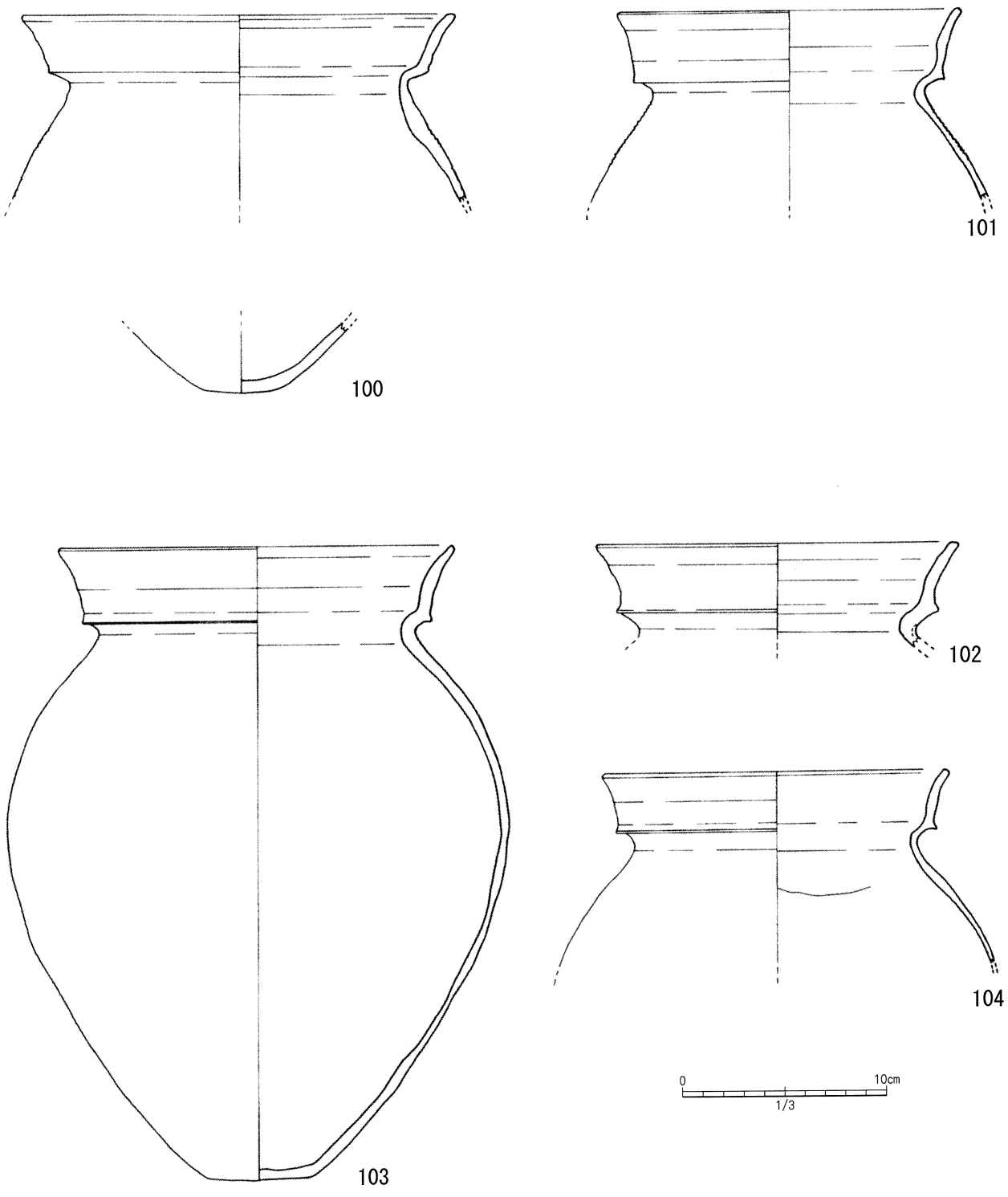
第59図 家下遺跡Ｂ区出土遺物実測図 ②



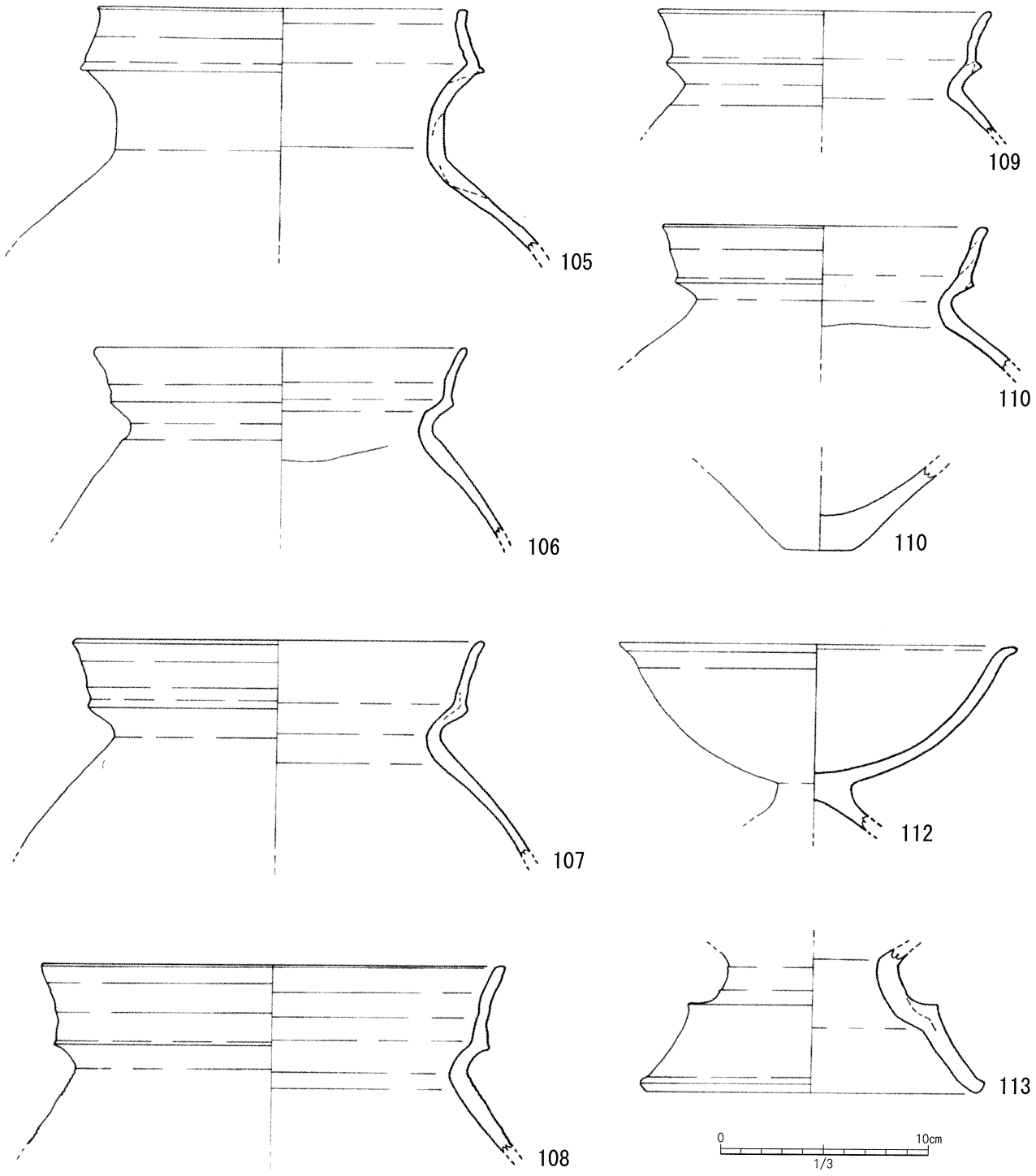
第60図 家下遺跡Ｃ区出土遺物実測図 ①



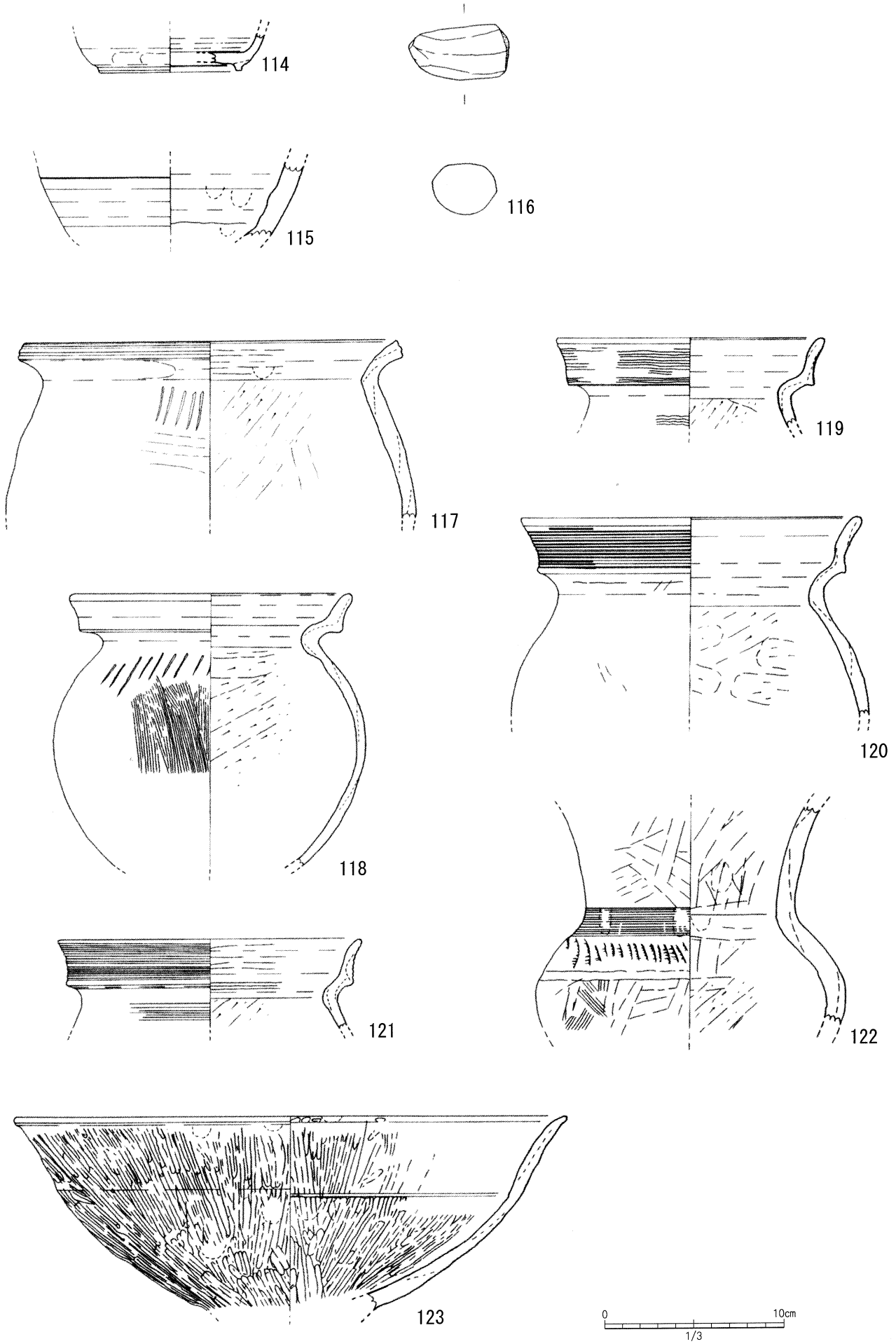
第61図 家下遺跡Ｃ区出土遺物実測図 ②



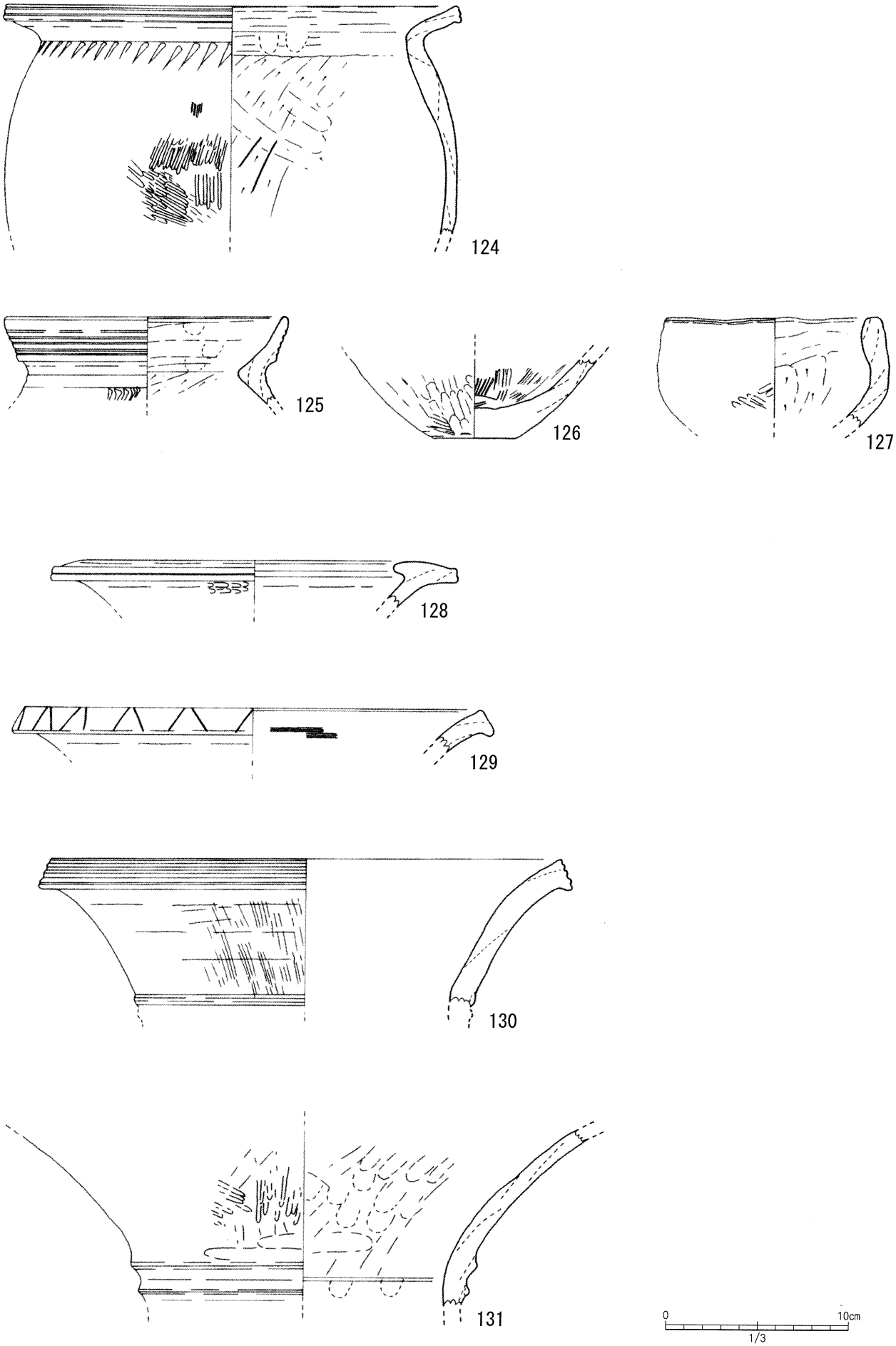
第62図 家下遺跡Ｄ区遺構出土遺物実測図 －土器棺1、2－



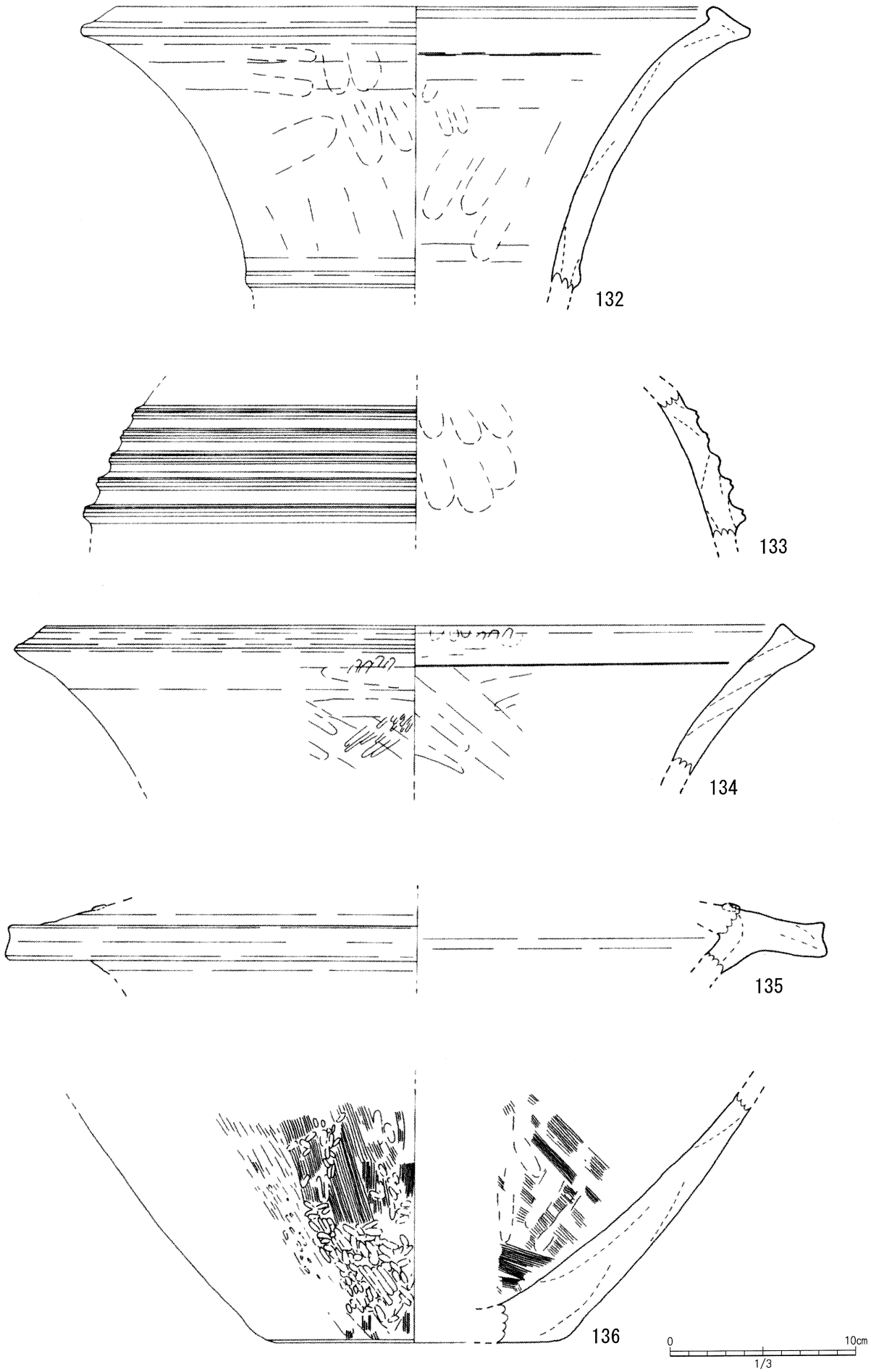
第63図 家下遺跡Ｄ区遺構外出土遺物実測図



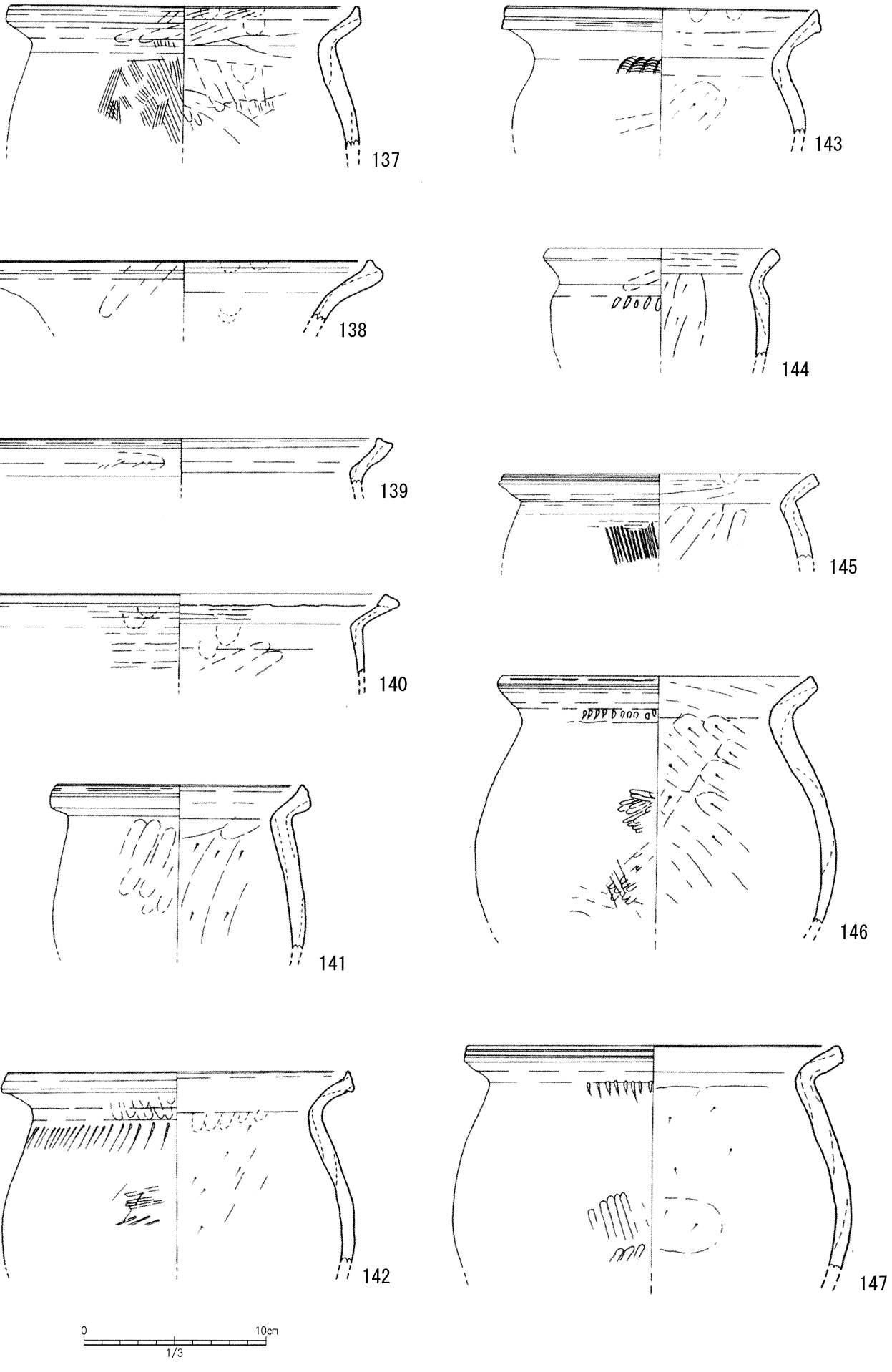
第64図 中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図 ① －溝状遺構、SX02－



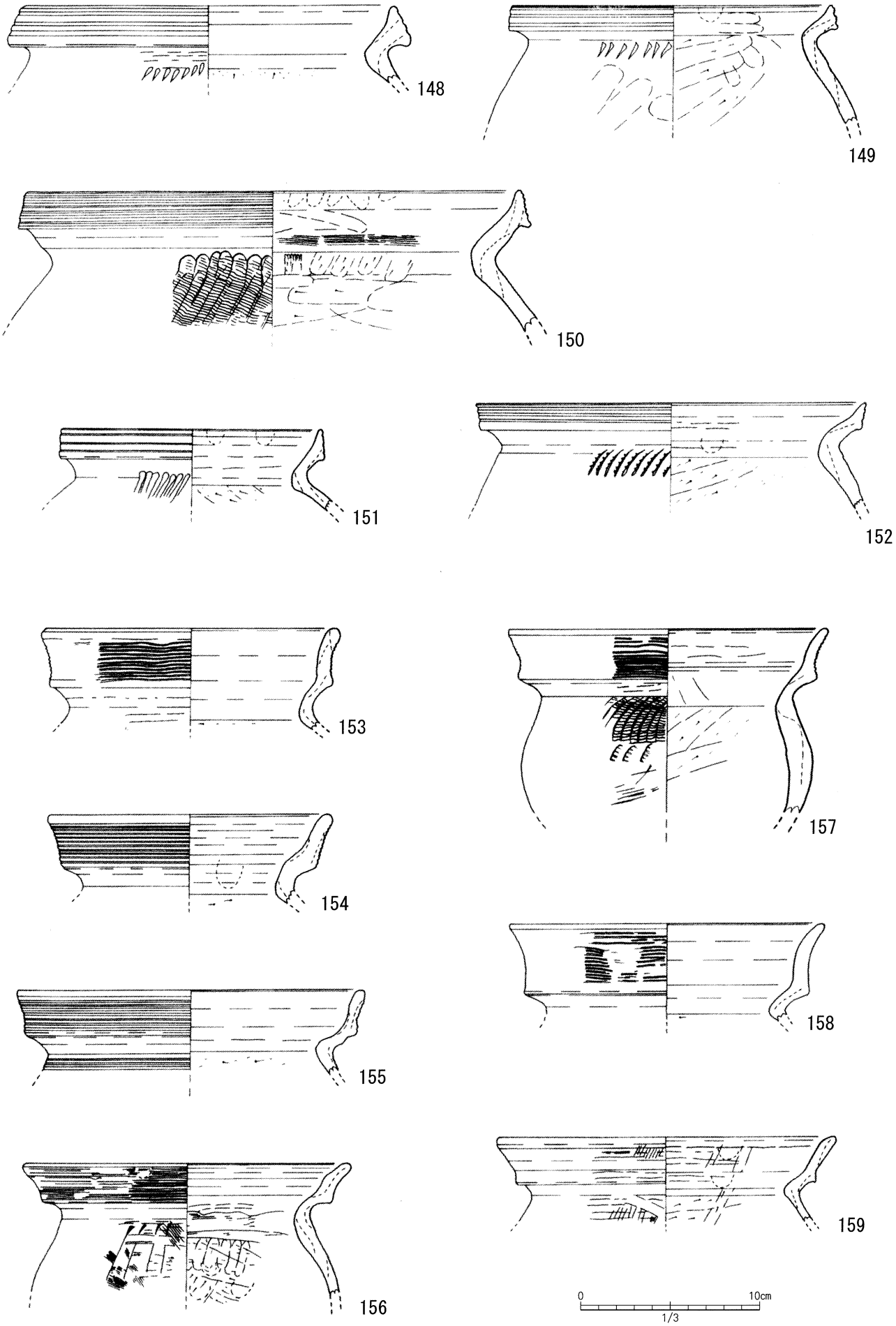
第65図 中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図 ② －SX04、土器溜り－



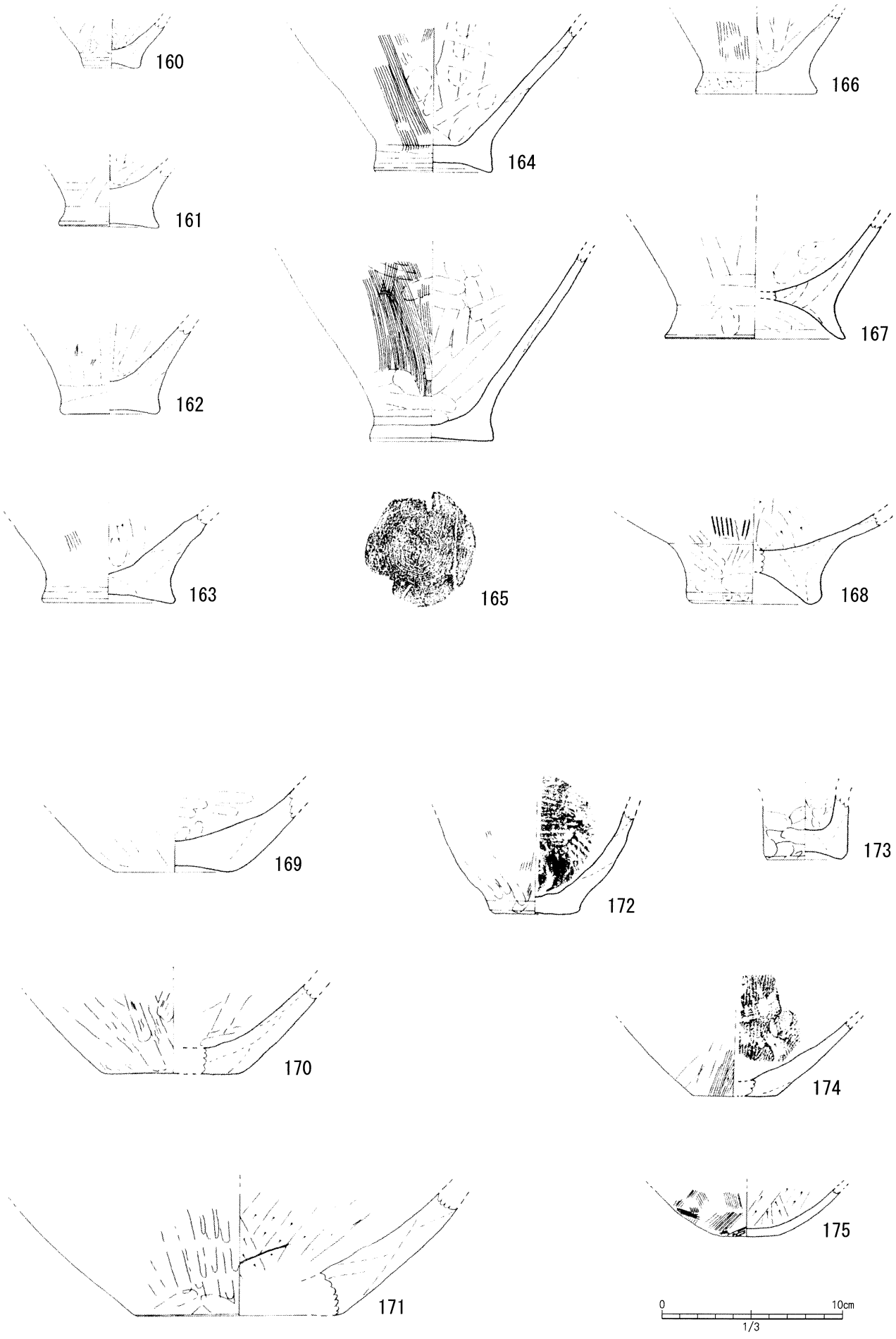
第66図 中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図 ③ －土器溜り－



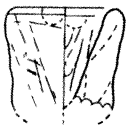
第67図 中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図 ④ －土器溜り－

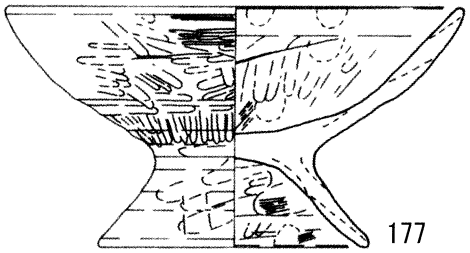


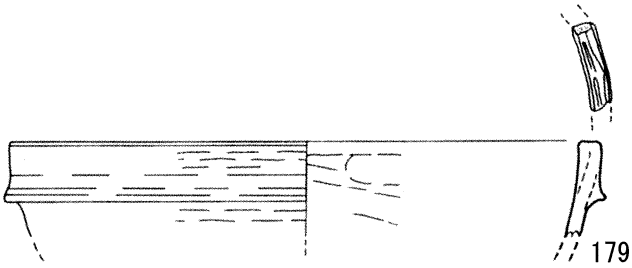
第68図 中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図 ⑤ －土器溜り－

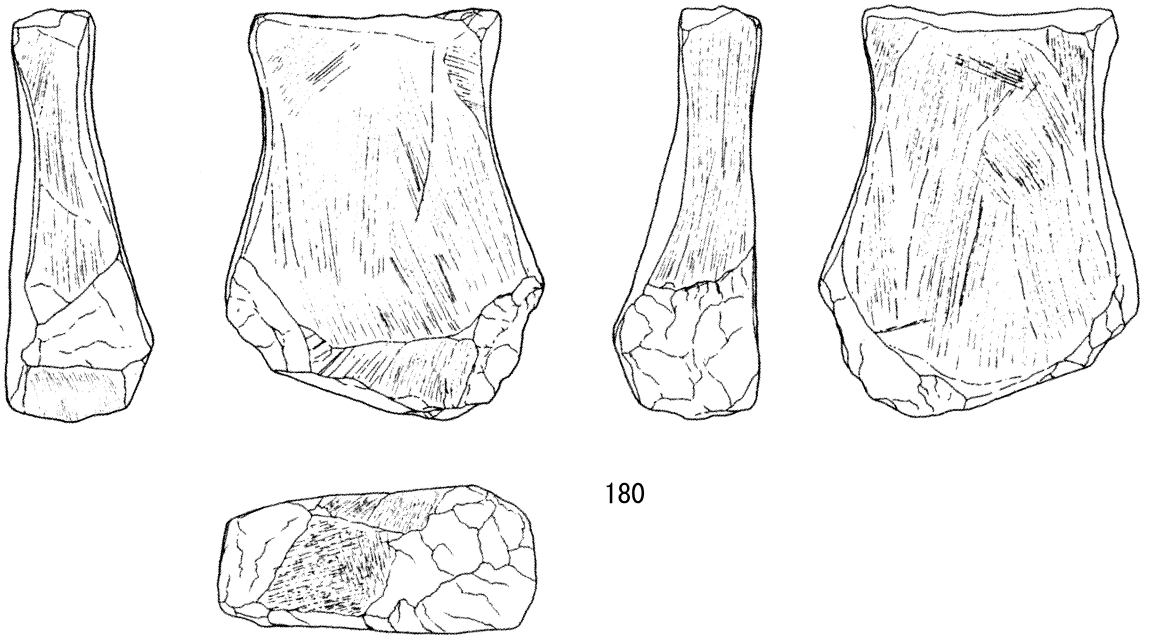


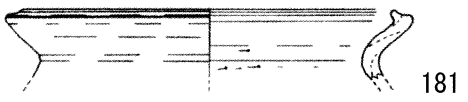
第69図 中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図 ⑥ －土器溜り－

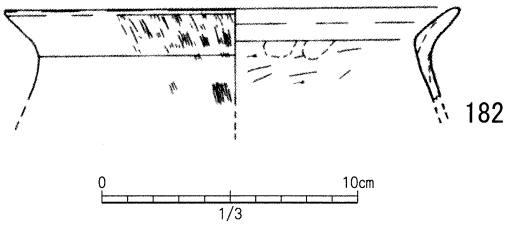


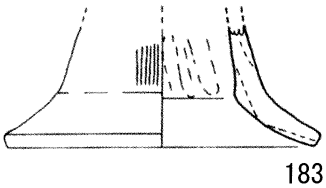


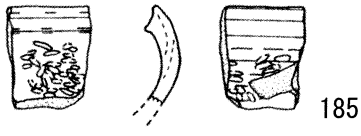




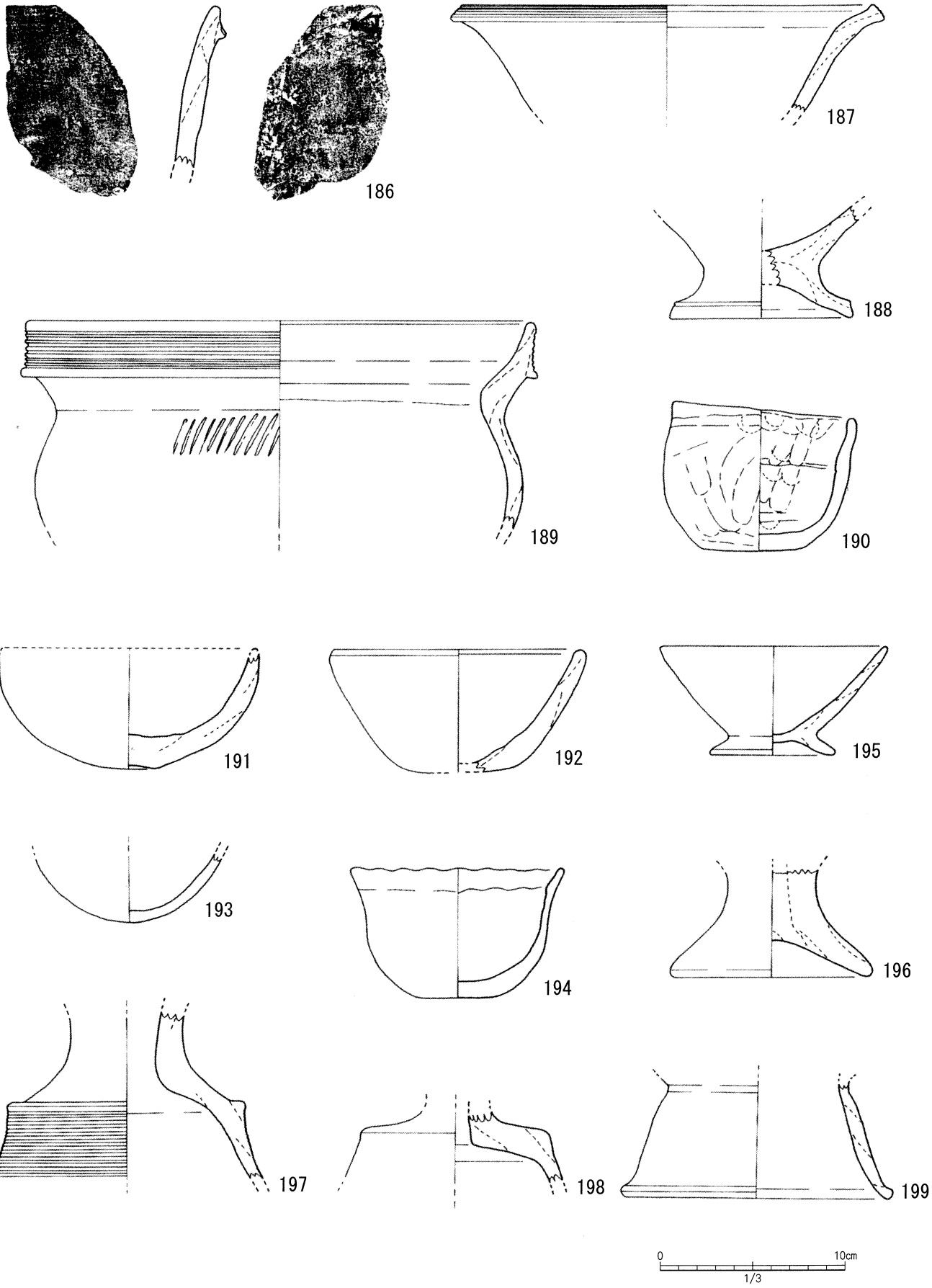




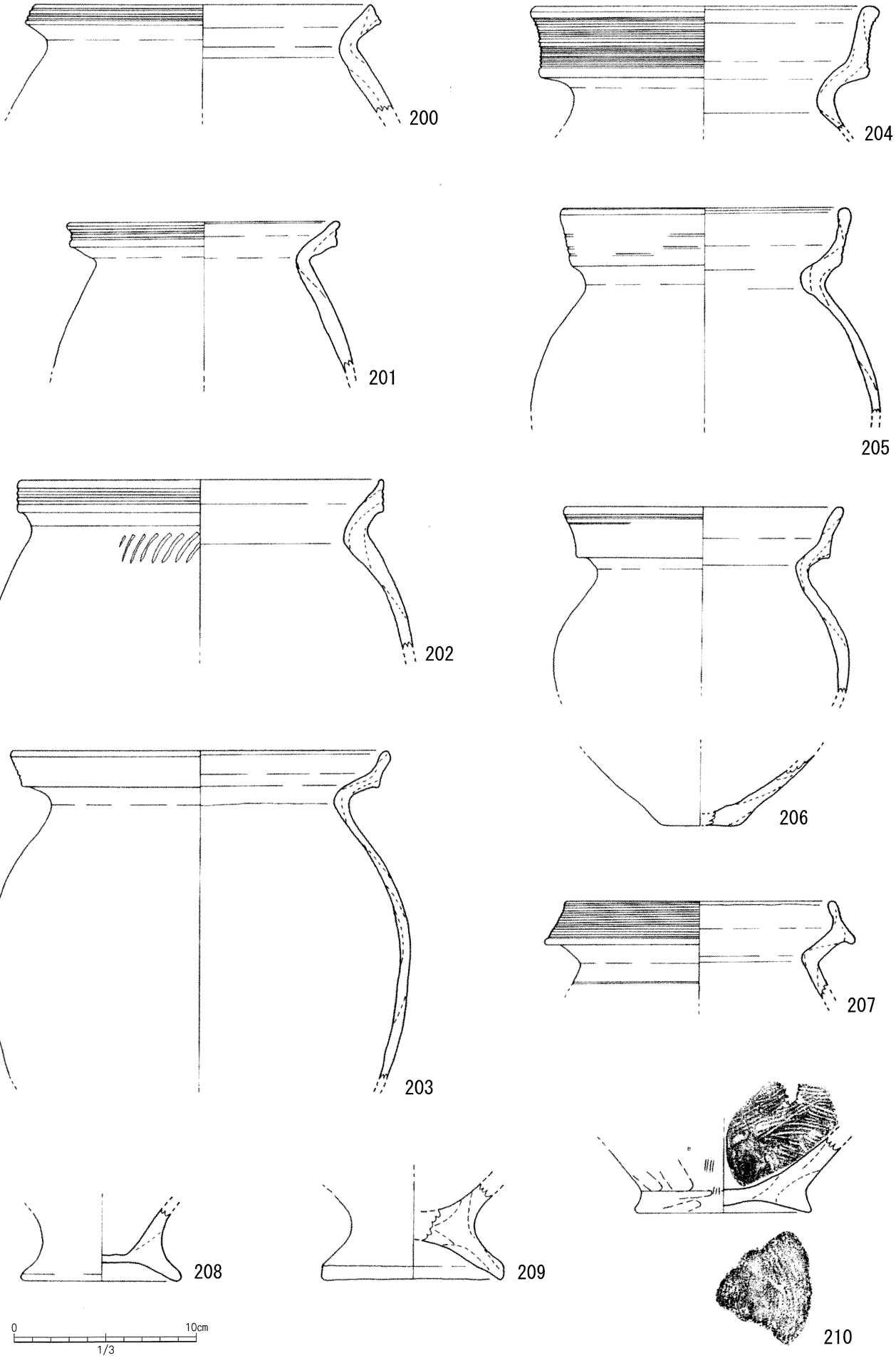




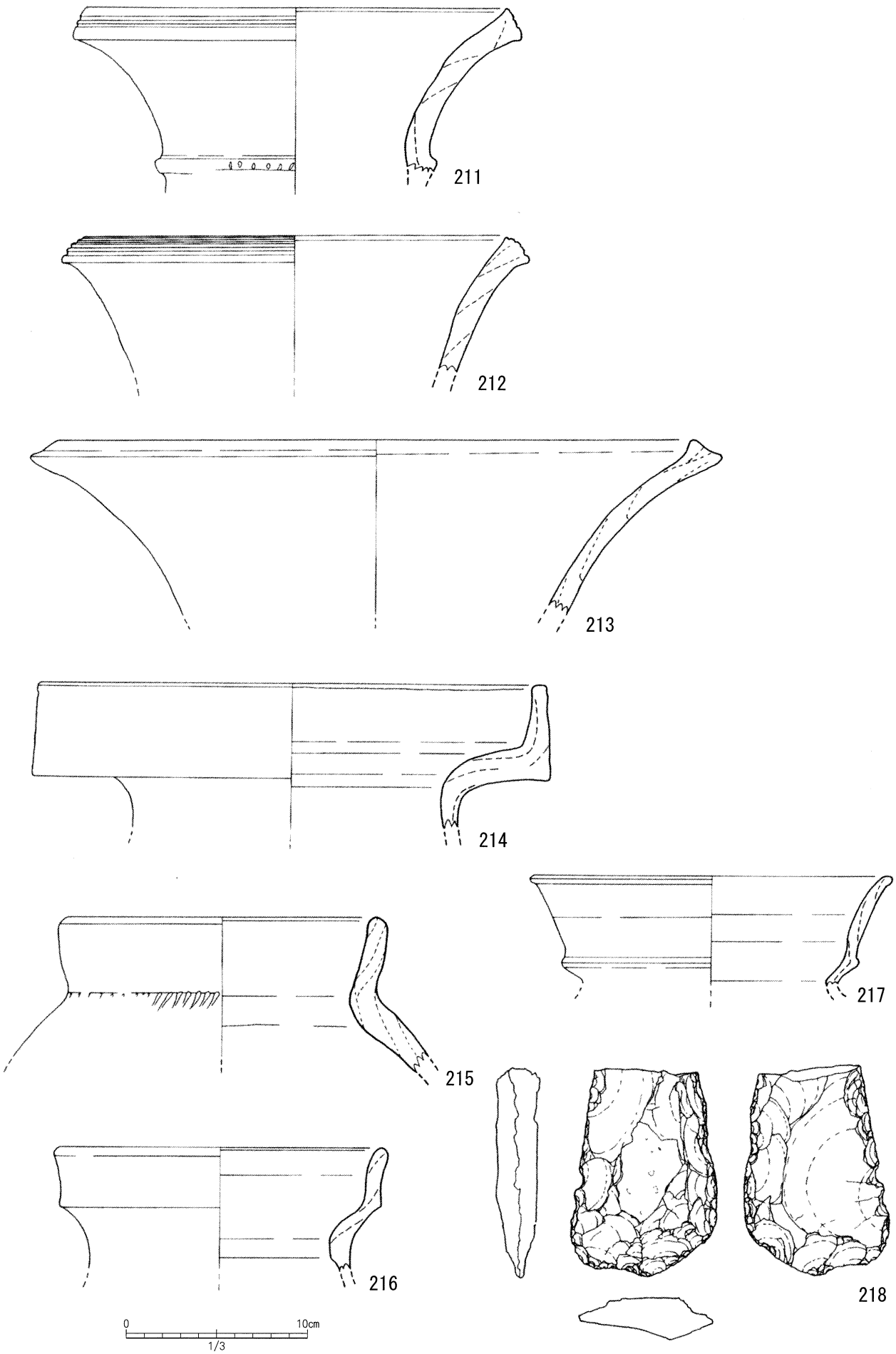
第70図 中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物実測図 ⑦ －土器溜り－



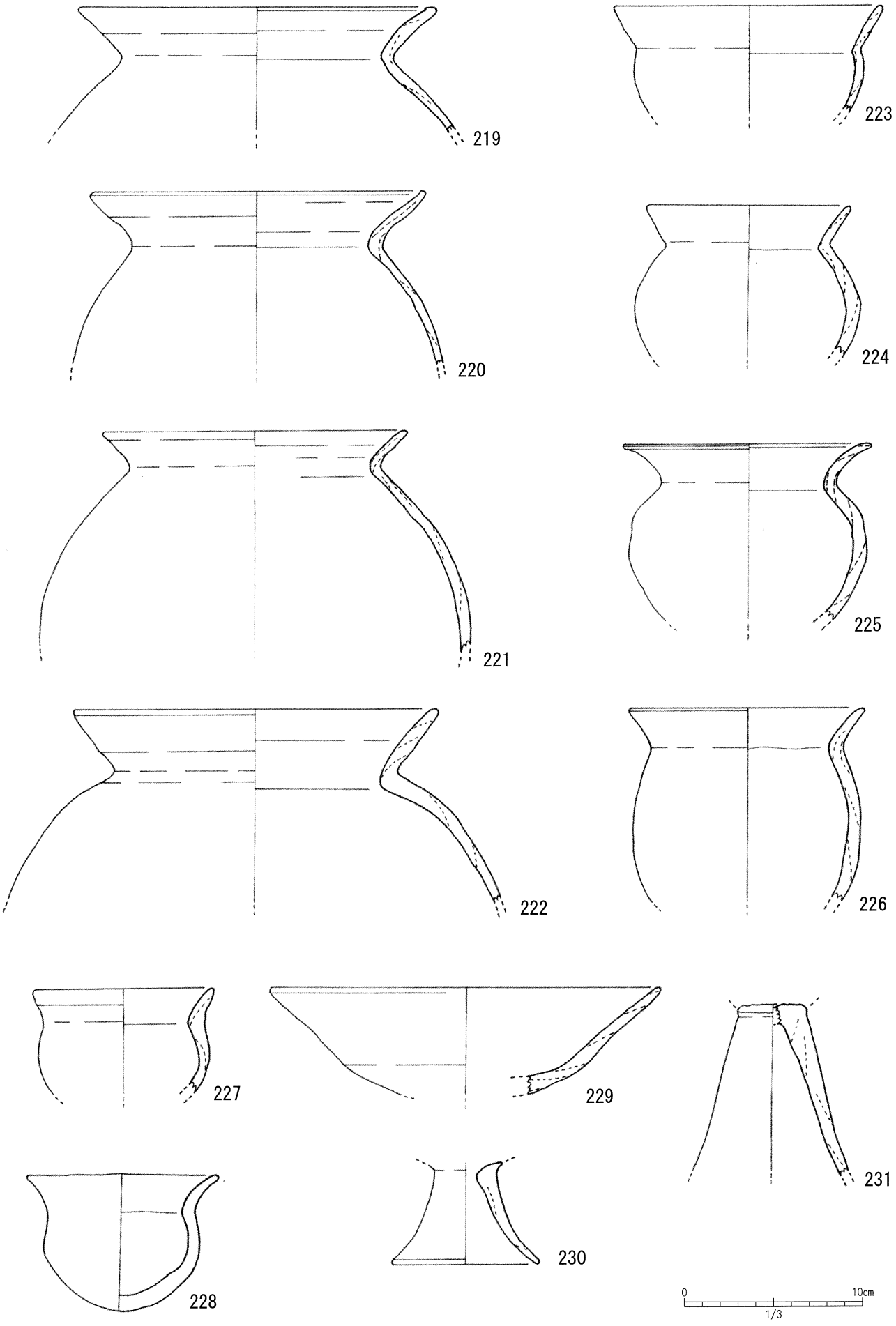
第71図 中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図 ①



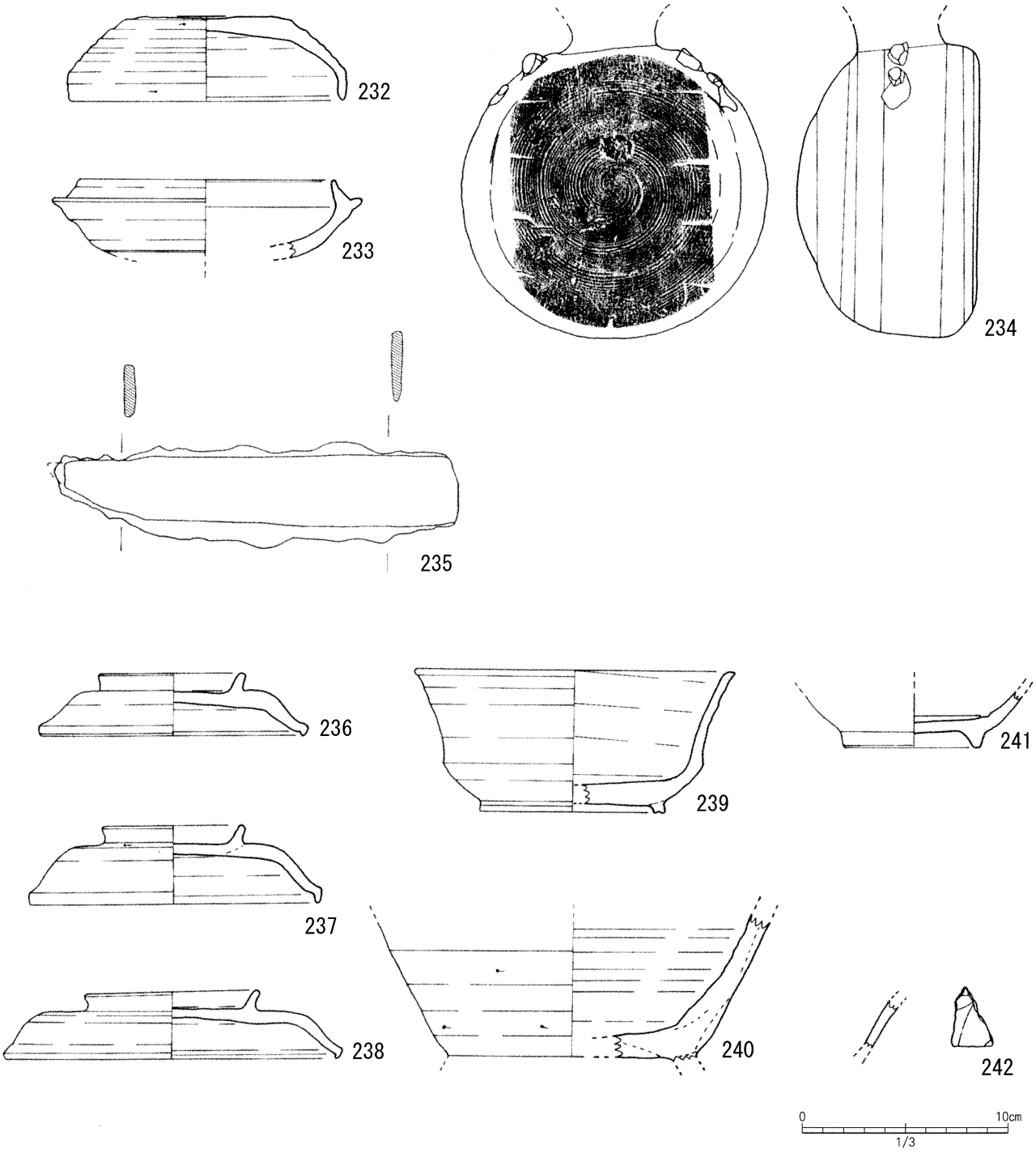
第72図 中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図 ②



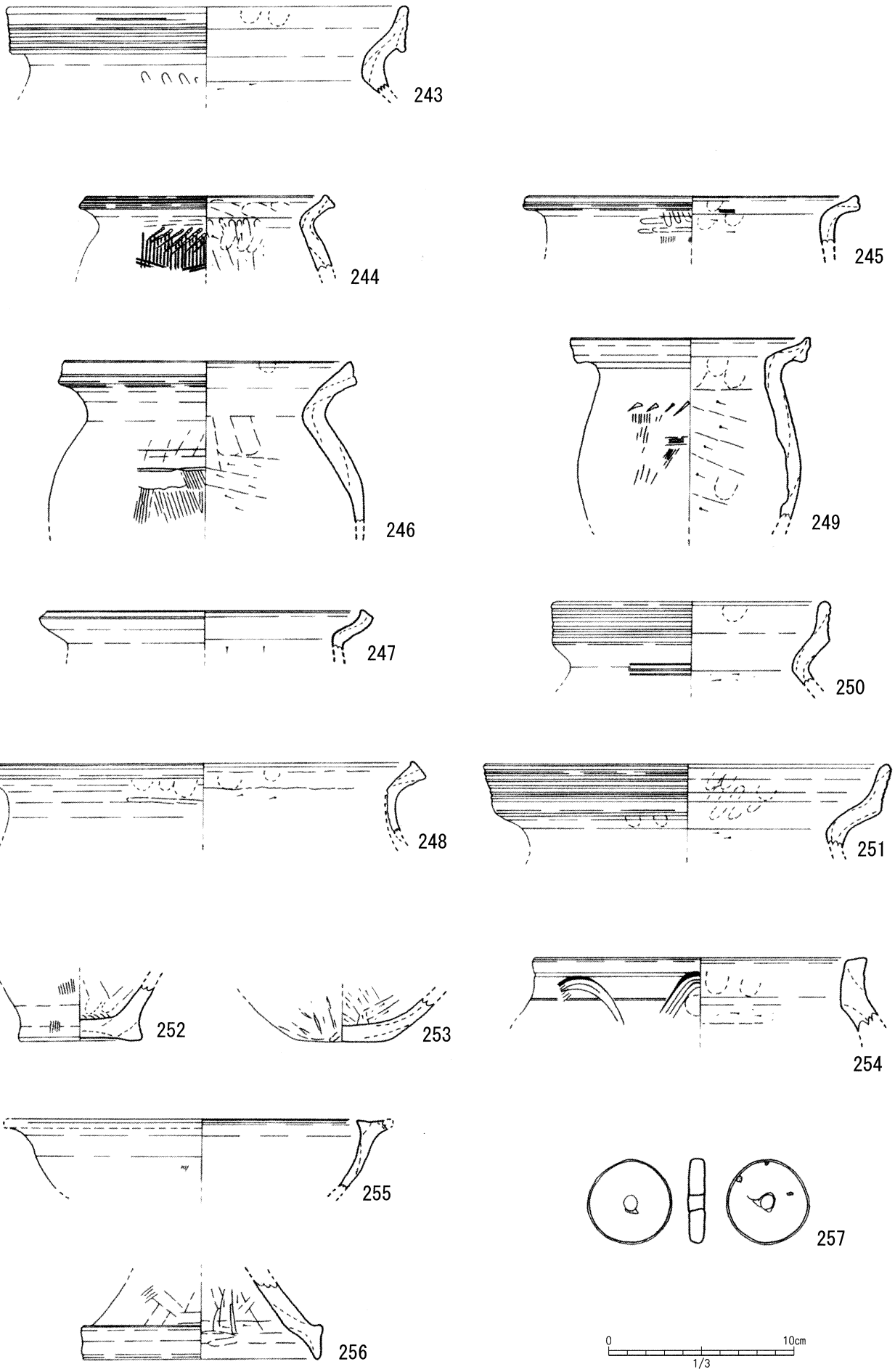
第73図　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図 ③



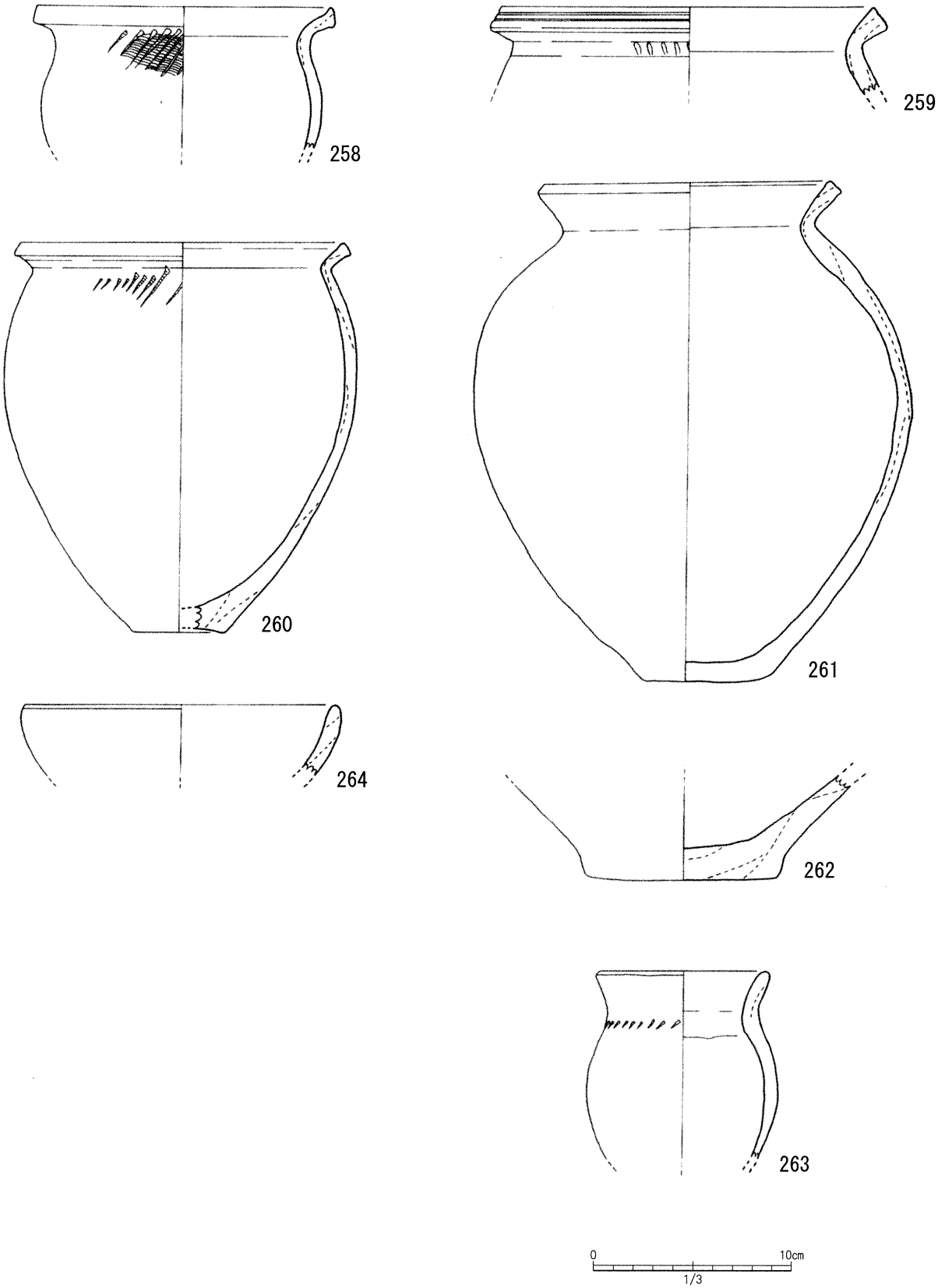
第74図　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図 ④



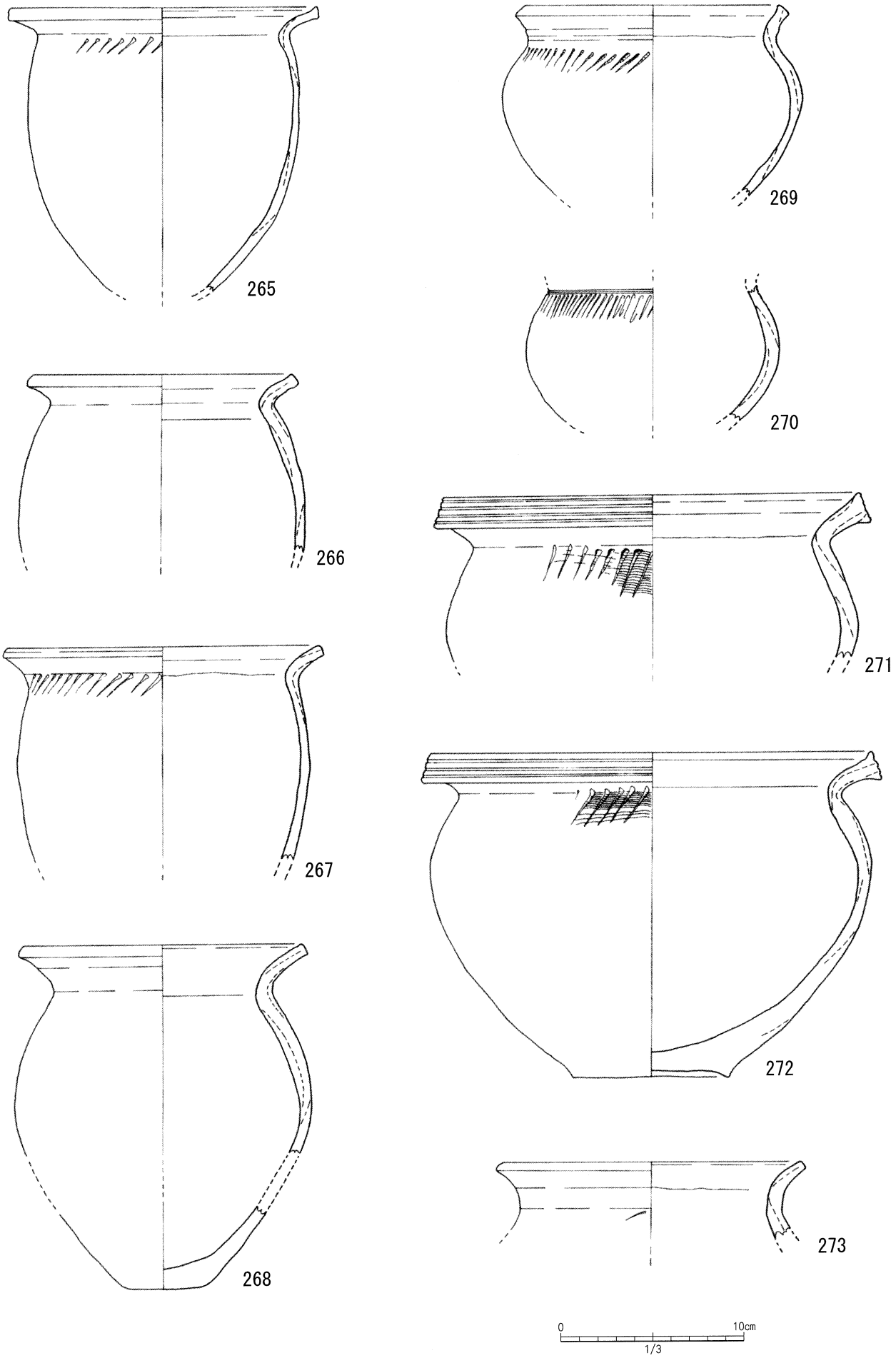
第75図 中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物実測図 ⑤



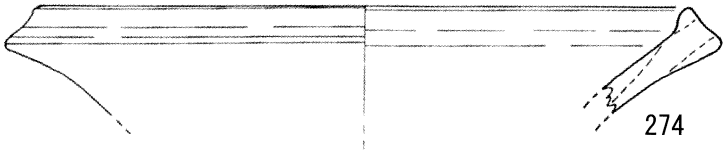
第76図 中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図 ① －SI01－

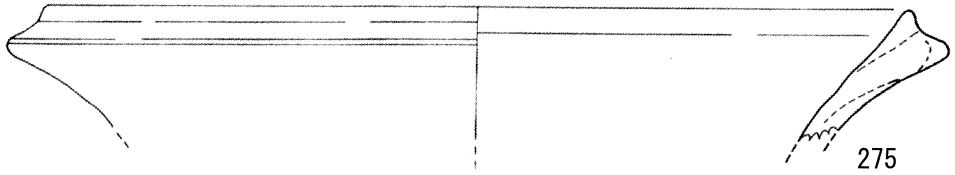


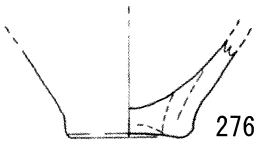
第77図 中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図 ② －SI02①－

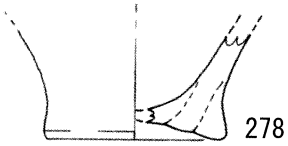


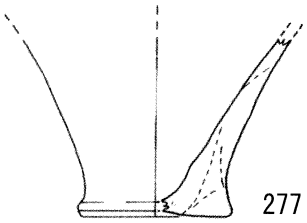
第78図 中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図 ③ －SI02②－

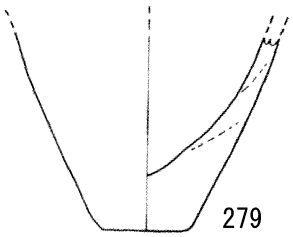


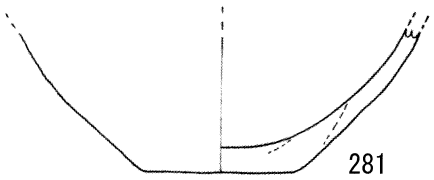


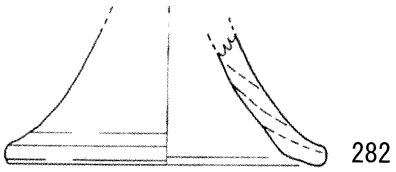


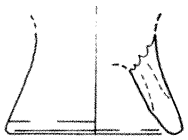


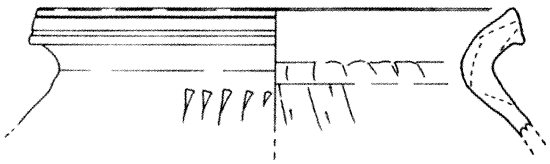


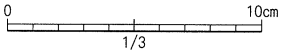




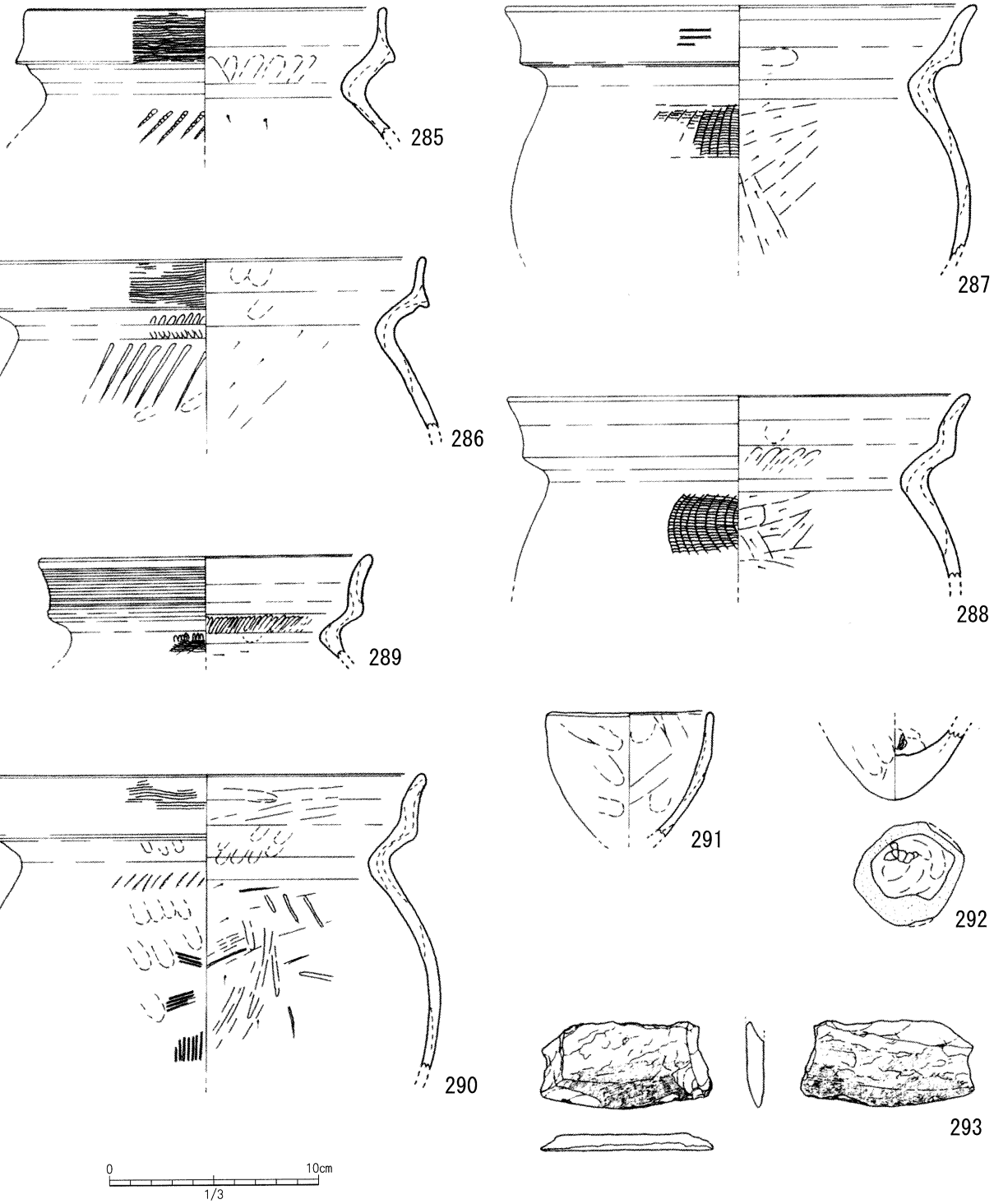




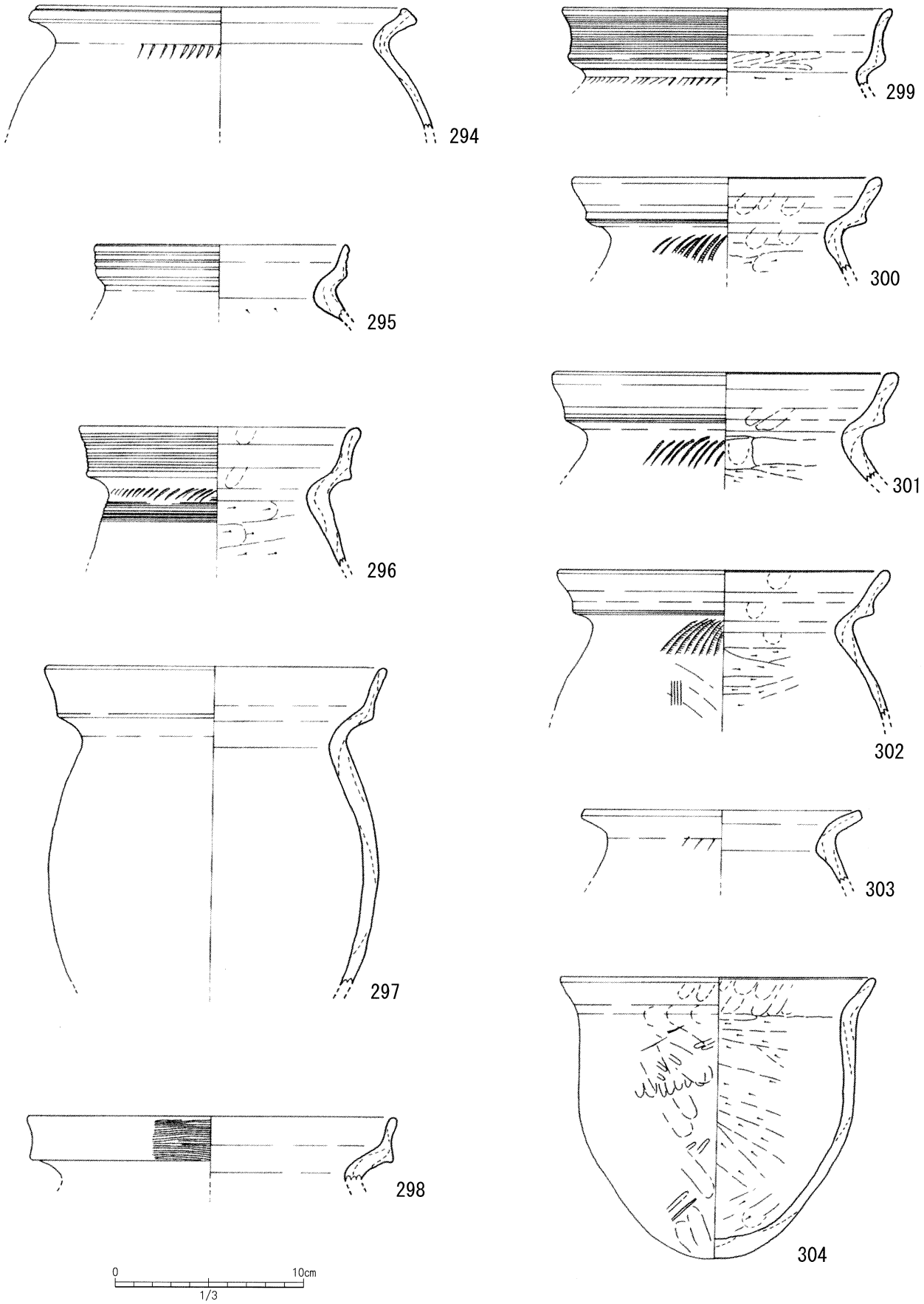




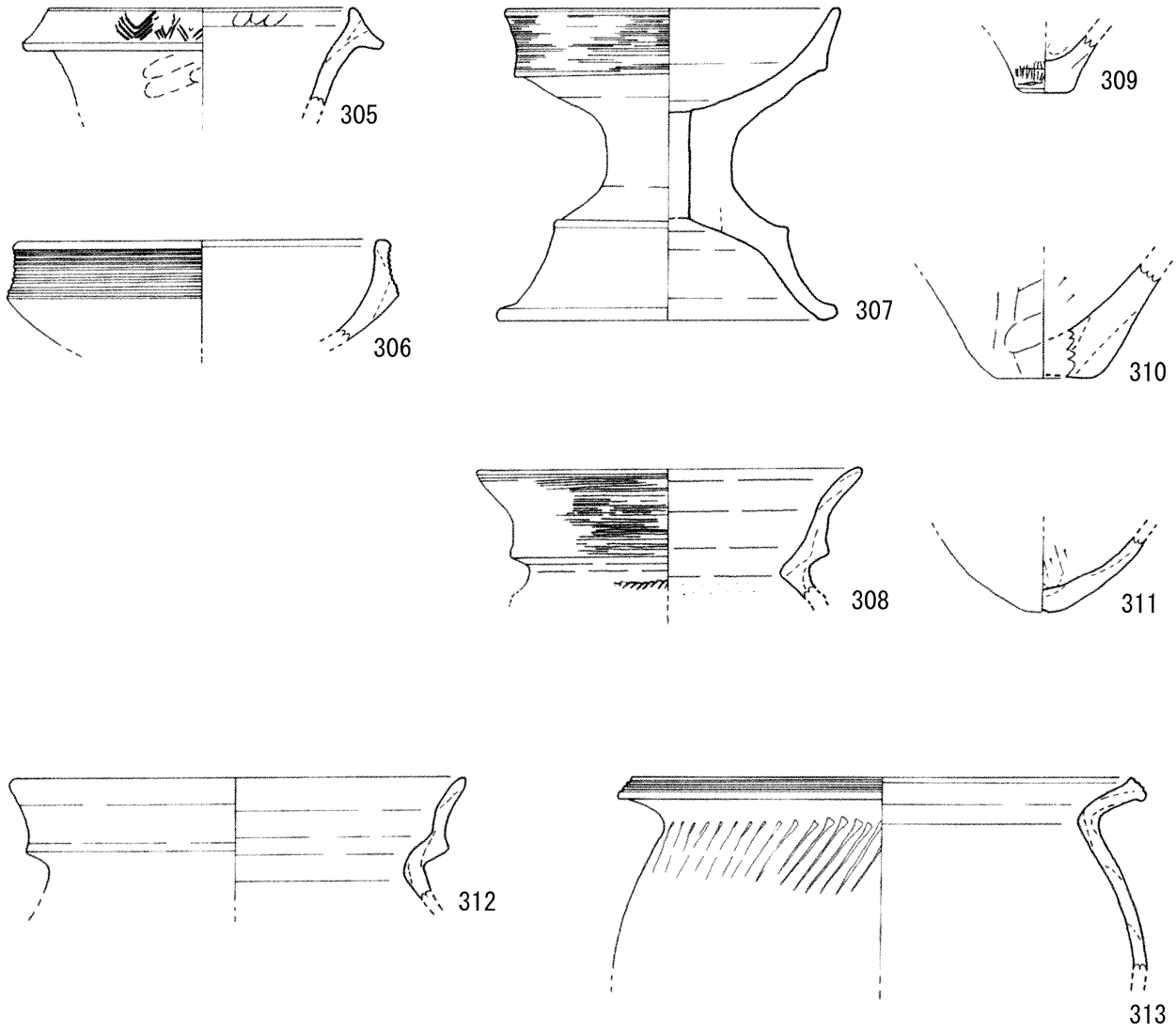
第79図 中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図 ④ －SI02③、SI03－



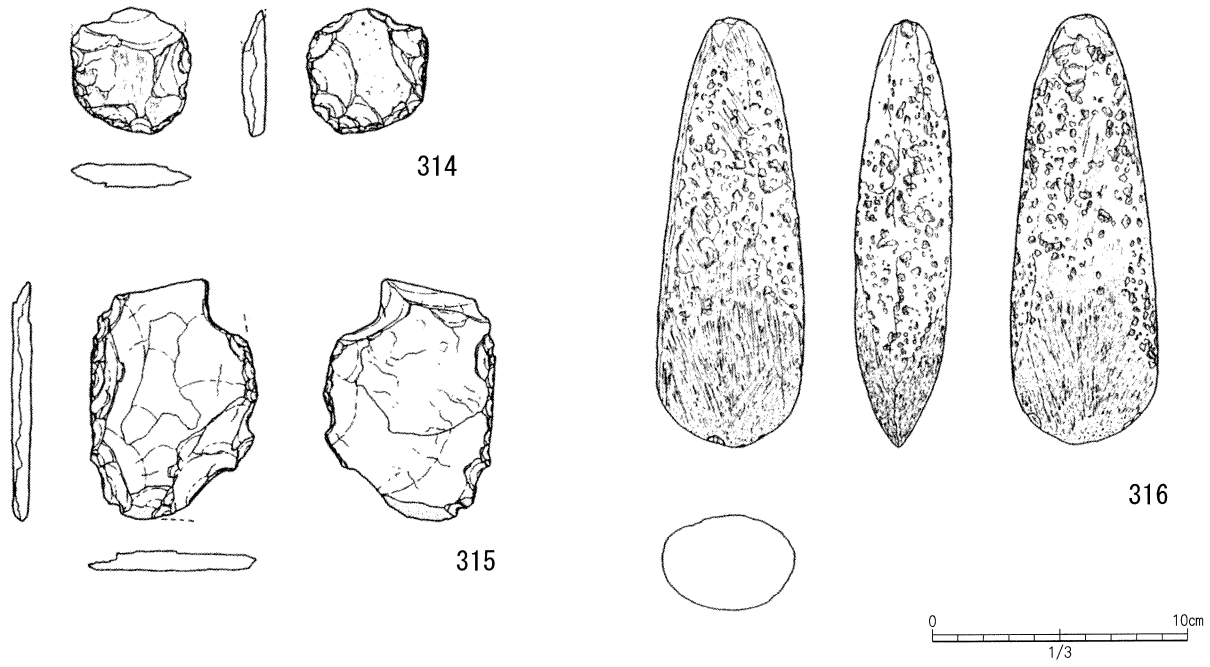
第80図 中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図 ⑤ －SI04①－



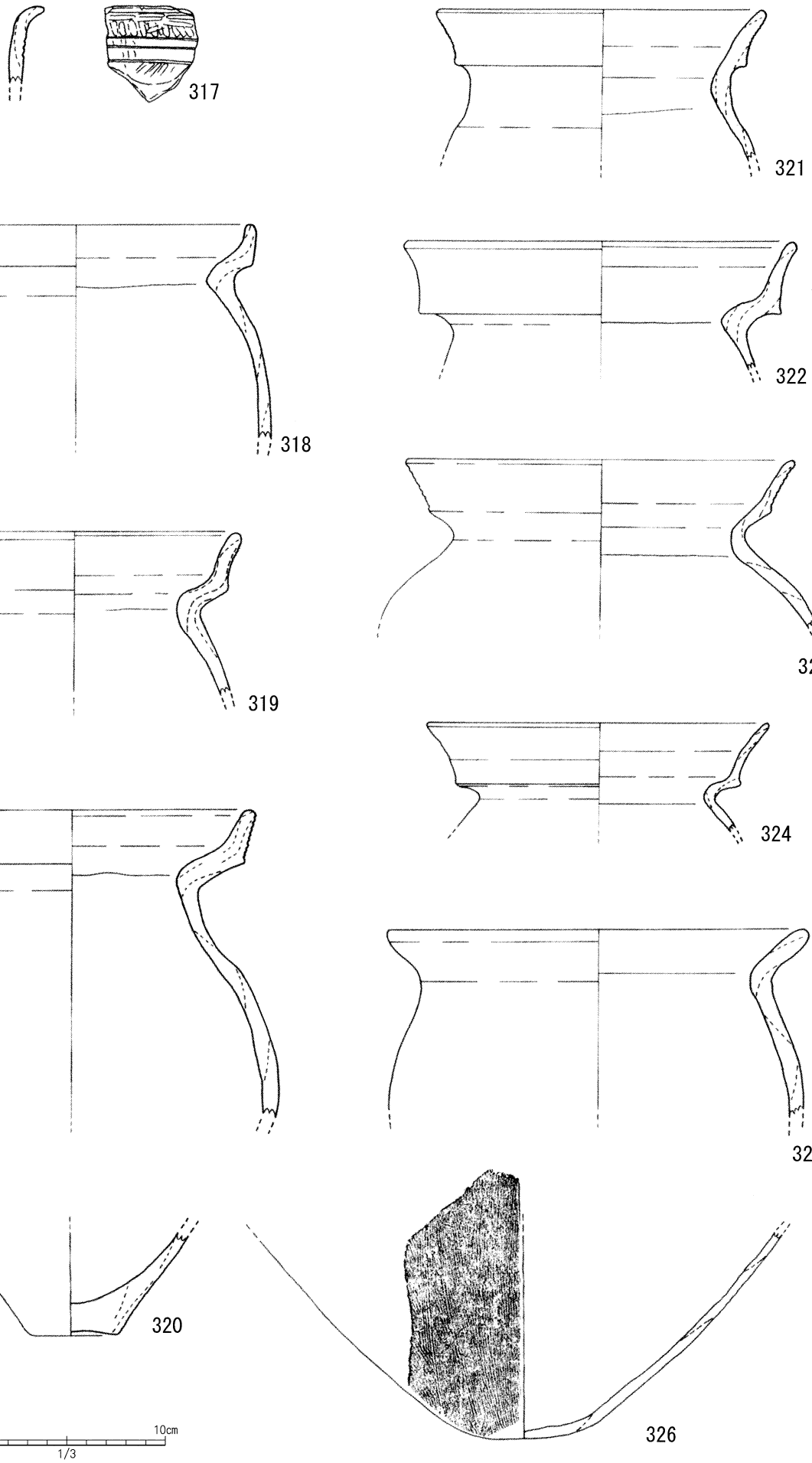
第81図 中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図 ⑥ －SI04②－



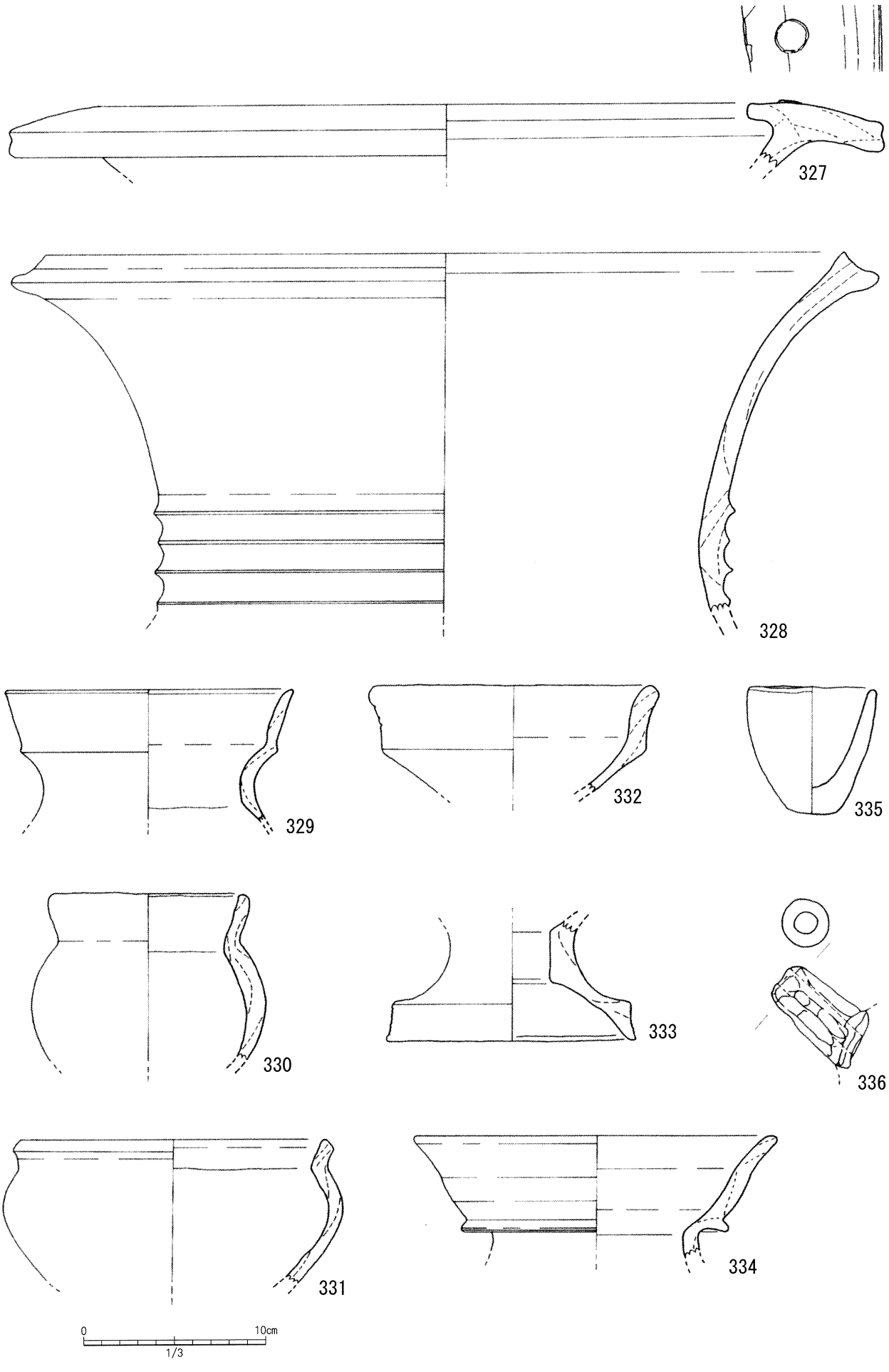
第82図 中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物実測図 ⑦ －SI04③、SI06、SI07－



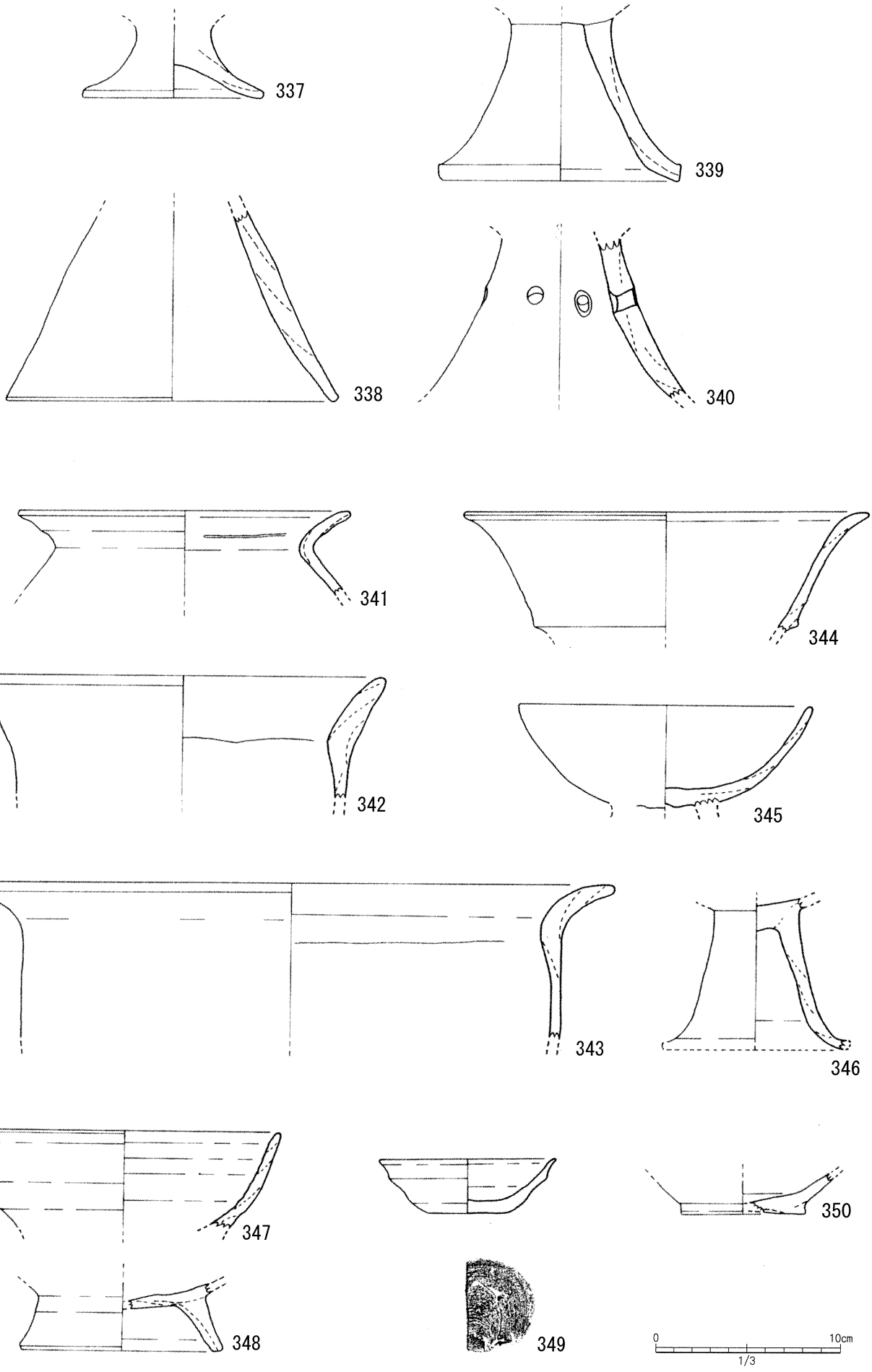
第83図 中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図 ①



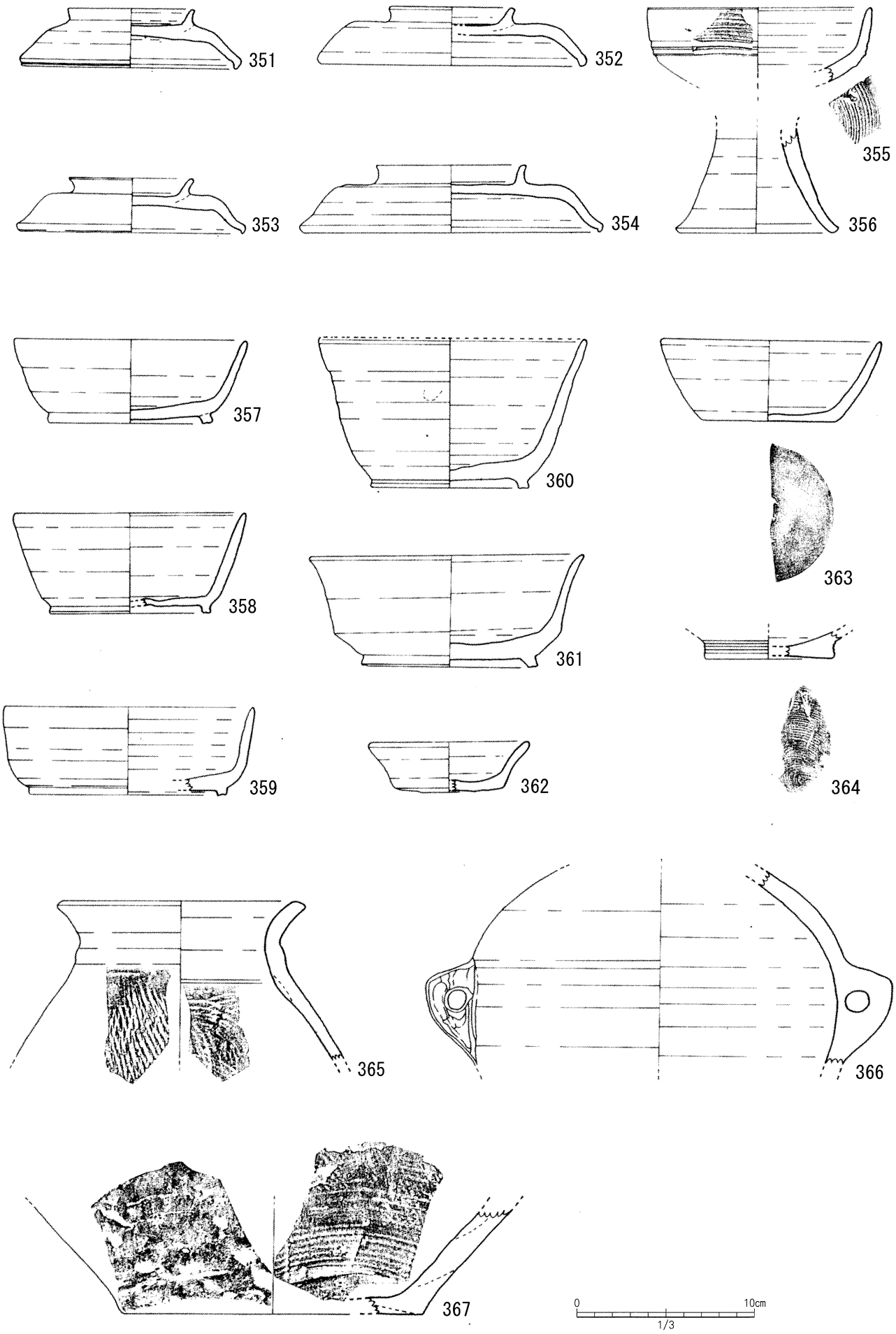
第84図 中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図 ②



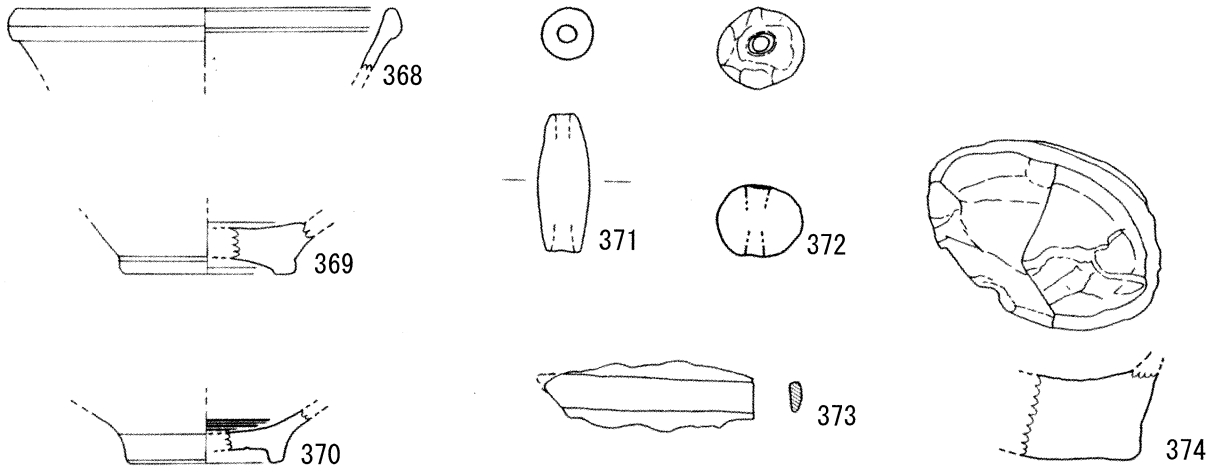
第85図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図 ②



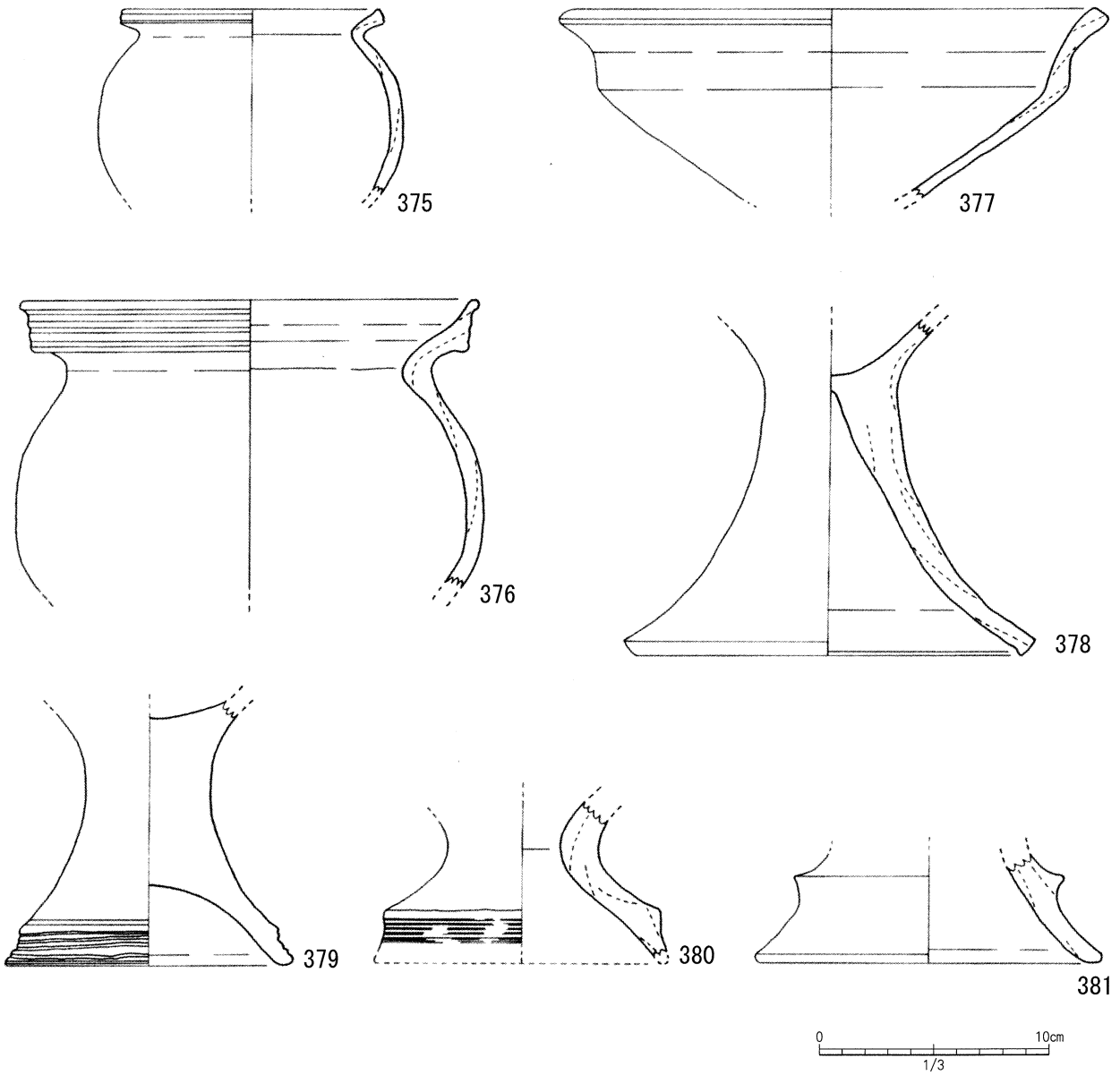
第86図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図 ④



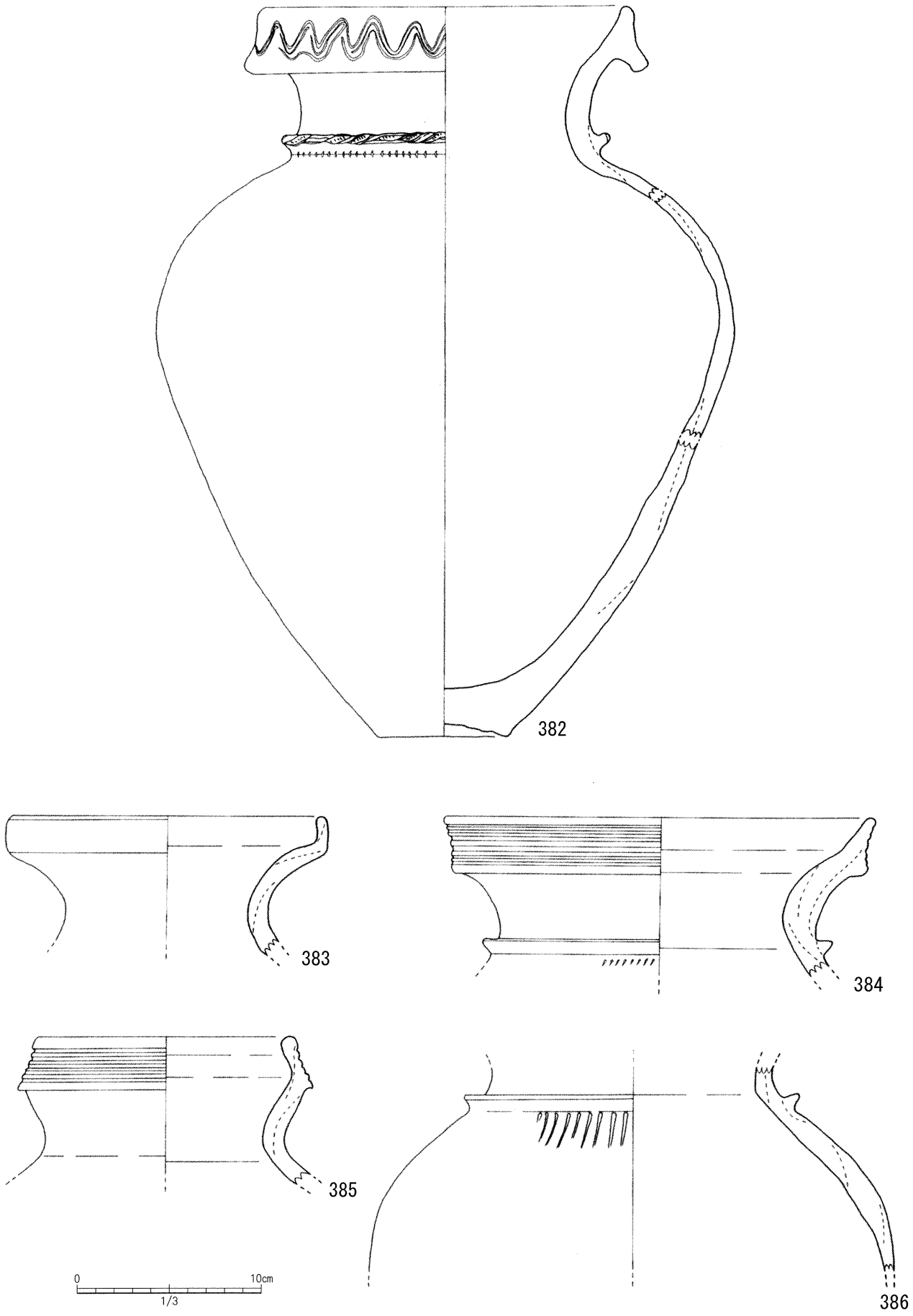
第87図　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図 ⑤



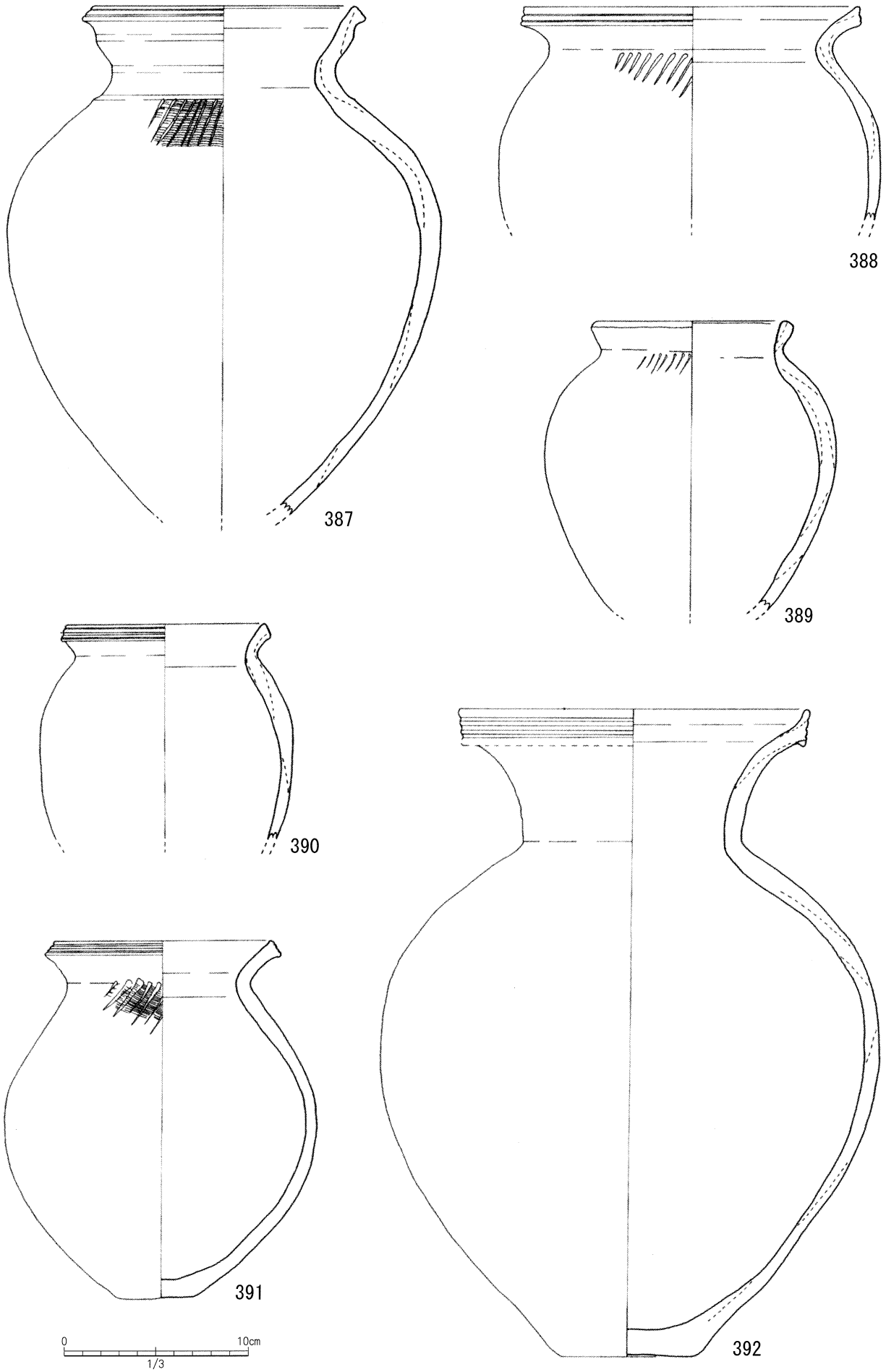
第88図 中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物実測図 ⑥



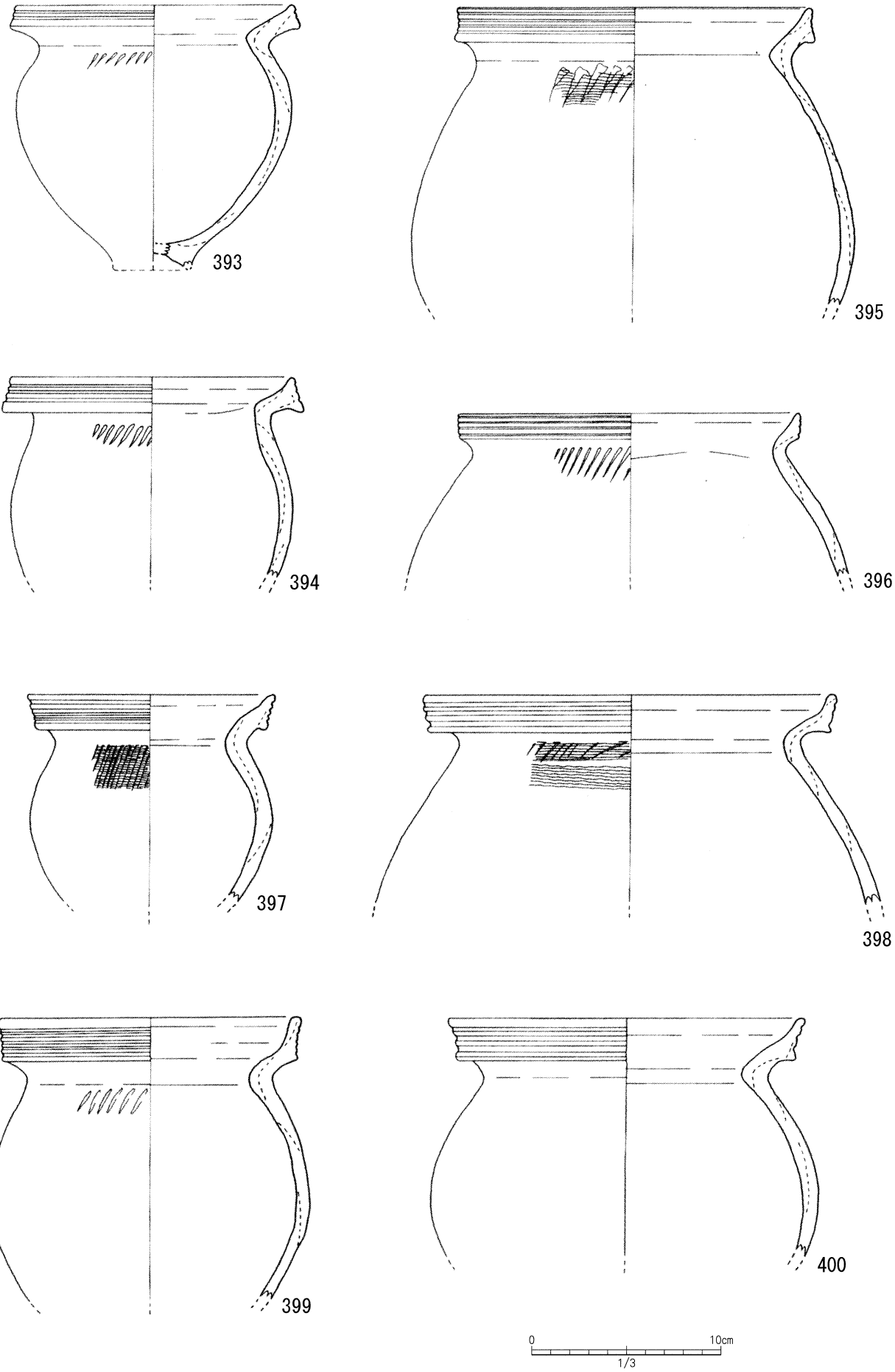
第89図 中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図 ① －溝状遺構－



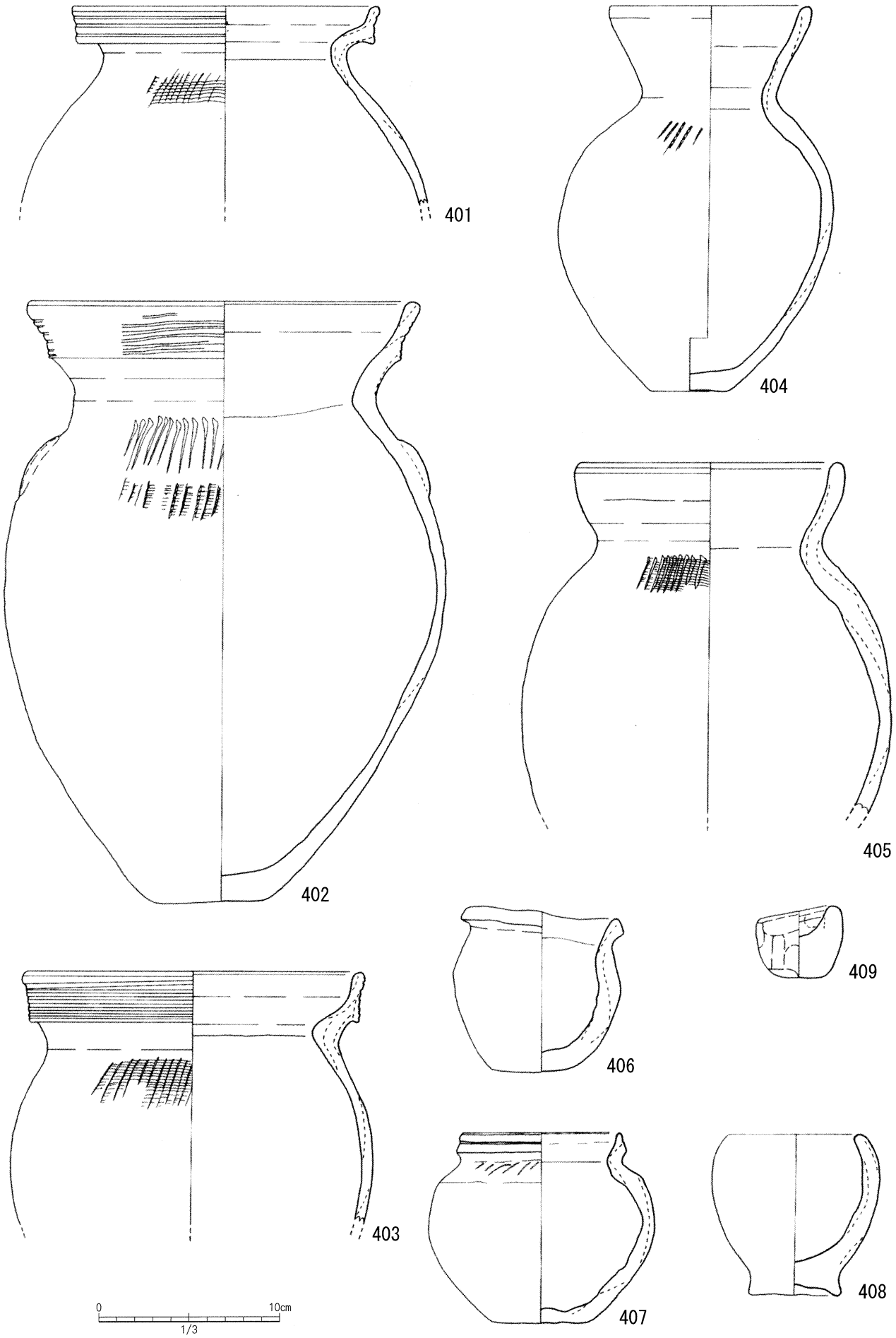
第90図 中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図 ② －溝状遺構－



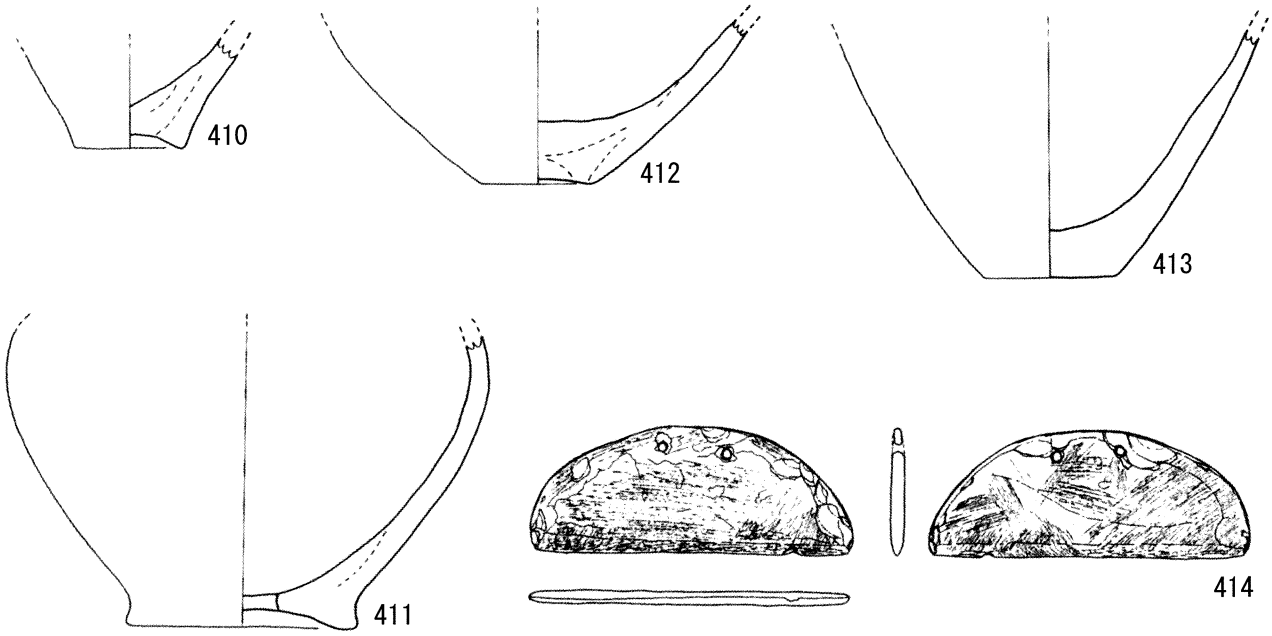
第91図　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図 ③ －溝状遺構－



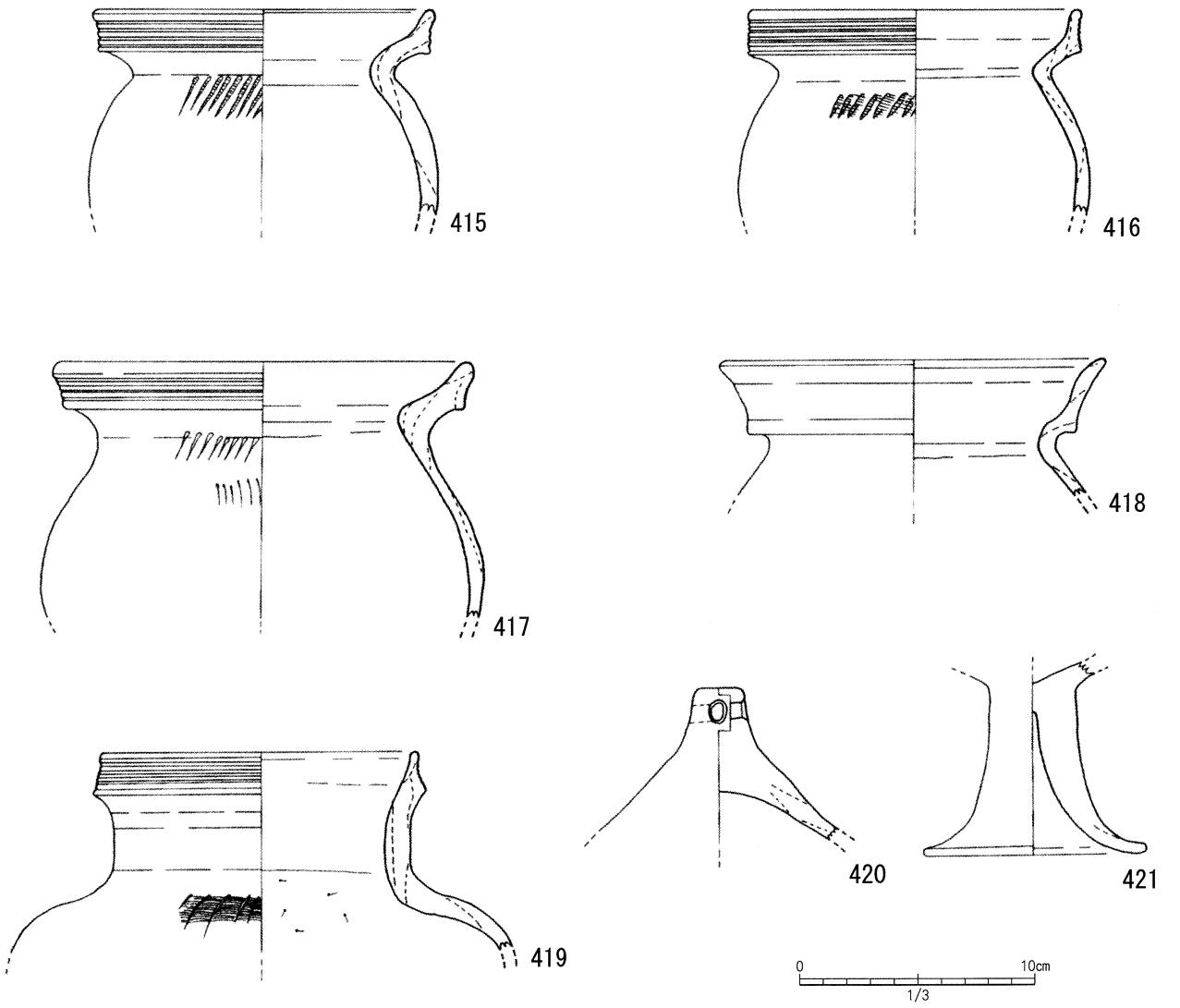
第92図 中小路遺跡C区遺構出土遺物実測図 ④ －溝状遺構－



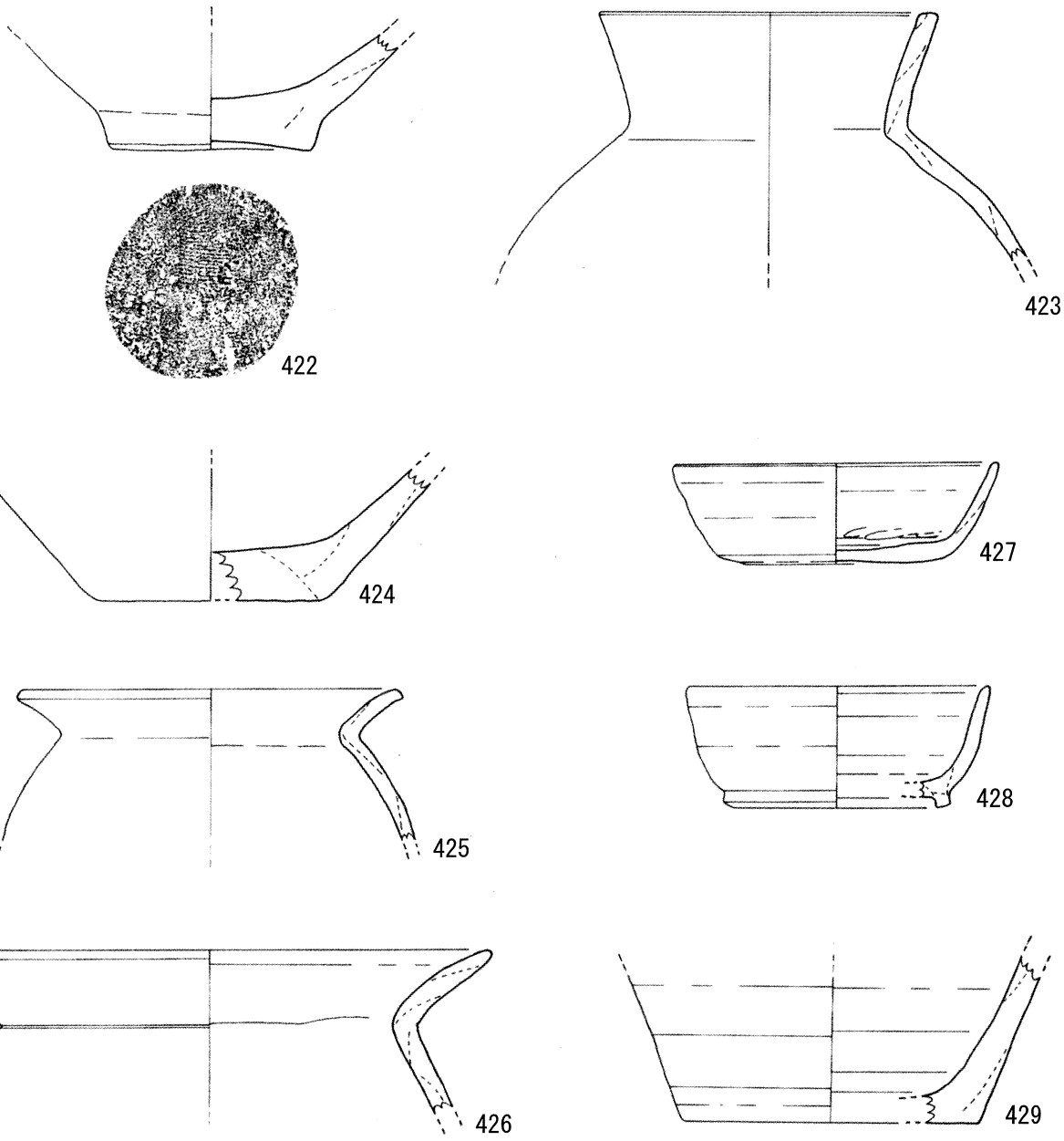
第93図　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図 ⑤ －溝状遺構－



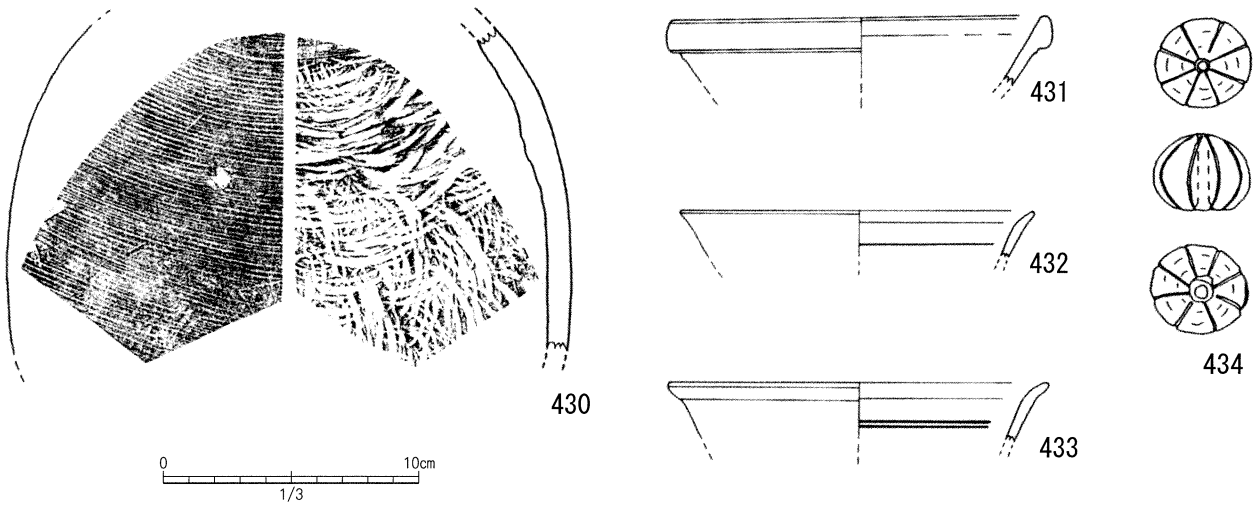
第94図 中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物実測図 ⑥ －溝状遺構－



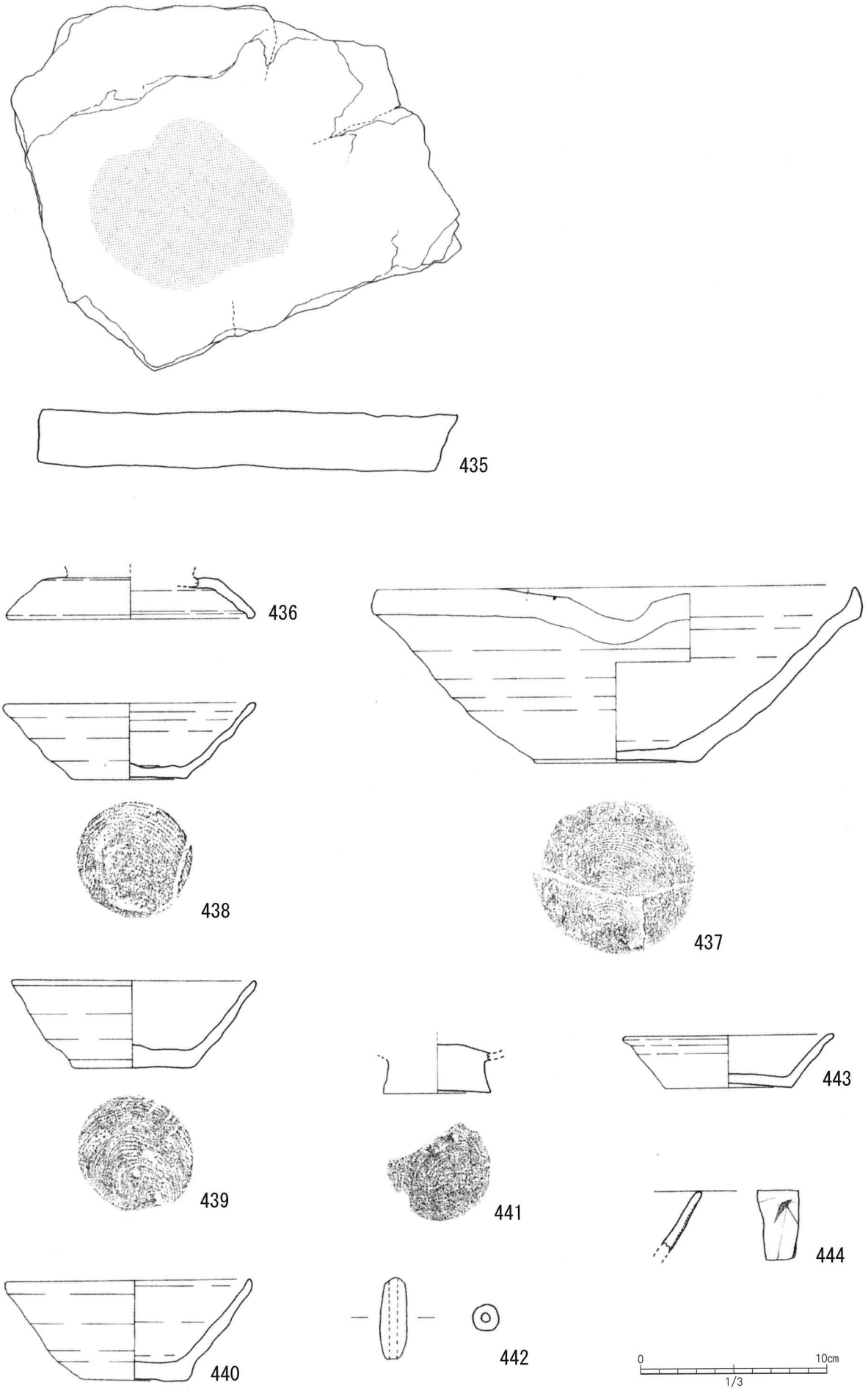
第95図 中小路遺跡Ｃ区遺構外出土遺物実測図 ①



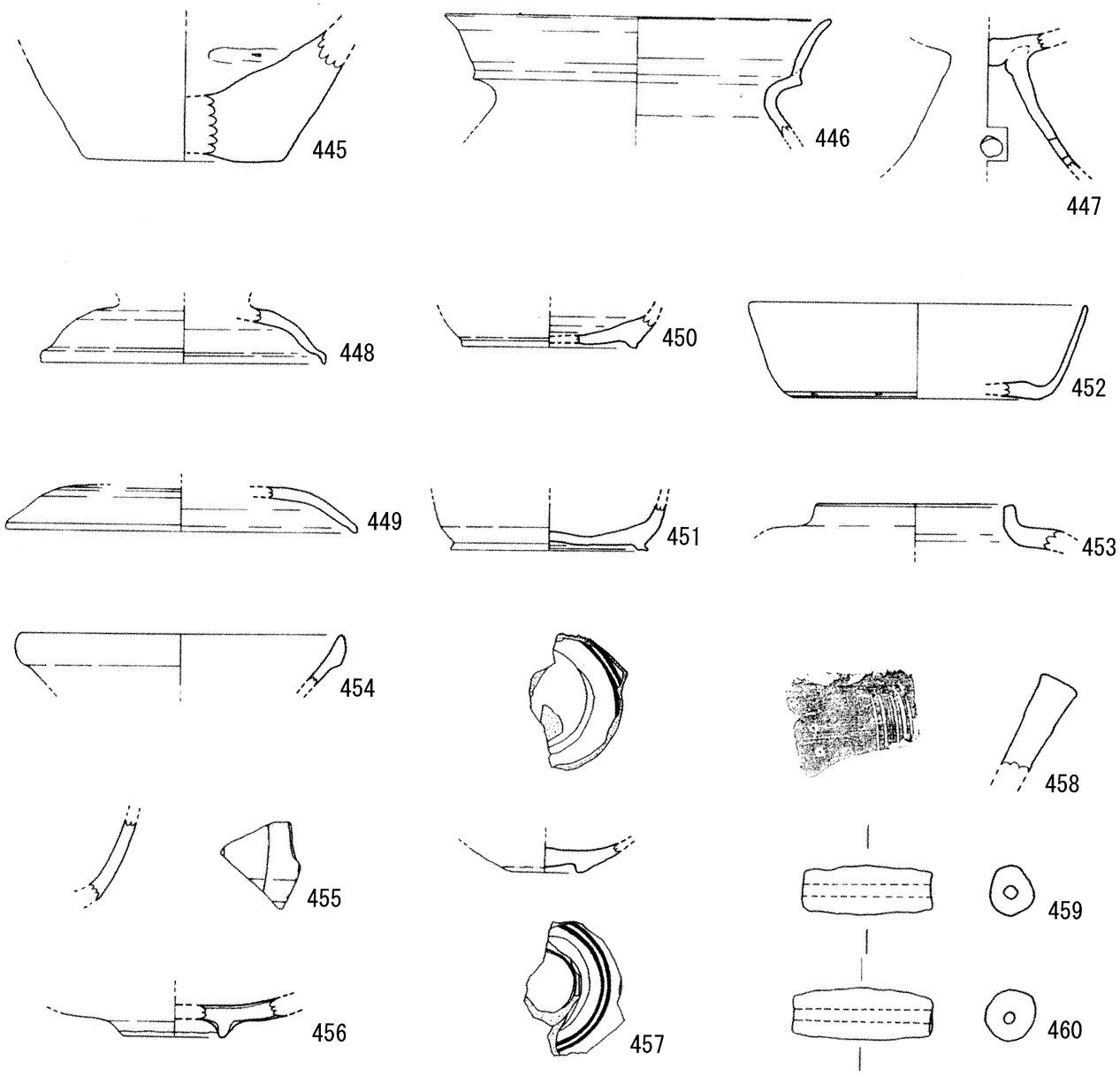
第96図　中小路遺跡Ｃ区遺構外出土遺物実測図 ②



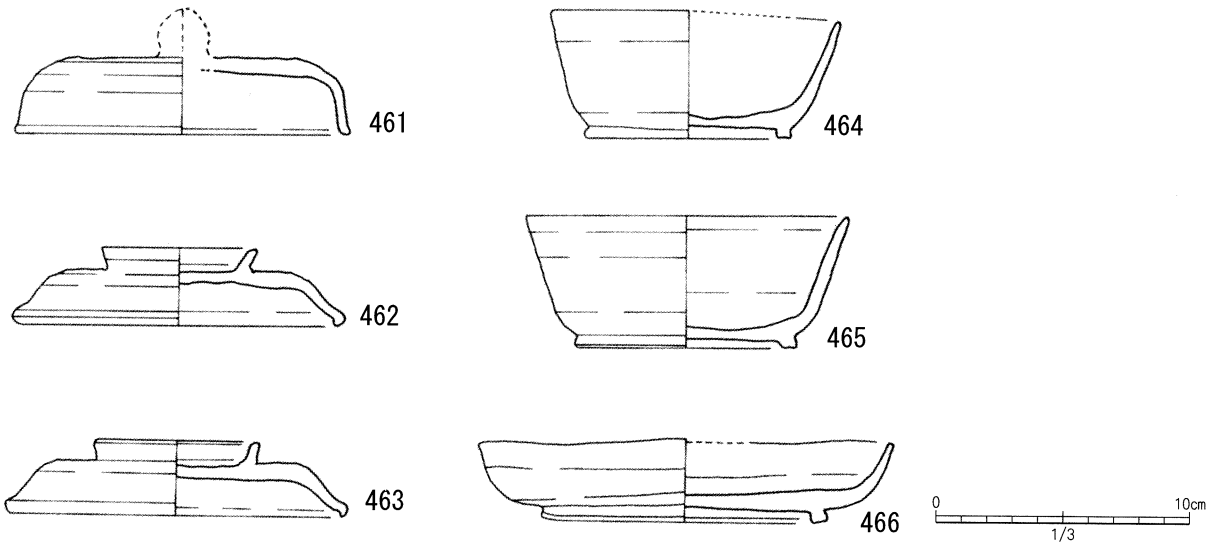
第97図　中小路遺跡Ｄ区遺構外出土遺物実測図



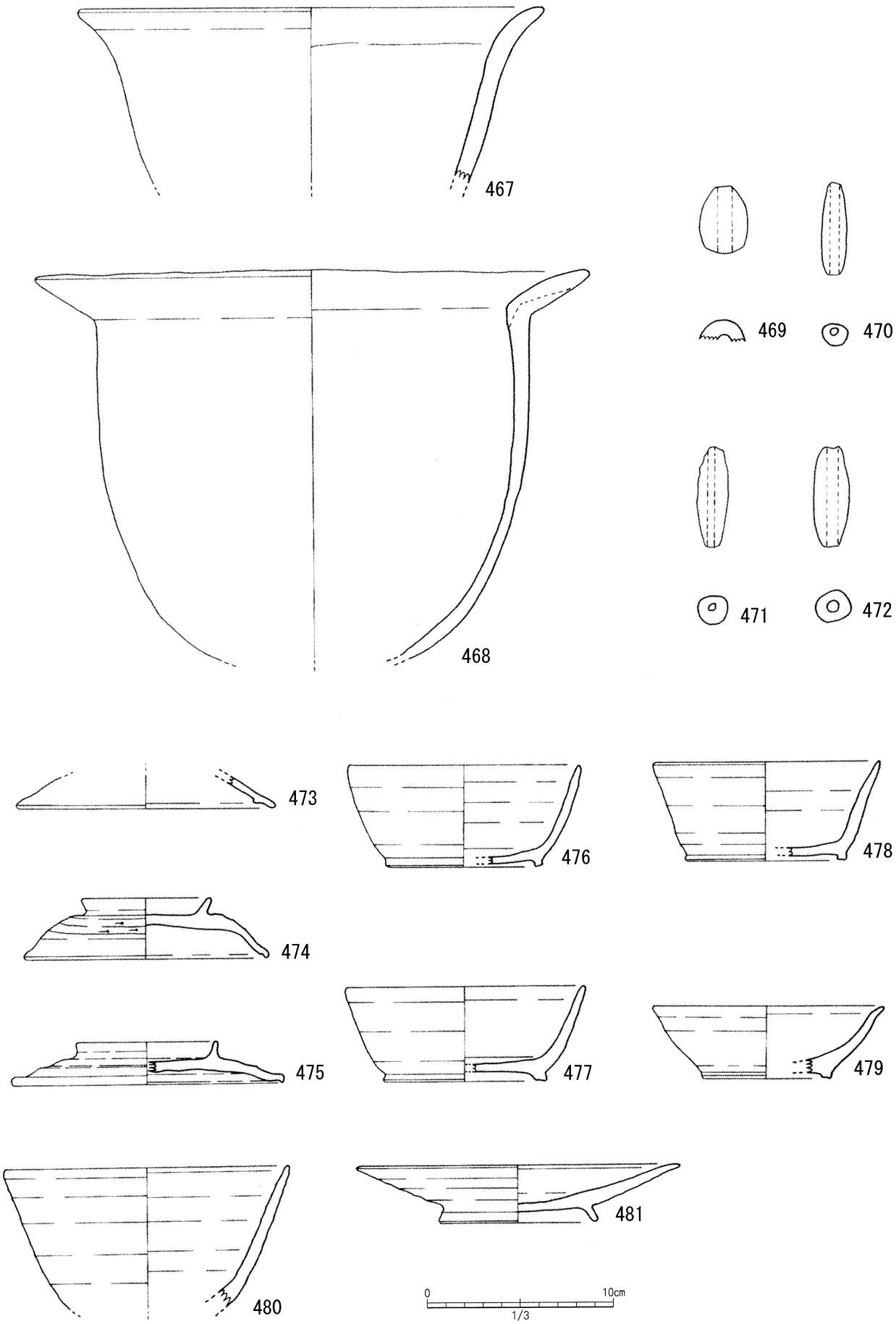
第98図 中小路遺跡Ｅ区遺構出土遺物実測図 －SKE2、SKE6－



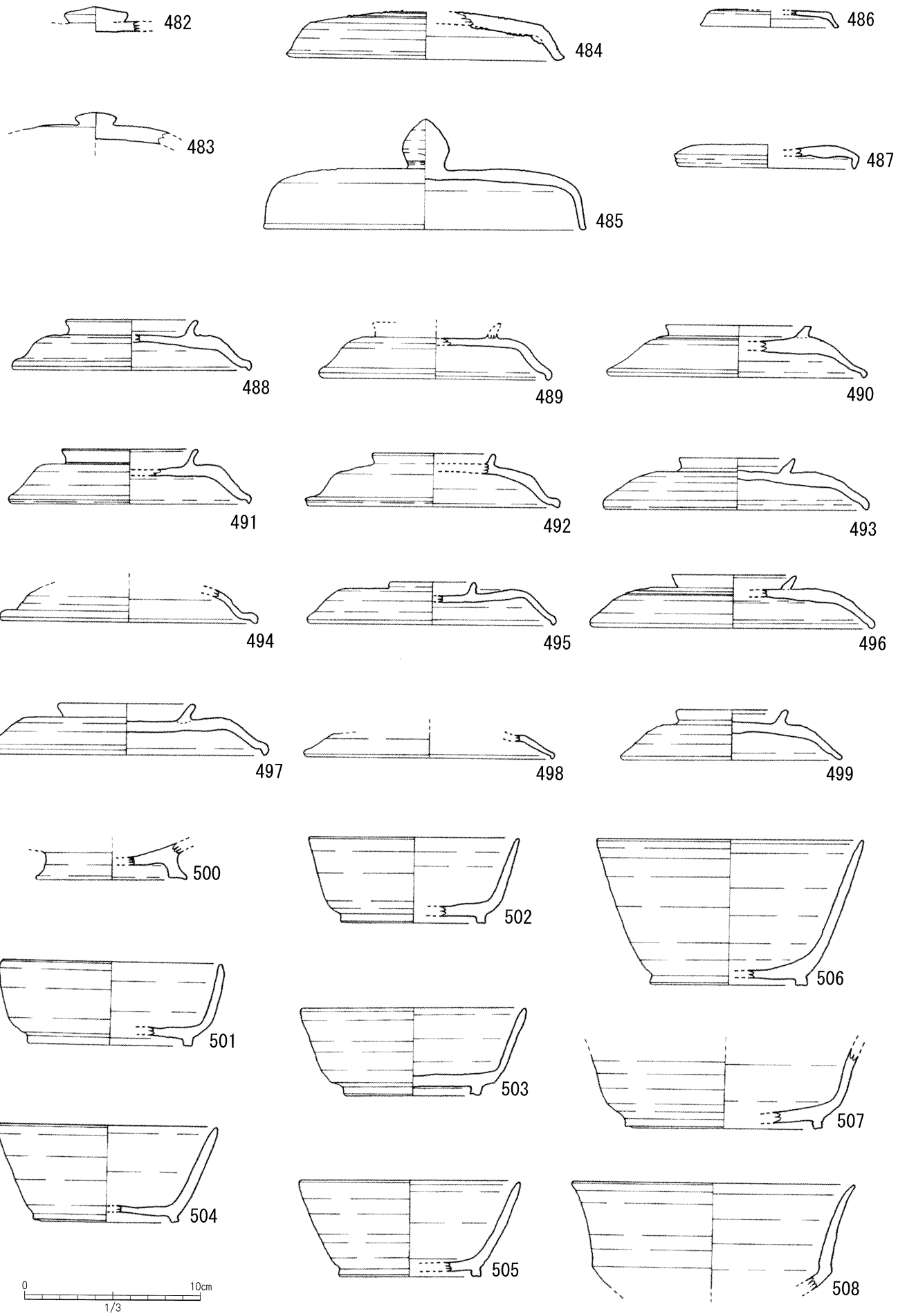
第99図　中小路遺跡Ｅ区遺構外出土遺物実測図



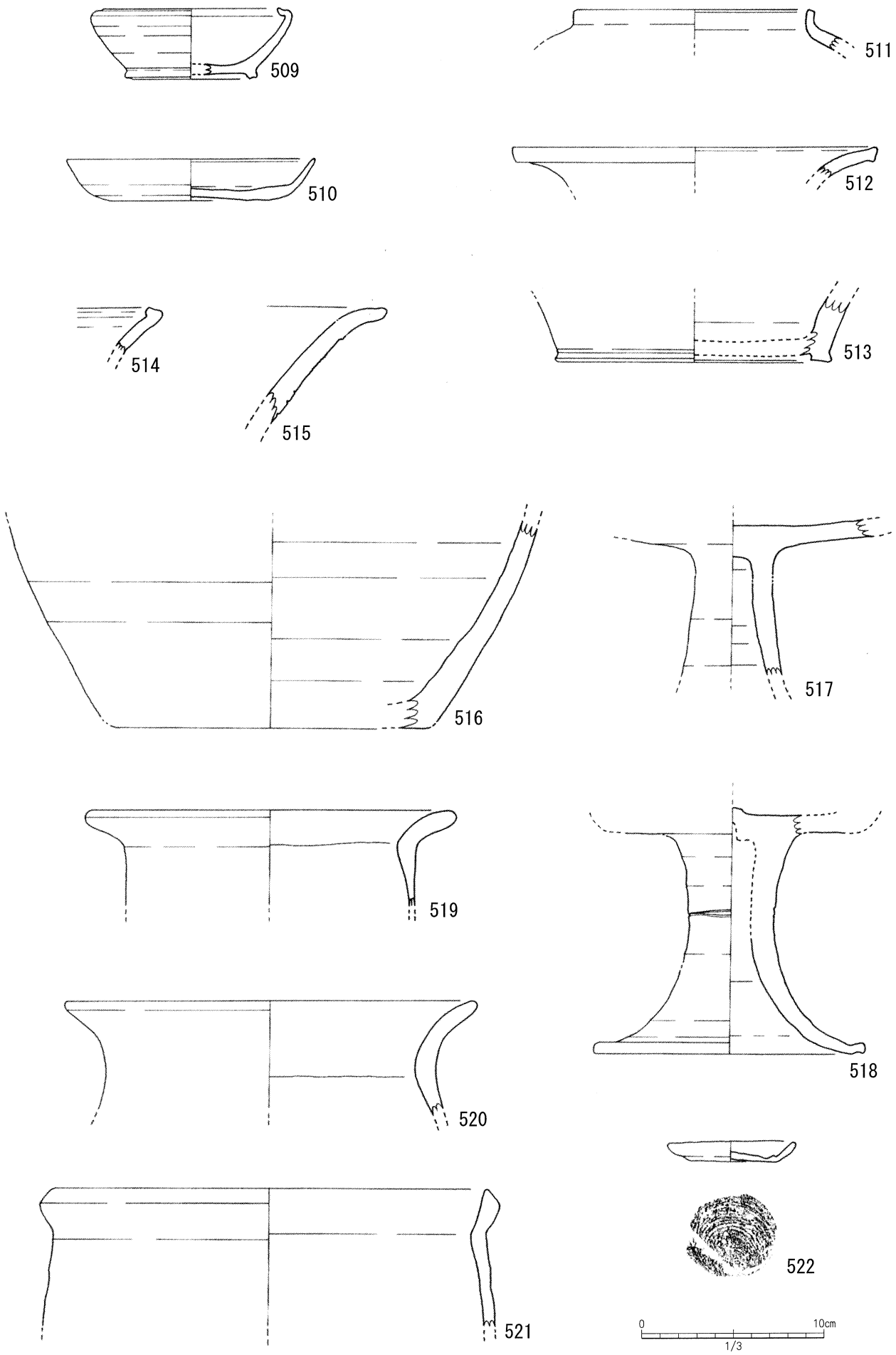
第100図　中小路遺跡Ｆ区遺構出土遺物実測図 ①　－SKF3－



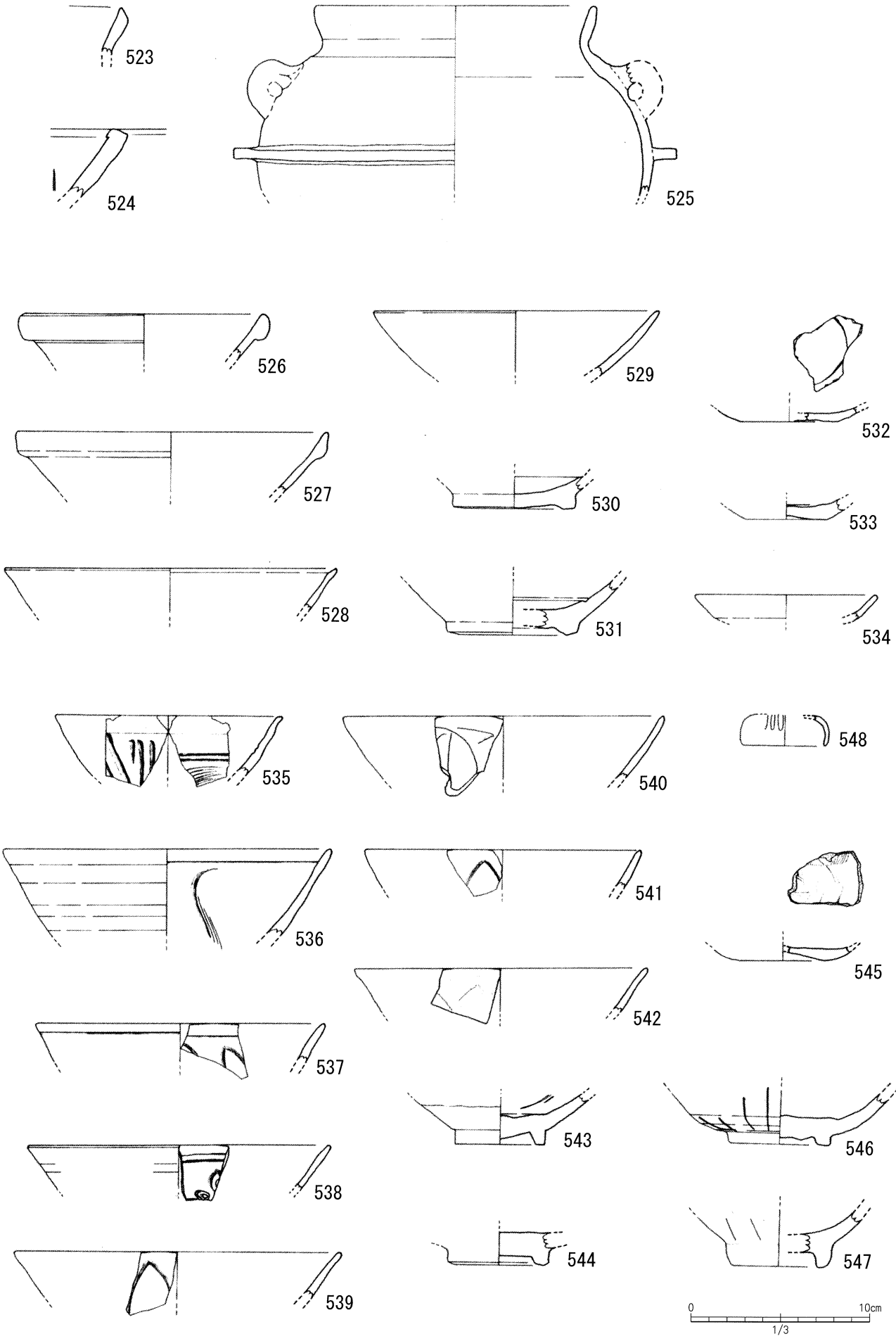
第101図 中小路遺跡Ｆ区遺構出土遺物実測図 ② －SKF3、SKF39－



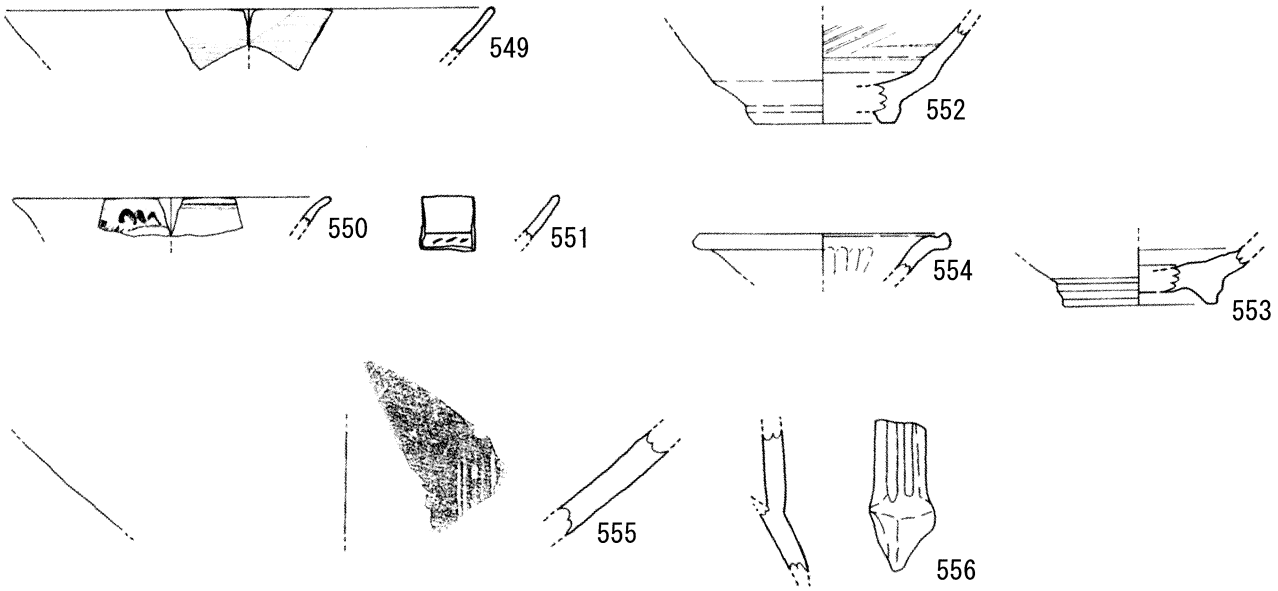
第102図　中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物実測図 ①



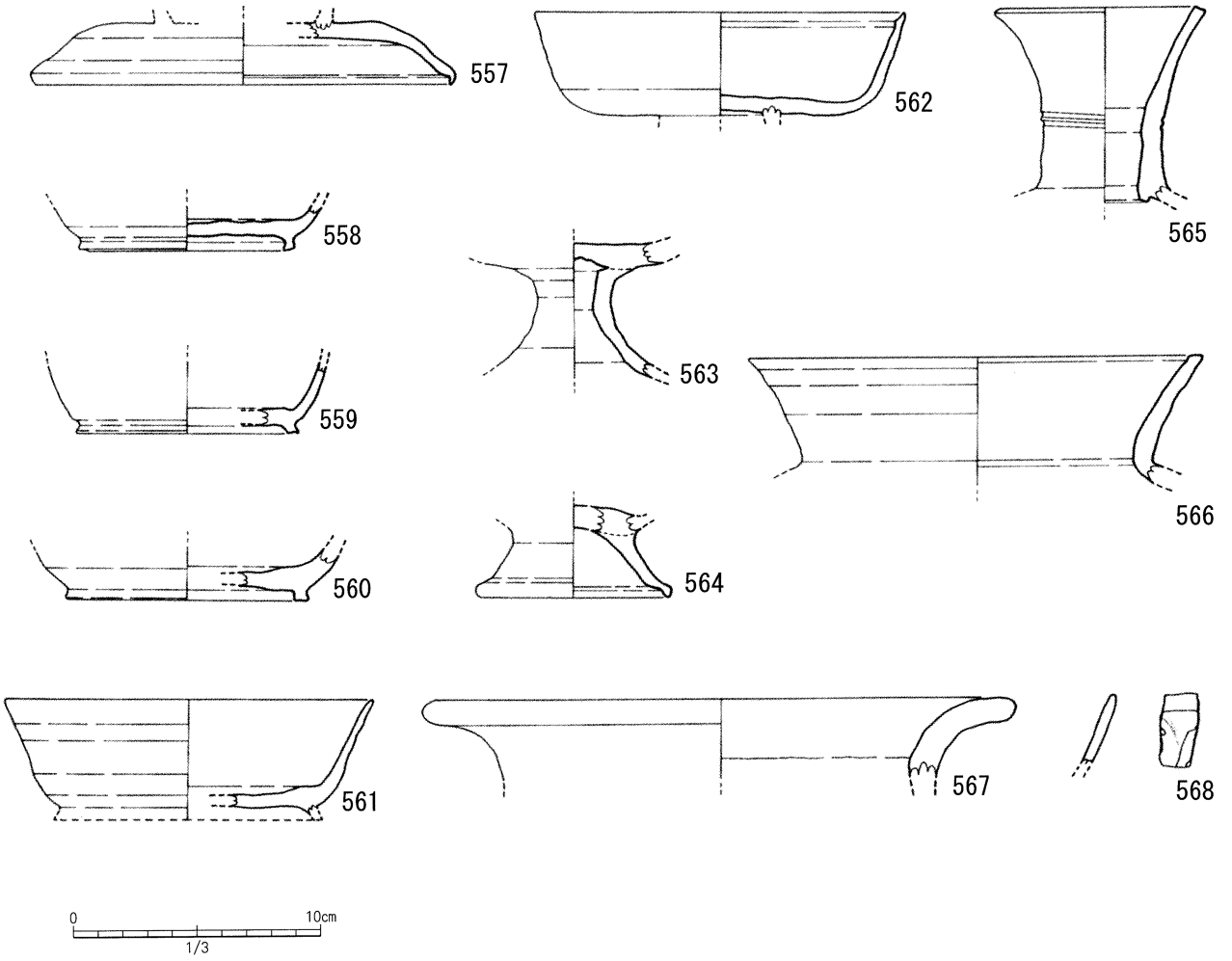
第103図 中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物実測図 ②



第104図 中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物実測図 ③



第105図 中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物実測図 ④



第106図 中小路遺跡Ｇ、Ｈ、Ｉ区遺構外出土遺物実測図

第１表　家下遺跡Ａ区出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	55			4層	弥生土器	壺	口径) 18.6	逆「八」の字状に外反して立ち上がり、口縁端部は上下に拡張。口縁部に凹線状の平行沈線4条以上。	外) 内) ナデ	浅黄色	微砂粒含む。	良好	
2	55			8層	弥生土器?	甕	口径) 20.0	複合口縁。複合部下方に若干突出。口縁部直線的に立ち上がり、端部は断面方形。口縁部に平行沈線7条。頸～体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ	外) 淡橙色 内) 黄橙色	微砂粒含む。	良好	
3	55				弥生土器	甕	口径) 11.6	複合口縁。複合部にぶく屈曲。口縁部直線的で、端部は丸くおさめる。口縁部に平行沈線4条。	外) ナデ、風化の為不詳 内) ナデ、ケズリ、風化の為不詳	外) 浅黄橙色 内) 灰白色	2mm以下の白色粒含む。	やや不良	後期中
4	55			8層	弥生土器	壺(底部)	底径) 6.0	上げ底。	風化の為不詳	外) にぶい橙色 内) 橙色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
5	55			8層	弥生土器	高坏(坏部)	口径) 28.0	底部から体部への移行部は強く張り、体部から口縁部にかけて大きく外反する。体部に12条以上の浅い平行沈線。	外) 粗いハケ目、ナデ 内) 粗いハケ目	浅黄橙色	微砂粒含む。	良好	
6	55			4層	須恵器	蓋	つまみ径) 2.5	ボタン状つまみ。	外) 自然釉の為不詳 内) 回転ナデ、ナデ	内外) 灰白色 自然釉) オリーブ色	密	良好	外面被灰
7	55			3層	須恵器	蓋	つまみ径) 3.9	ボタン状つまみ。つまみ中央部凹状に窪む。	外) 回転ナデ 内) ナデ	外(釉)) 灰オリーブ色 内) 灰白色	密	良好	外面全体的に被灰
8	55			4層	須恵器	蓋	口径) 10.8 最大径) 13.2	口縁部にかえり。かえり部に重ね焼きによる別の須恵器の口縁部溶着。	外) 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
9	55			3層	須恵器	蓋	口径) 15.2	口縁端部外方に下垂。嘴状。体中部に段。擬宝珠状つまみか？	外) 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の白色粒含む。	良好	
10	55			4層	須恵器	蓋	口径) 11.6	輪状つまみ。肩張る。端部やや内方に下垂。嘴状。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰白色	密	良好	
11	55			4層	須恵器	蓋	口径) 12.8	笠形。口縁部強く折り曲げ、端部はやや内側に下垂。端部の設置面に平坦面。	外) 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
12	55			4層	須恵器	蓋	口径) 13.6 つまみ径) 6.2 器高) 2.8	輪状つまみ。肩～口縁部にかけて外反し、端部は下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰白色	密	やや不良	軟質
13	55				須恵器	蓋	口径) 14.2 つまみ径) 6.8 器高) 2.1	逆皿型の低い蓋。輪状つまみは強く外反。体部～口縁部直線的。	外) 回転ケズリ、回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	密	良好	外面口縁部重ね焼きによる変色
14	55			3層	須恵器	蓋	つまみ径) 5.2	輪状つまみ。天井部直線的。肩部強く張る。	外) 回転ナデ 内) ヘラ切り後ナデ、回転ナデ	灰白色	密	良好	
15	55				須恵器	高台付坏	高台径) 8.2	高く「ハ」の字状に踏ん張る高台。	外) 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
16	55				須恵器	脚付壺	高台径) 10.0	底部と体部の境に高台。	外) 回転ケズリ、回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰色	密	良好	高台内にヘラ記号
17	55	7			須恵器	高台付坏	口径) 15.5 高台径) 10.0 器高) 4.9	口縁端部内側を押さえて面をなす。体上部に平行沈線2条。	外) 内) 回転ナデ	灰白色	密	良好	
18	55			3層	須恵器	高台付坏	高台径) 8.4	「ハ」の字状の高い高台。内側に小さく拡張。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、回転ナデ後ナデ	外) 黒灰色 内) 青灰色	2mm以下の白色粒含む。	良好	
19	55			3層	須恵器	高台付坏	高台径) 9.6	高台やや外よりにつく。底部と体部の境明瞭。	外) 内) 回転ナデ	淡灰色	密	良好	
20	56			4層	須恵器	壺?	口径) 14.4	口縁部は外方に屈折。口縁端部上下に肥厚。口縁部凹線状。	外) 内) 回転ナデ	外) 灰黄色 内) 暗灰黄色	1mm以下の白色粒含む。	良好	外面一部被灰
21	56	7			須恵器	小壺	口径) 10.0 器高) 6.9	底部は尖り気味の丸底。口縁端部上方につまみあげ、丸くおさめる。外面に4段、内面に2段のクシ状工具による波状文。	外) 回転ナデ、ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰白色	密	良好	
22	56	7		3層	須恵器	脚付壺	高台径) 9.0	底部と体部の境に低い高台。畳付部凹状の浅い窪み。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰白色	密	良好	高台内にヘラ記号？外面被灰
23	56	7		3層	須恵器	長頸壺		筒部中位に2条の平行沈線。頸部に接合痕。	外) 内) 回転ナデ	外) 灰白色 内) 灰色	密	良好	外面被灰(頸部は厚くガラス状)
24	56			4層	須恵器	壺	底径) 10.0	外面底部に重ね焼き痕？	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰色	密	良好	外面全体的に被灰
25	56			8層	土師器?	器台	口径) 13.2	受け体部外反し、端部丸くおさめる。筒部の器壁厚目。	風化の為不詳	黄橙色	微砂粒含む。	やや不良	
26	56			8層	土師器	鼓形器台		受け体部直線的で、複合部は水平方向に突出。筒部も直線的。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ後ナデ	橙色	密	良好	
27	56	7			土師器	高坏(脚部)		「八」の字状で直線的に開き、脚部下半で大きく屈折。円形透かし3孔。	風化の為不詳	浅黄橙色	1mm以下の砂粒若干含む。	良好	
28	56			4層	土師器	甑把手			ナデ、ハケ目、ケズリ	灰白色	密	良好	
29	56	7		4層	土師器	高台付坏	高台径) 7.4	高くふんばる高台で、断面四角形。内面底部に渦巻状圧痕。底部回転糸切り痕。	外) 回転ナデ 内) ナデ	浅黄橙色	密	良好	
30	56			4層	土師器	甕	口径) 13.6	頸部「く」の字状に屈曲。口縁端部に若干の平坦面。頸・体部境にわずかな段。	外) ナデ、ハケ目 内) ナデ、ケズリ	外) にぶい橙色 内) 橙色	微砂粒含む。	良好	布留式
31	56			4層	土師器	甕	口径) 18.2	頸部「く」の字状に屈曲。口縁端部断面方形で、若干外方につまみ出す。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ	橙色	密	良好	
32	56			3層	土師器	甕	口径) 22.0		外) ナデ、頸部に指頭圧痕、風化気味で不詳 内) ナデ、ケズリ	黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
33	56			4層	土師器	甕	口径) 25.4	「く」の字状に外反。	外) ナデ、ハケ目? 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	2mm以下の白色粒含む。	良好	
34	56			4層	土師器	皿	口径) 21.8 高台径) 15.4 器高) 4.2	体部内湾して立ち上がり、口縁部で外反する。口縁端部やや内側上方につまみ上げる。高台は底・体部境につく。	外) 内) 回転ナデ	橙色	密	良好	全面赤色顔料
35	56	7		4層	土師器	皿	口径) 25.0 高台径) 18.6 器高) 4.0	体部逆「ハ」の字状に開き、口縁部で大きく外反。口縁端部上方につまみ上げる。体中部に平行沈線2条。	外) 内) 回転ナデ	明赤褐色	密	良好	全面赤色顔料
36	57			3層	磁器	白磁碗		口径、傾き不明。玉縁状口縁。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	白磁Ⅳ類
37	57	7		2層	磁器	皿				胎土) 灰色 釉) 明オリーブ灰色	緻密	良好	
38	57			3層	磁器	青磁碗	口径) 14.0	連弁文。		胎土) 灰色 釉) オリーブ灰色	緻密	良好	龍泉窯系碗B2
39	57			4層	磁器	青磁碗	口径) 13.3	雷文。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	緻密	良好	龍泉窯系碗C2
40	57			6層	磁器	青磁碗	口径) 13.4	線描き連弁文。		胎土) 灰白色 釉) 明緑灰色	密	良好	龍泉窯系碗B4
41	57			2層	磁器	碗	底径) 5.0	畳付部に重ね焼き痕。全面施釉。内面底・体部境に段。		胎土) 灰色 釉) オリーブ灰色	密	良好	朝鮮製 16C終～17C初
42	57			4層	磁器	皿	口径) 10.0	低めの削り出し高台。底部～体部緩やかに内湾し、体中部で大きく逆「ハ」の字状に開く。内面体中部に段。体中部～高台内露胎。		胎土) 灰色 釉) 灰黄色	密	良好	
43	57				土師器	皿	口径) 11.0 底径) 5.4 器高) 1.9	底部回転糸切り。内面底部に渦巻状圧痕。	外) 内) 回転ナデ	浅黄橙色	密	良好	

44	57			5層	磁器	盤？	底径) 8.4			胎土) 浅黄橙色 釉)浅黄色(見込は緑釉)	密	良好	瀬戸
45	57			4層	瓦質土器	鉢 (擂鉢?)	口径) 26.8	口縁端部内側に肥厚。	外) ナデ、指頭圧痕あり 内) 粗いハケ	灰白色	密	良好	
46	57			4層	瓦質土器	片口鍋		口径、傾き不明。	外) ナデ 内) 粗いハケ目	外) 褐灰色 内) にぶい橙色	微砂粒含む。	良好	
47	57				陶器	すり鉢	底径) 11.0	6～7条1単位の擂り目	外) 内) ナデ	内外) 灰白色 胎土) 灰褐色	密	良好	備前系
48	57			4層		土錘	長さ) 4.5 最大径) 1.2 孔径) 0.5	紡錘形		灰白色	密	良好	
49	57			3層		土錘	長さ) 3.6 最大径) 1.4 孔径) 0.3	紡錘形		にぶい黄橙色	密	良好	
50	57			5層		土錘	長さ) 4.1 最大径) 1.5 孔径) 0.6	中央部やや膨らむ形状。		明赤褐色	微砂粒含む。	良好	
51	57			8層		土錘	長さ) 4.8 最大径) 1.4 孔径) 0.3	中央やや膨らみ、両側が開く棒状形。		橙色	密	良好	
52	57			6層		土錘	長さ) 3.4 最大径) 1.2 孔径) 0.4	棒状形		灰白色	密	良好	

第２表　家下遺跡Ｂ区出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
53	58			5層	須恵器	坏蓋	口径) 17.0	大型で、低めの器形。かえりは小さく、天井部よりにつく。口縁端部先細。	外) 内) 回転ナデ	灰白色	密	良好	
54	58			2層	須恵器	坏蓋	口径) 14.4	かえり小さく、天井部よりにつく。	外) 内) 回転ナデ	灰白色	密	良好	
55	58			4層	須恵器	坏蓋	口径) 17.6	大型の蓋。器高低く、端部は嘴状で斜め外方に下垂。端部外面浅い凹線状に窪む。	外) 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
56	58			4層	須恵器	坏蓋	口径) 12.4 つまみ径) 5.8 器高) 3.1	輪状つまみ。天井部から体部への移行は強く張る。体部は緩やかに外反し、端部は小さく下垂して、丸くおさめる。つまみに沈線？1条	外) 回転ナデ、回転ケズリ後回転ナデ 内) 回転ナデ	青灰色	密	良好	口縁部重ね焼きによる変色
57	58			4層	須恵器	坏蓋	口径) 13.6 つまみ径) 7.6 器高) 3.1	笠形の蓋。大形で高めの輪状つまみ。肩部張り、体部から口縁部で屈曲。口縁端部小さく下垂。	外) 天井部回転糸切り後ナデ、回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰色	密	良好	
58	58			4層	須恵器	坏蓋	口径) 14.0 つまみ径) 7.7 器高) 3.7	輪状つまみ。天井部から体部への移行は強く張る。体部は口縁部で屈曲し、端部は内側に下垂。端部尖り気味。	外) 回転ケズリ後回転ナデ、回転ナデ 内) 回転ナデ	外) 灰色 内) 灰白色	密	良好	口縁部重ね焼きによる変色(被灰)
59	58			4層	須恵器	蓋?	口径) 6.8 つまみ径) 3.0 器高) 1.9	小型の蓋か?天井部水平で、体部から「ハ」の字状に下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰色	1mm以下の白色粒含む。	良好	
60	58			4層	須恵器	高台付坏	高台径) 8.0	器肉薄め。低く「ハ」の字状に開く高台。高台は底・体部境よりやや内側につく。高台の貼り付け調整粗め。	外) 回転ナデ、回転ケズリ 内) 回転ナデ、ナデ	灰白色	密	良好	
61	58	8		4層	須恵器	高台付坏	口径) 11.8 高台径) 7.5 器高) 5.6	逆「ハ」の字状に開く直線的な体部。口縁端部丸くおさめる。底・体部境不明瞭。高台外よりにつく。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰色	密	良好	
62	58	8		5層	須恵器	高台付坏	口径) 15.8 高台径) 10.4 器高) 4.8	高台は内側につく。高台「ハ」の字状に開き、端部内側に小さく突出。底・体部境明瞭。口縁部外反し、端部を丸くおさめる。体部内面に小さな段。	外) 回転ナデ、回転ナデ後ナデ 内) 回転ナデ	青灰色	密	良好	
63	58			4層	須恵器	坏	口径) 13.4 底径) 8.4 器高) 3.9	無高台の坏。体部内湾気味に立ち上がり、口縁端部は強いナデにより外反様を呈す。端部丸くおさめる。底部上底気味。全体的に歪む。	外) 回転ナデ、ナデ？(風化の為不詳) 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
64	58			4層	須恵器	高坏 (坏部)	口径) 17.4	坏底部と口縁部境で屈曲し、内面は段状。口縁部は外反し、端部先細で丸くおさめる。底・体部境に浅い沈線2条。	外) 内) 回転ナデ	外) 灰色 内) 灰白色	密	良好	
65	58			2層	須恵器	壺	口径) 15.0	外反して立ち上がる長めの体部。口縁端部内側に肥厚。口唇部凹状に窪む。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、タタキ、指頭圧痕	灰色	密	良好	外面被灰
66	58			4層	須恵器	甕か壺 (底部)	底径) 16.6	大型。	外) 平行タタキ目(タテ)のちカキ目、底部丁寧なナデ 内) 同心円状のタタキ目、ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	
67	59	8		6層	土師器	台付鉢	口径) 11.4	底部～口縁部にかけて内湾し、ボール状を呈す。	外) 粗いハケ後ナデ、ナデ 内) ナデ、粗いハケ後ナデ	外) 橙色 内) にぶい橙色	微砂粒含む。	良好	
68	59			6層	土師器	小型器台	口径) 10.0	底部～体部にかけて緩やかに外反し、口縁部で複合口縁状に折れ曲がる。	風化の為不詳	浅黄橙色	微砂粒含む。	やや不良	
69	59			4層	土師器	高台付坏	高台径) 7.2	高く、「ハ」の字状に開く高台。	外) ナデ?風化の為不詳 内) 風化の為不詳	外) にぶい橙色 内) 灰褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
70	59			2層	土師器	坏	底径) 5.6	底・体部境を絞る。底部回転糸切り。	風化の為不詳	橙色	密	やや不良	
71	59	8		5層	土師器	甕	口径) 18.4	頸部「く」の字状に屈曲し、口縁部は逆「ハ」の字状に外反する。	外) ナデ、ハケ目、指頭圧痕あり 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	微砂粒含む。	良好	
72	59			4層	土師器	甕	口径) 22.4	頸部「く」の字状に屈曲し、口縁部は短く外反。	外) ナデ、ハケ目？(風化の為不詳)、指頭圧痕 内) ナデ、ケズリ	外) 浅黄橙色 内) 明褐灰色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
73	59			4層	土師器	皿	底径) 5.8	底部回転糸切り。底部内面に渦巻状圧痕。	外) 風化の為不詳 内) 回転ナデ	橙色	密	良好	
74	59			4層	磁器	青磁碗	高台径) 5.8	高く細身の高台。釉厚く、畳付を除いて全面施釉。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	緻密	良好	龍泉窯系碗B0類
75	59			4層	磁器	青磁碗	高台径) 5.6	高台幅広で、断面四角形。器肉は全体に厚め。釉薄め。畳付を除き施釉。(高台内は部分的)		胎土) 灰白色 釉) オリーブ黄色	緻密	良好	
76	59			2層	磁器	染付碗		口径、傾き不明。		胎土) 灰白色 釉) 明青灰色	緻密	良好	16C中
77	59			1層	磁器	染付碗		畳付部に重ね焼き痕。全面施釉。内面底・体部境に段。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	緻密	良好	

第３表　家下遺跡Ｃ区出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
78	60		C3区	53層	弥生土器	壺	口径) 13.8	やや直立気味の頸部。口縁端部上方に肥厚。口縁部2条の平行沈線。頸部に貝殻復縁による連続刺突文。体上部に波状文か?(風化の為不詳)	外) 強いナデ、ハケ目? 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	3mm以下の石英含む。	やや不良	
78	60		C3区	53層	弥生土器	壺	口径) 13.8	やや直立気味の頸部。口縁端部上方に肥厚。口縁部2条の平行沈線。頸部に貝殻復縁による連続刺突文。体上部に波状文か?(風化の為不詳)	外) 強いナデ、ハケ目? 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	3mm以下の石英含む。	やや不良	
80	60		C3区	54層	弥生土器	壺	口径) 15.4	複合口縁。複合部にぶく屈曲。口縁端部丸くおさめる。口縁部13条の平行沈線。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	2mm以下の石英含む。	やや不良	

81	60		C3区	53層	弥生土器	甕	口径) 20.4	複合口縁。複合部水平方向に突出。口縁端部は膨らんで丸くおさめる。口縁部7条以上の平行沈線。体上部に刺突文?(風化の為不詳)	外) ナデ 内) ケズリ、風化の為不詳	橙色	2mm以下の白色粒含む。	やや不良	
82	60		C3区	53層	弥生土器	器台		複合口縁状の受け部。複合部斜め下方に突出。13条以上の平行沈線。	外) ハケ後ミガキ 内) ミガキ	橙色	2mm以下の黒色粒含む。	良好	
83	60		C3区	2層	須恵器	坏蓋	口径) 13.0 つまみ径) 6.4 器高) 3.1	輪状つまみ。天井～体部への移行部屈曲。外反気味の口縁部。端部小さく下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	黒灰色	1mm以下の白色粒含む。	良好	口縁部重ね焼きによる変色
84	60	8	C3区	54層	須恵器	坏蓋	口径) 15.6 つまみ径) 7.0 器高) 3.2	輪状つまみ。天井～体部への移行部緩やか。端部下垂し、丸くおさめる。肩部に円弧状沈線1条	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	外) 灰白色 内) 灰色	2mm以下の白色粒含む。	良好	
85	60		C3区	54層	須恵器	坏蓋	口径) 15.2 つまみ径) 6.6 器高) 2.2	輪状つまみ。器高低く扁平な器形。口縁端部内側に小さく下垂。	外) 回転ナデ、回転ケズリ後回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	灰色	1mm以下の黒色粒含む。	良好	口縁部重ね焼きによる変色(被灰)
86	60		C3区	53層	須恵器	高台付坏	口径) 10.2 高台径) 7.6 器高) 4.6	畳付部に重ね焼き痕。全面施釉。内面底・体部境に段。	外) 内) 回転ナデ	外) 暗灰色 内) 灰色	密	良好	高台内を除き被灰(黒灰色の自然釉)
87	60		C3区	53層	須恵器	高台付坏	口径) 14.6 高台径) 10.2 器高) 3.6	底部ヘラ切り。底・体部境で強く湾曲。口縁部近くで外反。端部先細。高台内よりにつき、畳付部浅い凹状。	外) 回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	暗灰色	1mm以下の白色粒含む。	良好	
88	60	8	C3区	54層	須恵器	高台付坏	口径) 15.0 高台径) 10.8 器高) 4.1	底部ヘラ切り。高台畳付部凹状に窪む。高台内よりにつく。端部先細で、丸くおさめる。	外) 回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内) 回転ナデ、ナデ	外) 灰色 内) 灰白色	密	良好	外面被灰
89	60		C3区	53層	須恵器	高台付坏	口径) 14.0 高台径) 9.0 器高) 3.7	底部回転糸きり。高台畳付部凹状に窪む。高台は底・体部境より内側につく。平らな体部から強く湾曲して直線的に立ち上がる体部。口縁端部は先細で、やや尖り気味に丸くおさめる。	外) 回転ナデ、回転糸切り後ナデ 内) 回転ナデ、回転ナデ後ナデ	灰色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
90	60	8	C3区	53層	須恵器	高台付坏	口径) 19.2 高台径) 10.8 器高) 7.5	金属模倣の坏。底部ヘラ切り。体下部で屈曲し、口縁部で外反。体中部に浅い沈線状の窪み(一部ナデ消される)。高台うちよりにつき、断面三角形。	外) 回転ナデ、ヘラ切り後回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	3mm以下の白色粒含む。	良好	
91	60	8	C3区	53層	須恵器	短頸壺	口径) 13.2 底径) 9.0 器高) 15.6	扁平な胴部。肩部強く張る。口縁部短く直立。	外) 回転ナデ、回転ケズリ後ナデ 内) 回転ナデ	外) 黒灰色 内) 灰色	密	良好	外面体上部・内面底部被灰
92	61	9	C3区	2層	須恵器	甕	底径) 10.2	「八」の字状に開く低い高台。口頸部に沈線1条。体部上位、中位にそれぞれ1条、2条の沈線を巡らし、各沈線間に波状文を施す。	外) 回転ナデ、風化気味 内) 不明	外) 灰白色 内) 灰色	2mm以下の白色粒含む。	良好	
93	61	9	C1区	攪乱層	須恵器	長頸壺		口頸部に沈線1条。内面に絞り痕？頸部に段(突帯?)	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	5mm以下の白色粒含む。	良好	外面半分被灰
94	61	9	C3区	53層	須恵器	長頸壺	最大径) 18.0	体部は中位より少し上方で鋭く算盤玉状に角張る。	外) 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の白色粒含む。	良好	外面体上部被灰
95	61	9	C3区	53層	須恵器	甕	口径) 19.6	頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がり、端部近くで上方へ直立気味に屈折。端部は内側に肥厚。	外) ナデ、ハケ？(風化の為不詳) 内) ナデ、同心円状タタキ目	黄灰色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
96	61	9	C3区	53層	須恵器	壺	口径) 13.6	頸部「く」の字状に屈折。短く外反する口縁。端部わずかに平坦面あり。体部は球体。体上部に刺突文。	外) 回転ナデ、平行タタキ目後カキ目 内) 回転ナデ、同心円状タタキ目後回転ナデ	灰色	1mm以下の白色粒含む。	良好	
97	61		C3区	53層	土師器	高台付坏	高台径) 11.0	断面四角形の低めの高台。底・体部境不明瞭。高台外よりにつく。体部内湾気味に立ち上がる。	外) 内) ナデ?	橙色	1mm以下の白色粒含む。	良好	全面に赤色顔料
98	61		C1区	12層	土師器	壺か甕(底部)	底径) 12.0	高台状の脚部貼り付け。	外) 内) 風化の為不詳	外) 浅黄橙色 内) 黒灰色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
99	61		C2区	6層	土製品	土錘	長さ) 4.6 最大幅) 1.3 孔径) 0.5	管玉状。		灰白色	密	良好	

第４表　家下遺跡Ｄ区出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
100	62		土器棺1		弥生土器	甕	口径) 20.6 底径) 3.6	複合口縁。複合部水平方向に鋭く突出。口縁部直線的、端部近くで外反。頸部「く」の字状に湾曲。底部は丸底に近い平底。	外) ハケ 内) ケズリ	にぶい黄橙	1mm以下の砂粒含む。	良好	終末
101	62		土器棺1		弥生土器	甕	口径) 16.8	複合口縁。薄手。頸部弓状に湾曲。複合部斜め下方に突出。口縁部外反し、端部を丸くおさめる。口縁内側の中ほどをおさえて、段を形成。体上部に平行沈線15条、その下に波状文。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ	橙色	1mm以下の白色砂粒含む。	良好	終末
102	62		土器棺2(墓壙)		土師器	甕	口径) 17.4	複合口縁。頸部逆「コ」の字状に湾曲。複合部水平方向に突出。口縁部外反し、端部に平坦面をもたせる。	外) ナデ(風化の為不詳) 内) ナデ、ケズリ(風化の為不詳)	外) にぶい橙色 内) 浅黄橙色	微砂粒含む。	良好	酸化砂付着
103	62		土器棺2		弥生土器	甕	口径) 19.0 底径) 9.8 器高) 30.8	畳付部に重ね焼き痕。全面施釉。内面底・体部境に段。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ	外) 浅黄橙色 内) 浅黄橙色～黒褐色	微砂粒含む。	良好	終末
104	62		土器棺2		弥生土器	甕	口径) 17.0	複合口縁。薄手。頸部逆「コ」の字状。複合部やや斜め下方に鋭く突出。口縁端部平坦気味ながら丸くおさめる。体上部にクシ状工具による多条の平行沈線、直下に同一工具による波状文2段。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ、指頭圧痕	淡黄色	密	良好	終末
105	63	9		2層	弥生土器	壺	口径) 17.6	複合口縁。複合部やや下方に突出。口縁部内傾し、端部で外反。口縁端部平坦面。頸部やや直立気味。体上部に波状文。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	良好	西部瀬戸内系複合口縁壺
106	63			4層	弥生土器	甕	口径) 17.6	複合口縁。水平方向ににぶく突出。口縁部外反し、口縁端部丸くおさめる。体部上半に波状文。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ、指頭圧痕	にぶい橙色	微砂粒含む。	良好	終末
107	63	9		4層	弥生土器	甕	口径) 19.6	複合口縁。複合部水平方向に突出。口縁端部外側に小さく折れる。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	終末
108	63			4層	弥生土器	甕	口径) 22.2	複合口縁。口縁端部をおさえ、平坦気味。水平方向に突出。頸部直下に平行沈線11条以上。体部上半に平行沈線6条以上(波状文か?)。	外) ナデ(風化の為不詳) 内) ナデ、ケズリ(風化の為不詳)	外) にぶい黄橙 内) 浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	終末
109	63			4層	弥生土器	甕	口径) 16.0	複合口縁。水平方向に突出。端部頂部角をなでて平坦気味ながら丸くおさめ、小さく外側につまみ出す。	外) ナデ、ハケ、 内) ナデ、ケズリ	外) にぶい橙 内) 淡橙色	微砂粒含む。	良好	終末 外面一部スス付着
110	63			4層	弥生土器	甕	口径) 15.6	複合口縁。複合部小さく水平方向に突出。口縁部の開き小さめ。口縁端部は頂部角をなでて平坦気味ながら丸みをもたせ、小さく外折。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	良好	終末
111	63			2層	弥生土器	壺or甕(底部)	底径) 3.4	厚みはあるが小さい平底。	外) 太いハケ目 内) ケズリ	浅黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
112	63	9		4層	弥生土器	低脚坏	口径) 19.2	半球体形の坏部。丸く湾曲して立ち上がり、口縁端部強く外折。	外) 内) ミガキ	外) にぶい黄橙色 内) 橙色	微砂粒含む。	良好	
113	63			2層	土師器	鼓形器台	底径) 16.0	脚部。器肉厚手。筒部短く湾曲。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ	橙色	微砂粒含む。	良好	

第５表　中小路遺跡Ａ区遺構出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
114	64		溝状遺構		須恵器	高台付坏	高台径) 8.0	貼り付け高台。高台部細く、ほぼ直立。	外) 内) 回転ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	外面被灰(自然釉)
115	64		溝状遺構		須恵器	壺		体下部。逆「八」字状。内湾気味。内外面に火ぶくれあり。	外) 内) 回転ナデ、指頭痕あり	内) 灰色 胎土) にぶい黄橙色 釉) 暗灰色	微砂粒含む。	良好	外面被灰(自然釉)

116	64		溝状遺構		土師器	把手		牛角状把手。	外) ナデ	明黄褐色	5mm 以 下 砂粒含む。	良好	
117	64		SX02		弥生土器	甕	口径) 20.8	単純口縁。口端部斜め上下にやや拡張。拡張部に凹線状の平行沈線2条。体部にヘラ状工具による「ノ」(RL)字状の連続列状文。	外) ナデ(ミガキの可能性あり) 内) ナデ、ケズリ、指頭痕あり	浅黄橙色	5mm 以 下 砂粒含む。	良好	口縁下部～体上部ススト付着
118	64		SX02		弥生土器	甕	口径) 15.8	複合口縁。複合部直角状に屈折。体部扁球状。体上部にヘラ状工具による「ノ」(RL)字状の連続列状文。	外) ナデ(ヨコ)、細いハケ目(ナナメ、タテ) 内) ナデ(ヨコ)、ケズリ		3mm 以 下 砂粒含む。	良好	体部ススト付着
119	64		SX02		弥生土器	甕	口径) 15.0	複合口縁。複合部鋭く下向きに突出。口縁部に13条以上の平行沈線。体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) 内) ナデ、ケズリ	外) 明黄褐色 内) にぶい黄橙色	2mm 以 下 砂粒含む。	良好	
120	64		SX02		弥生土器	甕	口径) 19.0	複合口縁。複合部は鋭く下向きに突出。口端部丸くおさめる。口縁部に12条以上の幅がやや広い平行沈線。体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ	にぶい黄橙色	5mm 以 下 砂粒含む。	良好	
121	64		SX02		弥生土器	甕	口径) 17.0	複合口縁。複合部にぶく直角状に屈折。口縁部に8条以上の平行沈線。体上部に平行沈線。	外) 内) ナデ、ケズリ	橙色	4mm 以 下 砂粒含む。	良好	
122	64		SX02		弥生土器	広口壺		体部は扁球形。頸部に細い平行沈線文。肩部にクシ状工具による連続列突文。	外) ハケ、ナデ 内) ナデ、指頭痕あり、ケズリ		3mm 以 下 砂粒含む。	良好	
123	64		SX02		土師器	高坏	口径) 31.0	大型品。坏下部緩やかに内湾して立ち上がる。中位から逆「ハ」字状に開き、口端部短く反り返る。体部と口縁部境の内面に沈線を施し、小さい段状に仕上げる。	外) 内) ミガキ後所々指頭痕あり		2mm 以 下 砂粒含む。	良好	
124	65		SX04		弥生土器	甕	口径) 24.8	頸部斜め上下に拡張。口縁部に2条の凹線。口縁下～体上部にヘラ状工具によるクサビ状の連続列状文。	外) ミガキ 内) ナデ、指頭痕あり、ケズリ後ナデ	外) 浅黄橙色 内) 灰白色	4mm 以 下 砂粒含む。	良好	体下部、口縁部にススト付着
125	65		SX04		弥生土器	甕	口径) 15.6	複合口縁。複合部ほぼ直角状に折れ、口縁部逆「ハ」字状に立ち上がる。端部丸くおさめる。口縁部平行沈線5条一部ナデ消し。体上部ヘラ状工具による「ノ」字状列状文。	外) ナデ 内) ナデ後指ナデ、指頭痕あり、ケズリ	灰黄褐色	2mm 以 下 砂粒含む。	良好	外面ススト付着
126	65		SX04		弥生土器	底部	底径) 4.4	平底。底・体部境の稜はやや不明瞭。	外) ハケ後ミガキ?、ナデ、風化の為不詳 内) 太いハケ後ナデ	外) 灰黄褐色 内) 浅黄橙色	4mm 以 下 砂粒含む。	良好	外面ススト付着
127	65		SX04		弥生土器?	坏	口径) 12.0	波状口縁か？波高は低く、間隔は長い。体下部から逆「ハ」字状に開き、中程からやや内湾気味に肥厚して立ち上がり、平坦面のある口縁部へ続く。	外) ナデ?一部ミガキ痕あり、風化の為不詳 内) ケズリ?風化の為不詳		4mm 以 下 砂粒含む。	良好	外面体下部ススト付着
128	65		土器溜り	4層	弥生土器	壺	口径) 15.2	鋤先状口縁。端部垂直面に沈線1条。	外) ミガキ後ナデ?(口縁下方) 内) ヨコナデ	にぶい黄橙色	1mm以下の 砂粒含む。	良好	
129	65		土器溜り	4層	弥生土器	壺	口径) 25.0	朝顔形に開く口縁。端部斜め下方に拡張し、平坦面を作る。口端部斜面に「ハ」字状の刻目文。	外) ナデ 内) ヨコナデ	外) 浅黄橙色 内) にぶい黄橙色	1mm以下の 砂粒含む。	良好	
130	65		土器溜り		弥生土器	壺	口径) 27.6	朝顔形に開く口縁。端部斜め下方に拡張し、平坦面を作る。頸部に1条の突帯。口端部平坦面に4条の凹線(上下2条は沈線状)。	外) ナナメハケ後ナデ 内) 風化の為不詳	外) にぶい黄橙色 内) 灰黄褐色	1mm以下の 砂粒含む。	良好	
131	65		土器溜り	4層	弥生土器	壺		口縁部は大きく朝顔状に外反。2条の貼り付け突帯(断面三角状)。突帯部に1条の浅い溝。	外) ミガキ、ナデ 内) ナデ、指頭痕あり	灰黄褐色	5mm 以 下 砂粒含む。	良好	
132	66		土器溜り		弥生土器	壺	口径) 32.0	大型壺。口縁部は高く、朝顔形に大きく開く。口端部は内側に小さく折り込み、頂部は斜めの広い面を作る。頸部に1条以上の太い突帯を巡らす。	外) ナデ、指頭痕あり 内) ナデ、指頭痕あり	にぶい橙色	1mm 以 下 砂粒含む。	良好	TCⅢ
133	66		土器溜り	4層	弥生土器	壺		鋤先状の口縁をもつ大型壺の体部。5条の太い突帯が巡り、突帯頂部には凹線が施される。	外) 内) 指頭様ナデ	灰黄褐色	1mm以下の 砂粒含む。	良好	
134	66		土器溜り	3層	弥生土器	壺	口径) 40.2	大型壺。口縁部大きく外反。口端部斜め上下に拡張し、浅くくぼむ面を作る。体上部に条痕1条。	外) ナデ一部ミガキ 内) ナデ、端部付近指頭痕あり	にぶい黄橙色	4mm 以 下 砂粒含む。	良好	
135	66		土器溜り	1層	弥生土器	壺		特大の鋤先状口縁壺。口縁の鍔状上面(鋤底に当たる面)に貼付け浮文の痕跡あり。	外) 内) ヨコナデ	外) 橙色 内) にぶい橙色	1mm以下の 砂粒含む。	良好	
136	66		土器溜り		弥生土器	壷 (底部)	底径) 16.0	大型品。底部平底。	外) 細いハケ後所々ナデ後ミガキ 内) 細いハケ後ナデ	にぶい黄橙色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	
137	67		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 19.4	口端部嘴状に尖り、外面は浅くくぼませる。	外) ハケ後ナデ、ナデ 内) ナデ、指頭痕あり	外) にぶい黄橙色 内) 灰白色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	内外ススト付着
138	67		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 20.4	頸部弓状に湾曲。口縁部逆「ハ」字状に大きく外反して開く。口端部斜め内側に拡張して内湾し、外側に平坦面を作る。	外) ナデ 内) ナデ、指頭痕あり	にぶい橙色	2mm 以 下 砂粒含む。	良好	内外ススト付着
139	67		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 21.4	頸部「く」字状に屈曲し、口縁部短く逆「ハ」字状に大きく開く。口端部斜め上下に拡張。口縁部に「ノ」字状の連続列状文。	外) 内) 風化の為不明	にぶい黄橙色	1mm 以 下 砂粒含む。	良好	
140	67		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 22.6	単純口縁。薄手。頸部はやや逆「L」字状に屈曲。口端部斜め上下に拡張。	外) ナデ、指頭痕あり 内) ナデ、指頭痕あり		2mm 以 下 砂粒含む。	良好	
141	67		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 14.0	頸部「く」字状に屈曲。口縁部短く外反し、口端部は小さく斜め上下に拡張して外側に平坦面を作る。口縁部2条程度の凹線文？	外) 風化の為不明 内) ナデ、ケズリ	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄橙色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	
142	67		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 19.2	単純口縁。口端部斜め上下に拡張して内傾させ、外側に平坦面を作る。体上部にヘラ状工具による「ノ」字状の連続列状文。	外) ナデ 内) ナデ?ケズリ?風化の為不詳	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄橙色	4mm 以 下 砂粒含む。	良好	
143	67		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径) 17.0	単純口縁。口端部斜め上下に拡張。拡張部に凹線状の平行沈線が2条以上。頸部～体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ、指頭痕あり		5mm 以 下 砂粒含む。	良好	
144	67		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径) 12.4	頸部弓状。口縁部短く逆「ハ」字状。口縁部やや肥厚し、平坦面。体上部ゆるい段状に屈曲後直立。体上部にヘラ状工具による連続列状文。	外) ナデ、風化の為不詳 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	
145	67		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径) 17.0	口端部斜め平坦。体上「ナデ肩」状。口端部に2条の凹線文。	外) ナデ、ハケ、ナデ 内) ナデ、指頭痕あり、ナデ	外) 灰白色 内) 浅黄橙色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	ススト付着
146	67		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 17.2	単純口縁。口端部平坦面。扁球状の体部。頸部に連続刺突文。	外) ナデー部ミガキ、風化の為不詳 内) ナデ?ケズリ、風化の為不詳	外) 浅黄橙色 内) 灰白色	4mm 以 下 砂粒含む。	良好	外面ススト付着
147	67		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径) 20.8	頸部「く」字状に屈曲し、口縁部短く逆「ハ」字状に大きく開く。口端部斜め上下に拡張。体上部ナデ肩状に開き内湾して下降。口縁拡張部に凹線状の平行沈線2条。体上部にヘラ状工具による逆「ノ」字状の列状文。	外) ミガキ、風化の為不詳 内) ケズリ、風化の為不詳	浅黄橙色	4mm 以 下 砂粒含む。	良好	外面ススト付着
148	68		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 21.0	頸部「く」字状に屈曲。口端部内傾して斜め上下に拡張し、外側に平坦面を作る。口縁部に3条の凹線文。体上部にヘラ状工具による連続列状文。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ?風化の為不詳	浅黄橙色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	外面ススト付着
149	68		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 18.0	口端部内傾して斜め上下に拡張し、外側に面を作る。口縁部に3条の凹線文。頸部下にヘラ状工具による「ノ」字状連続列状文。	外) ナデ 内) ナデ?ケズリ?風化の為不詳、指頭痕あり	外) にぶい黄橙色 内) 灰白色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	体部外面ススト付着
150	68		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 28.0	口端部内傾して斜め上下に拡張し、外側に平坦面を作る。口縁部に7条の沈線文。頸～体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) ナデ 内) ハケ後ナデ、指頭痕あり、ケズリ?	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄橙色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	
151	68		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径) 14.8	複合口縁。複合部にぶく下向きで、口縁部はほぼ直立。口縁部平行沈線3条。体上部ヘラ状工具による「ノ」字状列状文。	外) 内) ナデ、ケズリ、指頭痕あり	にぶい黄橙色	2mm 以 下 砂粒含む。	良好	外面ススト付着
152	68		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径) 22.0	口縁部は小さく上下に拡張。口縁部に凹線状の平行沈線文3条。肩部にクシ状工具による連続列突文。	ナデ、指頭痕あり 内) ケズリ	にぶい橙色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	
153	68		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 16.8	複合口縁。複合部は鈍くやや下方に突出。口端部丸くおさめる。口縁部に10条の平行沈線。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ		2mm 以 下 砂粒含む。	良好	
154	68		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径) 16.0	複合口縁。複合部は丸みをもつ。口縁部に10条の平行沈線。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ、指頭痕あり	外) にぶい黄橙色 内) 黄灰色	3mm 以 下 砂粒含む。	良好	複合部ススト付着
155	68		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 19.4	複合口縁。複合部は鈍く丸味をもつ。口端部丸くおさめる。口縁部に7条の平行沈線。体上部に3条以上の平行沈線	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ	浅黄橙色	2mm 以 下 砂粒含む。	良好	
156	68		土器溜り		弥生土器	甕	口径) 18.4	複合口縁。複合部は鈍く直角状。口端部丸くおさめる。口縁部に細い条痕。体部に板状工具による連続列状文。	外) ナデ、細いハケ目、指頭痕あり 内) ナデ、ケズリ後ナデ、指頭痕あり	外) 灰黄色 内) 黄灰色	2mm 以 下 砂粒含む。	良好	ススト付着

157	68		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径)	18.0	複合口縁。口縁部に13条以上の平行沈線文。複合部水平方向ににぶく突出。体上部にクシ状工具による連続押引き文、直下にクシ状工具による連続列突文。	外) ナデ(ヨコ)、ハケ(ナナメ)後ナデ 内) ナデ、ケズリ(?)	浅黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	
158	68		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径)	19.6	複合口縁。複合部はにぶく下向きに突出。口端部丸くおさめる。口縁部に15条以上の浅い平行沈線。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	
159	68		土器溜り	4層	弥生土器	甕	口径)	19.0	複合口縁。複合部は鋭く下向きに突出。口端部やや肥厚。	外) ハケ(ナナメ)後ナデ(ヨコ) 内) ナデ、ケズリ、指頭痕あり	浅黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	
160	69		土器溜り	4層	弥生土器	底部	底径)	3.2	小型品。底部上底。シボリ状に浅くくぼませる。	外) ナデ、ナデ 内) ケズリ、指頭痕あり (底面)	外) にぶい黄橙色 内) にぶい黄橙色	1mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
161	69		土器溜り	3層	弥生土器	底部	底径)	5.6	底部僅かに上底。シボリ状に浅くくぼめる。	外) ナデ 内) ケズリ、指頭痕あり (底面)	にぶい黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	底面付近スス付着
162	69		土器溜り	3層	弥生土器	底部	底径)	5.6	底部僅かに上底。シボリ状にくぼませる。	外) ハケ後ナデ、 内) ナデ、指頭痕あり		3mm 以下砂粒含む。	良好	底部スス付着
163	69		土器溜り	3層	弥生土器	底部	底径)	5.4	底部上底。シボリ状に浅くくぼませる。	外) ハケ後ナデ、 内) ケズリ、指頭痕あり (底面)	にぶい黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
164	69	42	土器溜り		弥生土器	甕(底部)	底径)	6.4	底部は上底。底・体部境の稜は明瞭。シボリ状に浅くくぼませる。	外) ハケ、ナデ 内) ナデ	にぶい黄橙色	2mm 以下砂粒含む。	良好	外面スス付着
165	69	42	土器溜り		弥生土器	甕(底部)	底径)	6.8	底部わずかに上底。底・体部境の稜は明瞭。シボリ状に浅くくぼませる。底部に回転糸切り状の同心円状痕あり。	外) ハケ後ナデ、ナデ 内) ナデ、指頭痕あり	灰黄褐色	2mm 以下砂粒含む。	良好	体上部、内側にスス付着
166	69		土器溜り	2層	弥生土器	底部	底径)	6.8	底部平底。シボリ状に浅くくぼませる。	外) ハケ後ナデ、ナデ後指頭痕あり、回転ナデ後ナデ 内) ケズリ、指頭痕あり (底面)	外) 黄褐色 内) 灰黄色	5mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
167	69		土器溜り		弥生土器	底部	底径)	10.0		外) ナデ、ナデ後指頭痕あり 内) ケズリ後ナデ、指頭痕あり (底面)	浅黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	
168	69		土器溜り		弥生土器	甕(底部)	底径)	7.2	「ハ」字状に開く高めの高台。	外) ハケ後ナデ、一部ミガキ、ナデ、指頭痕あり 内) ケズリ、指頭痕あり (底部)	外) 浅黄橙色 内) 褐灰色	2mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
169	69		土器溜り	4層	弥生土器	底部	底径)	7.0	底部上底。	外) ナデ、指頭痕あり 内) ケズリ	浅黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	体下～底部スス付着
170	69		土器溜り		弥生土器	甕(底部)	底径)	6.4	底部平底。	外) ナデ、ナデ 内) ナデ、指ナデ	外) 灰黄褐色 内) にぶい黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
171	69		土器溜り	4層	弥生土器	底部	底径)	10.6	底部平底。	外) ミガキ 内) ケズリ	外) 浅黄橙色 内) 黒褐色	4mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
172	69		土器溜り		弥生土器	甕(底部)	底径)	4.8	底部はほぼ平底。底・体部境の稜は明瞭で、シボリ状にくぼめる。	外) ハケ後ナデ?風化の為不詳、ナデ 内) 太いハケ、底部付近指ナデ	にぶい黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	内外スス付着
173	69		土器溜り	4層	弥生土器	底部	底径)	4.0	底部上底。体部下はほぼ直立して立ち上がる。	外) ナデ、ナデ、指頭痕あり 内) ナデ、指頭痕あり	暗灰黄色	微砂粒含む。	良好	
174	69		土器溜り	4層	弥生土器	底部	底径)	4.8	平底。	外) ハケ後ナデ 内) ハケ	にぶい黄橙色	2mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
175	69		土器溜り	4層	弥生土器	底部	底径)	3.4	ゆるい丸底状の平底。	外) ハケ後ところどころナデ 内) ケズリ	外) 灰白色 内) 黒褐色	2mm 以下砂粒含む。	良好	底部スス付着
176	70		土器溜り	4層	弥生土器	高坏			坏部逆「ハ」字状に大きく開き、脚部は小さく開く。	外) ナデ? 内) ケズリ、指頭痕あり	浅黄橙色	5mm 以下砂粒含む。	良好	
177	70		土器溜り		弥生土器	高坏	口径) 底径) 器高)	18.0 10.6 9.5	坏部・脚部境は「く」字状に屈曲。	外) ミガキ、ナデ 内) ナデ一部ミガキ、指頭痕あり	にぶい黄橙色	3mm 以下砂粒含む。	良好	
178	70		土器溜り	4層	弥生土器?	坩	口径)	4.6	外傾しながら立ち上がり丸くおさめる。下部肥厚。	外) ナデ、指頭痕あり 内) ナデ、指頭痕あり	外) 褐灰色 胎) にぶい黄橙色	2mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
179	70		土器溜り	4層	弥生土器	鉢or高坏	口径)	23.2	複合口縁か?複合部鋭く下向きに突出。口縁部直立し、口端部やや肥厚気味で平坦面を作る。	外) ナデ、ミガキ(頂部) 内) ナデ	外) にぶい黄橙色 内) にぶい褐色	2mm 以下砂粒含む。	良好	
180	70		土器溜り		石器	砥石	最大長) 最大幅) 最大厚) 重量(g)	16.2 13.5 5.7 1142	5面使用。細かい線条痕多数あり。					
181	70		土器溜り	4層	土師器？	甕	口径)	16.0	口端部嘴状。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ	外) 褐灰色 内) 灰褐色	2mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
182	70		土器溜り	4層	土師器	甕	口径)	18.0	薄手。頸部は弓状に屈曲。	外) タテハケ？ 内) ナデ？、ケズリ、指頭痕あり		2mm 以下砂粒含む。	良好	
183	70		土器溜り	4層	土師器	高坏(脚部)	底径)	12.4	筒部「ハ」字状に開く。さらに大きく開く裾部。裾端部斜めに平坦面を作る。	外) ハケ、ナデ?風化の為不詳 内) ナデ?風化の為不詳	にぶい橙色	5mm 以下砂粒含む。	良好	
184	70		土器溜り	4層	土師器	坩	口径)	10.0	体下部は内湾し後ほぼ直立。口端部やや肥厚。	外) ハケ後ナデ 内) ナデ、指頭痕あり	浅黄橙色	2mm 以下砂粒含む。	良好	スス付着
185	70		土器溜り	4層	土師器	鉢？			体部大きく湾曲。口端部内側で斜め上下に拡張し、内湾する。	外) ナデ、ナデ後ミガキ 内) ナデ、ナデ後ミガキ	にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	良好	

第６表　中小路遺跡Ａ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)		形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
186	71		A6区	4層	縄文土器	深鉢			口端部狭い平坦面。口縁直下刻み目を施す突帯あり。	外) ナデ、風化 内) ナデ (板状工具) 指頭痕あり	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	口縁付近スス付着
187	71		A10区	4層	弥生土器	鉢？	口径)	22.6	体部逆「ハ」字状に開きながら立ち上がり、口縁部でさらに大きく開く。口端部小さく斜め上下に拡張。口端拡張部5条の平行沈線文。	外) 体部ナデ・ヨコハケ・ミガキ？・指頭痕あり 内) 口縁部ナデ	黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
188	71		A10区	4層	弥生土器	台付鉢?	底径)	10.0	体・台部境は大きく湾曲。体部逆「ハ」字状に開きながら立ち上がる。台部なだらかに「ハ」字状に開き、裾端部斜め上下に拡張。裾拡張部に1条の凹線文。	外) ナナメ・タテハケ後ナデ 内) 坏部ナナメハケ後ナデ・指頭痕あり、台部ケズリ・ナデ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
189	71		A8区	4層	弥生土器	鉢	口径)	27.0	複合口縁。複合部斜め下方に鋭く突出。口縁部直立状態。口端部丸くおさめる。頸部弓状に屈曲し、体部は小さく膨らむ。口縁部に太い6条の平行沈線文。体上部「ノ」字状の連続刺突文。	外) 頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、体部ケズリ	外) にぶい黄橙色 内) 灰白色			
190	71	42	A6区	4層	弥生土器?	塊	口径) 底径) 器高)	10.0 4.9 8.1	底部平底状。底・体部境の稜は丸みをもち不明瞭。体部やや内湾気味に立ち上がり、口端部丸くおさめる。体上部段状に継ぎ目を残す。	外) ヨコ・ナナメナデ、体上部ヨコナデ・指頭痕あり 内) 体部ナデ・指ナデ・指頭痕あり、底部ナデ・指頭痕あり		1mm以下の砂粒含む。	良好	完形
191	71		A9区	4層	弥生土器?	坏	底径)	2.6	大型の坏。底部は平底。底・体部境は緩い稜をなす。体～口縁部へは内湾して移行。端部欠失。底部内面はナデ寄せの粘土の膨らみで凸凹する。粗雑なつくり。	外) (ハケ後？) ミガキ？風化の為不詳 内) 指頭様ナデ (粗雑)	外) にぶい橙色 内) 灰白色	3mm以下の砂粒含む。	やや不良	
192	71		A8区	4層	弥生土器	坏？	口径) 底径) 器高)	14.0 6.2 6.7	底部平底。底・体部境の稜は不明瞭。口端部丸くおさめる。	外) タテ・ナナメハケ後ナデ 内) ケズリ、指頭痕あり	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
193	71		A11区	2層	弥生土器	坏?底部			底部丸底。	外) ナデ？、ミガキ、風化気味 内) ミガキ、指頭痕あり	灰白色	2mm以下の砂粒含む。	良好	スス付着
194	71	42	A11区	30層	弥生土器?	坏	口径) 底径) 器高)	11.6 3.6 7.0	底部丸底に近い平底。底部から内湾して立ち上がり、逆「ハ」字状に短く開き、丸くおさめる口端部へ続く。口縁部指頭様の抑えで波状を呈する。	外) 口縁部指頭痕あり、体部ナナメハケ後ナナメナデ 内) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部ナナメ指ナデ・指頭痕あり	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着

195	71	42	A10区	2層	弥生土器?	低脚坏?	口径) 12.4 底径) 6.8 器高) 5.9	坏部は逆「ハ」字状に立ち上がり、口端部で丸くおさめる。脚部は短く「ハ」字状に大きく開き、端部丸くおさめる。	外) 坏部ミガキ・ナナメハケ・ナデ、脚部ヨコナデ・ミガキ 内) 口端部付近ヨコ・ナナメナデ・一部ミガキ・指頭痕あり、坏中部ナナメハケ、坏下部ミガキ・指ナデ、脚部ヨコナデ・ヨコハケ、脚天井部指ナデ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
196	71		A8区	2層	弥生土器	高坏(脚部)	底径) 11.0	筒部は弓状に緩やかに湾曲して「ハ」字状に大きく開き、丸くおさめる端部へ続く。	外) 脚部ミガキ・指頭痕あり、裾部ナナメハケ後ナナメ・ヨコナデ 内) ナナメケズリ後ナデ・指頭痕あり	灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
197	71	42	A7区	4層	弥生土器	鼓形器台		筒部やや外反。台部は「ハ」字状に大きく開きながら下降し、複合部を作る。裾部多条の平行沈線文。	外) 筒部ハケ 内) 筒部ナデ、裾部ケズリ?風化の為不詳	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内面筒部ススト付着
198	71		A7区	4層	弥生土器	器台		脚上部なだらかに大きく開き後斜め下に強く屈折し、「ハ」字状に開きながら下降。	外) 上部ナデ、下部ヨコ・ナナメナデ 内) 上部ナナメハケ・ナデ・指頭痕あり、下部ナデ	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
199	71		A8区	2層	弥生土器?	鼓形器台	底径) 14.6	台部「ハ」字状に開きながら下降。口端部玉縁状。	外) ナナメハケ後ヨコナデ 内) ケズリ後ナデ?風化の為不詳	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
200	72		A9区	2層	弥生土器	甕	口径) 18.8	頸部「く」字状に屈曲。口端部小さく斜め上下に拡張。口縁部3条の平行沈線文。体上部ヘラ工具による連続列状文。	外) 頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体上部ナナメケズリ		3mm以下の砂粒含む。	良好	
201	72		A6区	2層	弥生土器	甕	口径) 15.0	短く外反する口端部。口端部を斜め上方に引き出す。口縁部2条以上の平行状線文。体部上部クシ状工具による「ノ」字状の連続列状文。	外) ハケ、ナデ、風化気味 内) ナデ、指頭痕あり、ケズリ、風化気味	淡黄色	4mm以下の砂粒含む。	良好	口縁付近ススト付着
202	72		A9区	1層	弥生土器	甕	口径) 19.8	口縁部短く、口端部上方に拡張して垂直面を作り、尖り気味におさめる。頸部「く」字状に屈曲。口縁部太目の平行沈線文3条。体上部に半月状の連続刺突文。	外) 風化の為不詳 内) 体部ナナメケズリ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
203	72			4層	弥生土器	甕	口径) 20.8	複合口縁状口縁。複合状部にぶく下向き。頸部「く」字状に屈曲。口端部やや肥厚して丸くおさめる。体上部「ハ」字状に開き後内湾しながら緩く膨らみつつ下降。口縁部7条以上の平行沈線文(後ナデ消し)。体部ハケ状工具による連続押引き文。	外) 口縁部ナデ、体部タテ・ナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ	胎土) 浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内外ススト付着(外面厚く付着)
204	72		A9区	1層	弥生土器	甕	口径) 18.0	複合口縁。口縁部外反。口端部肥厚気味におさめる。複合部突出せず丸味をもって鈍角状に屈折し、頸部に移行。口縁部13条の平行沈線文。	外) 頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭様ナデ、体部タテケズリ		2mm以下の砂粒含む。	良好	
205	72		A12区	4層	弥生土器	甕	口径) 16.0	複合口縁。複合部にぶくやや横向き。頸部は大きく湾曲。口端部に平坦面。口縁部3条以上の平行沈線文。体部クシ状工具による連続列突文。	外) 頸部ヨコナデ、体部ミガキ 内) 口縁部ヨコ・ナナメナデ・ナナメ指ナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ後ナデ・指頭痕あり	にぶい黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面及び内面体部ススト付着
206	72			4層	弥生土器	甕	口径) 15.4 底径) 4.0 器高) 17.5	複合口縁。複合部丸くやや鋭く直角状に屈折。頸部「く」字状に屈曲。口端部丸くおさめる。体部は大きく内湾して下降。底部平底で、底・体部境に浅いシボリ痕みられる。口縁部3条以上の平行沈線文。	外) 体部ナデ? 内) 口縁部ナデ、体部ナナメケズリ		3mm以下の砂粒含む。	良好	外面ススト付着
207	72		A1区	4層	弥生土器	甕	口径) 15.0	複合口縁。複合部は鋭く斜め下向きに突出。頸部「く」字状に屈曲し、口縁部逆「ハ」「字状に立ち上がる。複合中部で逆「く」字状に屈曲(内傾)し、口端部丸くおさめる。口縁部15条の平行沈線文。体上部に1条以上の平行沈線文。	外) 口縁部ヨコナデ(条痕残る)、体部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、頸部ミガキカ?、体部ナナメケズリ後ナデorミガキ		3mm以下の砂粒含む。	良好	内外ススト付着
208	72	42	A7区	4層	弥生土器	甕(底部)	底径) 8.8	高台部は「ハ」字状に大きく短く開き、端部は丸くおさめる。体部は外反しながら立ち上がる。	外) ナナメナデ・指頭痕あり 内) ナナメナデ・指頭痕あり、高台内ケズリ・ナデ	胎土) にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内外ススト付着
209	72		A10区	4層	弥生土器	甕(台部)	底径) 10.0	台部は「ハ」字状に大きく開き、端部はにぶい嘴状を呈す。体部逆「ハ」字状に開きながら立ち上がる。	外) 体～台部粗いナナメハケ後ナデ 内) 体部ナデ・指頭痕あり、台部ナナメナデ・指頭痕あり	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
210	72		A8区	3層	弥生土器	甕(底部)	底径) 9.6	底部上底状。底・体部境の稜は明瞭。浅いシボリ痕あり。底部回転糸切り状痕。	外) ハケ、ナデ、底部ハケナデ・指頭痕あり 内) 太い多方向のハケ、底面に指頭痕あり		2mm以下の砂粒含む。	良好	内面底部付近ススト付着。
211	73		A10区	2層	弥生土器	壺	口径) 23.4	朝顔形の口縁部。口縁部は大きく外反。口端部は斜め上下に小さく拡張し、外側に斜めの平坦面を作る。口端拡張部に2条の平行凹線文。口縁下部に連続列突文を刻んだ突帯。	外) 口縁部ナナメハケ後ナデ、一部ミガキ? 内) ナデ?	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
212	73		A10区	30層	弥生土器	壺	口径) 23.0	漏斗状に開く口縁。口端部は斜め下方に小さく引き出し、斜めの平坦面を作る。口端部に4条の凹線文。	外) ナナメハケ後ナデ 内) ナデ	にぶい黄橙色	砂粒含む。	良好	
213	73		A9区	30層	弥生土器	壺	口径) 34.6	大型壺。朝顔形に外反して開く口縁。口端部肥厚・拡張して中央が少し窪む斜めの面を作る。	外) 口端部ヨコナデ、口縁～頸部ミガキ後板状工具によるナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部ナナメ・ヨコミガキ後ナデか?	外) にぶい褐色 内) にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
214	73		A6区	2層	弥生土器	壺	口径) 28.0	頸部弓状にゆるく湾曲。口端部逆「L」字状に屈曲しほぼ直立。	外) 太いハケ、ナデ、指頭痕あり、風化気味 内) 不明、ナデ?	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
215	73				弥生土器	壺	口径) 18.0	直口壺。頸部はゆるく「く」字状(斜め)に屈曲。口縁部やや内湾しながら立ち上がり、口端部わずかに外傾して丸くおさめる。頸～体上部連続列突文。	外) 口縁部ヨコハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ヨコナデ・ナナメケズリ・指頭痕あり(上部)	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
216	73		A9区	2層	弥生土器	壺	口径) 17.8	複合口縁。複合部直角状に屈折。口縁部は外反気味に小さく外傾。頸部はゆるく弓状に屈曲。口縁部に多条の平行沈線文。	外) 頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ?複合部指頭様ナデ、頸部ヨコナデ	にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	やや不良	
217	73				弥生土器	壺	口径) 19.0	複合口縁。複合部太く水平方向に突出。口縁部外反気味。口端部外方へ小さく折り曲げる。	外) ナデ、頸部細い指頭様ナデ 内) ナデ	外) 灰黄褐色 内) 灰黄色	微砂粒含む。	良好	大木式
218	73		A1区	4層	石器	打製石斧	現存 最大長) 11.4 最大幅) 8.0 最大厚) 2.2 重量(g) 243	基部欠損。片面に自然面残る。片面に細かい線状痕あり。石材は頁岩orスレートか?					やや磨耗か?
219	74		A11区	30層	土師器	甕	口径) 19.8	口縁部逆「ハ」字状に開く。口端部内側に小さく折り込む。頸部「く」字状に屈折。	外) ハケ?風化の為不詳 内) 頸部以下ケズリ?風化の為不詳	浅黄橙色	微砂粒含む。	やや不良	布留甕系
220	74		A7区	4層	土師器	甕	口径) 18.8	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口縁部逆「ハ」字状に大きく開く。口端部小さく丸くおさめる。体上部「ハ」字状に開きながらやや内湾気味に下降。	外) 口縁部ヨコナデ、体部ナナメ・ヨコハケ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ・指頭痕あり(上部)	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	布留甕系
221	74		A11区	30層	土師器	甕	口径) 17.0	単純口縁。薄手。頸部「く」字状に屈曲。口端部丸味をもつ。	外) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメハケ・上方は指頭様ナデ 内) 口縁～頸部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	布留甕系
222	74	42	A11区	30層	土師器	甕	口径) 20.4	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口縁部逆「ハ」字状に開きながら立ち上がり、口端部丸くおさめる。体部大きく内湾しながら下降。	外) 口縁部ハケ工具によるヨコナデ、体部ナナメハケ・ナデ・ミガキ 内) 口縁部ヨコナデ、体部ケズリ		3mm以下の砂粒含む。	良好	布留甕系
223	74		A11区	30層	土師器	甕(坩?)	口径) 14.8	単純口縁。底部丸底。頸部「く」字状に屈折。口端部丸くおさめる。体部扁球形。	外) 口縁部ハケ後ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコハケ後ヨコナデ、体部ナデ・指頭痕あり	にぶい橙色	密	良好	
224	74		A6区	2層	土師器	甕(坩?)	口径) 11.4	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口端部丸くおさめる。体部扁球形。	外) 口縁部ナデ?体部ナナメハケ・ナデ? 内) 口縁部ナデ?体部ケズリ	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面ススト付着
225	74		A11区	30層	土師器	甕(坩?)	口径) 14.0	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口縁部大きく外反し、口端部小さく丸くおさめる。体部扁球状を呈す。丸底となるものか?入念なつくり。	外) 口縁部ヨコナデ後一部ミガキ・指頭痕あり、体上部ヨコナデ、体部ナナメハケ後ナナメナデ・指頭痕あり 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部(ケズリ後?)ヨコ・ナナメナデ・指頭痕あり	明黄褐色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面体部ススト付着
226	74			4層	土師器?	甕(坩?)		単純口縁。頸部「く」字状に屈曲し、口縁部逆「ハ」字状に開きながら立ち上がり、口端部丸くおさめる。体部ナデ肩で内湾しながら下降し、体中位で最大径。	外) 口縁部ヨコナデ、体部ナナメハケ後ナデ・一部ミガキ 内) 口縁部ナナメハケ・指頭痕あり、体部タテ・ナナメ指ナデ・指頭痕あり	にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	良好	外面ススト付着

227	74		A7区	4層	土師器	甕(坩？)	口径 10.0	単純口縁。口縁部小さく外傾。頸部緩く弓状に屈曲。体部小さく膨らむ。	外) 口頸部ナデ、体部風化の為不詳 内) 口頸部ナデ、体部ケズリ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	やや不良	
228	74	43	A11区	30層	土師器	甕(坩？)	口径 10.9 器高 7.7	単純口縁。底部丸底。頸部弓状に湾曲。口端部小さく丸くおさめる。体部扁球形。	外) 口縁部ヨコ・ナナメナデ・指頭痕あり、体部細いナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部指ナデ、底面に指頭痕あり	外) にぶい黄橙色 内) 明黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好	完形
229	74		A6区	2層	土師器	高坏(坏部)	口径 22.0	坏部は逆「ハ」字状に大きく開きながら立ち上がる。口端部丸くおさめる。	外) ミガキ 内) ナナメハケ後ミガキ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
230	74		A3区	2層	土師器？	高坏(脚部)	底径 8.4 器高 5.7	坏底部円盤充填。筒部「ハ」字状に開きながら下降し、さらに大きく開いて丸くおさめる裾端部へ続く。	外) ミガキ 内) ナナメハケ後ナデ・指頭痕あり	灰白色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内面裾部ススト付着
231	74		A7区	4層	土師器？	高坏(脚部)		筒部「ハ」字状に開きながら下降。	外) ミガキ？風化の為不詳 内) ケズリ？風化の為不詳	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
232	75		A8区	2層	須恵器	蓋坏蓋	口径 13.0 器高 4.1	天井部平坦で、体部は緩く内湾して下降。口縁部やや内向き。口端部内側を押さえ、ノミ刃状に仕上げる。	外) 天井部ヘラケズリ(ヘラ起し)、体部強い回転ヨコナデ(器面凹凸)、口縁部ヨコナデ 内) 回転ヨコナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
233	75		A9区	2層	須恵器	蓋坏身	口径 13.0	底部より受部へは内湾。体部・受部の境は段状をなす。口縁の立ち上がりは内傾。受部との境に沈線。	外) 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
234	75	43	A11区	2層	須恵器	提瓶		把手付き(環状把手、欠損)。体部は球状で、裏は平坦面を持つ。。	外) カキ目 内) カキ目後ナデ	灰色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外体上部被灰
235	75		A3区	4層	金属器	刀		直刀片。					
236	75		A12区	2層	須恵器	蓋	口径 12.6 つまみ径 6.6 器高 3.0	輪状つまみ。天井部は広く平坦。輪状つまみの径は大きめ。体部への移行部は強く屈曲。口端付近でやや外反し、口端部は嘴状に下垂。	外) 内) 回転ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	完形
237	75		A10区	1層	須恵器	坏蓋	口径 14.0 つまみ径 6.6 器高 3.9	径の大きい輪状つまみ。天井部平坦。天井・体部移行部は丸味をもちながら急角度で下降。口縁部付近で小さく外反。口端部嘴状に下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、天井部指頭様ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	
238	75	43	A9区	2層	須恵器	坏蓋	口径 16.5 つまみ径 8.5 器高 3.3	輪状つまみ。天井部平坦で、体部はなだらかに「ハ」字状に開き、口端付近で外反。口端部は嘴状に下垂し、丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、天井部回転ナデ後ナデ(指ナデか？)	胎土) 灰色 釉) オリーブ灰色	微砂粒含む。	良好	外面被灰(自然釉)
239	75	43	A7区	4層	須恵器	高台付坏	口径 15.6 高台径 9.0 器高 6.8	金属器模倣。高台は小さく外向きにつく。量付部に溝。坏下部は逆「ハ」字状に大きく開き後逆「く」字状に小さく段状に屈曲。口縁部さらに逆「ハ」字状に開く。口端部平坦面を作り尖る。底・体部境付近に3条の条痕あり。	外) 回転ナデ、高台部回転ナデ後ナデ 内) 回転ナデ、底部回転ナデ後指ナデ	外) 褐灰色 内) 灰色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
240	75		A10区	2層	須恵器	壺		高台付きの壺。体下部～底部片。体部は外傾し、高台(貼り付け)は外に開く。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ(強くナデ器面に浅い凹凸)	内外) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	1mm以下の砂粒含む。	良好	内面被灰(自然釉)
241	75	43	A2区	4層	緑釉陶器	塊	高台径 6.0	高台は高めで、断面逆台形。体部は内湾して開く。	外) ナデ 内) ナデ	内外) 灰白色 釉) 若草色	微砂粒含む。	良好	
242	75		A2区	3層	磁器	青磁碗		体部逆「ハ」字状に開く。片切り鎬蓮弁文。内外施釉。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	龍泉窯系碗

第７表　中小路遺跡Ｂ区遺構出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
243	76		SI01	床面	弥生土器	甕	口径 21.6	複合口縁。口縁部はほぼ直立し、端部丸くおさめる。口縁部に4条の平行沈線文(上部ナデ消し)。複合部は下方に突出。頸部はゆるい「く」字状屈曲。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ、指頭痕あり	明黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好	ススト付着
244	76		SI01		弥生土器	甕	口径 13	頸部は「く」字状に屈曲。口演部短く逆「ハ」字状に開く。口演端部斜め上下に小さく拡張。体上部は「ハ」字状に開き下降。口縁部に2条の平行沈線文。体上部にクシ状工具による連続列状文。	外) ナデ、太いハケ 内) ナデ、ケズリ後ナデ、指頭痕あり	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
245	76		SI01		弥生土器	甕	口径 18	頸部逆「L」字状に屈曲。口縁端部斜め上下に拡張。体部直立。口縁部に1条の平行沈線文。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ、指頭痕あり	内) 明黄褐色 胎土) 明黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
246	76		SI01		弥生土器	甕	口径 15.6	口縁拡張部に1条以上の平行沈線文。頸部「く」字状に小さく屈曲。口縁端部斜め上下に拡張し、斜めの平坦面を作る。	外) ナデ、ハケ後ナデ 内) ナデ？(指頭痕あり)、ケズリ後ナデ		5mm以下の砂粒含む。	良好	ススト付着
247	76		SI01		弥生土器	甕	口径 17.2	口縁部逆「ハ」字状に大きく開く。端部付近で短く内側に屈曲し、上方に小さく尖る。	外) ナデ 内) ナデ、ケズリ？	内外) 浅黄橙色 釉) 明黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外赤色顔料
248	76		SI01		弥生土器	甕	口径 23	頸部弓状に湾曲。口縁端部斜め上下に拡張。体部はやや内湾気味に下降し、内面は接合面で剥離する。	外) ナデ、指頭痕あり 内) ナデ、指頭痕あり、ケズリ？	胎土) にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内外ススト付着
249	76		SI01		弥生土器	甕	口径 13	口縁部は短く逆L字状。端部を小さく上下に拡張。上頭部は逆L字状に屈曲。体部は「ハ」字状に開き、中部から内湾しながら下降する。体上部にヘラ状工具による連続刺突文。	外) ナデ、ハケ 内) ナデ、ケズリ、指頭痕あり		4mm以下の砂粒含む。	良好	ススト付着
250	76		SI01		弥生土器	甕	口径 15	複合口縁。口縁部に凹線状の平行沈線文5条。複合部は直角状に屈折。頸部に平行沈線3条以上。口縁部は直立し、端部は丸くおさめる。	外) ナデ 内) ナデ、指頭痕あり、ケズリ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	ススト付着
251	76		SI01		弥生土器	甕	口径 22	複合口縁。複合部にぶく直角状に屈折。口縁部に6条の太い凹線状の平行沈線文。	外) ナデ、指頭痕あり 内) ナデ、指頭痕あり、ケズリ		3mm以下の砂粒含む。	良好	内面ススト付着
252	76		SI01		弥生土器	甕(底部)	底径 6.8	底部はやや上底で体部との境の稜は明瞭。シボリ状に浅くくぼむ。体下部から逆「ハ」字状に開きながら立ち上がる。	外) ハケ後ナデ 内) ナデ指頭痕あり	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
253	76		SI01		弥生土器	甕(底部)	底径 5.2	底部は平底で体部との境は不明瞭。底部から逆「ハ」字状(やや内湾気味)に開いて立ち上がる。	外) ナデ 内) ケズリ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内面ススト付着
254	76		SI01		弥生土器	壺	口径 18.0	体上部低く「ハ」字状に開く。口縁部やや外反気味ながらほぼ直立し、平坦面が見られる口縁端部へ続く。ナデ後複線の波状文or弧状文。	外) ナデ 内) ナデ、指頭痕あり、ケズリ			やや不良	
255	76		SI01		弥生土器	高坏(坏部)		体部内湾しながら立ち上がる。口縁端部内外に大きく拡張し(外側は鍔状)、内側の突出は鋭い。	外) ナデ、風化気味 内) ナデ、風化気味	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
256	76		SI01		弥生土器	高坏脚部	底径 12.8	脚部は「ハ」字状に開く。端部上下に拡張し、外側に平坦面を作る。	外) ナデ 内) ケズリ後ナデ	外) 浅黄橙色 内) にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	ススト付着
257	76		SI01		土製品	紡錘車	幅径 4.5 長径 4.5 厚高 0.9	中央に1穴。入念なつくり。		灰白色	微砂粒含む。	良好	完形 外面ススト付着(焼成痕)
258	77		SI02	P1	弥生土器	甕	口径 15.0	頸部弓状に大きく湾曲。口縁端部上下に小さく拡張し、外側に斜め平坦面を作る。体部扁球形状に膨らむ。頸～体上部に連続押引き文。	外) 口縁部ナデ？、体部ナナメハケ後ヨコナデ 内) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ	外) 灰黄色 内) 灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外ススト付着
259	77		SI02	床面	弥生土器	甕	口径 18.8	頸部「く」字状に屈曲。口縁端部斜め上下に拡張し、外側に斜め平坦面を作る。口縁部2条の平行沈線文。頸部に連続刺突文。	外) 体上部ナデ？ 内) 口縁部ナデ、体上部ケズリ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
260	77		SI02	床面	弥生土器	甕	口径 16.4 底径 4.6 器高 19.6	頸部「く」字状に屈曲。口縁端部斜め上下にごく小さく拡張し、外側に斜め平坦面を作る。体部倒卵形状。底部やや上底状で、底・体部境の稜明瞭。体部にクシ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ナデ、体部細いナナメ・タテハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ケズリ後ハケ状工具によるナナメナデ・指頭痕あり	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面及び内面体部にススト付着
261	77	43	SI02	床面	弥生土器	甕	口径 14.6 底径 6.4 器高 25.2	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口縁端部やや肥厚気味で外側に斜め平坦面を作る。体部ナツメ形。	外) 口縁部ナデ、体部ハケ・ナデ 内) 口縁部ナデ?、体部ケズリ後ナデ・指頭痕あり		4mm以下の砂粒含む。	良好	
262	77		SI02	床面	弥生土器	壺(底部)	底径 9.6	平底。底・体部境の稜明瞭。シボリ痕あり。	外) ハケ？、底部ナデ？ 内) 指頭痕あり	淡黄色	3mm以下の砂粒含む。	良好	前期か？
263	77	43	SI02	床面	弥生土器	甕	口径 8.8	小型の甕。頸部は弓状に湾曲。ナツメ形の体部。頸部付近に連続列点状の列突文。	外) 口縁部タテミガキ、体部ミガキ・ナデ 内) 口縁部ナデ?指頭痕あり、頸部ミガキ、体部ケズリ	にぶい橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	

264	77		SI02	床面	弥生土器	高坏(坏部)	口径) 16.0	坏部逆「八」字状(内湾気味)に立ち上がる。口縁部丸くおさめる。	外) ミガキ 内) ミガキ	浅黄橙色	微砂粒含む。	良好	
265	78		SI02		弥生土器	甕	口径) 17.0	頚部逆「コ」字状に屈曲。口縁部大きく外反し、口縁端部上下に小さく拡張して外側に斜め平坦面を作る。体部にヘラ状工具による「ノ」字状の連続列状文。	外) 口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ・粗いナナメ・タテナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ	外) にぶい黄橙色 内) 灰白色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
266	78		SI02		弥生土器	甕	口径) 14.4	頚部「く」字状に屈曲。口縁端部斜め上下に小さく拡張し、外側に斜め平坦面を作る。体上部「八」字状(やや内湾気味)。	外) 口縁部ナデ、体部ナナメハケ・ナデ 内) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部ケズリ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
267	78		SI02		弥生土器	甕	口径) 17.2	単純口縁。頚部ゆるく「く」字状に屈曲。口縁端部外側に平坦面。体部なで肩でゆるく内湾しながら下降。体上部ヘラ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部ナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメ・横ケズリ	外) にぶい黄橙色 内) 灰白色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
268	78		SI02		弥生土器	甕	口径) 15.4 底径) 6.8 器高) 18.8	底部ほぼ平底。底・体部境はやや不明瞭。頚部「く」字状に屈曲。口縁端部小さく斜め上下に拡張し、外側に斜め平坦面を作る。	外) 口縁部ナデ、体上部ナデ?、体下部ナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ナデ?体上部ケズリ?体下部ケズリ・指頭痕あり	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
269	78		SI02		弥生土器	鉢?	口径) 15.0	頚部「く」字状に屈曲。口縁端部斜め上下に小さく拡張し、外側に斜め平坦面を作る。体部扁球状に膨らむ。体上部にクシ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ナデ、体上部ナナメハケ・ナデ 内) 口縁部ナデ?、体部ケズリ?、風化気味	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面口～体上部及び下部にスス付着
270	78		SI02		弥生土器	壺		体部扁球体。体上部に1条の平行沈線文、直下にクシ状工具による連続列状文。	外) 体上部細いナナメハケ・ミガキ 内) ケズリ?後ナデ、指頭痕あり	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面体部にスス付着
271	78		SI02		弥生土器	甕or鉢	口径) 23.0	頚部「く」字状に屈曲。口縁端部斜め上下に拡張し、外側に斜めの平坦面を作る。口縁部4条の平行沈線文。体部にクシ状工具による連続押引き文。	外) 口縁部ナデ、体部太いナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ、体部ナデ・ナナメケズリ	外) 灰白色 内) 浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
272	78	43	SI02		弥生土器	甕	口径) 24.4 底径) 8.8 器高) 17.8	頚部「く」字状に強く屈曲。口縁端部斜め上下に拡張。底部やや上底。底・体部境の稜明瞭で、シボリ痕あり。口縁部に3条の平行沈線文。頚～体上部にクシ状工具による連続押引き文・連続刺突文。	外) 体部太いナナメ・タテハケ後ナナメナデ、底部付近に指頭痕あり 内) 口縁部ナデ?、体部ナナメケズリ、上部に指頭痕あり	浅黄橙色	4mm以下の石英・砂粒含む。	良好	外面及び内面口縁部付近にスス付着
273	78		SI02		土師器?	甕	口径) 15.0	口・頚部弓状に大きく湾曲。口縁端部斜め平坦面。頚部に「ノ」字状の刻み痕あり。	外) ヨコ・ナナメナデ、指頭痕あり 内) ヨコ・ナナメナデ、指頭痕あり	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
274	79		SI02		弥生土器	壺	口径) 25.4	口縁部朝顔形に大きく開く。口縁端部斜め上下に拡張し、外側に平坦面。	外) 口縁部ナデ一部ミガキ痕 内) 口縁端部ヨコナデ、口縁部ナナメハケ後ヨコ・ナナメナデ	灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
275	79		SI02		弥生土器	壺	口径) 34.0	口縁部朝顔形に大きく開く。口縁端部斜め上下に拡張し、外側が反る。	外) ヨコ・ナナメナデ、指頭痕あり 内) ナデ?風化気味	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内面口縁端部付近にスス付着
276	79		SI02		弥生土器	甕(底部)	底径) 4.4	ほぼ平底。底・体部境の稜は明瞭。シボリ状に浅くくぼむ。体部逆「八」字状。	外) 細いハケ後ナデ・指頭痕あり、底部ナデ 内) ナナメケズリ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
277	79		SI02		弥生土器	甕(底部)	底径) 5.8	底部中央がやや上底気味。底・体部境の稜明瞭。シボリ状に浅くくぼむ。体部逆「八」字状。	外) ナデ 内) タテケズリ?後ナデ、底部指頭痕あり	淡黄色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
278	79		SI02		弥生土器	甕(底部)	底径) 6.8	底部上底。底・体部境の稜明瞭。体最下部を浅くくぼませる。体部逆「八」字状。	外) ナデ、下部に指頭痕あり 内) ケズリ、底面に指頭痕あり	浅黄橙色	3.5mm以下の砂粒含む。	良好	
279	79		SI02		弥生土器	甕(底部)	底径) 3.6	底部は径の小さい平底。底・体部境の稜明瞭。体下部逆「八」字状にやや小さく開く。	外) 体部ナナメハケ後ナデ、底部ナデ 内) タテ・ナナメケズリ、底部に指頭痕あり	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
280	79		SI02		弥生土器	底部	底径) 10.6	ほぼ平底。底・体部境の稜不明瞭。シボリ痕見られる。	外) 体部?、底部ナデ 内) ケズリ	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
281	79		SI02		弥生土器	底部	底径) 6.4	底部平底。底・体部境の稜はやや不明瞭。体部逆「八」字状(内湾気味)	外) ナデ 内) ナナメケズリ	胎土) 褐灰色	4mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
282	79		SI02		弥生土器	高坏(脚部)	底径) 12.4	脚部「八」字状に開いて下降し、さらに大きく開いて囲うし、外面に平坦面のある裾端部に続く。	外) 細かいハケ、ミガキ 内) 筒部ナナメナデ・指頭痕あり、裾部ナデ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面赤色顔料
283	79		SI02		弥生土器	底部	底径) 6.6	高い脚状の底部。脚部「八」字状に開き、端部丸くおさめる。	外) ナナメナデ 内) ナナメナデ、指頭痕あり	浅黄橙色	3mm以下の石英・砂粒含む。	良好	
284	79		SI03		弥生土器	甕	口径) 18.8	頚部「く」字状に屈曲。口縁部大きく外反。口縁端部斜め上下に拡張し、外側に斜め平坦面作る。口縁拡張部に2条の平行沈線文。体上部にクシ状工具による連続列突文。	外) 内) 口縁部不詳、ケズリ	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
285	80		SI04	床面	弥生土器	甕	口径) 17.2	複合口縁。複合部斜め下方に小さく突出。口縁部ほぼ直立し、口縁端部丸くおさめる。口縁部に多状の平行沈線文。体部にクシ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ナデ 内) 口縁部ナデ、頚部指頭様ナデ、体部ケズリ(風化気味)		3mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
286	80		SI04	床面	弥生土器	甕	口径) 20.8	複合口縁。複合部は鋭く斜め下方に突出。口縁部ほぼ直立し、口縁端部丸くおさめる。口縁端部に多条の細い平行沈線文。体部にヘラ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ヨコナデ、頚部ヘラナデ? 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ケズリ?	灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
287	80		SI04	床面	弥生土器	甕	口径) 21.6	複合口縁。複合部はやや鋭く直角状に屈折。口縁部外反し、口縁端部やや尖り気味ながら丸くおさめる。口縁部に3条以上の平行沈線文。体部に連続押引き文。	外) 風化気味 内) 口縁部ナデ?、体部ケズリ	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外体部スス付着
288	80		SI04	床面	弥生土器	甕	口径) 22.0	複合口縁。複合部にぶく直角状に屈折。口縁部外反し、口縁端部丸くおさめる。体上部に連続押引き文。	外) 口縁部ナデ?風化の為不詳 内) 口縁部ナデ?指頭痕あり、頚部ナデ(条痕あり)、体部ケズリ	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
289	80		SI04	床面	弥生土器	甕	口径) 15.8	複合口縁。複合部はにぶく直角状に屈折。口縁部外反し、口縁端部丸くおさめる。口縁部に14条以上の細い平行沈線文。体上部連続押引き文。	外) 口縁部ナデ、頚部付近縦のミガキ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、頚部縦のミガキ、体部ケズリ	明黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
290	80		SI04	床面	弥生土器	甕	口径) 21.0	複合口縁。複合部にぶく直角状に丸みをもって屈折。口縁部外反し、口縁端部丸くおさめる。口縁部に弓状の細い平行沈線文。体部にヘラ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ナデ、体部タテハケ・ナデ 内) 口縁部ナデ?、体部ケズリ・ハケ・一部ミガキ		3mm以下の石英・砂粒含む。	良好	外面スス付着
291	80		SI04	床面	弥生土器	鉢	口径) 8.0	体部逆「八」字状で内湾気味に開きながら立ち上がり、上部でほぼ直立。口縁端部丸くおさめる。	外) ナデ?風化の為不詳 内) ナデ?指頭痕あり、風化の為不詳	淡黄色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
292	80		SI04	床面	弥生土器	坩堝の底部?		尖底。底部は丸底。逆「八」字状に開きながら立ち上がる。	外) ナデ 内) ナデ、指頭痕あり	にぶい黄橙色	微砂粒含む。	良好	内面底にガラス化した黒色物(スミ?)あり
293	80		SI04	中央ピット	石器	石包丁	現存 最大長) 8.3 最大幅) 4.2 最大厚) 0.8 重量(g) 45	背部、両端は欠損。両面刃部に多数の研磨痕あり。両面中央にセツリ面?刃部は弧状で両刃。					
294	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 21.0	頚部「く」字状に屈曲。口縁部逆「八」字状に開く。口縁端部斜め上下に拡張し、外側に斜め平坦面作る。体上部にヘラ状工具による「ノ」字状の連続列状文。	外) 口縁部ナデ、体部ナナメハケ、頚部ヘラナデ?(ミガキか) 内) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ後ハケ		3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
295	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 14.4	複合口縁。複合部ほぼ突出せず直角気味に屈折。口縁部やや外反気味。口端部丸くおさめる。口縁部に3条以上の平行沈線文。	外) 風化の為不詳 内) 口縁部ナデ?、体上部ケズリ?		3mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
296	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 16.0	複合口縁。複合部にぶく横向きに突出。口縁部やや外反気味。口端部丸くおさめる。口縁部細い14条の平行沈線文。頚部ヘラ工具による連続列状文。体上部平行沈線文。	外) 風化の為不詳 内) 口縁～頚部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ	浅黄橙色	3mm以下の石英・砂粒含む。	良好	
297	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 19.4	複合口縁。複合部にぶく直角状に屈折。口縁部逆「八」字状に開き、口縁端部丸くおさめる。体部ナツメ形。口縁部に多条の平行沈線文。	外) 口縁部ナデ、体部タテ・ナナメハケ 内) 口縁部ナデ?、体部ケズリ	外) 白灰色 内) 浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
298	81		SI04	中央ピット	弥生土器	甕	口径) 21.0	複合口縁。複合部やや鋭く小さく下方に突出。口縁部逆「八」字状に大きく開き、口縁端部丸くおさめる。口縁部に多条の細い平行沈線文。	外) 口縁部ヨコナデ 内) 口縁部ナデ、口縁端部直下指頭痕あり	胎土) 浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
299	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 18.8	複合口縁。複合部にぶく水平方向に突出。口縁部外反して立ち上がり、口端部丸くおさめる。口縁部細い平行沈線文17条以上。頚部に「ノ」字状の連続列状文。	外) 頸～体上部ヨコナデ 内) 口縁部ナデ?、体上部ヨコケズリ	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着

300	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 17.6	複合口縁。複合部にぶく水平方向に突出。口縁部逆「八」字状に開き、口端部やや肥厚気味で丸くおさめる。体部クシ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ヨコナデ 内) 口縁～頸部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ヨコケズリ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
301	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 18.4	複合口縁。複合部にぶく直角状に屈折。口端部肥厚気味で丸くおさめる。体上部に2枚貝による連続列状文。	外) 口縁部ヨコナデ、体部ナデ 内) 口縁部ヨコ・ナナメナデ、体上部ナデ・指頭痕あり・ナナメケズリ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
302	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 19.0	複合口縁。複合部にぶく直角状に屈折。口端部やや肥厚して丸くおさめる。体上部にクシ状工具による連続刺突文。	外) 口縁部ヨコナデ、体部ハケのちナナメナデ 内) 口縁～頸部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメ・ヨコケズリ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
303	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 16.0	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口縁部大きく外反し、口縁端部丸くおさめる。体上部に「ノ」上の列状文か。	外) 口縁部ヨコナデ 内) 口縁部ナデ?、ケズリ		4mm以下の砂粒含む。	良好	
304	81		SI04		弥生土器	甕	口径) 18.0 底径) 2.0 器高) 15.9	単純口縁。頸部弓状に湾曲。口縁部逆「八」字状に開き、口端部丸くおさめる。体部ほぼ直立しながら下降し、中程からしぼんで内湾して底部へと続く。底部径小さく、底・体部境の量は不明瞭。	外) 口縁～頸部ナデ・指頭痕あり、体部多方向ナデ・一部ミガキ？ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ、底部付近指頭痕あり	にぶい黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面及び内面底部付近スス付着
305	82		SI04		弥生土器	壺	口径) 13.6	口縁部逆「八」字状でやや外反気味に開く。口端部斜め上下に大きく拡張。口端拡張部に複線鋸歯文。	外) 口縁部ナデ、 内) ナデ、口端内面に指頭痕あり	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
306	82		SI04		弥生土器	高坏	口径) 14.6	口縁部やや内傾。体部へは鋭角に屈折して移行する。口縁部に10条の平行沈線文。	外) 体部ナナメハケ 内) ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
307	82	44	SI04		弥生土器	鼓形器台	口径) 14.8 底径) 13.8 器高) 14.0	うけ部、台部(脚部)の端部径はほぼ同寸。受部は複合口縁状の口縁がわずかに外反。境は段をなす(複合口縁相当箇所)。筒部は円筒形。裾端部はやや肥厚気味。受部口縁に板状工具による多条の平行細沈線。	外) 体部～筒部ナデ？台部の段上方太いハケ目状の条線あり 内) 受部ナデ、台部風化のため不詳	にぶい橙色	微砂粒含む。	やや不良	受部内面に赤色顔料
308	82		SI04		弥生土器	鼓形器台	口径) 16.0	受部大きく外反。口端部尖り気味。筒部は「く」字状に屈曲。受部にクシ状工具による多条の細い平行沈線文。筒部下半にクシ状工具による連続刺突文。	外) 風化の為不詳 内) ヨコナデ？	にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
309	82		SI04		弥生土器	甕(底部)	底径) 2.6	底部は厚く平底。底・体部境の稜はやや不明瞭。	外) ハケ、底部ナデ 内) 指頭痕あり	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
310	82		SI04	床面	弥生土器	甕(底部)	底径) 4.0	ほぼ平底。底・体部境の稜不明瞭。	外) ナデ 内) ケズリ	灰黄褐色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
311	82		SI04		弥生土器	甕(底部)	底径) 1.4	底部は径が小さく、中央部がやや上底気味。底・体部境の稜はやや不明瞭。	外) ナデ 内) ナナメケズリ・底面に指頭痕あり	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
312	82		SI06		弥生土器	甕	口径) 19.0	複合口縁。複合部はややにぶく水平に付く。口縁部外反し、口縁端部尖り気味。	外) 内) 風化の為不詳	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
313	82		SI07		弥生土器	甕	口径) 20.6	口縁端部斜め上下に小さく拡張。口縁部3条の平行沈線文(凹線か？)。頸～体部にヘラ状工具による「ノ」字状の連続列状文。	外) 体部ナナメハケ 内) 口縁部ナデ？体部ケズリ後ナナメハケ？		3mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着

第８表　中小路遺跡Ｂ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
314	83		B2区	4層	石器	楔形石器	現存 最大長) 4.9 最大幅) 4.8 最大厚) 0.9 重量(g) 27	基部欠損か？かすかな線状痕あり(使用による磨耗か？)。					別の石器の転用品(2次加工品)
315	83		B3区	4層	石器	大型石包丁?	現存 最大長) 9.3 最大幅) 6.6 最大厚) 0.8 重量(g) 68	欠損品。一部に研磨されたと思われる部分あり。					
316	83		B3区	4層	石器	磨製石斧	最大長) 16.7 最大幅) 5.8 最大厚) 3.8 重量(g) 556	太型蛤刃か？敲打痕は多数残る。刃部と基部端部は研磨。					
317	84		B3区	23層	弥生土器	甕		口縁部如意状で、逆「L」字状に外反。頸～体部は垂直orごくわずかに膨らむ。外傾接合。口端外面に刻目らしきものあり。頸部にヘラ状工具による3条の平行沈線文。	外) ミガキ 内) ミガキ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	弥生前期
318	84	44	B3区	4層	弥生土器	甕	口径) 17.6	複合口縁。口縁部は短くほぼ直立。複合部は直角状に屈折。頸部は弓状にやや強く湾曲。口縁部8条以上の平行沈線文(雑な仕上げ)。体上部に「ノ」字状(RL)の連続刺突文。	外) 頸部ヨコナデ、体中部ヨコハケ・ナナメミガキ、体下部ヨコミガキ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部雑なナデ・一部タテミガキ、体部ナナメケズリ	外) 橙色 内) 灰黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
319	84		B2区	4層	弥生土器	甕	口径) 17.0	複合口縁。複合部にぶく屈折。口端部丸くおさめる。口縁部12条以上の平行沈線文。	外) 口縁部ナデ、体上部細いタテ・ナナメハケ後ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体上部ナナメケズリ	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面及び内面口縁部スス付着
320	84		B3区	4層	弥生土器	甕	口径) 18.0 底径) 4.8	複合口縁。口縁部小さく外傾。複合部は直角状に屈折。口端部は丸くおさめる。頸部「く」字状に屈曲。最大径は体中央部。底部は径が小さく、上底状。底・体部境の稜は明瞭。口縁部に多条の平行沈線文。体部に複線の波状文(波頭間隔長く、波高高い)。	外) 指頭様ナデ 内) 口縁部ハケ状工具によるヨコナデ・指頭様ナデ、頸部以下ナナメケズリ	外) にぶい黄橙色 内) にぶい橙色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
321	84		B3区	4層	弥生土器	甕	口径) 17.0	複合口縁。複合部はにぶく横向き。頸部は弓状に湾曲。口端部丸くおさめる。口縁部に多条の平行沈線文。体部クシ状工具による押引き文。	外) 口縁部ヨコナデ、体部ナナメナデ 内) 口縁部ナデ、体部ケズリ	外) 浅黄橙色 内) 灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
322	84		B3区	23層	弥生土器	甕	口径) 19.6	複合口縁。口縁部外反して開く。複合部突出せず直角に屈折。頸部は弓状に湾曲。口縁部に多条の細い平行沈線文。	外) 頸部ナデ・指頭痕あり 内) 口縁部ヨコナデ？、頸上部指頭様ナデ、頸下部ミガキ	外) にぶい黄橙色 内) 灰白色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
323	84		B2区	23層	弥生土器	甕	口径) 20.0	複合口縁。複合部にぶく鈍角に屈折。頸部「く」字状に屈曲。口端部丸くおさめる。口縁部14条の平行沈線文。体部にクシ状工具による連続列突文。	外) 頸部ヨコナデ、体部ナデ・細いナナメハケ後ナデ 内) 口縁～頸部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
324	84		B2区	4層	弥生土器	甕	口径) 17.6	複合口縁。薄手。複合部は鋭く水平方向に突出。頸部「く」字状に屈曲。口縁部外反気味に開き、口端部丸くおさめる。	外) ナデ？ 内) 口縁部ナデ、体上部ケズリ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
325	84		B2区	4層	弥生土器	甕？	口径) 21.6	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口端部丸くおさめる。	外) 口縁～頸部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメハケ後ヨコ・ナナメナデ 内) 口縁部ナデ?、頸部ナデ?指頭痕あり、体部ナナメケズリ、風化の為不詳	外) 灰黄褐色 内) 灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
326	84		B2区	4層	弥生土器	甕(底部)	底径) 7.4	底部は丸底に近い平底。薄手。	外) 入念なナナメハケ、体部ハケ 内) ナナメケズリ、底部指頭痕あり	外) 浅黄橙色 内) 灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
327	85		B1区	4層	弥生土器	壺	口径) 48.0	鋤先状口縁の大型壺の口縁部。口縁部上面にボタン状の円形浮文を貼り付ける。	外) ナデ 内) ナデ	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	弥生中期末
328	85	44	B3区	4層	弥生土器	壺	口径) 44.0	朝顔形に開く口縁。頸～口縁部にかけて逆「八」字状に開く。口端部短く内湾気味におさめる。頸部に3条の貼付突帯(断面三角状)。	外) ミガキ、ナデ 内) ナデ、ミガキ	外) 淡橙色 内) 浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
329	85		B2区	4層	弥生土器	壺	口径) 15.6	複合口縁。複合部は鋭く水平方向に小さく突出。頸部は弓状に湾曲。口端部丸くおさめる。	外) 口縁～頸部ヨコナデ、体上部ナナメハケ 内) 口縁～頸部ヨコナデ・指頭痕あり、体上部ナナメケズリ	黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	良好	内面スス付着
330	85		B3区	4層	弥生土器	甕	口径) 11.0	単純口縁。口縁部小さく外傾。口端部丸くおさめる。体部扁球形に膨らむ。口縁部に平行沈線文？	外) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部ナデ・ヨコハケ・ミガキ・風化の為不詳 内) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部タテ・ヨコケズリ・ナデ？風化の為不詳	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	

331	85		B2区		弥生土器	鉢	口径) 17.0	頸部「く」字状に屈曲。口縁部逆「ハ」字状に短く小さく開く。口端部斜め上下に小さく拡張し、外側に斜め平坦面を作る。頸～体上部にヘラ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ナデ？、風化の為不詳 内) 口縁部ナデ？、体部ナナメケズリ	胎土) 灰白色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
332	85		B3区		弥生土器	高坏or器台	口径) 16.0	複合口縁状口縁。複合状部にぶく直角状。口端部肥厚し、丸くおさめる。口縁部3条以上の平行沈線文（かすかに）。	外) ナデ？ 内) 坏部一部ミガキ・ヨコ・ナナメナデ・指頭痕あり	黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
333	85		B3区	4層	弥生土器	器台	底径) 13.4	筒部大きく弓状に湾曲し、「ハ」字状に大きく開き、直角状に折れて下降する裾台部に続く。裾台部8条の平行沈線文。	外) 筒部ミガキ？風化の為不詳 内) 筒部ケズリ・指頭痕あり、台部ケズリ・ナデ	にぶい橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面に赤色顔料
334	85		B3区	17層	弥生土器	鼓形器台	口径) 20.0	受部逆「ハ」字状にやや内湾気味に立ち上がり、後外反して丸くおさめる口端部へ続く。受下部は鋭く斜め下に大きく突出。筒部は短い。	外) 受部横ナデ後多方向ミガキ、筒部ヨコナデ 内) 受上部ヨコナデ後多方向ミガキ、受下部ヨコナデ、筒部ケズリ		2mm以下の砂粒含む。	良好	外面受上部スス付着
335	85	44	B2区	17層	弥生土器	坩	口径) 6.8 底径) 2.6 器高) 7.0	砲弾形を呈する手捏ねの坩（甕形）。体部は外傾。底部は丸底状の平底。左右切面は楕円形状。	外) ナデ？ 内) タテナデ	外) 浅黄橙色 内) 灰白色	微砂粒含む。	やや不良	内面底部に黒色の顔料らしきもの付着（漆か？）
336	85		B3区	4層	弥生土器	注口		円筒状。	外) ナデ	にぶい橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
337	86	44	B3区	17層	弥生土器	低脚坏（脚部）	底径) 9.8	坏部接合部基部から「ハ」字状になだらかに下降し、端部丸くおさめる。	外) 上半ミガキ、裾部ヨコナデ 内) ヨコナデ、天井部指頭痕あり	明黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
338	86		B2区	17層	弥生土器	高坏（脚部）	底径) 18.0	脚部「ハ」字状に開いて下降。裾端部わずかに平坦面。	外) ナナメハケ、一部ミガキ 内) 上部ナデ・指ナデ・指頭痕あり、中部ヨコ・ナナメハケ、下部ヨコナデ	外) 浅黄橙色 内) 灰黄色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
339	86	44	B3区	4層	弥生土器	高坏（脚部）	底径) 12.6	漏斗状に開く脚部。裾端部は垂直面をなす。	外) タテハケ、ミガキ、ヨコナデ 内) 上部ケズリ後ハケナデ、下部ハケナデ	内) 黄灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	外面に赤色顔料（灰赤色）
340	86		B3区	4層	弥生土器?	高坏（脚部）		大きく漏斗状に開く脚部。上方に円孔を3方向以上（6～8方向か？）を穿つ。	外) 上部タテナデ？、下部ヨコナデ 内) 上部タテナデ、中～下部ナナメ・ヨコナデ	橙色	微砂粒含む。	良好	
341	86		B3区	22層	土師器	甕	口径) 18.0	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口縁部逆「ハ」字状にやや外反気味に開く。口端部丸くおさめる。口縁部内面に1条の条痕。	外) 口縁部ヨコナデ、頸部ナナメハケ後ヨコナデ、体部粗いヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、体部ナナメケズリ	外) 浅黄橙色 内) 灰黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好	布留甕系
342	86		B3区	17層	土師器	甕	口径) 22.0	単純口縁。体部ほぼ直立。口縁部逆「な」字状に開き、口端部肥厚して丸くおさめる。	外) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部タテハケ・ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
343	86		B3区	17層	土師器	甕	口径) 34.8	大型の甕。口縁～頸部は逆「L」字状に屈曲。体部は垂直に下降。	外) 頸部指頭様ナデ 内) 体部ケズリ？	外) 浅黄橙色 内) 灰白色	1mm以下の砂粒含む。	やや不良	
344	86		B2区	23層	土師器?	鼓形器台	口径) 22.0	受部にやや鋭く下向きの突帯付く。体部逆「ハ」字状に開き、口縁部付近で外反し、口端部尖る。	外) 回転ナデ後ナナメナデ、指頭痕あり 内) ミガキ	浅黄橙色	2mm以下の石英・砂粒含む。	良好	
345	86		B2区	23層	土師器	高坏（坏部）	口径) 16.0	坏部は底面から緩やかに内湾しながら立ち上がり、丸くおさめる口端部へ続く。	外) ナデ 内) ナナメハケ、口端直下指頭痕あり	明黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
346	86		B3区	4層	土師器	高坏		脚部「ハ」字状にゆっくり開き、裾部近くで小さく反る。裾端部欠失。坏底部円盤充填。	外) 風化の為不詳、わずかにミガキ痕が見られる 内) ナデ？裾部ミガキ？風化の為不詳	浅黄橙色	1mm以下の砂粒含む。		
347	86		B3区	23層	土師器	坏	口径) 17.0	体部は湾曲。口端部丸くおさめる。	外) ヨコ・ナナメナデ 内) ヨコナデ（回転の凹条痕残る）、指頭痕あり	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
348	86	44		27層	土師器	坏	高台径) 11.0	貼り付け高台。高台部は高く、「ハ」字状に開き、畳付は平坦。	外) ナデ 内) 底面回転ナデ後ナデ、高台天井部回転ナデ後ナデ、脚部回転ナデ後ナデ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	１０C
349	86		B2区	23層	土師器	皿	口径) 9.6 底径) 2.9 器高) 4.8	底部平底。底・体部境の稜は明瞭。体部逆「ハ」字状に開き、口端部短く外反して尖る。底部回転糸切り痕。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、指頭痕あり	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	京都系？
350	86		B2区	3層	土師器	坏	底径) 6.8	底部ほぼ平底。底・体部境の稜は明瞭で、大きくしぼる。見込みに1条の沈線。底部糸切りか？（ナデ消し）	外) ナデ、底部回転ナデ 内) ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
351	87		B3区	22層	須恵器	坏蓋	口径) 12.4 つまみ径) 7.1 器高) 3.4	輪状つまみ（貼り付け）。つまみはやや外反。天井部なだらかで、体部は「ハ」字状に下降。口端部は嘴状。	外) 回転ナデ、つまみ内回転糸切り後ナデ 内) 回転ナデ、天井部回転ナデ後ナデ	外) 緑灰色 内) オリーブ灰色		良好	
352	87		B3区	23層	須恵器	坏蓋	口径) 15.0 つまみ径) 7.0 器高) 3.3	輪状つまみ（貼り付け）。つまみ部分は外傾し端部丸くおさめる。天井部は平坦。口端部嘴状に丸く下垂。	外) 回転ナデ、つまみ内回転ナデ後ナデ 内) 回転ナデ、天井部回転ナデ後ナデ	灰色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
353	87		B3区	22層	須恵器	坏蓋	口径) 12.8 つまみ径) 7.0 器高) 3.1	輪状つまみ（貼り付け）。つまみ部分外反し、端部は尖り気味。天井部平坦面あり、体部は「ハ」字状に開く。口端部嘴状。	外) 回転ナデ 内) 天井部回転ナデ後ナデ・ナデ、つまみ内回転ナデ後ナデ		微砂粒含む。	良好	
354	87		B3区	48層	須恵器	坏蓋	口径) 17.0 つまみ径) 8.4 器高) 3.8	輪状つまみ。つまみ外反し端部に狭い平坦面を作る。天井部は広く平坦で、口端部嘴状に下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、天井部回転ナデ後ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
355	87		B2区	3層	須恵器	高坏	口径) 12.5	坏下部は逆「ハ」字状にやや内湾気味に立ち上がった後、ほぼ直立し尖り気味の口端部へ続く。坏下部と上部との境付近に3条の平行凹線文。	外) 坏部カキ目 内) 回転ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	
356	87		B3区	23層	須恵器	高坏（脚部）	底径) 9.2	筒部から「ハ」字状に開きながら下降し、裾部付近でやや外反。端部に斜めの平坦面を作る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	
357	87		B3区	23層	須恵器	高台付坏	口径) 13.0 高台径) 9.2 器高) 4.7	貼り付け高台。高台部低く、「ハ」字状に付く。畳付部に溝あり。底部中心に向かって低くなる。口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ 内) 回転ナデ、底部回転ナデ後指頭様ナデ	灰色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
358	87		B3区	22層	須恵器	高台付坏	口径) 13.0 高台径) 9.0 器高) 5.6	高台部小さくやや外向き。畳付部に溝あり。体部直線的で、口端部尖り気味。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	
359	87		B3区	22層	須恵器	高台付坏	口径) 16.0 高台径) 13.0 器高) 4.9	高台部低く直立。畳付部に溝あり。坏部やや外傾。口端部尖り気味。わずかな火脹れあり。	外) 回転ナデ 内) 坏部回転ナデ、底面回転ナデ後ナデ		微砂粒含む。	良好	
360	87	44	B2区	17層	須恵器	高台付坏	口径) 15.0 高台径) 8.8 器高) 8.3	高台部は低く、やや外向きに付く。畳付部に浅い溝。焼成時の歪みあり（大きく歪む）。内面底部に釉の塊あり。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ	内外) 灰白色 胎土) 灰白色 釉) 黒褐色		良好	内外被灰
361	87	45	B2区	22層	須恵器	高台付坏	口径) 15.2 高台径) 8.8 器高) 6.4	金属器模倣。高台部「ハ」字状に付く。畳付部は中央が浅くくぼむ。体下部は緩やかに外傾しながら立ち上がり、体上部から口縁部にかけて外反気味に開く。	外) 口縁～体中部回転ナデ、体下部ケズリ後ナデ、底部回転ナデ後ナデ 内) 回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ	胎土) 灰色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面被灰（自然釉：漆黒色）
362	87		B3区	23層	須恵器	小皿	口径) 9.0 底径) 6.2 器高) 2.8	底部ほぼ平底。底・体部境の稜は明瞭。境は反る。口端部やや外反し丸くおさめる。	外) 体部回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ 内) 体部回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ	灰白色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
363	87		B3区	48層	須恵器	坏	口径) 12.6 底径) 4.5 器高) 7.6	底部平底。底・体部境の稜は明瞭。体部逆「ハ」字状にやや内湾気味に開き、口端部丸くおさめる。底部に「×」印あり。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	
364	87		B1区	表土	須恵器	坏（底部）	底径) 7.4	底部やや上底状で、高台状を呈す。底部から大きく外傾しながら立ち上がる。底部回転糸切り痕。	外) ナデ（条痕残る） 内) 回転ナデ後ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	９C末～１０C初
365	87		B2区	3層	須恵器	壺？	口径) 14.0	頸部弓状に湾曲。口端部斜めに平坦面を作る。	外) 口縁部ナデ、体部平行タタキ目 内) 口縁部ナデ、体部同心円状タタキ目	灰黄色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
366	87		B3区	23層	須恵器	壺（体部）		把手付（有孔耳状）。体部は内湾。	外) 回転ナデ、把手ミガキ 内) 回転ナデ	外) 褐灰色 内) 灰色	微砂粒含む。	良好	外面被灰
367	87		B2区	3層	須恵器	鉢？（底部）	底径) 17.0	底部平底。底・体部境の稜は不明瞭で、シボリ痕あり。	外) 粗いナデ、底部ナデ 内) 太いハケ後ナデ		5mm以下の砂粒含む。	良好	中世須恵器
368	88		B2区	3層	磁器	白磁碗	口径) 15.0	玉縁状口縁。口縁断面は半楕円形。内面口縁下に段状の切り込みあり。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	白磁Ⅳ類

369	88		B2区	3層	磁器	白磁碗	高台径) 7.0	碗の底部。削り出し高台。幅広でどっしりと付く。畳付は平坦。見込みに圏線文を段状に施す。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
370	88		B2区	3層	磁器	白磁碗	高台径) 7.2	碗の底部。削り出し高台。高台はほぼ垂直で、断面逆台形状。高台天井部に浅い溝あり。内面底・体部境に2条の圏線文。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
371	88		B3区	17層	土製品	土錘	長さ) 5.4 最大径) 2.0 孔径) 0.8	長紡錘形。大型品。	外) ナデ？	灰白色	微砂粒含む。	良好	完形
372	88		B2区	4層	土製品	土錘？	長さ) 3.2 最大径) 3.4 孔径) 0.6		外) ナデ	にぶい黄橙色	微砂粒含む。	良好	完形
373	88		B3区	17層	金属器	刀子		刀子の身片。					
374	88		B2区	4層	骨製品	楕円状容器？				外) にぶい黄橙色			

第９表　中小路遺跡Ｃ区遺構出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
375	89		溝状遺構	22層	弥生土器	鉢or甕	口径) 11.0	口縁部短く、強く外反。口端部斜め上下に小さく拡張し、外側に斜めの平坦面を作る。頸部「く」字状に強く屈曲。体上部と中部との境付近は甘い稜状に屈曲し、最大径に達する。口端拡張部かすかに2条程度の沈線あり。	外) 風化の為不詳 内) 体部ナナメケズリ？風化の為不詳	外) 浅黄橙色 内) にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
376	89		溝状遺構	24層	弥生土器	鉢	口径) 20.0	複合口縁状口縁。複合状部はにぶく直角状。頸部「く」字状に屈曲。口縁部に3条の平行沈線。	外) 口縁部ナデ、体部タテ・ナナメハケ後指頭様ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ケズリ後板状工具によるナデ・指頭痕あり。	外) にぶい黄橙色 内) 浅黄橙色	5mm以下の砂粒含む。	良好	外面及び内面体部スス付着
377	89		溝状遺構	25層	弥生土器	高坏(坏部)	口径) 24.0	坏下部から逆「ハ」字状に開きながら立ち上がり後ゆるく逆「く」字状に屈曲、後逆「ハ」字状にやや外反気味に開き、肥厚し平坦面のある口端部へ続く。	外) ミガキ、風化の為不詳 内) ミガキ、風化の為不詳	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
378	89	45	溝状遺構	22層	弥生土器	高坏	底径) 18.0	脚部「ハ」字状に大きく開く。裾端部斜め上下に拡張し、狭く斜めの平坦面を作る。坏部は中心部から内湾して立ち上がる。	外) ナデ？風化の為不詳 内) ナデ？風化の為不詳	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
379	89	45	溝状遺構	24層	弥生土器	高坏(脚部)	底径) 12.6	筒部弓状に湾曲。裾部に斜めの面作る。裾部に4条の平行沈線文。	外) 筒部細いナナメ・タテハケ、裾上部ヨコナデ・指頭痕あり 内) 坏部ナデ・指頭痕あり、裾内部細いハケ・ナデ・指頭痕あり	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面筒下～裾部及び内面坏部にスス付着
380	89		溝状遺構	23層	弥生土器	器台		受部欠損。筒部は大きく弓状に湾曲。脚部複合口縁状の文様帯をなす。脚下部6条の平行沈線文。	外) 筒～脚上部ナデ？、脚下部ナデ 内) 坏部ナデ・指頭痕あり、筒部ナデ・指ナデ、脚部ナデ・一部ミガキ・指頭痕あり	外) にぶい黄橙色 内) 灰黄褐色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
381	89		溝状遺構		弥生土器	鼓形器台	底径) 15.0	鼓形器台の台部。複合部鋭い段状に突出。緩やかに外反して大きく開き裾端部へ至る。多条の平行沈線が一部に残る。	外) 風化の為不詳 内) ケズリ後ナデ？	にぶい橙色	1mm以下の砂粒含む。	やや不良	
382	90	45	溝状遺構	24層	弥生土器	壺	口径) 20.4 底径) 7.0 器高) 39.8	複合口縁。口縁部外傾して開く。複合部は下部が大きく張り出し、外側には幅広い面がある。口端部丸くおさめる。底部上底。口縁拡張部に3条の複線波状文(波高は高く、波頭間隔は広い)。頸下部に突帯を貼り付け、突帯にはクシ状工具による連続刺突文。突帯の下に列点状の連続刺突文。	外) 頸部ナナメハケ、頸下部ヨコナデ、体上部横ハケ、体中部ナナメハケ、体下部斜めハケ後ナデ 内) 口端～口縁部太いナナメ・ヨコハケ、頸部ナデ、体部ケズリ、底部ナデ・指頭痕あり	浅黄橙色	5mm以下の砂粒含む。	良好	西部瀬戸内系壺
383	90		溝状遺構	24層	弥生土器	壺	口径) 17.2	袋状口縁？口縁部わずかに内傾。頸部弓状に大きく湾曲。口端部短く直立して丸くおさめる。口縁部に3条以上の平行沈線文。内面頸部にシボリ痕あり。	外) 頸部タテ・ナナメハケ後ナデ、上部に指頭痕あり 内) 口縁～頸部ナデ・指頭痕あり	外) 橙色 内) にぶい橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
384	90		溝状遺構	22層	弥生土器	壺	口径) 23.0	複合口縁。口縁部は高く外反気味。複合部丸みを持って段状に屈折。口端部丸くおさめる。頸部ラッパ状に外反。口縁部に6条の平行沈線文。頸・体部境に断面三角形の突帯。	外) 頸部ヨコナデ？ 内) 口縁部ヨコナデ？・指頭様ナデ？	外) 浅黄橙色 内) 灰白色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
385	90		溝状遺構	23層	弥生土器	壺	口径) 13.0	複合口縁。口縁部内傾し、口端部は肥厚して丸くおさめる。複合部はナナメ下方に小さく突出し、先端は尖る。頸部弓状に湾曲。口縁部に5条の平行沈線文。	外) 頸部以下ナデ？ 内) 口縁部板状工具によるヨコナデ、頸部タテ・ヨコの指頭様ナデ、体上部ケズリ	浅黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	やや不良	
386	90		溝状遺構	22層	弥生土器	壺(体部)		突帯付きの大型壺。体上半部大きく「ハ」字状に内湾して開く。頸部は外反か？頸部と体上部境に段状の太い突帯。突帯の下に「ノ」字状の連続擦引き線。	外) ヨコハケ？風化の為不詳 内) 頸部ナデ、体部ナナメケズリ	外) 浅黄橙色 内) にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
387	91		溝状遺構	22層	弥生土器	甕	口径) 14.2	頸部「く」字状に屈曲。口端部小さく斜め上下に拡張し、外側に斜めの平坦面を作る。拡張部下に太い凹部あり。体部倒卵形。口縁拡張部に2条の平行沈線文。体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) 口縁部ヨコナデ、体部太いナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部ヨコ・タテケズリ	浅黄橙色	3mm以下の石英・砂粒含む。	良好	内面体下部スス付着
388	91		溝状遺構	24層	弥生土器	甕	口径) 18.0	口端部わずかに肥厚し、外側に垂直面を作る。体部扁球形に膨らむ。口端部外面に細い2条の平行沈線文。体上部に板状工具による「ノ」字状の連続列状文。	外) 頸部ナデ、体部ヨコ・ナナメナデ・ハケ・一部ミガキ 内) 口縁部ナデ、風化の為不詳	にぶい橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面口縁・体下部スス付着
389	91		溝状遺構	25層	弥生土器	甕	口径) 10.8	単純口縁。頸部弓状に大きく湾曲。口端部やや肥厚し、斜め平坦面を作る。体部倒卵形。頸～体上部にヘラ状工具による連続切り込み	外) 口縁部ナデ？体部ナナメハケ・ナデ 内) 口縁部ナデ？・指頭痕あり、体部ケズリ	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	
390	91		溝状遺構	24層	弥生土器	甕	口径) 11.0	頸部「く」字状に屈曲。口端部わずかに斜め上下に拡張し、外側に斜めの平坦面を作る。体部ナツメ状。口縁拡張部に2条以上の平行沈線文。	外) 口縁部ナナメハケ・ナデ、体部ナナメケズリ 内) 口縁部ナナメハケ・ナデ、体部ナナメケズリ	浅黄橙色	3mm以下の石英・砂粒含む。	良好	外面体部スス付着
391	91	45	溝状遺構	22層	弥生土器	甕	口径) 12.0	底部平底。頸部「く」字状に屈曲。口端部斜め上下に小さく拡張。体上部「ハ」字状に開き、体中部で湾曲してしぼみながら下降。口縁部3条の平行沈線文。頸～体上部にクシ状工具による連続列突文。	外) 口縁部ヨコナデ、頸～体上部ナナメ・タテハケ、体中～下部ナナメ・ヨコハケ後ナデ・ミガキ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体上部ケズリ後ヨコナデ、体下部ケズリ後タテナデ	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
392	91	45	溝状遺構		弥生土器	壺	口径) 19.0 底径) 7.0 器高) 35.0	複合口縁状口縁。口・頸部は大きく外反。口端部わずかに外傾し、幅のある面を作る。体部扁球状に膨らむ。底部ほぼ平底。口縁部3条の沈線文。	外) 頸部ナナメハケ後ナデ後ミガキ、体上部ナナメハケ後ナデ、体下部粗いナナメ・タテハケ後ナデ・一部ミガキ 内) 口縁部ナデ、頸部ヨコ・ナナメハケ・指頭痕あり、体上部粗いナナメハケ後ケズリ、体部ナナメ・タテケズリ・一部ミガキ		3mm以下の砂粒含む。	良好	Ｖ－2
393	92		溝状遺構	24層	弥生土器	甕	口径) 15.0	頸部は「く」字状に屈曲。口縁端部斜め上下にごく小さく拡張し、外側に斜めの平坦面を作る。体上部から大きく内湾して下降し、体下部で大きくくびむ。底部上底(裾端欠)。口縁部に2条の平行沈線文。体部にヘラ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ヨコナデ、体中～下部多方向ハケ後ナデ 内) 口縁部ナデ？指頭痕あり、体部ケズリ・ナデ、頸部下に指頭痕あり	内) にぶい黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	内面体下部スス付着
394	92		溝状遺構	25層	弥生土器	甕	口径) 14.8	口縁部短く逆「L」字状に強く屈曲。口端部斜め上下に大きく拡張し、外側に幅広い平坦面を作る。口縁部3条の平行沈線文。頸～体上部に板状工具による「ノ」字状の連続列状文。	外) 頸部ヨコナデ、体中部ヨコナデ？、体下部ハケ 内) 口縁部ヨコナデ、体部ケズリ後ナデ？	外) 浅黄橙色 内) 灰黄色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	
395	92		溝状遺構	25層	弥生土器	甕	口径) 19.0	複合口縁状口縁。複合状部やや鋭く斜め下向き。口端部丸くおさめる。頸部逆「L」字状。最大径は体下部。口縁部4条以上の平行沈線文。体上部クシ状工具による連続押引き文。	外) 口縁部ヨコナデ、体部ハケ・ナデ？ 内) 口縁部ナデ、体部ケズリ	にぶい黄橙色	5mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
396	92		溝状遺構		弥生土器	甕	口径) 18.0	口端部短く、強く外反。口端部上方に引き出し、外面に広い垂直面を作る。頸部弓状に湾曲。頸～体上部に「ノ」字状の連続押引き文。	外) 体中部ヨコハケ・一部ナデ？ 内) 体部ケズリ、風化の為不詳	外) にぶい橙色 内) 橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
397	92		溝状遺構	25層	弥生土器	甕	口径) 13.0	複合口縁状口縁。口縁部外傾して開く。複合状部小さく下垂。口縁部に4条の平行沈線文。体上部に板状工具による押引き文。	外) 頸部ヨコナデ、体部ハケ 内) 口縁部ハケ工具によるナデ、体部ケズリ後ナデ？	外) 灰黄褐色 内) にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
398	92		溝状遺構	24層	弥生土器	甕	口径) 21.6	複合口縁状口縁。口縁部幅狭くやや外反。複合状部鋭く屈折。口端部丸くおさめる。頸部逆「L」字状に屈曲。口縁部に太目の平行沈線3条。体上部に半月状の連続押引き文、直下に平行する多条の波高低い波状文。	外) 頸部ヨコナデ？、体部タテ・ヨコナデ？、風化の為不詳 内) 口縁部ヨコナデ？、頸部以下ケズリ？、風化の為不詳	外) にぶい黄橙色 内) にぶい橙色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	

399	92		溝状遺構	22層	弥生土器	甕	口径) 15.8	複合口縁。口縁部ほぼ直立。複合部直角に屈折。口端部丸くおさめる。頸部弓状に湾曲。口縁部5条の平行沈線文。体上部に「ノ」字状の太い連続押引き文。	外) 頸部ヨコナデ、体中以下ナナメ・ヨコハケ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部以下ケズリ？	外) 浅黄橙色 内) にぶい橙色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	外面スス付着
400	92		溝状遺構	24層	弥生土器	甕	口径) 19.0	口縁部逆「ハ」字状に大きく開く。口端部外傾して丸くおさめ、外側に広い面を作る。頸部逆「コ」字状に屈曲。体部扁球状に膨らむ。口縁部太い3条の凹線文。	外) 頸部ヨコナデ、体部タテ・ナナメハケ後一部ナデ 内) 口縁部ヨコナデ、体部ハケナデか？	外) にぶい黄橙色 内) 灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
401	93		溝状遺構	24層	弥生土器	甕	口径) 17.0	複合口縁状口縁。複合状部にぶく小さく下向き。口縁部やや外反し、口端部丸くおさめる。口縁部3条の平行沈線文。体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) 頸部ヨコナデ、体中以下ナナメハケ後ナデ？ 内) 口縁部ナデ？体部ケズリ・ナデ？風化の為不詳	浅黄橙色	5mm以下の砂粒含む。	良好	外面体上部スス付着
402	93	46	溝状遺構	22層	弥生土器	甕	口径) 21.7 底径) 5.6 器高) 33.3	複合口縁。頸部「く」字状に屈曲。複合部にぶく直角状。口端部肥厚し丸くおさめる。体部倒卵形。底部ほぼ平底。口縁部に7条以上の平行沈線文。体上部にヘラ工具による「ノ」(ル)の連続列状文。体上部に把手状の隆帯を縦方向に貼り付ける。	外) 頸部ヨコナデ、体上部ヨコナデ、体部太い多方向ハケ後ナデ、指頭痕あり 内) 口縁部多方向ナデ、体部多方向ケズリ、頸部下ナデ	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外体下部スス付着
403	93	46	溝状遺構	23層	弥生土器	甕	口径) 19.0	複合口縁。複合部は鋭く下向き。口縁部逆「ハ」字状に短く開き、やや外傾。口端部やや肥厚して丸くおさめる。体上部扁球体状に膨らむ。口縁部に凹線文状の平行沈線文6条。体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) 頸部ヨコナデ、体下部ナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ・指頭痕あり、体上部指ナデ	外) にぶい橙色 内) 灰黄色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
404	93	46	溝状遺構	24層	弥生土器	甕	口径) 11.2 底径) 4.1 器高) 21.4	単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口縁部高く逆「ハ」字状に開く。口端部やや肥厚して丸くおさめる。体部ナツメ形。底部ほぼ平底。体上部にハケ工具による連続刺突文。	外) 口縁部ナナメナデ・指頭痕あり、体中～下部ナナメ・タテハケ後ナデ 内) 口縁部ナナメナデ・指頭痕あり、体上部ナナメハケ後ナデ・指頭痕あり、体中部ナナメケズリ、体下部ナナメナデ、底部付近ナデ	浅黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	外面及び内面体下部スス付着
405	93		溝状遺構	22層	弥生土器	甕	口径) 15.0	受口状の単純口縁。頸部「く」字状に屈曲。口縁部内湾し、口端部やや肥厚して丸くおさめる。体上部にクシ状工具による連続押引き文。	外) 口縁部ヨコナデ、体部多方向ハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ、頸部下に指頭痕あり	にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面体下部及び内面スス付着
406	93	46	溝状遺構	24層	弥生土器	小型甕	口径) 8.4 底径) 4.4 器高) 9.2	小型のミニチュア風甕。頸部「く」字状に屈曲。口端部斜め上下に小さく拡張し、外側に狭く斜めの平坦面を作る。底部平底。底・体部境の稜明瞭。	外) ナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ナデ・指頭痕あり、体部粗いケズリ・指頭痕あり	外) にぶい黄橙色 内) 灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
407	93		溝状遺構	24層	弥生土器	小型甕	口径) 8.8 底径) 5.0 器高) 10.5	頸部「く」字状に屈曲。口端部斜め上に拡張し、尖り気味で薄くなる。体部扁球状。底部平底で、底・体部境の稜は明瞭。口縁部に浅い沈線か？頸部付近に連続刺突文。	外) 体上部ハケ？、体部ナデ？、風化の為不詳 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体上部ナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ	にぶい黄橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	ほぼ完形
408	93	46	溝状遺構	25層	弥生土器	小型甕	口径) 7.6 底径) 5.2 器高) 8.9	小型のミニチュア風甕。手捏ねか？底部上底。底・体部境の稜明瞭。体下部から内湾して立ち上がり、口端部丸くおさめる。	外) 体部ナナメ・タテナデ、底部ナデ・指頭痕あり 内) 指ナデ、指頭痕あり	灰色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面体中部スス付着
409	93		溝状遺構	22層	弥生土器	手捏ね土器	口径) 4.8 底径) 2.7 器高) 4.0	底部は丸底状。体部は内湾しながら立ち上がり、口端部丸くおさめる。	外) ナデ 内) ナデ、指頭痕あり	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	完形
410	94		溝状遺構	25層	弥生土器	甕(底部)	底径) 4.2	底部上底。底・体部境の稜は明瞭。シボリ痕あり。体部逆「ハ」字状。	外) 風化の為不詳 内) ナナメケズリ	にぶい黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内面スス付着
411	94		溝状遺構	25層	弥生土器	甕？	底径) 9.0	底部上底。底・体部境の稜は明瞭で、シボリ痕あり。体下部は逆「ハ」字上に開き、中程よりやや上方で強く湾曲。底部は焼成後穿孔。	外) 底部付近ナデ？風化の為不詳 内) ケズリ、ナデ、底部に指頭痕あり	灰白色	3mm以下の石英・砂粒含む。	良好	内面スス付着
412	94		溝状遺構	24層	弥生土器	甕(底部)	底径) 4.6	底部波形が小さく、若干上底状ながらほぼ平底。底・体部境の稜は明瞭。体部逆「ハ」字状。	外) ハケ後ナデ、底部ナデ 内) ケズリ	外) 灰黄褐色 内) 浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
413	94		溝状遺構	24層	弥生土器	甕(底部)	底径) 5.2	底部平底。底・体部境の稜は明瞭。体部逆「ハ」字状。	外) ナナメハケ後ナデ、底部ナデ 内) ナナメケズリ、指頭痕あり	外) 浅黄橙色 内) 橙色	4mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
414	94		溝状遺構	24層	石器	石包丁	最大長) 12.6 最大幅) 5.0 最大厚) 0.55 重量 (g) 59	両刃。半月形直刃型。穿孔2箇所。両面ともほぼ全面研磨(線状痕多数)。背部に面があり、研磨される。整形時の剥離痕が両面周縁部に残る。					

第10表　中小路遺跡Ｃ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
415	95		C区西側	21層	弥生土器	甕	口径) 14.4	複合口縁状口縁。複合状部やや鋭く小さく下向き。頸部「く」字状に屈曲。口端部丸くおさめる。口縁部4条の平行沈線文。体部クシ状工具による連続列状文。	外) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部細いナナメハケ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、体部ナナメケズリ・指頭痕あり	外) 浅黄橙色 内) にぶい黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	外面下部ススス付着
416	95			19層	弥生土器	甕	口径) 13.4	複合口縁。口縁部ほぼ直立。複合部は直角状に屈折。頸部「く」字状に屈曲。体部扁球状に膨らむ。口縁部7条の平行沈線文。体上部に「ノ」字状の連続刺突文。	外) 頸部ヨコナデ、体中部ヨコナデ 内) 口頸部ヨコナデ、体部ケズリ	内) 灰白色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	外面スス付着
417	95		C区西側	3層	弥生土器	甕	口径) 17.8	複合口縁状口縁。複合状部にぶく横向き。頸部は「く」字状に屈曲。口端部肥厚して丸くおさめる。口縁部6条以上の平行沈線文。体部に連続列状文、直下に連続刺突文？	外) 頸部ナデ、体下部ナデ後ミガキ 内) 口縁部ナデ・ミガキ、体部ナナメケズリ・指頭痕あり	明黄褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好	内外スス付着
418	95		C区東側	5層	弥生土器	甕	口径) 16.0	複合口縁。複合部直角状に屈折。口縁部外反し、口端部尖り気味。体上部に多条の平行沈線文。	外) ヨコナデ 内) ロ～頸部ヨコナデ・指頭様痕あり、頸部以下ケズリ・一部ハケ	外) にぶい黄橙色 内) 灰黄褐色	微砂粒含む。	良好	
419	95		C区西側	5層	弥生土器	壺	口径) 12.8	複合口縁状口縁。複合状部はにぶく鋭角をなす。頸部は弓状に湾曲。口端部直立し、狭い平坦面を作る。体部は肩が張り、内湾しながら下降。口縁部9条の平行沈線文。体部に連続押引き文。	外) 頸部ナデ 内) 口～頸部ナデ・指頭痕あり、体部タテ・ヨコケズリ	浅黄橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
420	95	46	C区東側	5層	弥生土器	蓋	つまみ径) 1.9	有孔のつまみが付く。傘形品。体部は「ハ」字状に大きく開きながら下降。穿孔か？(前後に2穴)	外) ナデ 内) ナナメケズリ	浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
421	95	46			弥生土器	高坏(脚部)	底径) 9.6	筒部は小さく「ハ」字状に開きながら下降し、さらになだらかに大きく開く。裾端部丸くおさめる。	外) ナナメハケ後タテナデ、指頭痕あり 内) 筒部タテナデ、裾部ヨコナデ・指頭痕あり	淡黄色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
422	96		C区西側	3層	弥生土器	壺	底径) 8.6	大型壺の底部。底部は上底状。底部は厚くやや外反気味に立ち上がる。底・体部境はゆるく屈曲。	外) ミガキ？、底面ハケ 内) ハケナデ、指頭様ナデ	外) 浅黄橙色 内) 灰黄色	1mm以下の砂粒含む。	やや不良	
423	96		C区西側	3層	土師器	壺	口径) 13.0	直口壺。口縁部ほぼ直線的に外傾して開き、口端部は平坦におさめる。頸部ゆるく「く」字状に屈折。体上部内湾して大きく開く。	外) 口縁部タテハケ・ナデ、体部ヨコハケ・ナデ 内) 口縁部ハケ・ナデ・指頭痕あり、体部ヨコ・ナナメケズリ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
424	96		C区西側	3層	弥生土器	壺(底部)	底径) 9.6	底部平底。底・体部境の稜は明瞭。体下部から逆「ハ」字状に大きく開きながら立ち上がる。	外) タテ・ナナメハケ後ナデ 内) ナナメハケ後ナデ	外) 浅黄橙色 内) 灰黒色	10mm以下の砂粒含む。	良好	弥生前期
425	96		C区西側	3層	土師器	甕	口径) 16.0	単純口縁。口縁部直線的に逆「ハ」字状に開く。口端部斜めに平坦面を作る。頸部「く」字状に屈折。	外) ロ～頸部ヨコナデ 内) ロ～頸部ヨコナデ、体部ナナメケズリ	にぶい黄橙色	微砂粒含む。	やや不良	布留甕系
426	96		C区西側	3層	土師器	甕	口径) 24.0	単純口縁。口縁部逆「ハ」字状に外傾して開く。頸部「く」字状に屈折。頸部に沈線1条。	外) 口頸部ヨコナデ、体部ハケナデ 内) 口縁部ヨコナデ・指頭痕あり、頸部ハケ工具によるヨコケズリ	にぶい黄橙色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
427	96		C3区	2層	須恵器	坏	口径) 14.0 底径) 10.2 器高) 4.3	底部はほぼ平底。底・体部境の稜は不明瞭。口端部尖り気味。	外) 坏部ナデ？、底部回転ナデ 内) 坏部ナデ？底面指頭様ナデ	灰白色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
428	96		C区東側	2層	須恵器	高台付坏	口径) 13.0 高台径) 8.8 器高) 5.2	貼り付け高台。底部から体部へは強く内湾して立ち上がり、やや外傾気味に開いて口縁部へ移行。口端部内面を抑えて片刃状に仕上げ、尖る。高台は底部外縁に外向きに付く。高台の断面形は方形様。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
429	96		C区東側	2層	須恵器	壺(底部)	底径) 13.0	底部平底。底・体部境の稜は明瞭。体下部から逆「ハ」字状に外傾しながら立ち上がる。	外) 体部回転ナデ後ナデ(沈線状の浅い条痕残る)・指頭様ナデ、底部ナデ 内) 回転ナデ(条痕残る)	灰色	微砂粒含む。	良好	

第11表　中小路遺跡Ｄ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
430	97		D4区	4層	須恵器	壺(体部)		体部内湾しながら下降。	外) カキ目 内) 同心円状のタタキ目	灰白色		良好	
431	97		D4区	4層	磁器	白磁碗	口径) 15.0	玉縁状口縁。口縁断面は半長楕円形。内外施釉。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
432	97		D4区	4層	磁器	白磁碗	口径) 15.0	体部逆「ハ」字状に立ち上がり、口縁部やや外反して丸くおさめる。内外施釉。内面に1条の条痕あり。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
433	97		D4区	4層	磁器	白磁碗	口径) 15.0	体部逆「ハ」字状に開きながら立ち上がり、口縁部外反して丸くおさめる。内面に3条の条痕あり。内外施釉。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
434	97	46	D4区	4層	須恵器	土錘？	長さ) 3.7 幅) 3.5 器高) 3.0	放射状に沈線あり。穿孔あり。		灰白色	微砂粒含む。	良好	完形。

第12表　中小路遺跡Ｅ区遺構出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
435	98		SKE2		石器	石皿							
436	98		SKE6		須恵器	坏蓋	口径) 13.2	輪状つまみ。台形型。肩部張り、体部直線的に下降。口端部内側に下垂し、丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	外) 灰色 内) 灰白色	密	良好	
437	98		SKE6		須恵器	鉢	口径) 25.8 底径) 8.4 器高) 9.3	片口の鉢。口縁部外反気味に立ち上がり、口端部断面三角形で、上方にほぼ垂直に拡張。底部回転糸切り。	外) 回転ナデ 内) 口縁～体上部回転ナデ、体下半～底部ナデ	淡灰褐色	3mm以下の砂粒含む。	良好	東播系須恵器
438	98		SKE6		土師器	坏	口径) 13.2 底径) 6.2 器高) 4.0	薄手。底・体部境の稜は明瞭で、大きくしぼる。内面底・体部境に段。体部は「ハ」字状にやや内湾気味に立ち上がる。口縁部の強いなでにより、口端部は肥厚様で、丸くおさめる。底部回転糸切り。	外) 強い回転ナデ 内) 強い回転ナデ、底部ナデ	浅黄橙色	密	良好	
439	98		SKE6		土師器	埦	口径) 13.0 底径) 6.4 器高) 4.7	底・体部境の稜は明瞭で、大きくしぼる。底部は厚く、体部は「ハ」字状に直線的に立ち上がる。口縁部の強いナデにより口端部は肥厚様。底部回転糸切り。	外) 強い回転ナデ、風化の為不詳 内) ナデ？、風化の為不詳	淡橙色	密	良好	
440	98		SKE6		土師器	埦	口径) 13.2 底径) 5.7 器高) 5.2	底・体部境の稜は明瞭で、大きくしぼる。体部「ハ」字状に直線的に開き、口端部で上方にややつまみ上げる。底部回転糸切り。	外) ナデ 内) ナデ？、風化の為不詳	灰白色	密	良好	
441	98		SKE6		土師器	柱状高台付坏	底径) 5.8	底部回転糸切り。	外) ナデ	灰白色	密	良好	
442	98		SKE6		土製品	土錘	長さ) 4.3 最大幅) 1.9 孔径) 0.4	長紡錘形。		橙色	密	良好	
443	98		SKE6		磁器	白磁皿	口径) 11.4 底径) 6.8 器高) 2.8	体部直線的に立ち上がり、口縁部外反。口端部口禿げ。		胎土) 灰白色 釉) 青みがかった白色	密	良好	口端部を除き全面施釉 白磁Ⅸ類
444	98		SKE6		磁器	青磁碗		鏑蓮弁文。釉厚目。		胎土) 灰色 釉) 暗オリーブ色	密	良好	龍泉窯系碗B1類

第13表　中小路遺跡Ｅ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
445	99		C3グリッド	3層	弥生土器	甕(底部)	底径) 8.8	底部平底だが、中央部を押さえ上底状を呈す。	外) ナデ、底部指頭痕あり。 内) ナデ、ケズリ	外) 褐色 内) 浅黄橙色	2mm以下の砂粒含む。	良好	外面底部の一部スス付着
446	99		D2グリッド	4層	土師器	甕	口径) 17.2	複合口縁。複合部水平方向に突出。口縁部は直線的に外傾して立ち上がり、口端部はやや外方に折り曲げる。	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ、体部ケズリ？	浅黄橙色	1mm以下の白色粒含む。	良好	
447	99		C2グリッド	2層	土師器	高坏(脚部)		脚体部「ハ」字状に大きく開いて下降。円孔を4方向に穿つ。	外) ナデ 内) 不定方向ケズリ	淡橙色	密	良好	
448	99		D3グリッド	3層	須恵器	坏蓋	口径) 12.6	天井部から内湾して下降し、口縁部で外方に屈曲。口端部は嘴状に下垂し、尖り気味におさめる。輪状つまみ。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
449	99		C2グリッド	1層	須恵器	坏蓋	口径) 15.6	天井～体部への移行なだらか。体～口縁部にかけてわずかに外反。口端部は丸く、小さく下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の白色粒含む。	良好	
450	99			2層	須恵器	壺(底部)	高台径) 7.8	「ハ」字状に開く低い高台。高台は底部外縁に付く。削り出し高台か？	外) 回転ナデ 内) 板状工具によるナデ、ナデ	外) 黒灰色 内) 青灰色	密	良好	外面一部被灰
451	99			4層	須恵器	高台付坏	高台径) 8.8	底・体部境は明瞭で、体部は直立気味に立ち上がる。高台は低く、「ハ」字状で、底部外縁よりやや内側に付く。畳付部浅い凹状。底部回転糸切り。	外) 回転ナデ、底部回転糸きり後ナデ 内) 体部回転ナデ、底部ナデ	外) 黒灰色 内) 灰色	密	良好	
452	99			2層	須恵器	坏	口径) 15.0 底径) 10.8 器高) 4.2	体部直線的に立ち上がる。底部平底で上底気味。	外) 回転ナデ、体下部回転ヘラケズリ 内) 体部回転ナデ、底部ナデ	外) 黒灰色 内) 灰色	1mm以下の白色粒含む。	良好	
453	99			3層	須恵器	短頸壺	口径) 8.8	頸部直角気味ににぶく屈折し、口縁部やや内傾して短く立ち上がる。口端部内側を抑え、斜めの平坦面を作る。	外) 自然釉の為不詳 内) 回転ナデ	内外) 暗灰色 釉) オリーブ黒色	密	良好	外面被灰
454	99		D2グリッド	4層	磁器	白磁碗	口径) 7.3	玉縁状口縁。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
455	99		B2グリッド	2層	磁器	青磁碗		体部内湾して立ち上がる。片切り蓮弁文。内外施釉。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	龍泉窯系碗
456	99			4層	磁器	青磁碗	高台径) 4.5	断面三角形の高台。釉厚手。高台部先端を除き全面施釉。		胎土) 灰白色 釉) 緑灰色	密	良好	龍泉窯系碗B0類
457	99		D4グリッド	4層	磁器	皿	底径) 3.0	碁笥底。		胎土) 淡黄色 釉) 灰白色	密	良好	染付皿C群
458	99		D4グリッド	4層	陶器	擂鉢		摺目6条以上で1単位。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	外) 灰黄褐色 内) 褐色	密	良好	備前系
459	99			2層	土製品	土錘	長さ) 5.9 最大幅) 2.2 孔径) 0.5	厚みがありしっかりした作りで重い。薬莢形。		外) 黄橙色	密	良好	
460	99			2層	土製品	土錘	長さ) 6.3 最大幅) 2.3 孔径) 0.5	厚手でしっかりした作りの土錘。薬莢形。		外) 赤橙色	密	良好	

第14表　中小路遺跡Ｆ区遺構出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
461	100		SKF3		須恵器	壺蓋	口径) 13.1	扁平な蓋で、宝珠つまみが付くタイプ。天井部は平坦。天井部から体部へは直角状に移行。口端部面あり。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
462	100		SKF3		須恵器	坏蓋	口径) 12.4 つまみ径) 6.0 器高) 3.0	輪状つまみ。つまみ部分は外傾し、端部内側を抑えて平坦面を作る。天井部平坦。口端部嘴状でやや内側に下垂し、丸くおさめる。	外) 肩部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	

463	100		SKF3		須恵器	坏蓋	口径) 13.0 つまみ径) 6.0 器高) 2.9	輪状つまみ。つまみ部分外傾し、端部丸くおさめる。天井部は平坦。口端部嘴状に下垂し、尖り気味におさめる。	外) 回転ナデ 内) ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
464	100		SKF3		須恵器	高台付坏	口径) 11.3 高台径) 8.0 器高) 5.0	高台は低く、底部外縁に直立して付く。断面方形で、畳付部凹状に窪む。底部から体部へは内湾して立ち上がり、やや外傾気味に開いて口縁部へ移行。口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
465	100		SKF3		須恵器	高台付坏	口径) 12.8 高台径) 8.6 器高) 5.1	高台は低く、底部外縁よりやや内側に「ハ」字状に付く。体部逆「ハ」字状に開き、口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
466	100		SKF3		須恵器	高台付皿	口径) 16.4 高台径) 10.2 器高) 3.2	高台は低く、底部外縁より内側にやや外向きに着く。底部から体部へは大きく内湾。口端部わずかに外反し、小さく面を作る。口縁かなり歪む。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
467	101		SKF39		土師器	甕	口径) 25.0	体部逆「ハ」字状にやや内湾気味に立ち上がり、口縁部で外反。口端部丸くおさめる。	外) ナデ 内) 口縁部ナデ？体部ケズリ？		1mm以下の砂粒含む。		
468	101		SKF3		土師器	甕	口径) 30.0	頸部やや逆「L」字状に屈曲。口縁部短く逆「ハ」字状で大きく開く。体部直立気味に下降し、中部よりやや下方から大きく内湾。	外) 口縁部ヨコナデ、胴部タテハケ後ナデ、頸部指頭痕あり 内) 口縁部ヨコナデ、頸部以下ナナメケズリ	外) 赤褐色 内) 橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
469	101		SKF39	1層	土製品	土錘	長さ) 3.6 最大幅) 2.7 孔径) 0.8	卵形。1/2欠損。		淡黄褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
470	101		SKF39		土製品	土錘	長さ) 5.0 最大幅) 1.3 孔径) 0.5	細身の長紡錘形。		淡白褐色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
471	101		SKF39	1層	土製品	土錘	長さ) 5.4 最大幅) 1.7 孔径) 0.4	長紡錘形。		暗褐色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
472	101		SKF39		土製品	土錘	長さ) 5.5 最大幅) 1.9 孔径) 0.6	長紡錘形。		淡黄褐色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
473	101		SKF39		須恵器	坏蓋	口径) 13.6	口端部丸くおさめる。口縁内面に小さなかえりあり。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ		1mm以下の砂粒含む。	良好	
474	101		SKF39		須恵器	坏蓋	口径) 13.0 つまみ径) 6.8 器高) 3.3	輪状つまみ。つまみ部は外傾し、端部は丸くおさめる。天井～体部へは内湾気味に移行して下降。口端部は嘴状の痕跡的に小さく下垂し、丸くおさめる。	外) 回転ナデ、肩部ヘラケズリ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
475	101		SKF39		須恵器	坏蓋	口径) 14.6 つまみ径) 7.4 器高) 2.3	輪状つまみ。扁平な器形。つまみ部ほぼ直立し、端部は丸くおさめる。天井部平坦。天井～体部への移行はなだらかで、口縁部で水平方向に屈折し、端部は嘴状に下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
476	101		SKF39		須恵器	高台付坏	口径) 10.4 高台径) 7.8 器高) 5.5	高台は底部外縁にやや外向きに付く。断面方形で端部は斜めの平坦面を作り、内側のみ接地。体部内湾気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
477	101		SKF39		須恵器	高台付坏	口径) 12.8 高台径) 8.8 器高) 5.1	高台は底部外縁よりやや内側に「ハ」字状に付く。体部逆「ハ」字状にやや内湾気味に立ち上がり、口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
478	101		SKF39	1層	須恵器	高台付坏	口径) 12.4 高台径) 8.8 器高) 5.3	低めの高台で、底部外縁にやや外向きに付く。高台端部内面は内側に小さく突出。体部逆「ハ」字状にやや内湾して立ち上がり、口縁部でやや外反する。口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
479	101		SKF39		須恵器	高台付坏	口径) 12.4 高台径) 7.0 器高) 3.9	低めの高台で、底部外縁に直立して付く。体部逆「ハ」字状に大きく開き、口端部外反。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
480	101		SKF39		須恵器	鉢	口径) 15.4	体部逆「ハ」字状にやや内湾気味に立ち上がり、口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
481	101		SKF39		須恵器	高台付皿?	口径) 17.6 高台径) 8.4 器高) 3.1	底部から口端部にかけて直線的に逆「ハ」字状に大きく開く。口端部は尖り気味ながら丸くおさめる。高台は高く、底・体部境に「ハ」字状に付き、端部は丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	密	良好	軟質 蓋の可能性あり

第15表　中小路遺跡Ｆ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
482	102		C2 グリッド	4層	須恵器	蓋 (つまみ)	最大幅) 3.6 高さ) 0.9	擬宝珠状つまみ。	外) ナデ 内) 回転ナデ	灰色	密	良好	
483	102		C1 グリッド	4層	須恵器	蓋 (つまみ)	最大幅) 2.4 高さ) 0.7	ボタン状つまみ。	外) 回転ナデ 内) ナデ	灰白色	1mm以下の石英・長石含む。	良好	
484	102		B3 グリッド	4層	須恵器	壺蓋	口径) 14.8	宝珠つまみの付くタイプ。天井部低い「ハ」字状に開き、肩部強く角張り、天井・体部境の稜が明瞭。口縁部は外傾して下降。口端部は外上方へ拡張させ、斜めの平坦面を作る。内面天井部に多量の釉の塊付着。	外) 天井部ヘラケズリ？、体～口縁部回転ナデ 内) 回転ナデ	外) 灰色 内) 灰黄色	微砂粒含む。	良好	内外被灰（自然釉）
485	102		C2 グリッド	4層	須恵器	壺蓋	口径) 18.0 器高) 6.3	宝珠状つまみ。天井部の径は大きく平坦で、肩部で直角状に屈折して体部下垂する。口端部面あり。外面に釉の塊付着。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、天井部ナデ	外) 灰色 内) 黒色	1mm以下の砂粒含む。	良好	外面～内面天井の一部被灰 内面天井部変色(黒灰色)－重ね焼きによるものか？
486	102		D4 グリッド	4層	須恵器	蓋	口径) 7.8	小型で扁平な器形の蓋。天井部水平方向に広く、肩部で強く屈折。口縁部「ハ」字状に外傾し、端部外側をわずかにつまみ出して平坦面を作る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	外面～口端内面被灰(自然釉)
487	102		C3 グリッド	4層	須恵器	蓋	口径) 10.0	小型で扁平な器形の蓋。天井～体部なだらかに内湾。口端部は嘴状で、やや内方に長く下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	外面～口端内面被灰(自然釉)
488	102		D4 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 13.4 つまみ径) 7.2 器高) 2.8	輪状つまみ。つまみ部外反し、端部面あり。天井径大きく平坦。天井部から体部への移行部張る。端部嘴状に下垂し、尖り気味におさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	口縁部外面重ね焼きによる変色(暗灰色) 口端部外面被灰(自然釉)
489	102		B4 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 12.8	輪状つまみが付くタイプ。天井径は大きく平坦。天井～体部への移行部張る。端部は丸くおさめて内側に折り曲げ、端部内面に沈線状のくぼみを作る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	密	良好	
490	102		B2 グリッド	2層	須恵器	坏蓋	口径) 14.4 つまみ径) 8.2 器高) 2.9	輪状つまみ。つまみ部は外傾し、断面方形で端部に面あり。肩部に円弧状沈線。移行部はなだらかに湾曲し、口縁部外反。端部は嘴状に下垂し尖り気味におさめる。天井部ヘラ切り。	外) 回転ナデ、肩部回転ヘラケズリ、天井部ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ、天井部ナデ	灰色	密	良好	口縁部外面重ね焼きによる変色(黒灰色)
491	102		D4 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 13.6 つまみ径) 7.6 器高) 3.1	輪状つまみ。つまみ部細く、外反し、端部丸くおさめる。天井部平坦。天井部から体部への移行部強く張る。端部嘴状に下垂し、尖り気味におさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	密	良好	口端部外面被灰(自然釉)
492	102		D4 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 14.2 つまみ径) 6.8 器高) 3.0	輪状つまみ。つまみ部外傾し、端部丸くおさめる。天井部から体部への移行部は強く張り、体部「ハ」字状に開く。口縁部で水平に屈折。端部は下方に拡張し、外側に平坦面を作る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
493	102		D3 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 13.0 つまみ径) 6.6 器高) 2.9	輪状つまみ。つまみ部外傾し、端部は先細。天井部は平坦で、体部へはなだらかに移行。口端部は小さく下垂し、丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
494	102		D3 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 14.6	体部内湾して下降し、口縁部で水平方向に屈折。端部は小さく下垂し、丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
495	102		C1 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 13.6 つまみ径) 4.8 器高) 2.4	径小さい輪状つまみ。つまみ部ほぼ直立し、端部丸くおさめる。天井部から体部への移行部強く張る。体部「ハ」字状に大きく開き、端部嘴状に下垂し尖り気味におさめる。	外) 自然釉の為不詳 内) 回転ナデ、天井部ナデ	内) 灰色 胎土) 黒灰色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	外面被灰（自然釉）

496	102		D3 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 15.8 つまみ径) 7.0 器高) 3.0	輪状つまみ(貼り付け)。器高低く扁平な器形。つまみ部は外傾し、端部は先細で尖り気味。つまみ径は口径と比して小さい。天井部の径は大きく広い平坦面。天井部から体部へはなだらかに湾曲して移行。口端部は丸く小さく下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
497	102			4層	須恵器	坏蓋	口径) 15.6 つまみ径) 7.6 器高) 2.9	輪状つまみ。扁平な器形。つまみ部外反し、端部丸くおさめる。天井径は大きく平坦。天井～体部への移行部張る。端部小さく下垂し、外側を押さえて幅の狭い平坦面を作る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	2mm以下の石英・砂粒含む。	良好	口縁部外面重ね焼きによる変色(黄灰色)
498	102		D1 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 14.0	器高低く扁平な器形。薄手。天井部から体部へは鈍角に屈曲して移行。体部は「八」字状に大きく開き、端部は小さく下垂。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
499	102		C1 グリッド	4層	須恵器	坏蓋	口径) 12.4 つまみ径) 5.8 器高) 2.8	輪状つまみ。つまみ部わずかに外反し、端部丸くおさめる。天井部から体部へは湾曲して移行。体部～口端部「八」字状に開いて、端部丸くおさめる。かえりは不明瞭。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
500	102		D4 グリッド	4層	須恵器	高台付坏	高台径) 18.6	高く、「八」字状に踏ん張る高台。底部から体部へは内湾して立ち上がる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	内外) 灰白色 胎土) 明黄褐色	微砂粒含む。	やや不良	軟質
501	102		C2 グリッド	4層	須恵器	高台付坏	口径) 12.4 高台径) 9.2 器高) 4.7	高台は底部外縁よりやや内側にほぼ垂直に付く。底部は平坦で、底部から体部へは内湾して立ち上がる。口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	底部外面の高台より重ね焼きによる変色(黄灰色) 高台部内外被灰(自然釉：黒色)
502	102		A1 グリッド	4層	須恵器	高台付坏	口径) 11.8 高台径) 8.2 器高) 4.8	高台は底部外縁よりやや内側にほぼ垂直に付く。畳付部は浅く窪む。底部平坦で、底部から体部へは内湾して立ち上がる。口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
503	102		D3 グリッド	4層	須恵器	高台付坏	口径) 12.6 高台径) 7.6 器高) 4.9	高台は低く、底部外縁より内側に付く。畳付部凹状で、外側が接地。底・体部境の稜明瞭。口端部丸くおさめる。底部回転糸切り。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
504	102		C4 グリッド	3層	須恵器	高台付坏	口径) 12.4 高台径) 7.4 器高) 5.4	高台は「八」字状に、底部外縁に付く。底部から体部へは内湾気味に立ち上がり、体部は逆「八」字状に開く。口縁部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	密	良好	
505	102		B4 グリッド	4層	須恵器	高台付坏	口径) 12.4 高台径) 8.0 器高) 5.4	高台は底部外縁よりやや内側に付く。畳付部浅い溝状。底部から体部へは内湾して立ち上がり、体部逆「八」字状に開く。口端部丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
506	102		D4 グリッド	4層	須恵器	高台付坏	口径) 15.0 高台径) 8.8 器高) 8.2	高台は低く、断面方形で、底部外縁にほぼ垂直に付く。底部から体部へは内湾して立ち上がり、体部逆「八」字状に開く。口端部は先細りで、丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	微砂粒含む。	良好	
507	102		D1 グリッド	4層	須恵器	高台付坏	高台径) 10.4	高台は断面方形で、畳付部に溝あり。底部外縁より内側に付く。底・体部境の稜明瞭。体部外反気味に立ち上がる。金属器模倣か？	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	外) 黒灰色 内) 灰色	微砂粒含む。	良好	
508	102		C3 グリッド	4層	須恵器	高台付坏	口径) 16.0	金属器模倣。体下部は逆「八」字状に大きく開いた後逆「く」字状に小さく段状に屈曲。口縁部外反して立ち上がり、端部は先細で丸くおさめる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	微砂粒含む。	良好	
509	103		D4 グリッド	4層	須恵器	短頸壺	口径) 9.6 高台径) 6.4 器高) 3.9	扁球形の胴体部。高台は低く、底部外縁に「八」字状に付く。畳付部凹状。体部内湾気味に立ち上がり、体上部が強く張る。口端部斜め上方につまみ上げる。	外) 回転ナデ、体下部ケズリ？ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
510	103			表採	須恵器	皿	口径) 13.6 底径) 8.6 器高) 2.3	底部上底気味。底・体部境は不明瞭で、湾曲して立ち上がり、体部は逆「八」字状に開く。口端部内面に沈線状の窪み。底部ヘラ切り。	外) 回転ナデ、体下部ヘラケズリ、底部ヘラ切り後ヘラケズリ 内) 回転ナデ、底部ナデ	外) 淡灰色 内) 灰色	微砂粒含む。	良好	
511	103		D1 グリッド	1層	須恵器	短頸壺	口径) 12.6	口縁部短く、直立。端部に面。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
512	103		D4 グリッド	4層	須恵器	壺	口径) 20.0	口縁部大きく外反。口端部上下に拡張し、端部外側にほぼ垂直の面作る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、カキ目状の痕跡あり	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
513	103		D4 グリッド	4層	須恵器	壺？(底部)	底径) 15.0	高台付き。高台は低く、「八」字状にやや外向きに付き、外側が接地する。体部逆「八」字状に開く。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
514	103		C9 グリッド	2層	須恵器	甕		口縁部逆「八」字状に外反。口端部内側斜め上方に肥厚。口縁部に波状文。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
515	103		C1 グリッド	3層	須恵器	大甕		体部逆「八」字状に大きく開き、口縁部で外折。口端部下に沈線1条、直下に2段の波状文を施し、さらにその下に沈線3条を巡らす。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
516	103		D1 グリッド	3層	須恵器	底部		胴体下半～底部の破片で、底・体部境が欠損。大型の甕か？体部逆「八」字状に内湾気味に立ち上がる。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
517	103		B2 グリッド	4層	須恵器	高坏		大型の高坏。坏底部径大きく広い平坦面。脚部直立気味に下降。	外) 回転ナデ 内) 坏底部ヘラ切り後回転ナデ	灰白色	1mm以下の砂粒含む。	良好	やや軟質
518	103		D5 グリッド	4層	須恵器	高坏(脚部)	底径) 14.8	大型の高坏脚部。筒部から脚端部へかけてラッパ状に大きく開く。端部下方に小さくつまみ出す。筒中部に2～3条の沈線。	外) 回転ナデ 内) 坏底部回転ナデ後ナデ？脚部回転ナデ、筒部シボリ状痕あり	白色	密	良好	軟質
519	103		C2 グリッド	4層	土師器	甕	口径) 20.0	頸部逆「L」字状に屈折し、口縁部大きく外反して端部を丸くおさめる。体部直立(やや内湾気味)。	外) ナデ 内) 口縁部ナデ、頸部以下不定方向ケズリ	外) 褐灰色 内) 灰白色	2mm以下の石英・砂粒含む。	良好	
520	103		D1 グリッド	2層	土師器	甕	口径) 22.4	頸部弓状に湾曲し、口縁部大きく外反して端部を丸くおさめる。	外) ヨコナデ？風化の為不詳 内) 口縁部ヨコナデ？頸部以下ケズリ？風化の為不詳	外) 橙色 内) 淡橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	
521	103		C1 グリッド	4層	土師器	鍋	口径) 23.8	頸部「く」字状に小さく屈曲。口縁部短くわずかに外傾。口端部外側に肥厚し、玉縁状を呈す。体部はやや内湾気味にほぼ垂直に下降。	外) 体上部に指頭痕あり、風化の為不詳 内) 頸～体上部ヨコハケ、風化の為不詳	外) 暗褐色 内) 褐色	1mm以下の砂粒含む。	良好	外面スス付着
522	103		B4 グリッド	4層	土師器	小皿	口径) 6.9 底径) 4.8 器高) 1.0	底部上底気味。底・体部の稜は明瞭で、浅くしぼり状に窪む。体部短く「八」字状に開き、口端部やや肥厚気味。底部回転糸切り。内面底部に渦巻状圧痕。	外) 風化の為不詳 内) 風化の為不詳	淡橙色	密	良好	
523	104		C1 グリッド	4層	瓦質土器	鍋？	口径) 24.0	口縁部は外傾し、端部を上方へつまみ上げて受口状を呈す。	外) ナデ 内) ヨコハケ、風化の為不詳	外) 黒灰色 内) 灰白色	密	良好	外面スス付着
524	104		D1 グリッド		瓦質土器	擂鉢		口端部内側に肥厚。擂目1条のみ認められる。	外) ナデ、指頭痕あり 内) ヨコナデ	黒色	微砂粒含む。	良好	
525	104		D2 グリッド	4層	瓦質土器	茶釜？	口径) 15.4	頸部弓状に湾曲し、口縁部わずかに外傾して、端部を丸くおさめる。体部は扁球形。頸部外側に段。肩部に把手が付き、把手の上部に円孔を穿つ。	外) ナデ 内) ナデ、体部に指頭痕あり	黒灰色	密	良好	
526	104		B2 グリッド	4層	磁器	白磁碗	口径) 13.0	玉縁状口縁。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
527	104		D3 グリッド	4層	磁器	白磁碗	口径) 17.2	玉縁状口縁。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
528	104		B1 グリッド	3層	磁器	白磁皿	口径) 18.4	体部「八」字状に直線的に開き、口縁部わずかに外方に折れる。口禿。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	白磁皿IX類
529	104		D1 グリッド	4層	磁器	白磁碗	口径) 15.6	体部内湾。体下半露胎。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
530	104		B2 グリッド	2層	磁器	白磁碗	高台径) 5.4	内面施釉。削り出し高台。		胎土) 灰白色 釉) 明オリーブ灰色	密	良好	
531	104		D4 グリッド	4層	磁器	白磁碗	高台径) 6.0	断面逆台形の低い削り出し高台。外面体下半～底部は露胎。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	白磁碗IV類
532	104			1層	磁器	白磁皿	底径) 3.4			胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	
533	104		D1 グリッド	4層	磁器	白磁皿	底径) 4.6	無高台。上底状。底部を除き施釉。		胎土) 灰白色 釉) 灰白色	密	良好	

534	104		B4 グリッド	3層	磁器	白磁小皿	口径) 10.0			胎土) 灰白色 釉) オリーブ灰色	密	良好	
535	104		C4 グリッド	4層	磁器	青磁碗	口径) 12.6	体部内湾し、口縁部外反する。外面にヘラ描き文。内面クシ描き文。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	同安窯系A類
536	104		B1 グリッド	4層	磁器	青磁碗	口径) 18.0			胎土) 灰色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	
537	104		A2 グリッド	4層	磁器	青磁碗	口径) 16.0			胎土) 灰色 釉) 緑灰色	密	良好	
538	104		C1 グリッド	3層	磁器	碗	口径) 16.6	内面櫛描文。		胎土) 灰白色 釉) オリーブ灰色	密	良好	
539	104		D1 グリッド	4層	磁器	青磁碗	口径) 18.0	鎬蓮弁文。		胎土) 灰白色 釉) 明緑灰色	密	良好	龍泉窯系碗B1類
540	104		D1 グリッド	4層	磁器	青磁碗	口径) 17.8	体部内湾。鎬蓮弁文。		胎土) 灰白色 釉) 明オリーブ灰色	密	良好	龍泉窯系碗B1類
541	104		C2 グリッド	4層	磁器	青磁碗	口径) 15.4	蓮弁文。		胎土) 灰色 釉) オリーブ灰色	密	良好	
542	104		C1 グリッド	3層	磁器	青磁碗	口径) 16.2	鎬蓮弁文。釉厚目。		胎土) 灰色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	龍泉窯系碗B1類
543	104		B1 グリッド	4層	磁器	青磁碗	高台径) 4.0	断面逆台形の高い高台。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	同安窯系A類
544	104		C2 グリッド	2層	磁器	青磁碗	高台径) 5.0	畳付～高台内を除き施釉。		胎土) 灰色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	
545	104				磁器	青磁皿	底径) 4.6	見込みにヘラによる片彫りと櫛描文。		胎土) 灰白色 釉) 明オリーブ灰色	密	良好	
546	104		C2 グリッド	3層	磁器	青磁碗	高台径) 5.8	断面方形の低い高台。高台内に胎土目。畳付を除き施釉。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	
547	104		D3 グリッド	4層	磁器	青磁碗	高台径) 4.4	高台内を除き施釉。ヘラ描き蓮弁文。		胎土) 灰白色 釉) 灰オリーブ色	密	良好	龍泉窯系碗B3類
548	105		B4 グリッド	3層	磁器	合子	口径) 4.6	体部内湾。		胎土) 灰白色 釉) 明緑灰色	密	良好	
549	105		C1 グリッド	3層	磁器	皿	口径) 19.0			胎土) 灰色 釉) 灰白色	密	良好	
550	105		B4 グリッド	3層	磁器	染付皿	口径) 12.2			胎土) 灰白色 釉)	密	良好	
551	105		B3 グリッド	3層	磁器	碗		内面に象嵌。		胎土) 灰色 釉) オリーブ灰色	密	良好	
552	105		C7 グリッド	4層	陶器	碗	高台径) 5.4			胎土) 灰色 釉) 緑灰色	密	良好	朝鮮製
553	105		C2 グリッド	4層	陶器	碗	高台径) 6.0	高台は断面逆台形。見込みに重ね焼痕あり。	外) ハケ目？	胎土) 灰色 釉) オリーブ灰色	密	良好	朝鮮製
554	105		B1 グリッド	2層	陶器	折縁小皿	口径) 9.8			胎土) 灰白色 釉) 浅黄色	密	良好	瀬戸・美濃 内外火にあたる
555	105		B1 グリッド	4層	陶器	擂鉢		体部逆「ハ」字状に開く。擂目は5条以上で1単位。		外) にぶい赤褐色 内) にぶい橙色	微砂粒含む。	良好	
556	105		C2 グリッド	4層	陶器	把手				釉) オリーブ灰色	密	良好	中国製褐釉陶器

第16表　中小路遺跡Ｇ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
568	106			表土	磁器	青磁碗		逆「ハ」字状に開く体～口縁部。口端部は尖り気味。内外施釉。蓮弁文。		胎土) 灰白色 釉) オリーブ灰色	密	良好	龍泉窯系碗

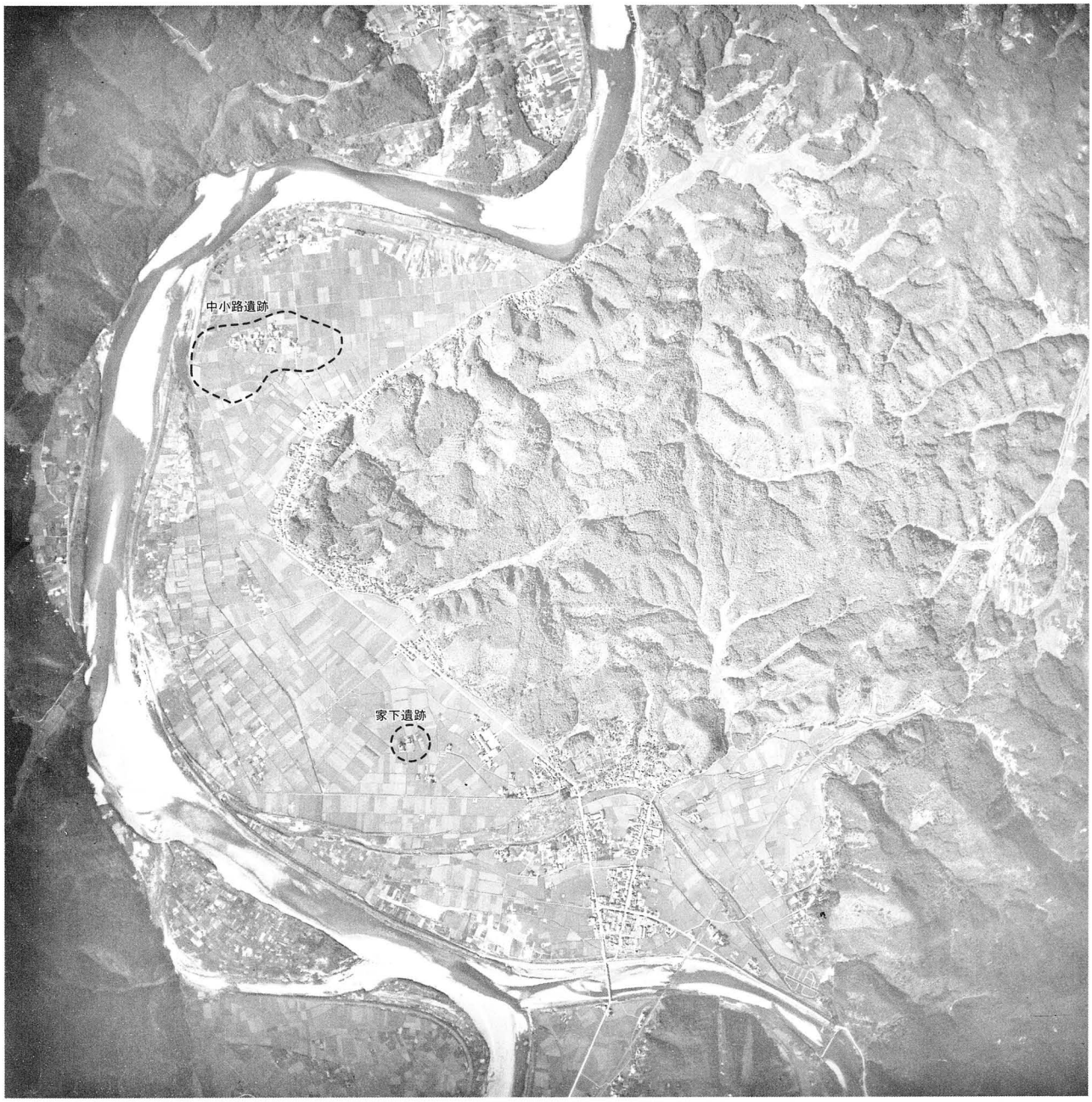
第17表　中小路遺跡Ｈ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
557	106				須恵器	坏蓋	口径) 16.8	輪状つまみ。天井部平坦で、体部は内湾して下降。口縁部で外反し、端部嘴状に下垂し尖る。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、天井部ナデ	灰白色	2mm以下の砂粒含む。	良好	内外口端部重ね焼きによる変色(外：黄色、内：黒色)
559	106				須恵器	高台付坏	高台径) 9.0	体部直線的にやや内湾して立ち上がる。高台は底部外縁に外向きに付く。畳付部に沈線状の窪み。底部ヘラ切り。	外) 回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ、底部ナデ	外) 灰色 内) 淡灰色	微砂粒含む。	良好	
560	106			2層	須恵器	高台付坏	高台径) 9.6	高台は低く、断面方形。畳付部に浅い溝あり。底・体部境の稜は明瞭。	外) 回転ナデ、底部ナデ 内) 回転ナデ、底部ナデ	外) 黒灰色 内) 灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	外面被灰（自然釉)
561	106			2層	須恵器	高台付坏	口径) 15.0	高台は細く「ハ」字状に外向きに付く。底・体部境の稜は不明瞭で、体部は逆「ハ」字状に開き、口端部は尖り気味におさめる。底部ヘラ切り。	外) 回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ、底部ナデ	外) 灰色 内) 淡灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
562	106			表採	須恵器	高坏？	口径) 15.0	坏底部と体部との境は不明瞭。体部～口縁部直線的に外傾する。口端部内側に肥厚。	外) 口縁～体部回転ナデ、体部～底部回転ナデ後ナデ 内) 口縁～体部回転ナデ、底部ナデ	外) 赤灰色 内) 暗赤灰色	1mm以下の砂粒含む。	不良	生焼けか？
563	106			2層	須恵器	高坏 (脚部)		筒部「ハ」字状に開いて下降し、さらに大きく開く。	外) 坏体部回転ナデ、坏下部～脚上部不定方向ナデ、脚部回転ナデ、底部ナデ・渦巻状圧痕あり 内) 脚部回転ナデ・ナデ	内外) 淡黒灰色 胎土) 灰白色	2mm以下の砂粒含む。	やや不良	軟質
564	106			表採	須恵器	高坏 (脚部)	底径) 7.6	脚体部「ハ」字状に大きく開き、口縁部で外方に屈折する。端部は嘴状に下垂し丸くおさめる。	外) ナデ 内) ナデ	内外) 黒灰色 胎土) 赤褐色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
565	106			表採	須恵器	壺	口径) 9.0	やや長めの頸部。口端部に面あり（断面方形)。頸中部に2～3条の沈線。	外) 口縁部強い回転ナデ、頸部回転ナデ・しぼり目あり 内) 回転ナデ、しぼり目あり	暗青灰色	2mm以下の砂粒含む。	良好	
566	106			表採	須恵器	壺	口径) 17.4	口縁部直線的に外傾して立ち上がる。口端部に平坦面を作る。口端部内面に段。	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	淡灰色	1mm以下の砂粒含む。	良好	
567	106			表採	土師器	甕	口径) 24.2	頸部から口縁部にかけて大きく外反。体部は直線的に下降。	外) 風化の為不詳 内) 頸部以下ケズリ？風化の為不詳	橙色	3mm以下の砂粒含む。	良好	

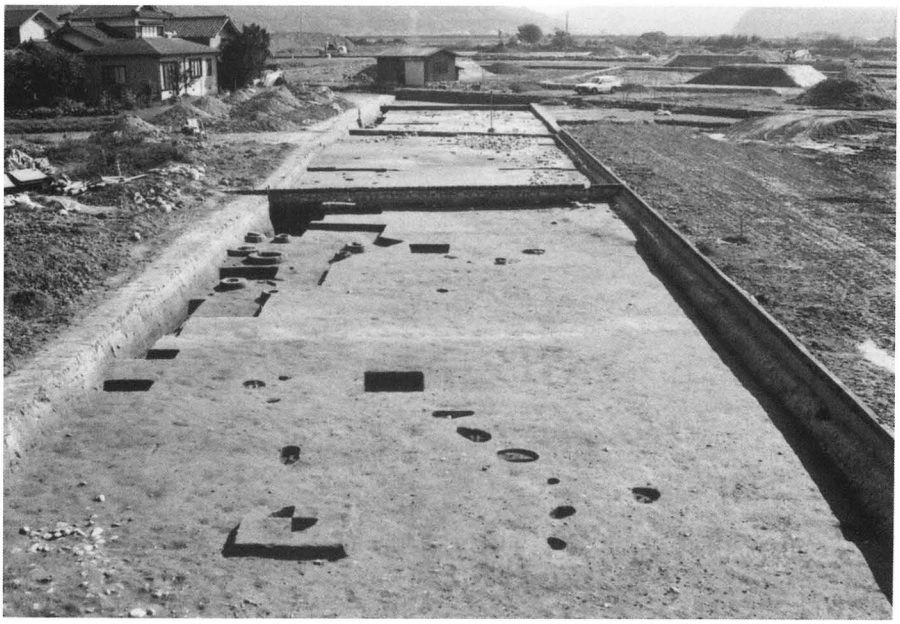
第18表　中小路遺跡Ｉ区遺構外出土遺物観察表

遺物番号	挿図番号	図版番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)	形態・手法等	調整	色調	胎土	焼成	備考
558	106			表土	須恵器	高台付坏	高台径) 7.8	貼り付け高台。高台は断面方形で斜めの平坦面を作り、内側で接地する。底・体部境は明瞭で、高台は底部外縁よりやや内側に付く。底部ヘラ切り。	外) 回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内) 回転ナデ、一部ナデ、底部に渦巻状圧痕。	外) 淡灰色 内) 灰白色	微砂粒含む。	良好	

写　真　図　版



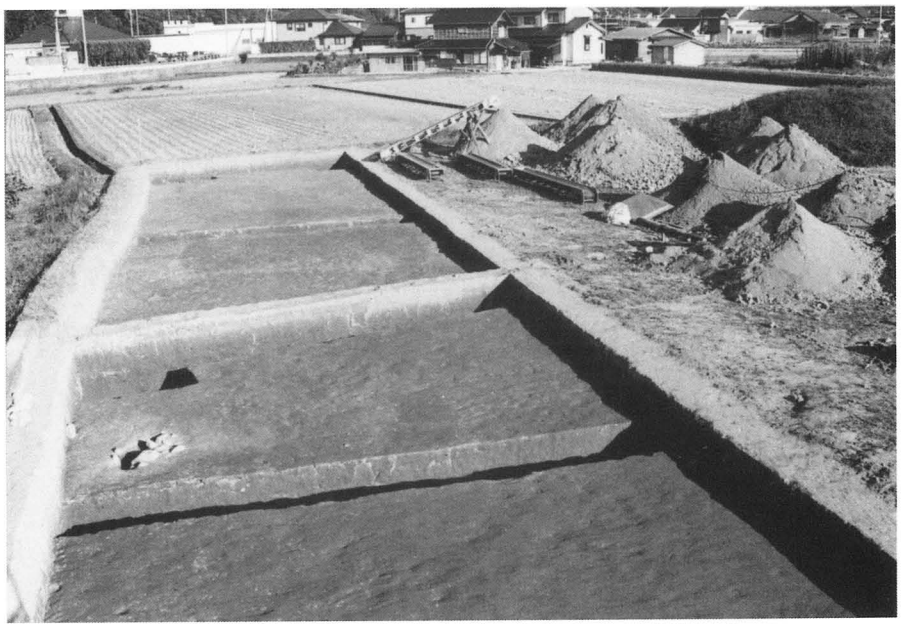
昭和22年米極東空軍撮影空中写真（国土地理院所管）



家下遺跡
Ａ区調査区全景

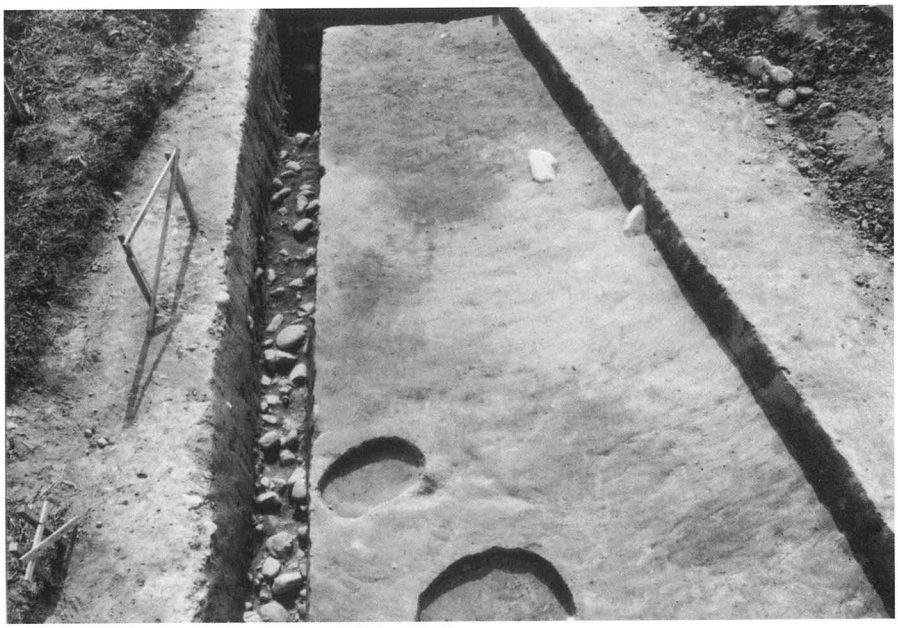
家下遺跡
Ａ区土層堆積状況①

家下遺跡
Ａ区土層堆積状況②



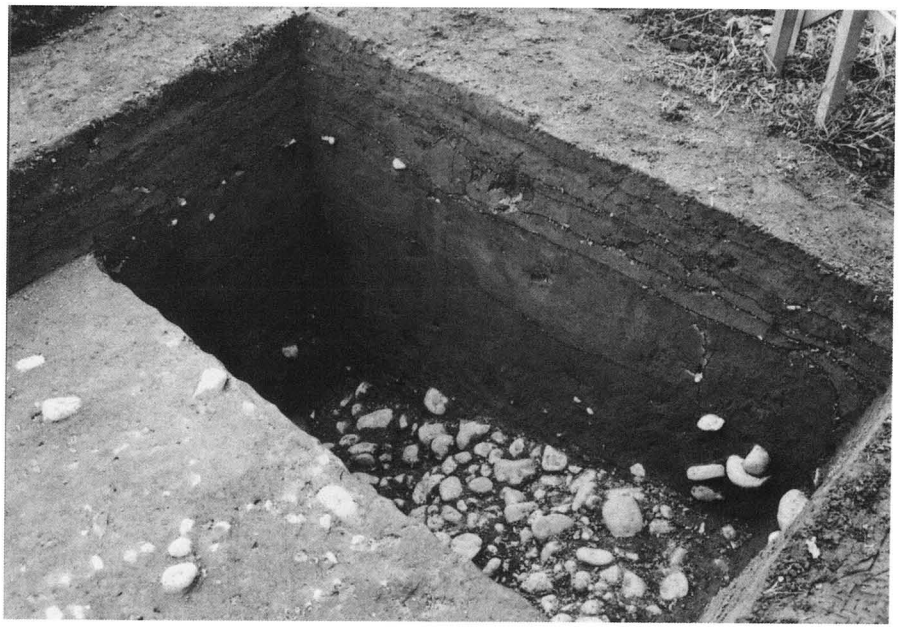
家下遺跡
Ｂ区調査区全景

家下遺跡
Ｂ区土坑半截



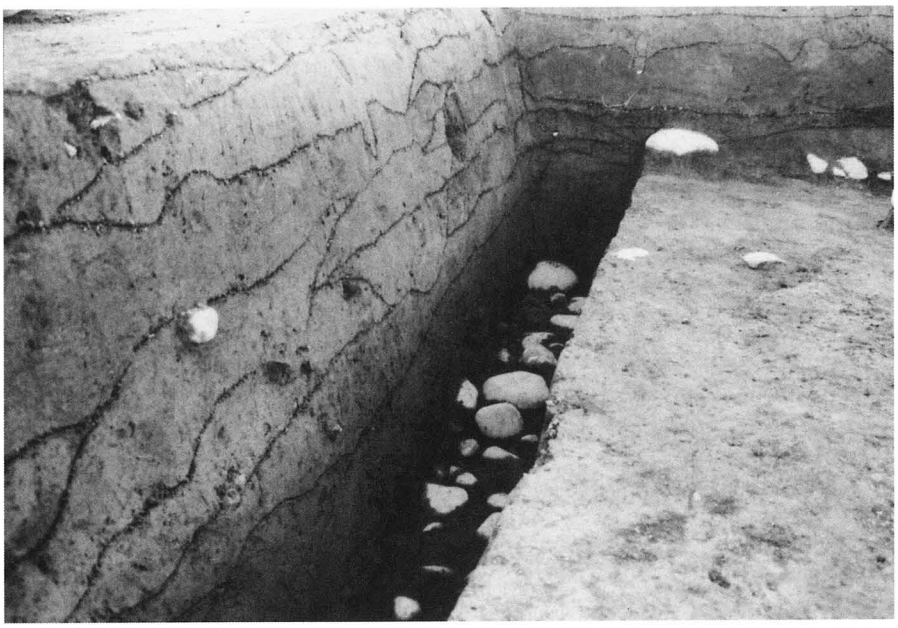
家下遺跡
Ｃ１区調査区全景

家下遺跡
C2区調査区全景



家下遺跡
C2区土層堆積状況

家下遺跡
C3区調査区全景



家下遺跡
C3区土層堆積状況

家下遺跡
D区調査区全景

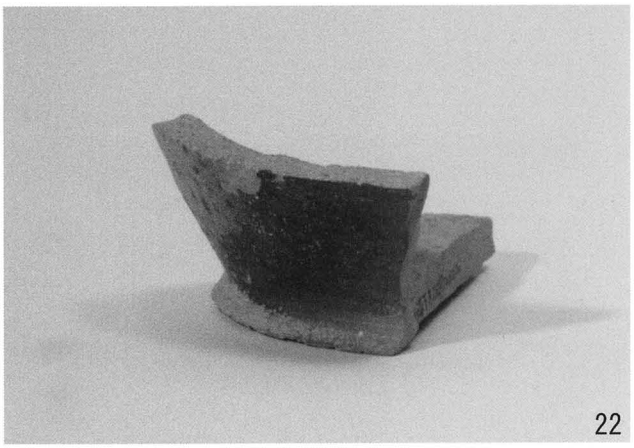
家下遺跡
Ｄ区土層堆積状況

家下遺跡
Ｄ区土器棺1検出

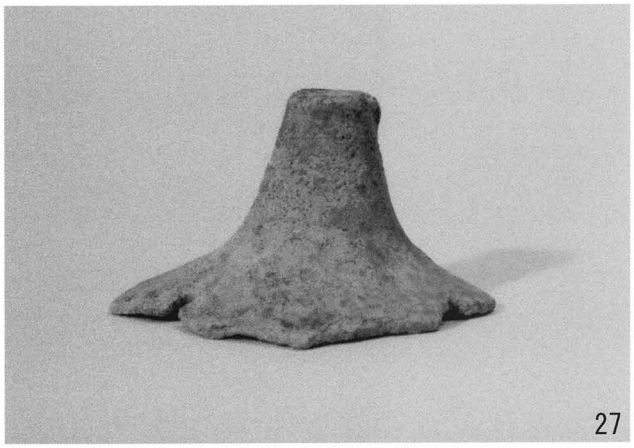
家下遺跡
Ｄ区土器棺2検出

17

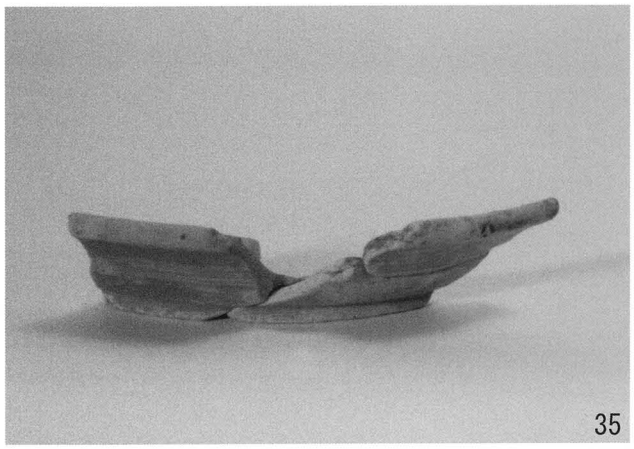
21


22

23


27

29


35

37

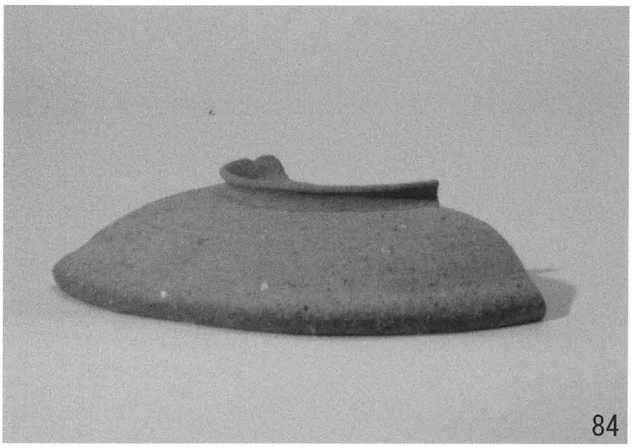
家下遺跡出土遺物　①

61

62

67

71


84

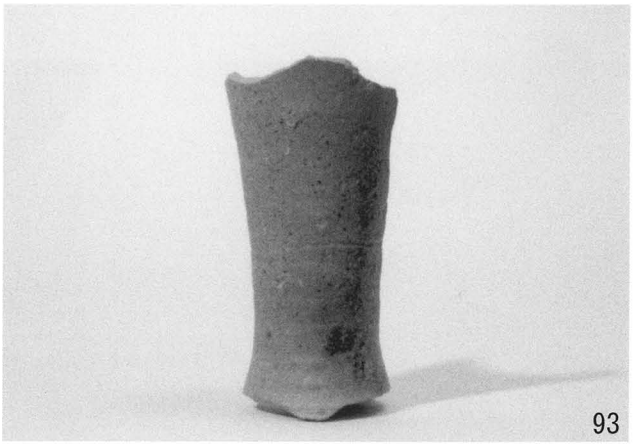
88

90

91

家下遺跡出土遺物　②

92


93

94

95

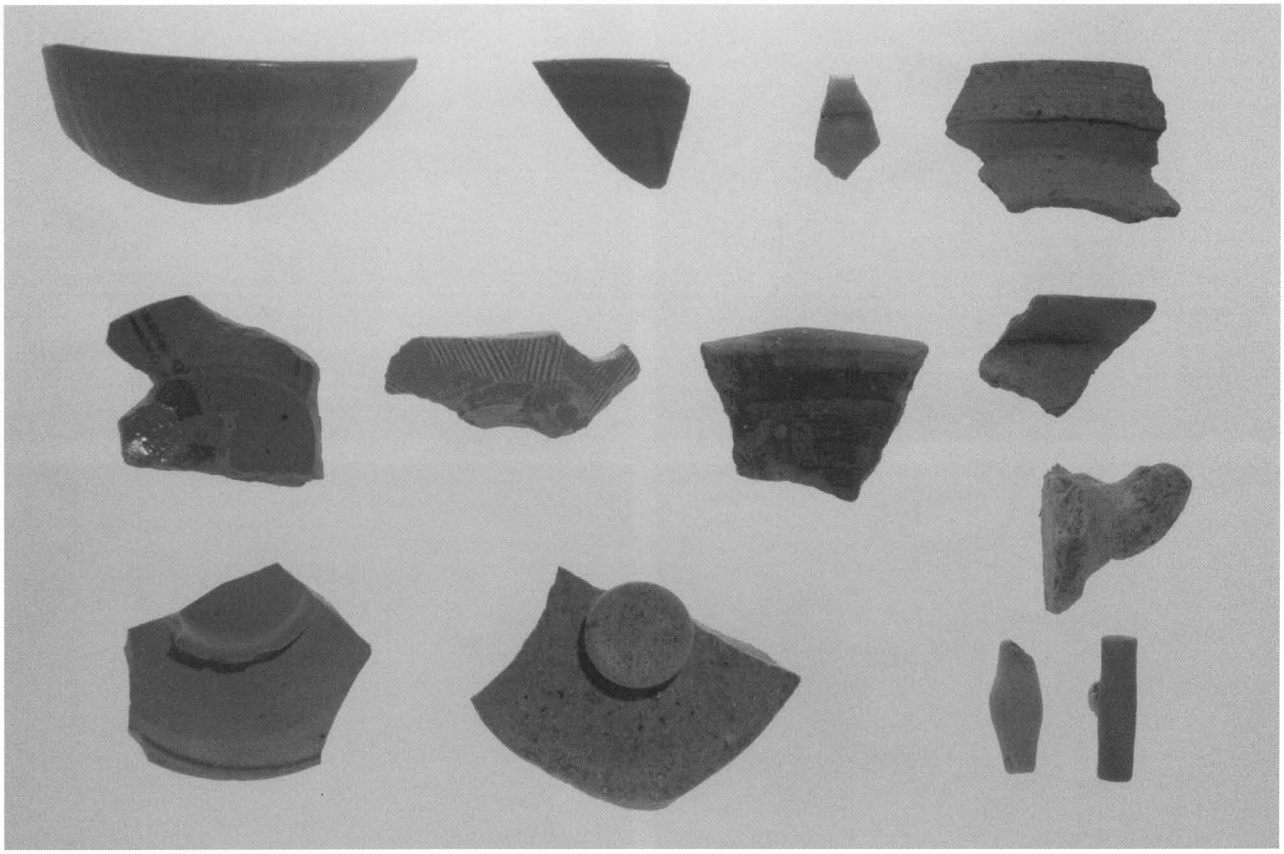
96

105

107

112

家下遺跡出土遺物　③



家下遺跡Ａ区出土遺物

家下遺跡Ｂ区出土遺物